Vol.75通巻862号　平成6年1月25日発行　毎月1回25日発行　昭和24年3月19日第3種郵便物認可　ISSN 0912-8182

建築と社会
Architecture and Society

1
1994

特集

コピー文化の新時代

広島の新しい街造りと
アジア競技大会の会場巡り



日本建築協会



甲種防火戸は鉄からガラスへ。視界を妨げず、明るく、美しく、空間を開放します。

これまで長いあいだ、甲種防火戸は鉄製でした。したがって、重くて、暗くて閉鎖的なのは、与えられた条件だから仕方ないとあきらめの観念で受け入れられてきました。しかし日本電気硝子がこの観念を打破しました。ファイアライトがガラスとしてはじめて甲種防火戸に認定されたからです。800℃の熱に耐える性能を実現。その結果、従来の甲種防火戸にはなかった光の世界を獲得したのです。扉の向こうまで見通せますから、突然の開扉による出くわしが防止でき、非常時の避難や消火・救助活動もスムーズになります。また目ざわりな網も入っていませんから、空間を明るく美しく仕上げることが可能です。もう防火戸を隠すことに注意をはらう必要がなくなり、空間デザインが自由になったのです。ますます多様化する建築デザインのニーズにフレキシブルに応えるファイアライト。空間の新しいコンセプトづくりに寄与する次代の建材といえるでしょう。

甲種・乙種防火戸用ガラス〈ファイアライト〉

FIRELITE

※ファイアライトは枠と一体で個別に甲種防火戸の認定を受けています。
認定仕様以外の使い方では甲種防火戸として使用できません。

ハイテクガラスで未来をつくる
日本電気硝子株式会社

●日本電気硝子株式会社 建材事業本部 東京(03)3456-3511 大阪(06)399-2721 ●株式会社建材社 札幌(011)736-1138 釧路(0154)23-4121 苫小牧(0144)74-1651 旭川(0166)48-5935 帯広(0155)36-5191 函館(0138)43-0669 ●日本硝子建材株式会社 仙台(022)295-6341 新潟(025)249-0331 高崎(0273)25-3220 東京(03)3632-7721 横浜(045)661-1531 ●エヌイージー建材株式会社 名古屋(052)522-5491 金沢(0762)43-1058 大阪(06)392-2711 広島(082)229-0013 高松(0878)66-8822 福岡(092)561-3611 鹿児島(0992)59-5516

1994年を迎えて

社団法人 日本建築協会会長 佐野 正一

新年を迎え、皆様のご多幸と建築界の繁栄を心から祈りあげます。
1986年から1991年まで長い景気拡大期がつづいたあと、いわゆるバブル経済の崩壊から一転して景気後退がはじまり、いま景気回復への転換のきざしが見えないまま新年を迎えました。
世界的にも、欧州で東西冷戦構造が解けたあと大きな国際協調に向かうかとされた期待が一向に進展せず、アメリカ、欧州、アジア、アフリカの地域間にはあたらしい社会経済の摩擦がきしみを見せるなどの事態が生まれて、不況は世界同時進行しているように見え、深刻感が一層つのります。この間に、わが国では経済環境の行きづまりから昨年は経済や社会の体制の見直しがはじまり、政治形態の大きな改革にひろがり、政府の強力な不況対策が待望される際にもかかわらず、政治選択が加わって、対応は一日のばしに先送られて困った状態がつづいているのであります。
こうした状況に深く関連して、わが国が積み上げた大きな経済力、公共政策へのあらたな拡充の見込み、内需喚起振興政策強化による投資拡大への期待から、諸外国がわが国の建設関係に参画を求めて強い意欲を公然と表明している状況を、あたらしい課題として冷静に受けとめることが必要であります。戦後の復興期以来長い時間と苦労を重ねてひたすら経済成長をとげてきた結果、国際的にも優位の地位に近づきつつある今日、わが国は、あたらしい国際的な関心と批判の場に立たされるに至ったのであり、国際的競合のなかで、自ら処する道を発見しなければならないのであります。
景気拡大期に、わが国の建築にかかる技術と生産総力は著しく成長しました。質的に高く、大量の建築物を正確な工期でつくりあげるレベルに到達したことは大きな成果です。しかし望むらくは技(わざ)だけではなく芸(げい)の面において、精神的に豊かなデザインの面において、さらに充実をはかりたい。本建築協会創立に際して片岡安会長が言われたように、建築の「技芸」の完成を求めるという本会創設の理想は、今日こそ一層切実に感じられるのであります。建築にかかる各専門分野を集めた本協会のユニークな態勢が、理想実現につながる大きな力となってほしいと思うのであります。本協会がいよいよ盛大に発展することを期待いたします。

事業委員会

会員と共に行動する事業を

事業委員長
多井幸男

伝統ある事業委員会の企画する見学会、講演会、研究会、若い会員の集い等に格別のご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
本年は関西新空港の開設の年でもあり、新しく開発される地域と建物の見学を積極的に実行するとともに、地方の話題建築や、古建築、茶室の見学も再開いたします。また、専門分野の先生方の講演、時代に即した研究や、若い会員の計画はますます充実した発表の場となり、最近特に会員以外の方々の参加も増えてまいりました。私どもはますます責任の重大さを痛感しております。
今年はなお一層の温かいご意見やご希望をいただきまして、委員一同気を引き締めて、より魅力ある企画を立て、皆様のご期待にそいたいと思っております。
昨年以上のご支援をお願いいたしまして、新年のご挨拶といたします。

編集委員会

平易に面白おかしく

編集委員長
荒井　清

新前で大役を引き継いだ冒頭に、女房の発病で出足を挫かれ、事務局や前委員長・各担当委員にお世話になるていたらくで、関係各位に大変申し訳ない旧年でした。
この役を引き継いで分かったのですが、現状の編集体制は各小委員会が主体で作業が進められており、編集委員会が明快な形で機能していないこと、委員長とは編集長ではないこと。
会誌をより素晴らしいものにするには、専任の編集長がいなくては無理と思いますが、限られた時間での努力で、担当委員各位の一層の協力をいただき、業務に関連する出来る限り身近な問題を取り上げ、平易に面白おかしく組み立て、会員各位に楽しんでいただける誌面に出来ないものかと考えております。
また、本誌は会員のための冊子ですから、皆様の忌憚のないご意見と、広告記事等による会誌への従前に勝るご支援を、重ねてお願い申し上げます。

建材委員会

建材をとりまく環境をとらえて

建材委員長
和田克朗

日本の工業製品の品質は、建築材料も含め内外に高く評価されているところであります。しかしこれらの品質は、メーカー自身が〝ブランド〟として保証しているもので、最近は、この考え方では外国へは通用しないといわれています。
最近とみに発言力を強めてきたECの経済戦略として、EC圏への輸出品については〝ISO9000シリーズ〟の規格に基づいた品質管理と品質保証が求められ、品質保証は第三者が審査認証することとなりました。このため、EC向けに製品を輸出するメーカーではその対応を迫られております。建材の輸出は電子機器などに比べれば少ないと思いますが、この影響は避けられないでしょう。
品質保証の方法についても、社会情勢・環境の変化の方向をいち早くとらえ、時代に即応した対策が求められています。
当建材委員会でも、単に新製品の紹介にとどまらず、より広い視点から、建材をとりまく環境を把握し、会員に役立つ情報の提供に努めたいと思います。

教育委員会

変動の中からの展望

教育委員長
片倉健雄

建築界にとっても酷しい年明けを迎えることになりましたが、他の産業と比較すると、その安定性はかなり高いといえるでしょう。ヨーロッパの成熟した都市では、建築に関する投資額の30%以上が保全や改修といった再整備に充てられるようになったと聞きます。私たちの周囲にもこういった変化が進みつつありますが、中長期的には、GDPの10%前後を占めている建築投資が大きく変わるとは思われません。
建築の仕事を目指して進学し、社会へ出てゆく若い人たちには、もの作りの魅力をもっと伝えていきたいと思います。また、実務の分野では、企業の壁を越えた技術交流や情報提供が進んでおり、教育委員会としての役割もそこにあると考えます。
今年も「工高生デザインコンクール」を一層充実したものにするとともに、新しい企画の検討も進めます。また実績のある「建築工事務講習会」は、支部活動の一つの核になりつつあり、会員増強にもつなぐことができるので、関係の皆様方のご支援をいただいて発展させたいと思います。

出版委員会

刊行と講演を軸に

出版委員長
須賀好富

出版委員会は月１回の会議をもち、新しい図書を刊行するべく努力している。委員数もふえ、活発である。建築技術選書既刊38点、プロのノウハウ既刊22点、同特装版８点、計68点を世に送り出した。
新刊書発行に際し、著者による講演会も軌道にのってきた。「刊行と講演」の二本立てで今年も頑張りたい。会員諸兄のご声援をお願いする。

定時評議員会議決報告

平成５年11月24日開催の、平成５年度第２回定時評議員会において、下記の事項が議決されましたので、お知らせいたします。

記

1．平成６年度評議員選出数について

平成６年度評議員選出数を56名とする。（内訳：本部40名、東海支部６名、京都支部・中国支部各々４名、和歌山支部２名）

2．会費の改定について

本会は、諸般の厳しい情勢の下にあって、会誌「建築と社会」の内容の充実等諸事業の推進に努めながら、昭和58年以降、現行会費を維持して参りました。しかし、本会運営のための基本的財源であります会費収入は、会員数の伸び悩みのため、ここ数年概ね横這いで推移しているのに対しまして、管理諸経費は、人件費その他諸物価の上昇により年々増嵩し、経営収支は極めて深刻な状況にあります。

本会としましては、会勢の拡大、事業収益の確保及び事務効率化に更に努める所存でありますが、当面の収支の健全化を図るために、細則第10条を改正し、平成６年４月より次のとおり会費を改定することになりました。

なお、今回の改正は、個人会費についてのみといたしておりますが、団体会費につきましても近くその改正をお願いすべく検討を進めたいと存じます。

会員各位の御理解・御協力をお願い申し上げる次第です。

1）正会員会費

年額 11,400円→年額 14,400円
（月額 950円）（月額 1,200円）

地方正会員会費

年額 10,200円→年額12,600円
（月額 850円）（月額 1,050円）

2）準会員会費

年額 7,200円→年額 8,400円
（月額 600円）（月額 700円）

日本建築協会事業委員会の動き

1993年度実施一覧

見学会小委員会
広報小委員会
若い会員の集い小委員会

●4/15(木)「けいはんなプラザ・住友ホール見学会」
13：00－16：00
参加 44人/申込 44人/定員 60人

●5/21(金)「竹山聖講演会―建築を学ぶことができるか？」イトーキ・クリスタルホール
18：30－20：45
参加 133人/申込 315人/定員 100人

●5/26(水)「話題建築を聞く―アプローズタワー ・鎌谷憲彦氏に聞く」
18：30－21：00 協会サロン
参加 28人/申込 34人/定員 30人

●6/24(木)「照明デザイナーが語る―光で生きる建築空間」講師：岡幸男
18：30－20：45 協会サロン
参加 32人/申込 37人/定員 30人

●6/28(月)「話題建築を聞く―ビッグステップ・企画・設計者に聞く」
18：30－21：00 協会サロン
参加 30人/申込 43人/定員 30人

●7/19(月)「新梅田シティ・梅田スカイビル見学会」（会員限定）
13：30－16：30
参加 64人/申込 369人/定員 70人

●7/30(金)「30's EYE―21世紀へのエスキス―浜田有司/神戸市・アーキテクチュアフェア」
18：30－21：15 協会サロン
参加 35人/申込 30人/定員 30人

●9/22(水)「30's EYE―21世紀へのエスキス―三澤文子/Ms建築設計事務所」
18：30－20：50 協会サロン
参加 30人/申込 32人/定員 30人

●9/30(木)「話題建築を聞く―RICセントラルタワー・太田隆信氏に聞く」
18：30－20：50 協会サロン
参加 32人/申込 31人/定員 30人

●10/7～10(木)～(日)「海外視察旅行/ポスト・ホンコンバンク―香港の最新建築を訪ねる」
参加 15人/申込 15人/定員 25人

●10/9(土)「茶室見学会・曼殊院の書院と茶室」講師：中村昌生
13：00―15：30
参加 40人/申込 87人/定員 30人

●10/15(金)「国際高等研究所＋地球環境産業技術研究機構本部施設見学会」
13：00―17：00
参加 42人/申込 54人/定員 50人

●10/20(水)「ポルタス堺見学会」
13：30―16：30
参加 44人/申込 54人/定員 50人

●10/25(月)「話題建築を聞く―積水化学工業京都技術センター・加藤邦男氏に聞く」
18：30―21：00 協会サロン
参加 25人/申込 26人/定員 30人

●10/29(金)「都市・建築と緑の融合―特殊緑化空間の最新情報」講師：奥貫隆
18：30―21：00 協会サロン
参加 21人/申込 31人/定員 30人

●11/24(水)「話題建築を聞く―大同生命大阪本社ビル・与謝野久氏に聞く」
18：30―20：30 協会サロン
定員 30人

●11/29(月)「30's EYE―21世紀へのエスキス―澤井健/プラスワン」
18：30－20：30 協会サロン
定員 30人

●12/3(金)「大阪市立総合医療センター見学会」
13：30－16：30
定員 60人

今後の予定

○1/20(木)「大阪府立近つ飛鳥博物館（仮称）見学会」
14：00－16：00 定員60人

○1/21(金)「30's EYE―21世紀へのエスキス―木下直之/兵庫県立近代美術館学芸員」
18：30－20：30 定員 30人

○1/27(木)「WESTビル（仮称）免震構造見学会」
14：00－16：00 定員 50人

○1/29(土)「和歌山県立きのくに志学館＋美術館・博物館見学会」
10：30－16：30 定員 60人

○2/3(木)「話題建築を聞く―シェラビア東山台・遠藤剛生氏に聞く」
18：30―20：30 定員 30人

○2/16(水)「CGの建築空間―遠藤昭彦／高松伸建築設計事務所」
18：30―20：30 定員 30人

○3/25～26(金)(土)「常滑と志摩〝早春の伊勢湾を巡る〟見学と懇親の集い」
定員 35人

○3/23「ATC見学会」

1～3月「神戸の近代建築ガイドマップの作成」

1994年度の候補

4月「WTC建設工事見学会」
5月「南港ホテル見学会」
5月「世界リゾート博見学会」
6月「京都ホテル見学会」
見学会「大阪湾岸道路の橋めぐり/船で」「明石大橋」「日仏モニュメント」
「鶴見フラワーセンター」
「キーエンス新大阪ビル」
「大阪府婦人総合センター」
「吹田再開発」「布施駅前再開発」
「泉大津駅前再開発」
「大阪府立図書館」「大阪市立中央図書館」

話題建築を聞く 第21回

シェラビア東山台 遠藤剛生氏に聞く





建築概要

所在地　兵庫県西宮市東山台
発注者　住宅・都市整備公団関西支社
設　計　遠藤剛生建築設計事務所
施　工　コーナン建設、新井組・阪神土木工業、西松建設、真柄建設
敷地面積　23,449.53㎡
建築面積　8,216.36㎡
延床面積　18,228.87㎡
構造規模　RC、B1、6F
戸　数　160戸
工　期　1990年3月～1993年7月

遠景から中景へと視点を移すように、世界―日本―兵庫―西宮―名塩と焦点をだんだん絞っていくと、具体的なその場所の自然の風景や街の風景、人々の生活や祭りの様子が具体的な形で浮かんでくる。
かつて、近代主義が提唱していたインターナショナルスタイルの建築は、街を越え地域や国を越えて、世界の至る所、時間を越え、どこにでも馴染む、そんな考え方の建築であった。
しかし、今個人の多様さを大切にし、民族のアイデンティティーを求め、地域の風景を考え、自然や、植物や動物をも大切に考えたとき、我々人間が創り出す都市や田園での環境形成の手法はおのずと異なってくる。
すなわち、かつて語られた一般論としての環境論を、個別具体的な場所性や地域性との関わりを読み込んだ環境論へと交換しなければならないと考えている。今回は名塩のプロジェクトを通してそんな話をしてみたいと思っています。　（遠藤剛生）

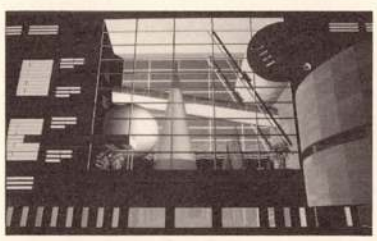
遠藤剛生（えんどう　たかお）
1941年生まれ
64　大阪工業大学建築学科卒業
69　遠藤剛生建築設計事務所開設
84～神戸大学環境計画非常勤講師
93～神戸芸術工科大学非常勤講師
●主な作品
熊本農業公園
高槻阿武山一番街
六甲アイランドCITYイーストコート5番街
大阪府営東大阪吉田住宅
森之宮スカイーデンハウス、など

日　時　1994年 **2** 月 **3** 日㈭
18：30～20：30
会　場　日本建築協会サロン
＊大阪駅前第3ビル21階
講　師　遠藤剛生
定　員　30人
＊申込者多数の場合は抽選
参加費　会員 1,500円、一般 2,500円
＊含、飲物・消費税
申　込　1月27日㈭までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
1)催し名（シェラビア東山台・遠藤剛生氏に聞く）
2)氏名
3)会員・一般の別
4)勤務先
5)参加証送付先
6)電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を1月28日㈮に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
大阪駅前第3ビル21階　〒530
FAX.348-0634　TEL.348-0633

コンピュータ・グラフィックスの可能性

高松伸建築設計事務所の場合

日　時　1994年 **2** 月 **16** 日㈬
18：30～20：30
会　場　日本建築協会サロン
＊大阪駅前第3ビル21階
講　師　遠藤昭彦
高松伸建築設計事務所
定　員　30人
＊申込者多数の場合は抽選
参加費　会員 1,500円、一般 2,500円
＊含、飲物・消費税
申　込　2月9日㈭までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
1)催し名（コンピュータ・グラフィックスの可能性）
2)氏名
3)会員・一般の別
4)勤務先
5)参加証送付先
6)電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を2月10日㈮に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
大阪駅前第3ビル21階　〒530
FAX.348-0634　TEL.348-0633





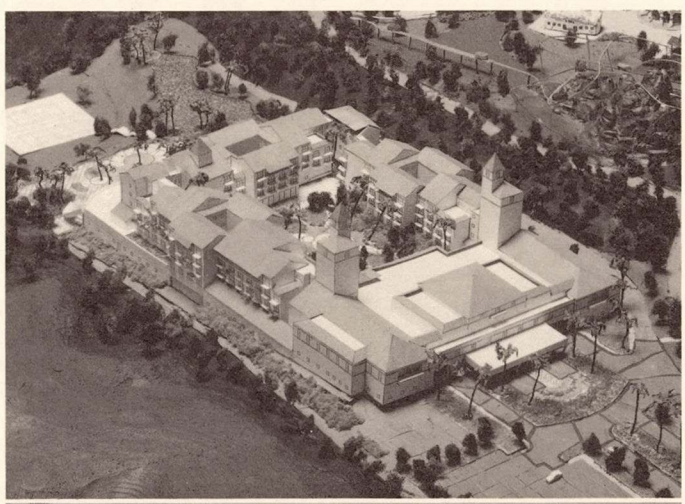
CGの建築空間

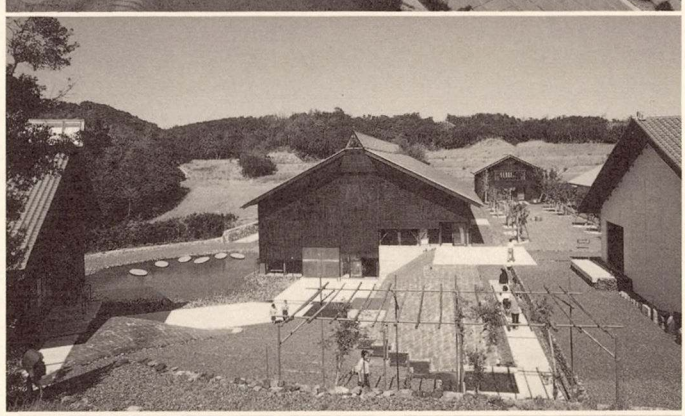
我々は5年程前に地下4層のみの建築を設計しました。いつものごとく模型を制作し、ドローイングを描き、図面を書きましたが、自ら構想した建築が従来の建築表現では表現しきれないという、自刎するようなことに陥りました。そして様々な模索の中、CG（コンピュータ・グラフィックス）なるものに行き当たり、まだ建築されていないハイパーリアルな建築空間へ足を踏み入れることになりました。
CGは、コンピュータという箱の中に電脳空間とも呼べるバーチャルワールドを創世し、私たちを魅了します。この世界の中では、文字通り「何でも有り」、空中に浮いた建築さえも存在することが可能です。それはとりもなおさず無限の可能性を秘めた創造の場と言えるでしょう。
建築CGは、今までは単なるウォークスルーに留まりシミュレーションの域を超えないものが多かったのですが、これからのCGは、建築の創造やコンセプト表現に最適な道具になるだろうと考えています。
CGの建築空間への限りない可能性を我々の一連のCG制作を通して、また最近竣工した「くにびきメッセ」を中心に探っていきたいと思います。
（遠藤昭彦）

遠藤昭彦（えんどう　あきひこ）
1959年山形県米沢市生まれ
86　工学院大学建築学科伊藤研究室卒業
高松伸建築設計事務所入社
88　パソコンのCG制作を開始
91　GWSのCGシステムを導入
現在に至る
●主なCG制作
89年仁摩町砂博物館「ZEUS」
90　くにびきメッセ
91　SYNTAXのCGアニメーション制作総指揮
京都コンサートホール指名コンペ
92　旧東ドイツ・ドレスデンの再開発計画「Lenne Park Zentrum」
93　長崎フェリーターミナル、など

常滑と志摩
早春の伊勢湾を巡る
ー見学と懇親の集いー

「見学と懇親の集い」ー今回は東海支部会員の協力により、〝ぐるっと伊勢湾〟をテーマに企画しました。平素あまり訪れる事のない知多半島には、建築に関係の深いテラコッタの生産地として「焼物の町常滑」があり、その歴史を識るとともに陶芸の里を散策するのも一興と考えられます。また海を渡った伊勢志摩半島には、今春、新しいリゾートの基地「志摩スペイン村」が誕生します。その他、学会賞をはじめ数々の賞に輝いた「海の博物館」や、伊勢神宮の遷宮を記念して建設された「式年遷宮記念神宮美術館」等も含めて盛りだくさんの企画です。会員各位の多数のご参加をお待ちしています。



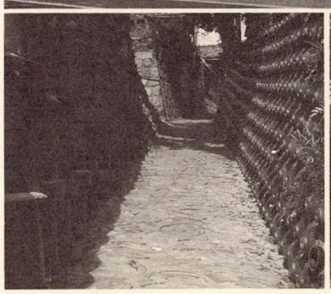




上から　ホテル志摩スペイン村、海の博物館、式年遷宮記念神宮美術館

上：INAX本社ビル　左下：やきもの散歩道　右下：窯のある広場資料館







開催日　1994年 3 月25日㈮26日㈯
　　1泊2日

見学先　25日
　　1)サンゲツ本社ショールーム
　　◯常滑
　　2)INAX本社ビル／竹中工務店
　　3)やきもの散歩道
　　4)陶芸研究所／堀口捨己
　　民族資料館／戸尾任宏・アーキビジョン
　　5)INAX常滑東工場
　　窯のある広場資料館
　　トイレパーク／象設計集団
　　26日
　　◯伊勢・志摩
　　6)海の博物館／内藤廣建築設計事務所／1992年度学会賞・1993年度吉田五十八賞
　　7)ホテル志摩スペイン村／竹中工務店
　　8)式年遷宮記念神宮美術館／大江宏建築事務所
　　9)伊勢神宮内宮前おはらい町

講　師　1)INAX本社ビル
　　小川清一／竹中工務店名古屋支店設計部長
　　2)ホテル志摩スペイン村
　　飯山義隆／竹中工務店大阪本店設計部次長

宿泊・懇親会場
　　和風ホテル「呼帆荘」／南知多町内海

集　合　1)3月25日㈮ 8：00
　　JR大阪駅西口中央郵便局前
　　2)3月25日㈮11：00
　　サンゲツ本社2Fショールーム入口
　　＊名古屋市西区幅下1-4-1

交　通　全行程貸切バス利用

定　員　35人
　　＊申込者多数の場合は抽選

参加費　会員30,000円、一般35,000円
　　＊含、全行程の交通・食事・宿泊費等、消費税
　　＊申込者に追って支払方法を案内します。
　　＊入金締切：3月18日㈮

申　込　3月10日㈭までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
　　1)催し名（常滑と志摩）
　　2)氏名
　　3)会員・一般の別
　　4)職場名
　　5)参加証送付先所在地名
　　6)連絡先電話番号
　　をお知らせ願います。
　　＊参加証・参加費支払方法等を3月11日㈮に発送します。

申込先　㈳日本建築協会事業課
　　大阪市北区梅田1-1　〒530
　　大阪駅前第3ビル21階
　　FAX348-0634　TEL348-0633

協　賛　1)サンゲツ
　　2)INAX

30's EYE 21世紀へのエスキス
第4回
木下直之
兵庫県立近代美術館学芸員
「駅前の文化について」
―駅前彫刻と造り物―

「30's EYE-21世紀へのエスキス」をテーマに、30代を中心に様々な分野でご活躍の方々をゲスト講師に迎え、従来の講演会形式とは違う「語り合い、情報交換を行う場」をつくりたいと考えています。気軽にご参加下さい。

日　時　1994年1月21日(金)
　　18：30～20：30
会　場　日本建築協会サロン
　　＊大阪駅前第3ビル21階
講　師　木下直之
　　兵庫県立近代美術館学芸員
定　員　30人
　　＊申込者多数の場合は抽選
参加費　会員 1,000円、一般 1,500円
　　＊含、飲物・消費税
　　＊団体会員扱いは1社1名
申　込　1月14日(金)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
　　1)催し名（30'sEYE）
　　2)氏名
　　3)会員・一般の別
　　4)勤務先
　　5)参加証送付先
　　6)電話番号
　　をお知らせ願います。
　　＊参加証を1月17日(月)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
　　大阪市北区梅田1-1 〒530
　　大阪駅前第3ビル21階
　　FAX.348-0634　TEL.348-0633
主　催　㈳日本建築協会
　　若い会員の集い小委員会
　　主担　内仲　毅/PPI



JR名古屋駅前

私の生家は駅前薬局だった。右隣に駅前食堂があり、左隣には駅前旅館があった。その家で、高校生になるまで、毎日駅前を眺めながら、私は育ったことになる。昔、駅前はただの広場だったような気がする。駅から出てきた人々は、その広場を通って、好き勝手な方向へと歩いていった。バスも停まっていたが、停留所と記されたポストが立っていただけだった。やがて、そこにバスターミナルがつくられ、しばらくすると、今度はその中央に巨大なモニュメントが建てられた。

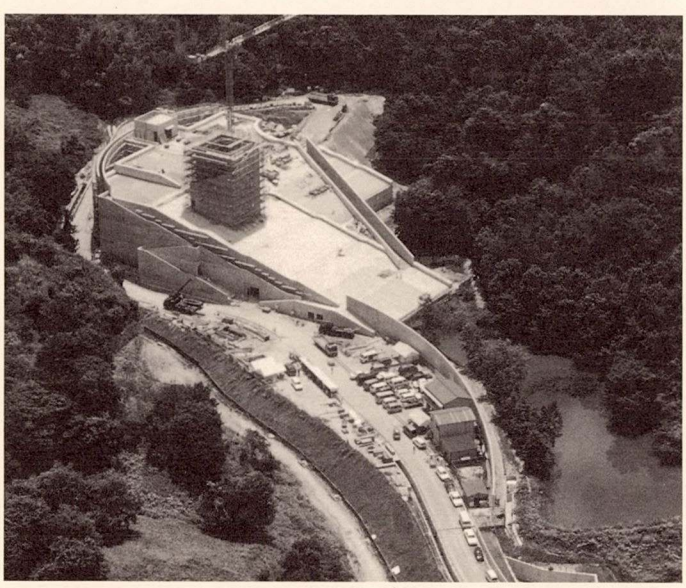
駅前再開発の名の下に、日本全国の駅前で行われてきたことについて考えてみたいのは、最近、富山県の小さな町に「つくりもん」という祭りを見に行き、駅前に二日間だけ出現する野菜でできた巨大な金太郎に感激したからだ。その金太郎の背後には、小さな公園があり、噴水の真ん中に小さなモニュメントが飾られていた。その公園は「美化地区」と呼ばれている。祭りの間だけ出現する造り物と、その名のとおり永久的に設置されるモニュメントと、どちらがより「美化」に貢献するだろうかということを考えてみたいのだ。

（木下直之）

木下直之（きのした　なおゆき）
1954　静岡県生まれ
81　東京芸術大学大学院中退
　　兵庫県立近代美術館学芸員
93　国際日本文化研究センター共同研究員
　　現在に至る
専攻　近代日本美術史
展覧会
1987　「ダリの世界」展
90　「日本美術の十九世紀」展
93　「描かれた歴史～近代日本美術にみる伝説と神話」展
著者　「美術という見世物～油絵茶屋の時代」平凡社1993年（サントリー学芸賞受賞）
論文　「甲冑図考～高橋由一の新出作品をめぐって」『美術史』第131冊

大阪府立近つ飛鳥博物館（仮称）見学会

日　時　1994年1月20日(木)
　　14：00～16：30
講　師　水谷孝明/安藤忠雄建築研究所
　　菅　　保/鴻池・三菱JV所長
定　員　60人
　　＊申込者多数の場合は抽選
集　合　現地＊近鉄長野線「喜志」駅からバスで約15分
参加費　会員 1,000円、一般 1,500円



申　込　1月13日(木)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
　　1)催し名（近つ飛鳥博物館見学会）
　　2)氏名
　　3)会員・一般の別
　　4)勤務先
　　5)参加証送付先
　　6)電話番号
　　をお知らせ願います。
　　＊参加証を1月14日(金)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
　　大阪市北区梅田1-1 〒530
　　大阪駅前第3ビル21階
　　FAX.348-0634　TEL.348-0633

●建築概要
所在地　大阪府南河内郡河南町東山、太子町葉室
設　計　安藤忠雄建築研究所
監　理　大阪府建設監理協会
　　安藤忠雄建築研究所
施　工　鴻池・三菱共同企業体
敷地面積　14,318.26㎡
建築面積　3,407.84㎡
延床面積　5,925.20㎡
構造規模　SRC、B1、2F
工　期　1992年3月～1993年11月（本体）
　　1993年10月～1994年3月（外構）
オープン　1994年3月25日（予定）

数ある近つ飛鳥の文化遺産。なかでも数多くの古墳が集中する一須賀古墳群。それらの古墳を保存、整備、公開する「近つ飛鳥風土記の丘」がある。その地に博物館は建つ。

『ここでは、新しい試みとして、環境として周辺に点在する古墳群全体をそのまま見せようとしている。そのため建物は、そこから出土地域全体を一望できるようなひとつの丘として考えられた。建物は窪地に位置しているため、周囲を一望できるように段状に隆起させた。周辺には梅林や生命の源である水をたたえた池があり、風土記の丘の散策路が巡る。

このような環境の中で、この建物は野外活動の拠点としても活用され、地域の中核として機能するであろう。屋根は段状の広場となっており、演劇祭、音楽祭、各種パフォーマンス、レクチャーなど多様な使い方が考えられる。建物内部に入ると暗がりが拡がり、人々は古墳内部に入っていくのと同様な感覚を体験できる。それは古代の黄泉の国への旅である。この建物は日本人が自分たちの歴史に向かい合う場として、また、自然を喜び讃える日本人の感性を納めた平成の古墳として建てられた。』（安藤忠雄）

和歌山県立
きのくに志学館
近代美術館・博物館
見学会

日　時　1994年1月29日(土)
　　10:30-16:30
定　員　60人
　　＊申込者多数の場合は抽選
集　合　現地
参加費　会員1,500円、一般2,000円
申　込　1月21日(金)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
　　1)催し名（きのくに志学館＋近代美術館・博物館見学会）
　　2)氏名
　　3)会員・一般の別
　　4)勤務先
　　5)参加証送付先
　　6)電話番号
　　をお知らせ願います。
　　＊参加証を1月24日(月)に発送します。
申込先　㈱日本建築協会事業課
　　大阪市北区梅田1-1 〒530
　　FAX348-0634 TEL348-0633

きのくに志学館10:30-12:00

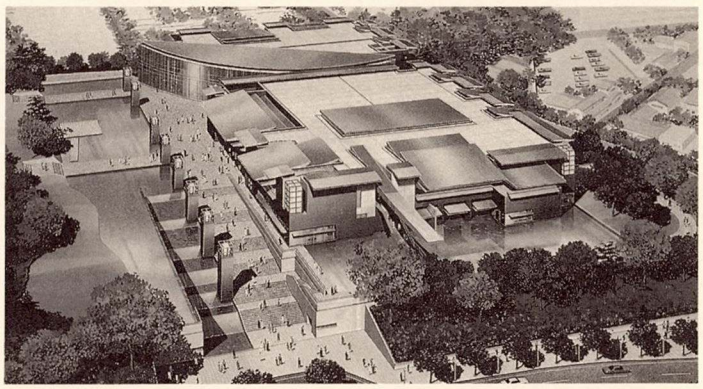
講師　福田資弘／和歌山県立図書館次長
　　前中伸之／和歌山県土木部営繕課主査
　　八木俊樹／安井建築設計事務所設計部副部長

きのくに志学館は、県立図書館を核に文化情報センターと文書館を併設した施設である。
県立図書館を計画する上での大きな課題は、県下の図書館サービス網の要である中核館としての本来の役割と、建設地周辺住民が期待する市民図書館的サービスとの兼ね合いにある。市町村図書館等の整備状況と立地によって、館の機能が異なり、建築計画も違ったものになる。
本館の場合は、中核館としての調査研究機能を大切にした開架室と作業室に隣接した書庫配置、将来の資料増加を見込んだ施設容量の確保、そして市民図書館機能である児童室を将来の転用も考え開架室のコーナーに計画したことが特徴である。また、図書館は日常的立ち寄り施設であり、アクセスが容易で分かりやすいことが大切である。メインフロアを1階に設定し、一目で資料全体が見渡せる2,148㎡1フロアの大きな開架室を設けたことも他に類を見ないことである。　（八木俊樹）


きのくに志学館

所在地　和歌山市西高松1-7-38
設　計　安井建築設計事務所
施　工　大林・錢高・浅川JV
敷地面積　10,000.00㎡
建築面積　5,528.04㎡
延床面積　12,361.66㎡
構造規模　SRC、B1、3F
工　期　1991年7月～1993年3月

近代美術館・博物館



所在地　和歌山市吹上1-1
設　計　黒川紀章建築都市設計事務所
施　工　竹中・清水・戸田JV
敷地面積　23,356.78㎡
建築面積　7,100.55㎡
延床面積　18,498.31㎡
構造規模　RC、B1、2F
工　期　1991年10月～1994年3月

近代美術館・博物館13:30-16:30

講師　吉田行雄／黒川紀章建築都市設計事務所課長
　　藤森正忠／竹中・清水・戸田JV所長

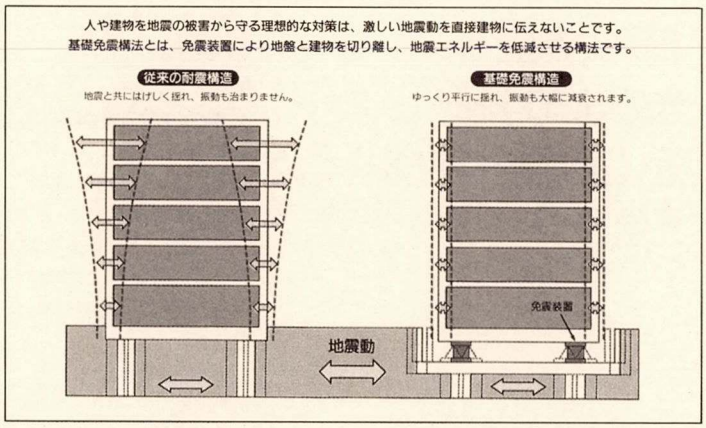
歴史と信仰に彩られた和歌山は、中世においては巡礼の聖地として、羽柴秀吉によって和歌山城が築かれた後は、御三家紀州徳川氏の城下として繁栄し続けた。和歌山市の中央に位置する和歌山城の南、三年坂通りをはさんだ和歌山大学教育学部跡地で市内でも有数の緑豊かな地域に、教育文化立県構想の一環として「県立近代美術館」「県立博物館」の新館が計画された。
本計画は、このような立地特性を十分に活かし「歴史との共生」「自然との共生」のコンセプトの基に、それぞれが密接にコネクションしながらも独自性を持った施設となるよう配慮した。
建物配置は、敷地中央軸に美術館と博物館とを縦に配置し、その西側に搬出入及びサービス管理部門を、東側にエントランスホール、アプローチ広場を設け、展示部門を中央にとり囲んだ分かりやすい配置計画となっている。
建物の東側は「せせらぎ池」をはさんで奥山公園に向かって開放され、徐々に自然へと変化し溶け込んでゆく。
また奥山公園の「根上りの松」を背景に10m四方のステージを水に浮かべ、そこでは各イベントや薪能の舞いがくりひろげられる。闇に浮かぶ幻想の世界は想像を絶する感動を呼ぶこととなろう。
外観は庇という日本建築の伝統が断片化され抽象化されて用いられている。近代建築の伝統を引き継ぎつつ、伝統的なシルエットと現代的な素材は、歴史と共生し、新しい時代へと変化してゆくことだろう。　（吉田行雄）

WESTビル(仮称) 免震構造 見学会

日　時　1994年1月27日(木)
　　14:00-16:00
講　師　長田勝幸／郵政省建築部設計課
　　田中　功／施工JV所長
定　員　50人＊申込多数の場合は抽選
集　合　現地
参加費　会員1,000円、一般1,500円
申　込　1月20日(木)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
　　1)催し名(WESTビル見学会)
　　2)氏名
　　3)会員・一般の別
　　4)勤務先
　　5)参加証送付先
　　6)電話番号
　　をお知らせ願います。
　　＊参加証を1月21日(金)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
　　大阪市北区梅田1-1　〒530
　　大阪駅前第3ビル21階
　　FAX348-0634　TEL348-0633

1993年5月撮影





本建物は、建物の性格上から「免震構造」を採用し、地震による建物の被害を防ぎ建物内に組み込まれている設備・機器類についても大きな被害を受けず保護され機能が維持できるようにしている。
免震構造に使う免震装置には、大きな鉛直剛性と耐力を持ちこれによって上部構造を支持すると共に小さな水平方向剛性によって建物の固有周期を長くし応答加速度値を小さくすることができる積層ゴム（中心に鉛を挿入した物は減衰効果を持つことができる）と、地震エネルギーを消費させ減衰性を高め変形を抑制させる働きをするダンパーがある。
本建物は免震ピット内の柱下にφ1200の鉛入り積層ゴムとφ1000・φ800の積層ゴムを配置し、さらに減衰効果を高めるため建物の角にループ状鋼棒ダンパーを配置している。また、建物の周囲には免震装置による大きな変位量を吸収するためドライエリアを設け地盤と建物を絶縁している。設備配管についても建物と地盤の間にフリージョイントを設け大きな変化にも対応できるようにしている。

（長田勝幸）

●建築概要
所在地　神戸市北区長尾町宅原
　　鹿の子台リサーチパーク内
設　計　郵政省建築部
施　工　竹中・住友・奥村・ナカノ・三菱JV
敷地面積　35,000㎡
建築面積　11,803㎡
延床面積　53,965㎡
構造規模　S、SRC、RC、6F、P2
工　期　1992年10月～1994年11月

㈳日本建築協会編

『建築設計者のための設備知識』 刊行 割引価格で頒布

このたび㈳日本建築協会の編著、㈱オーム社の出版で『建築設計者のための設備知識』を刊行いたしました。
この著書は、本会機関誌「建築と社会」1990年～1992年に3回にわたり特集した内容をベースに、環境問題にゆれる現在の社会状況を織り込み、最新の情報を盛り込むべく新たに書き起こしたもので、執筆には、東畑建築事務所、日建設計、安井建築設計事務所、大阪ガス、関西電力の設備設計者約20名が当たり、本会の編集委員会で推敲を重ねました。
第一線で活躍する設備設計者が、実務において、建築と設備のかかわりあう場で直面した問題を掘り起こし、その解決を選択肢で示した本書は、意匠設計者のみならず、初歩の設備設計者にも好個の資料になるものと思います。
本書は、10月から全国の書店店頭に出ていますが、本会でも図書の販売をいたします。本会では特別価格として、定価(5000円)の2割引の4,000円(郵送の場合は送料380円/1冊要)で頒布しますので、お買い求め下さるようお願い申し上げます。
詳細お問い合わせ、および購入申込は、㈳日本建築協会へお願いします。
編著者　社団法人　日本建築協会
　　(東畑建築事務所／北島章因・弓崎幸治・坂田進・城下善雄・中野格、日建設計／藤岡茂・瀬戸良昭・押田忠明、安井建築設計事務所／日根東治・山根敏和・水谷広治、大阪ガス／中村秀行・佐々木明美、関西電力／中村秀夫・大木俊郎、ほか)
　　〒530 大阪市北区梅田1-1-3-2100 TEL06-348-0635



発行所　㈱オーム社
　　〒101 東京都千代田区神田錦町3-1 TEL03-3233-0641
体　裁　B5判、220頁、上製本
　　定価5,000円

建築と社会

1994 1 1917年創刊 第75集／通巻862号

ARCHITECTURE AND SOCIETY

JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

今月の表紙
毎日放送本社ビル
写真 東出清彦

■特集予告
2月号／建築のエネルギーシステム
九州のインスタレーションと貌

会長 佐野正一
副会長 金子 潔・薬袋公明
市川 宏・鴻池藤一
三品哲夫

編集委員会（平成5年度）

■編集理事
◎荒井 清
井上 豊
金井 弘次
小島 雄
須賀 好富
竹中 錬一
深江 實
松村 慶三
溝神宏至朗
若山 繁

■編集顧問
東 孝光

■編集委員
★計画系分科会
☆計画系
伊縫 憲幸
梅村 宏尚
小浦 久子
鈴木 克彦
田中 直人
林 輝行
松川 敏正
山尾 弘子
横関 真紀
※吉村 英祐
☆建築計画系
※石山 道男
磯村千恵子
上杉 秀隆
江副 敏史
菅野 忠司
清本 明宏
笹村 欽也
佐藤不二男
塚本 史朗
刃金 国男
山本 匡
☆インテリア・住宅系
石川 佳子
大橋眞由美
加藤 力
角方 利幸
北浦かほる
工藤 昌之
小梶 吉隆
小島 保人
高橋 文吾
※中村 孝之
畑 康之
福田 由利
増田 邦子
★構造分科会
和泉 一義
岡本 達雄
亀井 功
黒木 安男
竹野 富夫
多田 元英
築谷 明也
※二宮 利治
西 邦弘
西村 泰志
賽輪 幸男

★設備分科会
石沢 重治
遠藤 進
大田 克彦
※梶井 宏修
河津 隆之
伊達 正雄
田ノ畑好幸
村上幸三郎
★施工材料分科会
有光 利治
植田 実
小椎八重猛
※志水 史典
野口 和宏
村上 信直
★法令分科会
※生駒 芳明
乾 康雄
入江田吉仁
樫田 攻
加藤 輝男
廣田 美清
■作品作風小委員会
遠藤 公介
小笠原絵理
尾崎 久純
岡本 隆
川上比奈子
倉渕奈千子
桜井 俊郎
田中 均一
富田 昌義
藤城 義丈
前川 治彦
前田 幸宏
○松田 善弘
松村 衡
水川 尚彦
宮地雄一郎
■会員企画小委員会
伊藤 郁郎
稲木 裕子
茨木 保
槽谷 浩史
小板橋鉄雄
佐伯由紀子
佐野 洋
坂田 耕一
高田 光雄
○高橋 麗子
塚口 明洋
増渕 昌利
松石 千秋
山岸 章子
■広告企画小委員会
池渕 俊男
上井 善一
尾崎 英直
○勝 一弘
衣川 徳好
原田 常介
菱田信八郎
藤田 孝吉
山下 修司

◎委員長 ○副委員長 ※幹事

印刷 平成6年1月20日
発行 平成6年1月25日
発行人 社団法人日本建築協会
発行所 社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電 06－348－0635
振替口座 大阪1-39975
印刷所 青葉印刷株式会社
電 06－351－5428代
サン総合印刷株式会社
電 06－454－1481代
日本電植株式会社
電 06－352－7502
定価 980円（本体価格951円・送料共 消費税29円）

CONTENTS

特集● コピー文化の新時代 ―キッチュとオーセンティックのはざまで―

［総論］ 複製技術時代における建築 ● 片木 篤 ―― 40
［各論］ それでも本物にこだわる建築材料 ● 小西敏正 ―― 44
［各論］ 私の空間作法―素材の新しい使い方
朧月夜の家・東京竹葉亭 ● 出江 寛 ―― 48
ホテル川久 ● 永田祐三 ―― 49
ALPHA BLANCA ST ● 池上俊郎 ―― 50
KIM HOUSE ● 岸 和郎 ―― 51
NEXT21-303住戸 ● シーラカンス ―― 52
ファンハウス ● 大江 匡 ―― 53
［各論］ 本物を再現する建築の試み
ららぽーとスキードーム“ザウス” ● KAJIMA DESIGN、NKK ―― 54
オーシャンドーム ● 三菱重工業神戸造船所 ―― 55
高田城三重櫓 ● 構造計画研究所 ―― 56
［レポート］ 街にあふれるコピー文化 ● 編集委員
復原建築／建築材料／看板／人形／コピー食品／食品サンプル／模型
美術品／擬似自然／装飾品／ものまね ―― 57
［エッセイ］ 法律家の眼でみたコピー文化―合法と違法の境目 ● 桑森ひとみ ―― 62
［エピローグ］ コピー文化の新時代をみつめて ● 吉村英祐 ―― 64

特集● 広島の新しい街造りとアジア競技大会の会場巡り ―中国支部

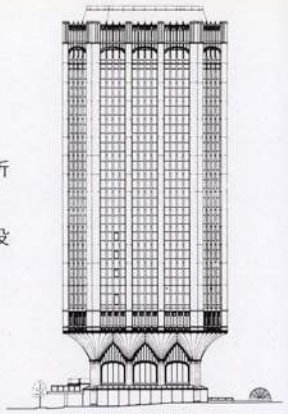
［巻頭の言葉］ 第12回アジア競技大会広島1994 ● 古橋廣之進 ―― 72
［作品］ 広島広域公園陸上競技場／広島県立総合体育館 74
広島市総合屋内プール・東区スポーツセンター・牛田公民館
広島広域公園テニスコート／広島市民球場／広島広域公園第一球技場
広島広域公園第二球技場／広島市中区スポーツセンター
広島市中央庭球場／広島市佐伯区スポーツセンター
広島市安佐北区スポーツセンター／広島市安芸区スポーツセンター
広島経済大学石田記念体育館／広島競輪場（入場門他）
東広島運動公園体育館／みよし運動公園陸上競技場
呉市営二河野球場／広島サンプラザ
広島県立総合体育館大型映像装置
アジア競技大会に向けてホテル建築のつづく広島市内 ―― 102
［折込マップ］ 第12回アジア競技大会広島1994競技会場マップ ● 中国支部編集委員会 ―― 103
［記事］ 民間の好意で利用できる選手村→A-CITY ―― 111
広島西部丘陵都市の概要 ● 松島義信 ―― 112
「アストラムライン」（広島新交通システム）の概要 ● 川原太郎 ―― 116

年頭のことば 1994年を迎えて ● 佐野正一 1
本年の抱負 常設委員会 ● 多井幸男・荒井 清・和田克朗・片倉健雄・須賀好富 2
会告 定時評議員会議決報告．話題建築を聞く第21回・シェラビア東山台―遠藤剛生氏に聞く．
CGの可能性―高松伸建築設計事務所の場合．
常滑と志摩、早春の伊勢湾を巡る―見学と懇親の集い―．
30's EYE第4回木下直之「駅前の文化について」．大阪府立近つ飛鳥博物館（仮称）見学会．
和歌山県立きのくに志学館、近代美術館・博物館見学会．WESTビル（仮称）免震構造見学会．
『建築設計者のための設備知識』刊行． 3
作品作風 大同生命大阪本社ビル 10
神戸クリスタルタワー
平田倉庫・有明グリーンリゾ
福原ビル
中央博労町ビル
being 柳々堂 ● 花田佳明 26
W Walking：建築家おすすめデートスポット―若林広幸氏 ● 佐伯由紀子 28
BOOK STATION 図書紹介8冊 30
法令コーナー 兵庫県の都市景観の形成等に関する条例の改正 ● 依藤庸正 31
新建材紹介コーナー ビルの省エネ外装改修システム―BILLFINE 33
GBRCニュース 新荷重指針の外装材設計用風荷重と風洞実験 34
デザインコンクール 第39回工高生デザインコンクール（テーマ：地域に建つスポーツ施設） 35
建築の眼 職人の技と現代建築 ● 河邊 聡 38
生活空間雑感 ● 笹川敏昌
ダウンサイジング ● 山下 勝
オリジナル―模倣から昇華へ ● 藤崎安弘
設備の頁 アプローズタワーの照明施設 ● 上西俊美 119
構造の頁 600kg/cm²コンクリートを用いたニューRC造集合住宅の設計 ● 角 彰 121
広報小委員会REPORT 与謝野久氏に聞く・大同生命大阪本社ビル― 123
―時空を超えて、過去、現在、未来をつなぐ― ● 小笹光彦
月報 平成5年11月分 124



西面外観

作品
作風



設計監理 ■
日建設計・一粒社ヴォーリズ建築事務所

施工 ■
竹中工務店・大林組・大成建設・清水建設
村本建設・錢高組JV

大同生命大阪本社ビル

大阪の肥後橋の街角に、かつて永く優美な姿を見せていた大同生命ビルは、大同生命の歴史を未来へつなぐ構想のもとに、1993年10月に大同生命大阪本社ビルとして甦った。

設計にあたって特に留意したのは、都市のシンボル空間でもある角地という立地性を生かしつつ、旧ビルの外観イメージを継承し、大同生命の歴史をまちなみの歴史と重ね合わせながら、過去から未来へとつないでいく考えを主軸にしたことである。

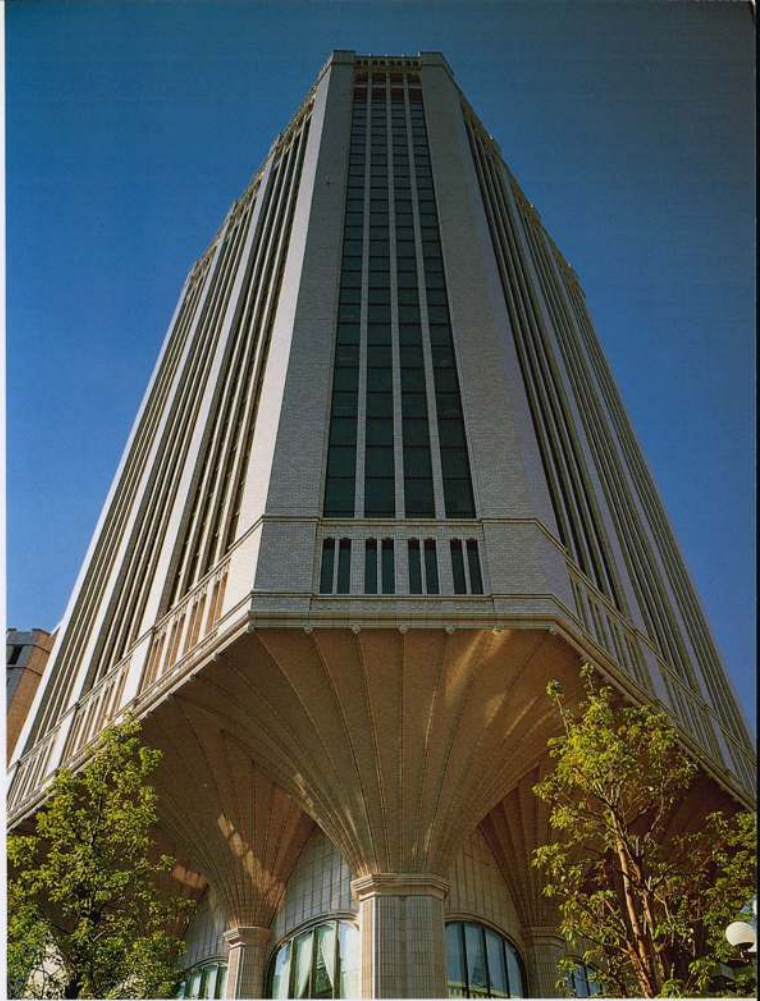
具体的には、旧ビルの備えていた外観様式の「歴史性」と、ビルの足元を大きく絞り込む構造架構上の「先端性」とを高層建築の「つくり」の中に融合させる考えを採用した。ここにこの建て替えプロジェクトの際立った特色がある。

新ビルの外観はこの考えに基づき、ビルの足元から上層部・頂部に至るまで、優美な曲線と直線とで天に向かって垂直に上昇していくデザインでまとめた。これは、歴史をふまえつつ新しい時代に向かって躍動的に発展していく企業イメージをビル外観全体で象徴的に表現する意図による。これにより肥後橋界隈は飛躍的に明るくなった。

一方、内部空間については、全階300m／mのOAフロアーを装備した無柱大空間のオフィス、高層棟内に確保した天井高約4.4mの多目的大会議室、旧ビルの内観を再現したメモリアルホール、南館と一体となった地下店舗街等々、本社ビルとしての先端的な機能性と快適性、そして歴史性とを調和させたオフィス環境とした。大きく絞り込まれたビルの足元のパームヴォールト空間から1階エントランスホール、2階メモリアルホールへと広がる空間は、大同生命の歴史を未来へとつなぐ構想を彷彿とさせるシンボル空間である。

このようなねらいで建て替えられた大阪本社ビルは、すでに完成している南館・東館と一体的に開発整備された拠点ビルでもあり、都市の一角における「まちの保存と開発」についての貴重な一つの回答をも示している。地域と共に歩む大同生命の歴史が、「まちの歴史と共に未来へつないでいく」この構想を通して広く人々に理解され、大阪の街並みにおける新たなランドマークビルとなることを心より祈っている。

（与謝野久・中西博隆／日建設計）



外観見上げ



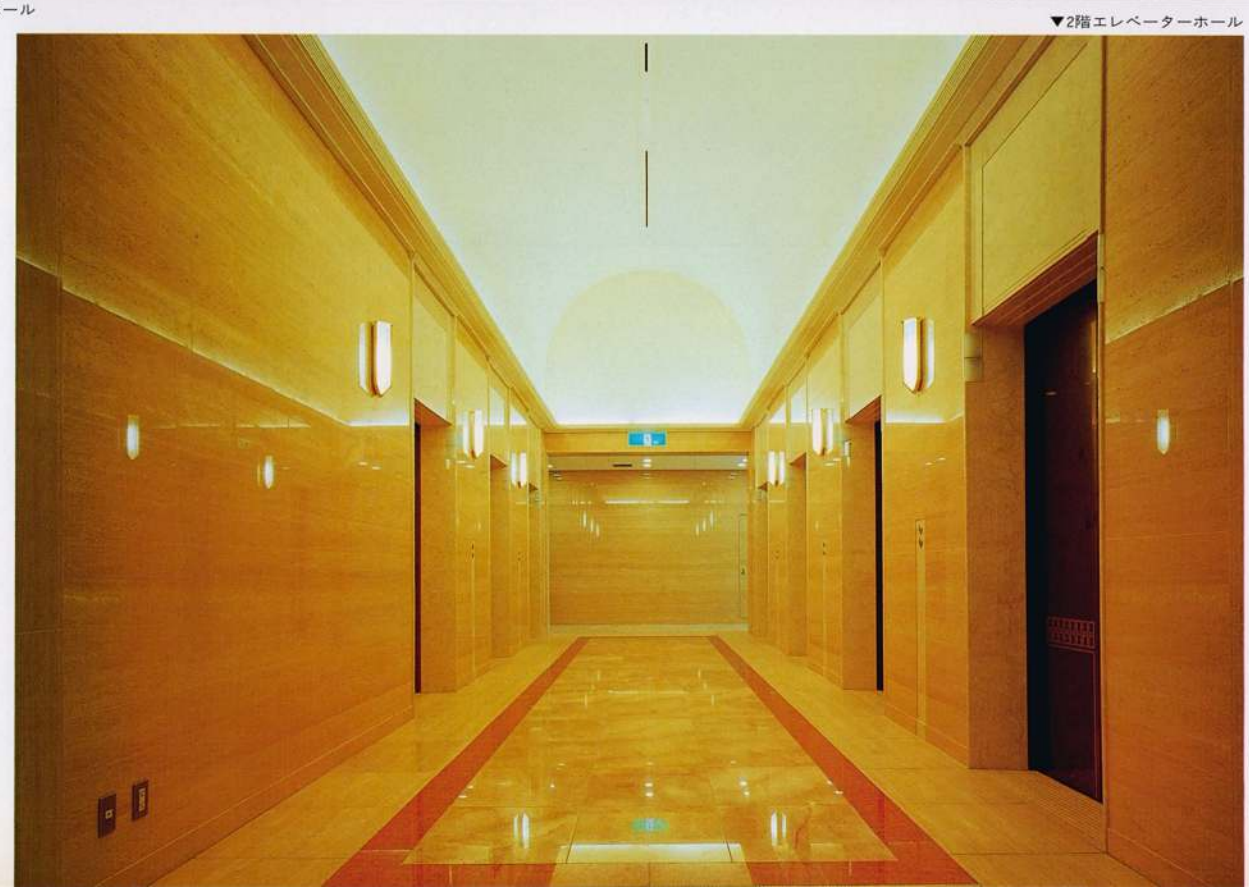
▲夜景

▼公開空地



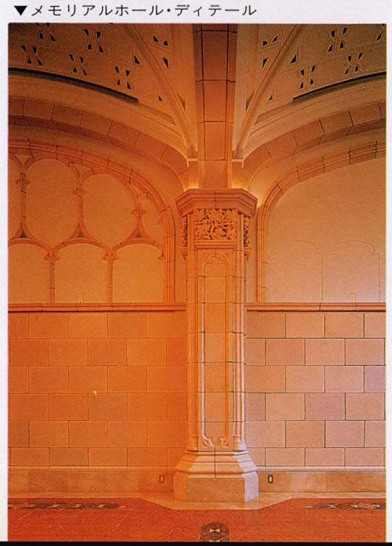
エントランスホール

▼2階エレベーターホール



▲メモリアルホール

▼メモリアルホール・ディテール



▼メモリアルホール・ステンドグラス



メモリアル応接室



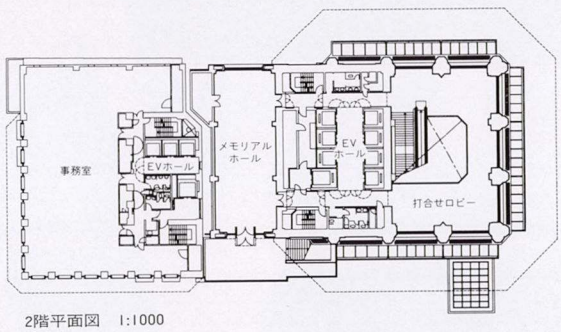
大会議室



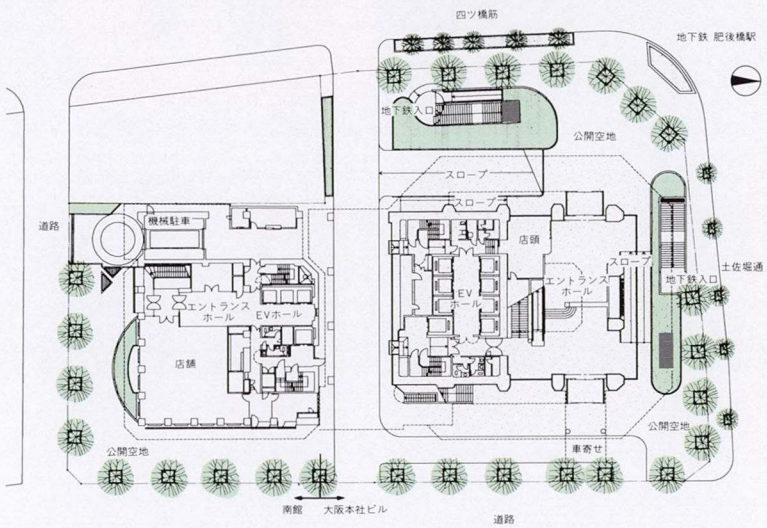
基準階・事務室



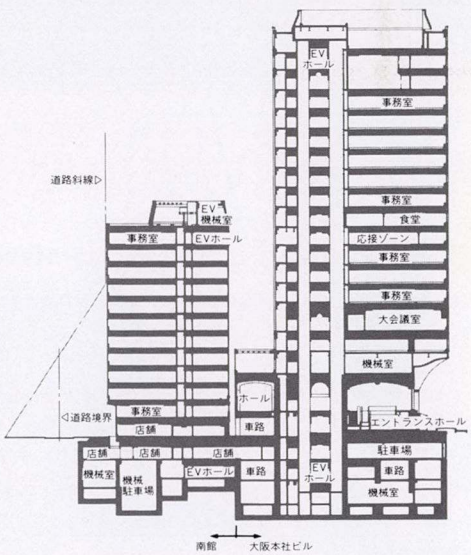
外観低層回り、右手に旧肥後橋ビル頂部トレサリーが現物展示されている。



2階平面図　1:1000



1階平面図　1:1000



断面図　1:1600

所 在 地 ——— 大阪市西区江戸堀1-2-2
敷地面積 ——— 3,896.97㎡
建築面積 ——— 1,529.50㎡（本社ビルのみ）
延床面積 ——— 27,761.15㎡（本社ビルのみ）
構造規模 ——— SRC、RC及びS、B3F、20F（塔屋を含む）
工　　期 ——— 1991年2月～1993年9月
最 寄 駅 ——— 地下鉄四ツ橋線肥後橋駅
撮　　影 ——— 黒田青巌



西面見上げ　〔モニュメント作品名：Portals　作者名：George Sugarman〕

作品
作風

基本設計・実施設計監修・監理■
日建設計

実施設計・施工■
鹿島・竹中工務店・大林組・西松建設・鴻池組
共同企業体

電　気／北村電気工業所・きんでん・日本電設工業・中電工共同企業体
空　調／川崎設備工業・三機工業・大気社・高砂熱学工業共同企業体
衛　生／西原衛生工業所・長村商会・東洋熱工業共同企業体
昇降機／日立製作所・東芝・松下電器産業

神戸クリスタルタワー

『神戸クリスタルタワー』は川崎重工業、川重不動産、日本生命保険の3社の区分所有インテリジェントオフィスビルであり、26～30階を川重神戸本社、31、32階を会員制クラブ、その他の階を貸事務所として計画した。

三宮から元町にいたる都心商業軸の西端に位置する当建物は、都市活力の再生をめざす元町と、それを促す神戸ハーバーランド地区との接点に位置しているということができる。JR神戸駅前の地下街「デュオこうべ」と元町との動線の接点として、神戸駅側にサンクンガーデンを計画し、地上レベルと地下レベルの歩行者ネットワークを賑わいある商業空間によってスムーズに連続させることにより、都市構造の立体化、複合化を図っている。

さらに特定街区制度の適用を受け、駅前にサンクンガーデンを含む大規模な公共空地を計画し、緑豊かな外部空間を演出することにより、駅前広場の環境形成に貢献するとともに、土地のポテンシャルの高度利用を図っている。

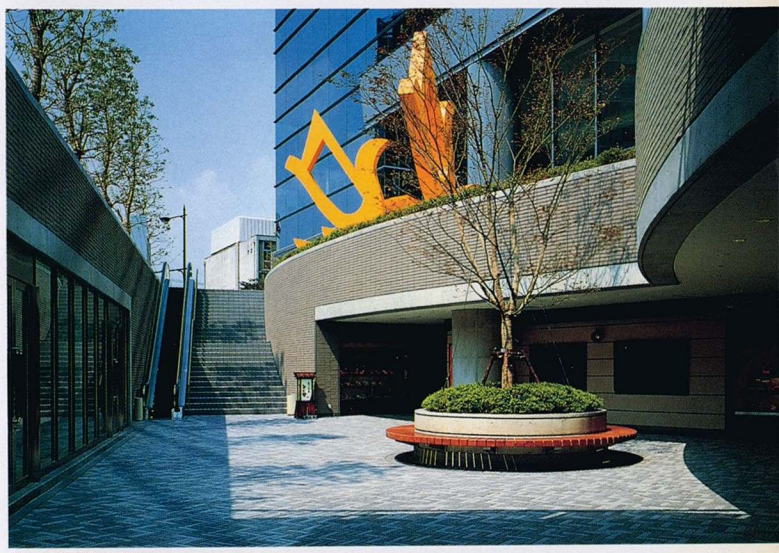
全面にガラスをまとったスレンダーなプロポーションの外観は、当建物の名称となっているクリスタルなイメージの具現化であるが、上部に「風の道」と呼ぶボイドな空間を設けることにより、建物のアイデンティティーを高めると同時に、建物の屋上の不安定な気流の緩和を図っている。このボイド空間を境として31・32階にラウンジ・ゲストルーム・レストラン・会議室からなる会員制クラブを設け、一般オフィスフロアと明快なゾーニングを行っている。会員制クラブの他に、3階には多目的な大会議室を有するなど、テナントサービスの面からも他のオフィスとは一線を画したインテリジェントオフィスビルということができるであろう。

(川島克也／日建設計)

所在地 ——— 神戸市中央区東川崎町1-1-3
敷地面積 ——— 5,579.62㎡
建築面積 ——— 1,525.40㎡
延床面積 ——— 57,012.67㎡
構造規模 ——— S、SRC、32F、B2F、PI
工　期 ——— 1991年3月～1993年8月
最寄駅 ——— JR神戸線・神戸駅
撮　影 ——— 習田四郎※、名執一雄

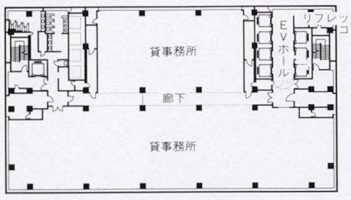


西側外観※

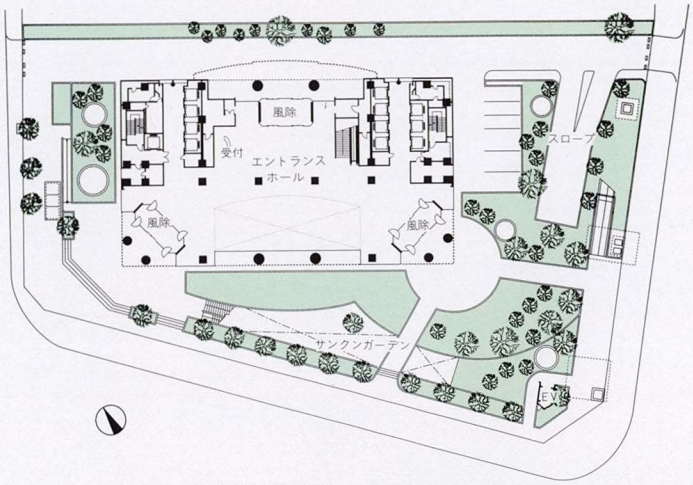

サンクンガーデン※


エントランスホール※

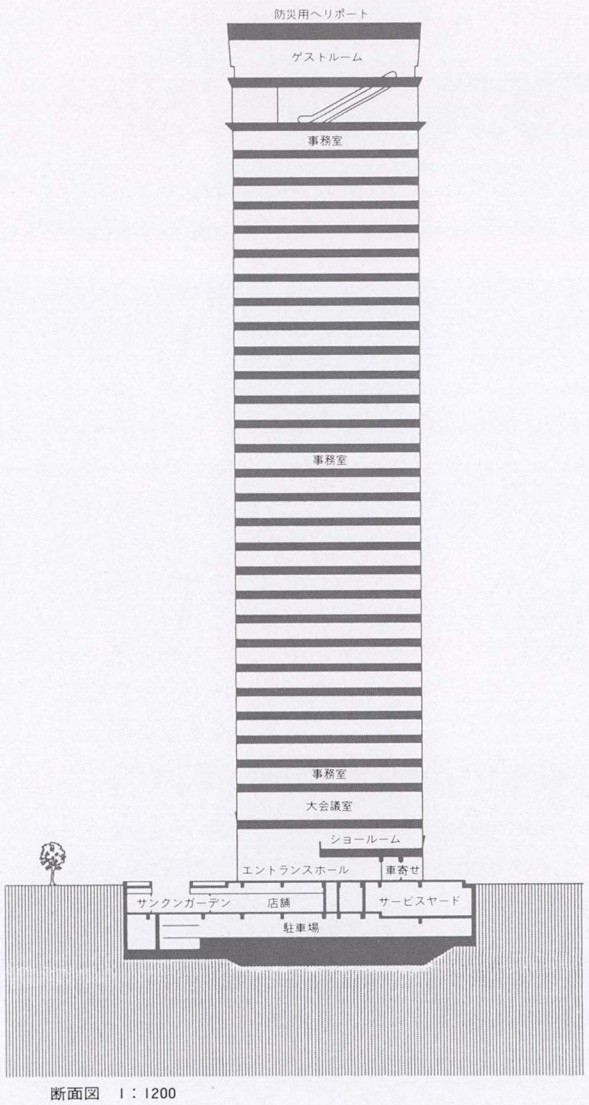




基準階平面図　1：1200



配置図・1階平面図　1：1200



断面図　1：1200



32階ラウンジ



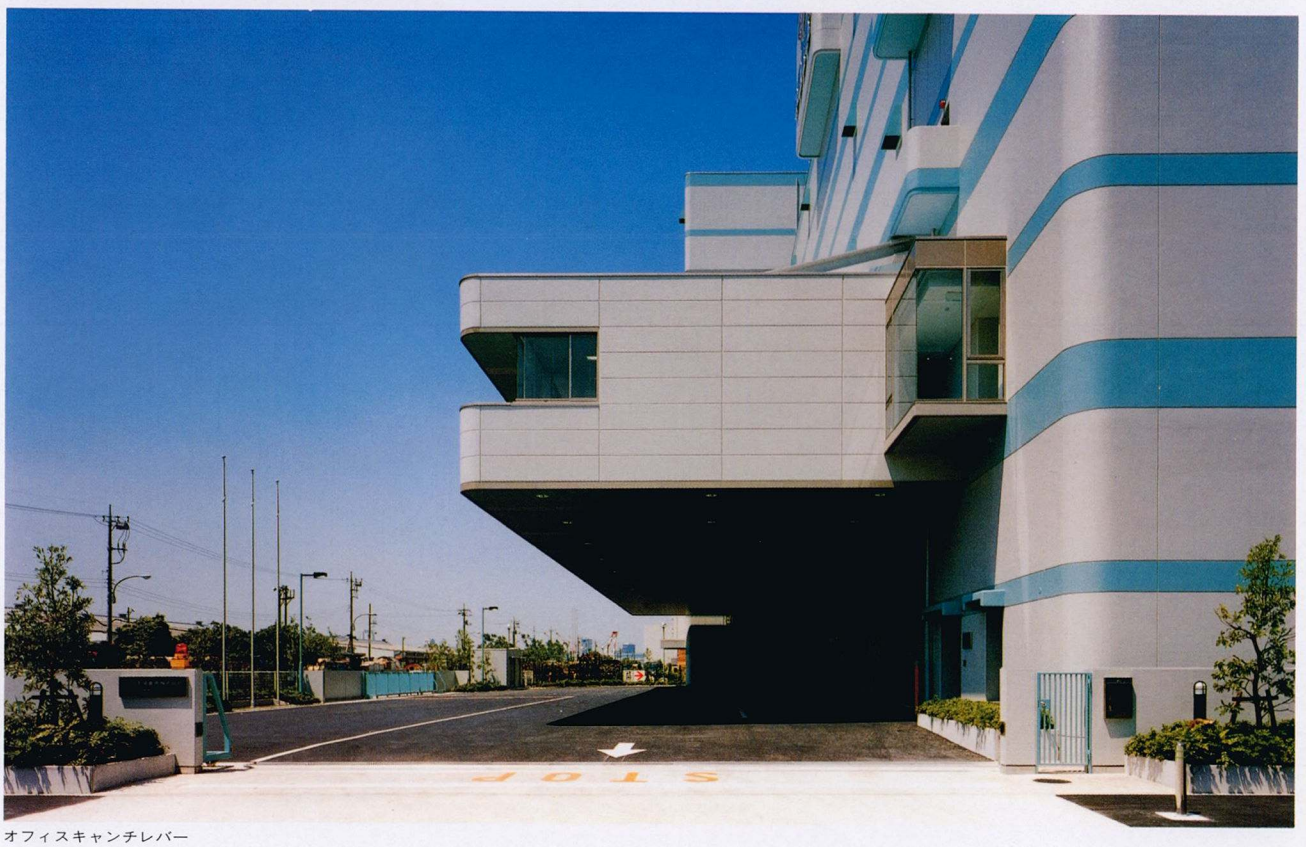
32階ゲストルーム



31階スカイロビー



南側外観(全景)



オフィスキャンチレバー

作品
作風

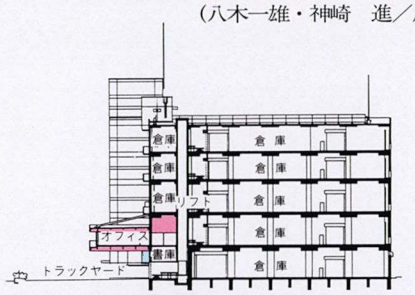
設計監理 ■
彦谷建築設計事務所

施工 ■
錢高組

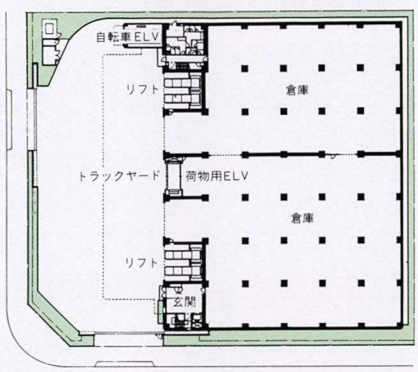
平田倉庫・有明グリーンリゾ

この建物は、21世紀の高度情報化社会を睨んだ未来都市・東京湾臨海副都心に隣接した有明埠頭に建つ、紙を扱う流通倉庫である。
建物の特徴は、まずキャンチレバーのオフィスで、倉庫本体から約12m突き出て、トラックヤードを覆っている。これにより雨天時のトラックヤードでの荷役作業が可能となった。4基の高速垂直搬送機、及び荷物用エレベーター全てをトラックヤードに面して設け、作業の効率を計った。オフィス空間についても、明るくて、海を眺望できる素晴らしい環境を得ることができた。
また、自動車用エレベーターで地上と結ぶ、屋上パーキング（乗用車、小型トラック用）を設け、トラックヤードをより広く、よりスムーズに運用できるように配慮した。
もう一つの特徴は、倉庫部分の構造に、RCフラットスラブ工法を採用していることである。積載荷重4t/m²可能な構造とし、6mの天井高を無梁で確保して、倉庫の生命ともいえる総容量と作業性を飛躍的に向上させている。
〝従来の倉庫の持つイメージ（3K＝汚い。暗い。危険。）を払拭して欲しい。〟とのクライアントの要望も有り、未来都市に相応しい明るくファッショナブルで、21世紀の物流社会を担っていく最新鋭の機能を備えた、安全で効率性の高い倉庫に仕上がったと思う。

（八木一雄・神崎　進／彦谷建築設計事務所）



断面図　1:1500



1階平面図　1:1500

所 在 地 ——— 東京都江東区有明4-8-3
敷地面積 ——— 5,000.03m²
建築面積 ——— 3,436.07m²
延床面積 ——— 15,140.07m²
構造規模 ——— RC、S、6F、P2
工　　期 ——— 平成4年4月～平成5年7月
最 寄 駅 ——— 地下鉄有楽町線豊洲駅
撮　　影 ——— 樽井洋治


東側外観


屋上パーキング


基準階倉庫


オフィス（会議室）

北面見上げ



北面外観



エントランス

作品風作

設計監理 ■
創美設計

施工 ■
野村建設工業

福原ビル

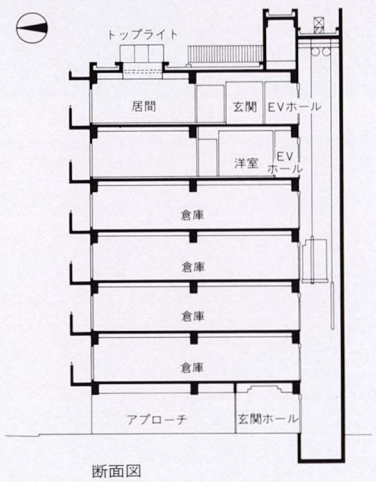
本建物は、地下鉄四ツ橋線四ツ橋駅と千日前線西長堀駅との中間附近、大阪市西区北堀江２丁目に位置し、北側(11m)道路に面した地上７階建、倉庫兼オーナー居宅である。
建物周辺は、マンション及び事務所兼居宅とした建物等が多く建ち並ぶ、比較的静かな地区ということもあり、本建物の外観については、都市型マンション的でシンプルな形態とし、周辺建物との調和を図った。
１階には、荷物搬入口を兼ねた駐車場を設け、２階から５階にはオーナーが経営されている、高級輸入雑貨卸業の商品を置くための倉庫を設けている。６階、７階にはオーナー居宅を設けている。オーナーの要望により、各居室の天井高さについては、出来る限り高くするようにし、2.7mの天井高さを確保している。又、最上階である７階居間部分には、より解放的な空間を得るために、1.0m×3.0mのトップライトを用いた。エレベーターについては、使用時に発生する振動及び騒音を少なくするため、バリニアエレベーターを採用している。内装においては、建築主が輸入雑貨業という仕事柄、年に数回、海外に長期間渡航されていたことから、欧米的な感覚に優れておられ、その感覚を生かした造りになっている。その一例として、アール形状の繰形を施した、木製建具及び高さ2.1mの木製などがある。
(創美設計)


7F居間・食堂


7F玄関

所 在 地 ——— 大阪市西区北堀江2丁目83番
敷地面積 ——— 149.00㎡
建築面積 ——— 112.17㎡
延床面積 ——— 647.92㎡
構造規模 ——— RC、7F、PH1
工　　期 ——— 平成４年12月～平成５年11月
最 寄 駅 ——— 地下鉄四ツ橋線・四ツ橋駅、地下鉄千日前線・西長堀駅
撮　　影 ——— 島　修一

電気／米沢電気工事
給排水・衛生・空調／田丸産業・近畿ナショナル設備機器
昇降機／松下電器産業関西HALS支店
日本オーチス・エレベーター



断面図

外観北側見上げ

玄関廻り



作品
作風

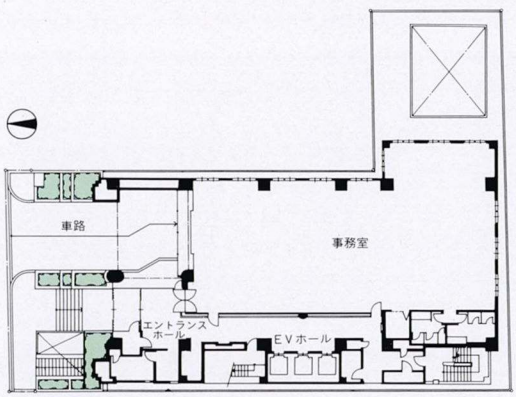
企画■
アクシス

設計施工■
鴻池組

中央博労町ビル

船場を東西に横切る博労町通りは、近年新しいビル建設により、それぞれの建物がそれぞれの特徴のある顔を出しながら、通りの新しい都市景観を創りつつある地域である。この地にあって、周辺環境への貢献と調和が、外部空間を構成する重要なテーマであった。
建物を前面道路から後退することにより、セットバックのない端正な外形と外部空間を確保し、青空を映すミラーガラス、それを囲む花崗石、そしてシンメトリーを強調する中央の一対の円柱による構成は、「現代的重厚感・飽きのこないデザイン」を目指している。また、建物前面の空地は、外壁1階部分の花崗石割肌の柔らかさと植栽の緑とあいまって、歩行者に対し「ゆとり」の空間を提供した。
玄関ホールからエレベーターホールは、石と金属・光の構成により永続性とともに安定感のある空間を演出するとともに、オーナズ・オフィスとしての品格を重視した。
今後、シンプルでかつ表現豊かな建物として、長い年月にわたって博労町通りの景観向上に、貢献することを期待したい。

(杉本建一／株式会社アクシス)
(由肥正治／鴻池組大阪本店設計部)



1階平面図　1:500

所在地 ——— 大阪市中央区博労町1丁目23・24・81-1
敷地面積 ——— 838.99㎡
建築面積 ——— 610.25㎡
延床面積 ——— 5,929.60㎡
構造規模 ——— S(一部SRC)、B1F、9F、P1
工　　期 ——— 平成4年2月～平成5年8月
最寄駅 ——— 地下鉄堺筋線堺筋本町駅
撮　　影 ——— 上口善孝


外観北面


1階エレベーターホール

being

柳々堂



大阪に柳々堂という建築専門書店がある。関西で建築を学んだり、あるいは建築に関わる仕事をしておられる方なら、もちろん御存知だろうし、日々いろいろとお世話になっているに違いない。しかし、そのうちどれくらいの方が柳々堂の店舗を知っておられるだろうか、あるいはそこを訪れたことがあるだろうか。さらにいえば、柳々堂とはいったい何者か、なんて考えたことがおありだろうか…。


「番台」に陣どる松原社長

■「番台」の上から

柳々堂は、大阪の西区京町堀、四ツ橋筋を西に越えて靱公園のすぐ北側にある。まわりは中小の雑居ビル、向かいは飲み屋、隣は焼き鳥屋、そんなロケーションだ。少し東に歩けば淀屋橋のオフィス街なのだが、そんなことが嘘みたいな下町の香り。木造2階建ての、どこの田舎の駅前にでもある、店の外に週刊誌を並べただけの素っ気ない本屋の風情である。

アルミサッシュの引戸を開けると、脇から「いらっしゃい」という女性の声。「ん？」と振り返ると、レジ、いや銭湯の番台といったほうがいいだろう、一段高くなった所でにこやかに微笑むオバサン（失礼！）ひとり。松原満佐子さん、柳々堂四代目社長である。

内部は奥に長い空間。手前は普通の文庫本、単行本、雑誌である。それを通り過ぎて、やっとあったあった、建築関係の雑誌と単行本がところ狭しと並んでいる。雑誌は「種類が多いなあ」と感じる。特に「インディ」系の充実がいい。単行本も新旧ともに目配りのきいた棚揃え。三一書房の『現代日本建築家全集』が、まだあったりもする。「フンフン」と背表紙を追っていると、「これ読まはりました？」と、「番台」にいたはずの松原社長が新刊書を差し出しながら立っている。さらに奥には、靴を脱いであがる事務室があって、人の気配がする。のぞき込むと何やら新聞配達所のような雰囲気。何人かの男達があわただしく作業をしている。「番台」の電話が鳴っている。「ああそれなら××社から出てますワ」松原社長の声。しばらくすると学生相手の話し声、「これあげるワ、よう読んでな」。また電話、「井上さーん、××先生から電話ー」、「はーい」と店の奥から返事…。「番台」は管制塔なのだ。

■ 安井武雄の古本

柳々堂は明治27年の創業である。立田幾次郎、茂三郎、清、そして現在の松原満佐子と、親子四代でその看板を守ってきた。しかも、創業以来、建築専門書店としてである。創業者は「龍角散」の創立者と姻戚関係にあったようで、「ゴホンといえば龍角散」が、「ご本といえば…」になり、柳のように粘り強くというわけで「龍」が「柳」になって「柳々堂」になった、とか。

店の場所もずっと同じ。ただし戦前の店舗は、緑色の大理石に真鍮金物、高価な本はガラスショーケースの中、という格調の高さで、大阪の著名な建築家はもとより、京都や神戸の大学の先生もみんな買いにきていたそうだ。それが昭和20年の空襲で焼けて、昭和22年に再建されたのが、現在の店舗。

昔は書籍の流通システムも現在とは随分違っていたようで、取次店など存在せず、各出版社がそれぞれ自社の本を売ってくれる特約書店を探す、というやり方をとっていたそうだ。で、ほとんどの建築関係図書の関西特約代理店が、柳々堂だったらしい。つまり、全国的にもかなりスゴイ本屋だったのだ。

戦後、店は再開したものの、本がすべて焼けてしまっていて売るものがない。その窮地を救ったのが、あの安井武雄だった。彼は、当時の社長、立田清を自宅に呼ぶ。夙川に今でも残るあの自邸だ。そして「柳々堂よ、お前も売るものがないだろう。俺の本をやるか

らそれを売れ」と安井は自身の蔵書を提供した上に、さらに友人に呼びかけ、古本を供出してもらう。柳々堂はさっそく「古物商」の鑑札を取り、それらの古本を商うことで戦後の混乱を乗り切ったのだそうだ。現在の松原社長も、子供心に、父親と共に安井自邸を訪れた時のことを覚えているとのこと。戦争までに既に柳々堂が関西において築いていた地位と、当時の建築家の志の高さのようなものを感じさせる、ちょっといい話だ。

■ 本は自転車でやってくる

ところで、冒頭で書いたことだが、「多くの人が柳々堂のお世話になりながら、その店舗を知らずにすんでいる」のは何故か、疑問に感じた方はいないだろうか。

答えは簡単。お店に行かなくても本が届くのである。本の方からやってくるのである。柳々堂は、自転車と一部バイクによる本の配達を信条としている。この(余りに大阪的な!)システムによって、大阪市内の主要な設計事務所、建設会社、工務店等は、本の「宅配サービス」を甘受している。社長以下約10名の社員さんの多くにとって、昼間は配達の時間なのだ。

実は僕自身、前勤務先の設計事務所で、9年間この恩恵にあずかっていた。朝、「あの本が要る」と思い立つ。すぐ柳々堂に電話を入れる。在庫さえあれば、午後、担当のIさんの自転車でその本が届くのである。彼は事務所内を配達してまわっている。その彼をつかまえては、あれやこれや、ややこしい注文を出す。建築以外の分野についても実に博識で、僕は、彼に「あ、そんな本出てますか」と言わすのが楽しみだった。

配達へのこだわりは一朝一夕のものではない。戦前は、工事現場に本をかついで行き、そこで商売をしたりもしたそうだ。将棋のひとつも指しながら、現場のひとたちに本を売ったらしい。柳々堂は、その伝統にこだわり続けている。

本を買う人とのコミュニケーションにこれほど執着し、しかも成功している書店を、僕は他に知らない。自転車に乗った本の運び屋たちは、文字どおり、その受取り手と情報とをつなぐケーブルの役目を果たしている。一本の、しかし極めて多機能な回線である。アクセスに成功すれば、膨大なデータベースにもつながるのである。電子メディアの浸透と共に「高速化」していく社会の中で、「本」という、いわば「低速」のメディアが依然として持つ可能性を、柳々堂の自転車軍団は証明しようとしているように、僕には思えるのだ。

■ 開かれたネットワークへ

柳々堂は、読者以外に、多くの人への「ケーブル」をのばしてきた。

まずは、横方向へ、つまり建築専門書店どうしのネットワークである。南洋堂(東京)、柳々堂書店(大阪)、大龍堂書店(京都)、井上書店(広島)、森井書店(金沢)、長野書林(長野)、GEN建築・芸術書房(福岡)、これら7店がネットワークを組み、情報交換を行なっているのだ。『建築インデックス』という便利な本を御存知だろうか。その年の各建築雑誌の内容を項目別に整理した索引である。たとえばこの本は、このネットワーク上で流通している。その充分な活用はまだまだこれから、ということらしいけれど、極めて貴重な回線という他はない。

もうひとつは、川上へ向かう「ケーブル」、つまり出版社とのネットワークである。建築系の代表的な出版社にとっては、柳々堂は多くの定期購読者層を確保してくれる大切な販売店であるばかりか、その営業方針を決定するための有能な「アンテナショップ」でもある。「こんな値段じゃ売れまへんで」とか「このシリーズで出すと売れまっせ」というわけだ。

また初めにも書いた「インディ」系の雑誌、つまり取次店を介さない雑誌やその版元への思い入れも相当なもの。たとえば『TELESCOPE』は大阪ではここでしか手にはいらないだろう。また、僕は以前、ある建設会社の設計部の若い人達が作っている同人誌(当然無料)を、柳々堂経由でもらったことさえある。

さて、かくも広いネットワークを誇る柳々堂が、新たな動きを展開し始めている。まずは一昨年(1992年)の11月に大阪で開催した「柳々堂創業百年記念シンポジウム」。〈大阪未来世紀〉という、いわば「直球」的テーマ設定には、柳々堂の建築界への思い入れがみなぎっていた。パネリストの先生方のほうが、及び腰だったような印象すらあった。むしろ僕は、「エ!、あのおばちゃんが社長やったん」と何人かの人はあっけにとられたに違いない松原社長の艶やかな着物姿への変身と、日頃は自転車で街を駆け回っている井上正信さんのキリッとした司会振りに、「創業100年」の底力を見たような気がして感動していた。

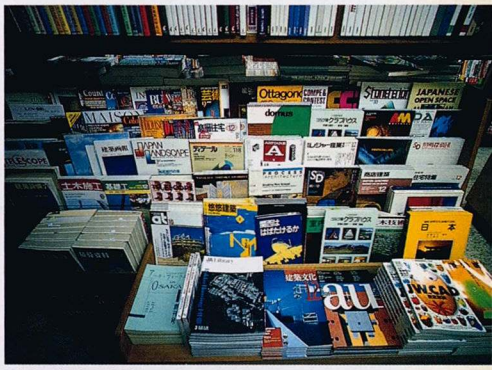
このシンポジウムが引き金になって、柳々堂はこの秋、一冊の雑誌を創刊した。題して『アーキ・フォーラムin OSAKA』。「創刊の趣旨」からは、「ポストバブル」時代の「新たなパラダイム」探しの「引き金」になりたい、との熱い思いが伝わってくる。

「シンポジウムのあと、ある乱反射の必要性を感じた」と、編集担当の井上さんは語る。この言葉を僕なりに解釈すればこうだ。これまで確かに柳々堂は膨大なネットワークを作りあげてきた。しかしそれらは必ずしも「開かれた」ものではなかった。つまりいろいろな「点」と柳々堂をつなぐ放射状のネットワークではあっても、「点」どうしをつなぐことはタブーのネットワークだったわけだ。そのジレンマを何とか解決したい、横断的に交錯する(=「乱反射」する!)回路を重ね書きしたい、それにはやはり開放された場としてのメディアづくりだ!となったのではないだろうか。

この試みがどこまでの射程を実現するか、創刊号の執筆者のひとりとしてはいささか宣伝めいて恐縮だが、読者の皆様の応援に期待するところ大である。どうか多くの方が「乱反射」に参加していただきますように。

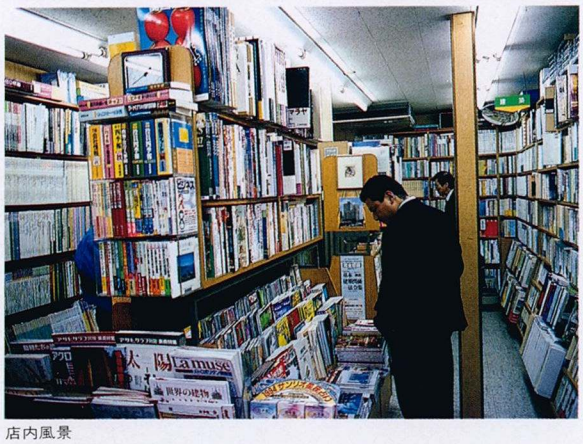
ともかくも7専門店ネットワーク上を、この新しい雑誌がフローし始めたのだ。僕は〈自転車に乗ったネットワーカー〉たちに、〈100年の重みに支えられたアナキズムの実践〉を期待している。

文・写真　花田佳明／神戸山手女子短期大学専任講師


種類の豊富な雑誌架


自転車軍団の勇姿!


新着雑誌の山


店内風景

「古代の香り」に誘われて——若林広幸氏と行く石積みのまち

8月上旬、例年ならば熱帯夜の続く盛夏だが、今年は未だ、梅雨の気配が漂っている。空一面どんよりと雲に覆われ、気温の上がらない日中は、海水浴とは程遠い。それでも、琵琶湖に向かう車中は夏休みだけあって、家族連れや、女子大生のグループ等でにぎわっている

大阪駅から約50分経過しただろうか、山科から湖西線に入り、車窓に映る琵琶湖をしばし眺めていると、電車は「叡山」という駅に停車した。湖と比叡山が両側から迫るその駅で下車し、湖に背を向けながら、山へ向かう細いバス道を歩くこと数分、浜大津から比叡山の山裾を走る京阪電鉄「坂本駅」がある。この「坂本」は、比叡山の守護神として鎮座し、全国3千余りある山王さんの総本山、日吉大社の玄関口として知られている。しかし、玄関口とは言え、日吉大社へと続く堂々とした参道に比べ、その駅は見落としてしまいそうな程簡素なたたずまいである。時刻も幾分早いせいか、参拝客もまばらな駅前で、久しぶりに晴れわたった朝の日差しを満喫しながら、建築家、若林広幸氏を待つことにした。

駅の木陰のベンチでまどろみ始めた時、十数人の乗降客に紛れて、若林氏は改札口に現れた。ホワイトとグリーンのストライプシャツがひときわ映え、とても爽やかな装いである。「建築と社会」の取材であることも忘れ、思わず「キャッ、ナイス！」と叫んでしまいそうである。「今日は天気も良く、涼しくて何よりですね。」挨拶代わりの言葉を交わすや否や、早速、駅前の観光協会に飛び込んで、パンフレットを手渡して下さった。「坂本の街は、ガイドブックにもほとんど紹介されていないんでね。宣伝が下手なのかなあ。」（最近JRのCMでTV放映されているが）と前置きしながら、「デートコースにどこを紹介しようかと色々考えた末、京都にも候補地があったのやけどね。ほとんど有名になってしもてあんまり知られてないとこを考えてたら、やっぱり坂本界隈がいいのとちがうかなと思て。この辺りが好きなんかなぁ。日曜日の朝には、ロードの自転車でよく訪れるんや、京都から山を越えてね。」若林氏と言うと、京都若しくは、ちょっとオシャレな場所を想像していただけに戸惑ってしまう。確かに、坂本という街の名はほとんど耳にする機会がない。しかし、どうやらここは、氏が幾度も訪れたくなる何かがあるのだろう。単に門前町だというだけでなく。

「今日は天気がいいし、日吉大社の周辺を散策して、駅前のつる瓦蕎麦で休憩しよかな。坂本と言うたら、やっぱりつる瓦に行かんとな。そのあと、比叡山に登って京都側へ下りる山越コースを行ってみよか。」普段運動不足の私には、些か気の遠くなる行程である。スニーカーが正解だったと後悔している内に、氏は足取軽く日吉参道を歩き始める。石畳の参道の両側には疎水が流れ、石積の塀が続く。見慣れぬ石塀の光景に目を留めると、「日吉大社の参道付近には、多くの重要文化財が残っていて、神社や民家の石塀も、全国的に見て、非常に珍しい石積の形態をしているんや。この積み方は穴太衆積と呼ばれてて、古代より穴太衆と呼ばれる人々の手によって、加工していない大小様々の自然石を積んでいるのが特徴なんやね。形、大きさも不揃いで、粗雑な自然石を、実に巧みに利用して積んでいるのには驚くね。決して洗練されているというわけとちがうのに、堅固として、独特の雰囲気が感じられる。」一見、無造作に積み上げられた石で構成される塀は、背後に迫る深い森に吸い込まれるように続く。清流に架かる3本の石橋－日吉三橋を渡ると、山王の山の文字を型取った山王鳥居が現れる。「この石橋は豊臣秀吉の寄進に寄るもんやけど、橋も塀と同様、石造なんやね。緩いRを描いた橋は石のスラブだけ、もうひとつは小梁・柱まで全て石で構成されている。恐らくこれらは、日本最古の石造構築物かもしれんね。それに境内の階段も、切石でなく自然石でできているのが面白いね。」

お話を伺いながら、日吉大社の境内へと入って行く。鬱蒼たる森にすっぽり覆われるかの様に、訪れる人の姿は見えない。原生林に囲われた境内には、東本宮、西本宮の両本殿が点在している。日吉造と呼ばれる建築様式を持つ本宮は、門に対し、軸のずれた配置となっているのも興味深い。本殿に隣接する山王神輿収蔵庫に置かれた七基の神輿は、簡素な器に対し、余りの鮮やかさに思わずハッとする。金箔と朱に包まれた神輿は、伝統的行事である日吉山王祭のクライマックスを飾るに相応しい華麗な姿である。しかし、その装飾的なデザインは周囲の風景とは対極的な感じすらするが、氏の言葉を借りれば、「格子の社はシンプルな枠、そこに安置されたデコラティブな神輿との対比は、実にダイナミックで緊張感のある構成」となっている。「坂本の町は、日本でも珍しく石文化の形成された土地なんや。伝統的な門前町には違いないけど、誰もがすぐ思い浮かべる「日本の風景」とはちょっと違う感じがする。きっと、それはこの石文化に由来するんかな。」「つまり、より原始的と言うか、大陸的な古代の香りがするんやね。どうも古代、この場所にたどり着いた帰化人によって石文化が伝承され、ここを拠点に日本の石積文化の基礎が作られていったみたいやね。」古代文化の魅力に取り憑かれていると言う氏だけあって、自説の一端を饒舌に披露して下さる。「朝鮮半島から日本への文化伝来には2つのルートがあって、1つは出雲経由、もう1つは福井付近から琵琶湖経由で、大和へ。石文化もこのルートに乗って、伝わったみたいやね。」若林流大陸文化伝来説は、ほんの触りだけでも充分面白い。


清流大宮川に架かる日吉三橋のひとつ


慈眼堂の石塔



芙蓉園庭園にて、右・若林広幸氏



日吉大社参道の疎水と穴太衆積の石塀

先に進むに従って、杉木立は更に深まり、全てのものが止まってしまったかの様である。静寂の中、蜩の声と清流の流れだけが微かに響く。そこは、まさしく神々の集合する荘厳な神域なのであろう。神代まで遡る壮大な歴史の織りなすページは、この山々に深く刻まれ、静かに横たわっている。私達は、残された僅かな手掛かりで、古代への想いを馳せるには余りに微力である。

再び鳥居をくぐる頃、既に足に疲れを感じ始めた私に氏は「あの階段を上ってみようか。」と事もなげに言われた。さすが、自転車で鍛えているという氏はスタミナ充分。先の見えない階段を、不安気にヨロヨロ上る私を、時々振り返っては気遣って下さる。汗が吹き出る。しかし、その甲斐あって眼前には小規模ながら近世霊廟風の絢爛豪華な東照宮が現れる。「凄い」と思わずロにしたこの建物は、日光東照宮のモデルとして建造されたものである。全体が朱と黒に包まれ、随所に極彩色の文様が施され、金箔地に壁画や金具が取りつけられている。外壁は色褪せてはいるものの、実に華やかである。振り返ると、眼下には琵琶湖が広がっている。湖面には束の間の夏を楽しむかの様に、ヨットやウィンドサーフィンの帆がたなびき、湖からの涼風が何とも快い。

「午前中の締めくくり」と激励されながら、石塀の道を下ると滋賀院門跡にたどり着く。石垣と白土塀に囲まれた門跡の奥は、石仏と石塔が立ち並ぶ苔むした庭へと続いている。これらは慈眼堂の石仏と呼ばれており、紫式部、和泉式部、清少納言、桓武天皇、後水尾天皇の塔等、各々デザインされた石塔が密に配置されている。背後の淡泊な社殿とのコントラストは「月夜の晩に訪れたときは、最高のロケーションやった。まさしくデートにはぴったりやね。」と鼻高々とおっしゃる。確かに、闇に浮かぶ石仏達はドラマティックで幻想的な世界を醸し出すに違いない。

どれ程歩いたのか、ようやく昼時となり、待望のつる毛蕎麦に入ることにした。創業250年の暖簾をくぐると、日吉大社の境内ではほとんど見かけなかった人の姿で、店内はにぎわっている。中庭に面したお座敷に腰を下ろすと、まずはBEER。氏曰く「散策ならぬ健脚コース」に乾杯すると、渇ききったのどを癒すかのように、冷えたビールは何物にも替え難い。そして「やっぱり、ここではざる蕎麦大盛」なのだそうだ。のど越しのよいお蕎麦は瞬く間に、胃袋に納まった。

近くの芙蓉園庭園でお茶を飲み、一息着いたところで、「さて、次は比叡山の山頂に上ろか。」との言葉に、またもやギョッとすると、「確か、ケーブルカーが最近改装されたばっかりやし、今日はラッキーかもしれへんな。坂本ケーブルと言って、延暦寺までは、ケーブルカーとバスで行けるはずや。途中下車すると、蓬莱丘地蔵という多数の石仏が祀ってある面白い所もあるんやけどね。」と言われるのを聞いて胸を撫で下ろす。日本最長のケーブルカーは、私達を山頂へと導き、徐々に湖畔の視界が広がっていく。山頂からのダイナミックなパノラマは、琵琶湖沿岸の街並を一望できる。

山頂駅から、延暦寺に向かって山道をそぞろ歩く頃、夏の昼下がりとは思えぬほどの冷気が肌を包む。深い杉木立の中、いつしか私達は寡黙になってしまった。まるで、下界から逸脱した神聖な聖域にでも、足を踏み入れてしまったかのように。そこは、1200年前、伝教大師最澄上人によって開山されて以来、日本人の生活に深く浸透し、世界的にも広く親しまれてきた日本仏教の母山とも言うべき場所なのである。延暦寺全山の本堂である根本中堂については、敢えてここで述べる必要はないだろう。

山頂から再びロープウェイとケーブルカーを乗り継いで、京都側へ下山することにした。車中、氏は「坂本の街の古代の香り」について何度か繰り返された。「僕は未完のもの――つまり、恐らく、かつては非常に装飾的であったであろうものが、時間の経過と共に装飾部分がそぎ落とされ、最終的には構造体だけが残っているもの――古代遺跡もそうなのだけど――に、とても想像力を掻き立てられるんだ。」と。今日、一緒に歩いた坂本の街――穴太衆積の石塀、欝蒼たる原生林、自然の樹木と石造文化との共存する街並は、各時代の胎動と発展に深く関わり、時代の所属する背景を混在しながら、遥かなる神代へと回帰していくのである。それは、一見粗野で、武骨でありながら、時代の変遷が複雑に錯綜し、淘汰されることで、より原始的な色彩を帯びた風景として、氏の想像力を掻き立てるのかもしれない。若林氏の放散する、幻想的とさえ感じる熱量の根底は、この想像力なのだろうか。

ケーブルカーの終着、八瀬で叡山電車に乗り換えると、適度な車両の揺れに猛烈な睡魔が襲ってくる。ふと気がつくと、出町柳である。寝ぼけ眼の私に「今日はお疲れ様でした。僕はこれから事務所に戻って、仕事をするので。」と笑顔で去って行かれた。それはまるで、今朝、坂本駅に現れた時と同じように爽やかに。その軽快な後姿に、氏の放散する莫大なエネルギーは感じられない。やはりタフである。

夕陽に消え行く氏の残像に、キーワードとして残された「古代の香り」を重ね合わせようと試みた。しかし、そこには、神秘をたたえた比叡山の山々と同様に、若林氏自身もまた、神秘な存在として私の脳裏に焼きついているのである。

今日一日の快い疲労感は、再び私を夢の中へと誘い始めた。

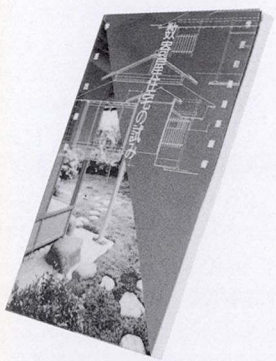
企画/会員企画小委員会　文責・佐伯由紀子

BOOK STATION
ブック・ステーション

学芸和風建築叢書 12
数寄屋住宅の試み
和風建築社 企画・編集

●

学芸出版社
1993.5.10刊
A4W判　176頁　8,240円



IMAGES OF ASIA
古地図にみる東南アジア
リチャード・ティラー・フェル著
西村幸夫監修
安藤徹哉訳

●

学芸出版社
1993.5.25刊
四六判　160頁　2,060円



建築知識[増刊]
都市・建築企画開発マニュアル '93

●

建築知識
1993.7.10刊
A5判　490頁　4,800円



京都が蘇る
南北一体化への提言
京都南北一体化研究会著

●

学芸出版社
1993.7.25刊
四六判　168頁　1,300円



即戦力FDブック
杭基礎フーチングの設計
貴瀬　勝 著

●

学芸出版社
1993.9.10刊
B5判　192頁　9,991円



ハイパフォーマンスコンクリート
岡村　甫・前川宏一・小澤一雅著

●

技報堂出版
1993.9.30刊
B5判　252頁　8,240円



イラストでわかる
建築電気・エレベータの技術
中井多喜雄著
木村芳子／イラスト

●

学芸出版社
1993.10.25刊
B5判　208頁　3,090円



新 クリーンルームの運転・管理・清浄化ハンドブック
早川一也・浅田敏勝監修

●

エヌ・ティー・エス
1993.10.29刊
B5判　702頁　59,740円



編集委員会法令分科会

287 兵庫県の都市景観の形成等に関する条例の改正

兵庫県は、県民の景観に対する関心の高まりに対応し、昭和60年３月に都市景観の形成等に関する条例を制定して、良好な都市景観の形成に取り組んできた。

しかし、近年、都市と農村の交流が活発化する中で、その良さが認識されつつある農山漁村集落の保全、リゾート開発の活発化に対する自然景観の保全、周囲の自然等と調和しない大規模建築物等に対する積極的な指導等、を求める社会的状況が生じてきている。

このような現況を考慮し、都市景観という枠にとらわれることなく全県的に景観施策を展開し、良好な集落景観や風景の形成、大規模建築物等の指導強化等を図るため、都市景観の形成等に関する条例を改正し、景観の形成等に関する条例として、平成５年10月１日から施行している。

改正後の条例の内容

(1) 創造し、または保全すべき景観の範囲の拡大（題名、第１条および第２条関係）

創造し、または保全すべき景観の範囲を拡大し、その対象を、優れた都市の景観から県下全域の優れた景観とする。

(2) 定義（第２条関係）

景観の形成のうち、広がりのある優れた景観の創造または保全を「風景の形成」として新たに定義する。

(3) 県の責務（第３条関係）

●県は、景観の形成等に関する基本的かつ総合的な施策の策定並びに実施を行い、市町が実施する景観の形成等に関する施策および県民または事業者が行う自主的な景観の形成等に関する活動を支援し、かつ、その総合調整を図るものとする。

●県は、公共の用に供する建築物等の景観に及ぼす影響が大きいことを認識し、自ら率先して景観の形成等を図るものとする。

(4) 市町の責務（第４条関係）

市町は、その地域の景観の形成等に関する施策の策定並びに実施を行い、県が実施する景観の形成等に関する施策に協力するものとする。

(5) 県民の責務（第５条関係）

県民は、自己の建築物等が地域の景観に深いかかわりを持つことを認識し、自ら進んで景観の形成等に努めるとともに、県および市町が実施する景観の形成等に関する施策に協力するものとする。

(6) 事業者の責務（第６条関係）

事業者は、その事業の用に供する建築物等の景観に及ぼす影響が大きいことを認識し、その責任において景観の形成等を図るために必要な措置を講ずるとともに、県および市町が実施する景観の形成等のための施策に協力するものとする。

(7) 景観形成地区（第８条および第11条関係）

●景観形成地区として知事が指定できる区域を、次のとおりとする。

・地域を代表し、またはその地域の特徴を表している区域

・伝統的な建造物または集落が周辺の環境と一体をなしている区域

・住宅街等で良好な環境を有する区域

・新都市の建設、都市の再開発等により新たに地域が整備される区域

●景観形成地区内において、景観に及ぼす影響の大きい大規模建築物等の建築等を行う者に対し、届出等の前に、景観に及ぼす影響に関する協議を義務づけるとともに、知事は、協議があった場合において、必要があると認めるときは、協議した者に対し、その建築等が景観に及ぼす影響に関する調査、予測または評価を行うことを求めることができるものとする。

(8) 風景形成地域（第15条～第21条関係）

●新たに風景形成地域を知事が指定することとし、指定することができる地域を次のとおりとする。

・良好な自然の風景を有する地域

・良好な田園風景を有する地域

・歴史的または文化的な風景を有する地域

●知事は、風景形成地域を指定しようとするときは、風景の特性等について定めた風景形成基準を定めるものとする。

●風景形式地域内において、次の行為をしようとする者は、その内容を知事に届け出なければならないものとする。

・大規模建築物等の新築等

・大規模建築物等の大規模な修繕等

●風景形式地域内において、風景に及ぼす影響の大きい大規模建築物等の建築等を行う者に対し、屈出等の前に、風景に及ぼす影響に関する協議を義務づけるとともに、知事は、協議があった場合において、必要があると認めるときは、協議した者に対し、その建築等が風景に及ぼす影響に関する調査、予測または評価を行うことを求めることができるものとする。

●　事は、届出があった場合に、届出に係る建築等の行為が風景形成基準に適合しないと認めるときは、届出をした者に対し、必要な指導または助言をすることができるものとする。

●知事は、風景形成地域内において、大規模建築物等が風景形成基準に著しく適合しないと認めるときは、大規模建築物等の所有者等に対し、必要な要請をすることができるものとする。

●風景形成地域内において、国等が行う大規模建築物等の建築等については、届出を要せず、通知をもって足りるものとする。

(9) 大規模建築物等（第22条および第24条関係）

●景観形成地区または風景形成地域以外の地域における大規模建築物等に係る大規模建築物等指導基準の項目として、これまでの意匠および色彩に、新たに敷地内の位置、規模および材料を加える。

●景観形成地区または風景形成地域以外の地域内において、景観に及ぼす影響の大きい大規模建築物等の建築等を行う者に対し、届出等の前に、景観に及ぼす影響に関する協議を義務づけるとともに、知事は、協議があった場合において必要があると認めるときは、協議した者に対し、その建築等が景観に及ぼす影響に関する調査または予測を行うことを求めることができるものとする。

(10) 景観形成等住民協定（第28条および第29条関係）

●土地または建築物等の所有者等は、その土地または建築物等の存する地域内において一定の区域を定め、互いにその区域の景観の形成等に関する協定を締結し、規則で定めるところにより、知事に認定を申請することができるものとする。

知事は、認定の申請があった場合において、協定が規則で定める要件に該当すると認めるときは、その協定を景観形成等住民協定として認定し、その旨を公告するものとする。

●県は、知事の認定を受けた景観形成等住民協定に基づく景観の形成等に関する活動について、技術的な支援等を行うものとする。

(11) 他の制度の活用（第30条関係）

県および市町は、景観の形成を図るため、新たに都市計画法による住宅地高度利用地区計画、再開発地区計画、沿道整備計画および集落地区計画の制度を活用するものとする。

(12) 条例の適用除外（第31条関係）

●他の制度の活用を図る区域については、(7)から(9)までに係る規定は、適用しないものとする。

＊

すでに景観形成に関する市条例を施行している神戸市、姫路市、尼崎市、西宮市、伊丹市、赤穂市、宝塚市および川西市の区域についての、上記(7)から(9)までに係る規定の適用については、当分の間、適用しないこととしているので、留意されたい。

なお、条例の詳細な内容等については、パンフレットや関係規程集を作成しているので、ご参照願いたい。

依藤庸正 兵庫県都市住宅部都市政策課

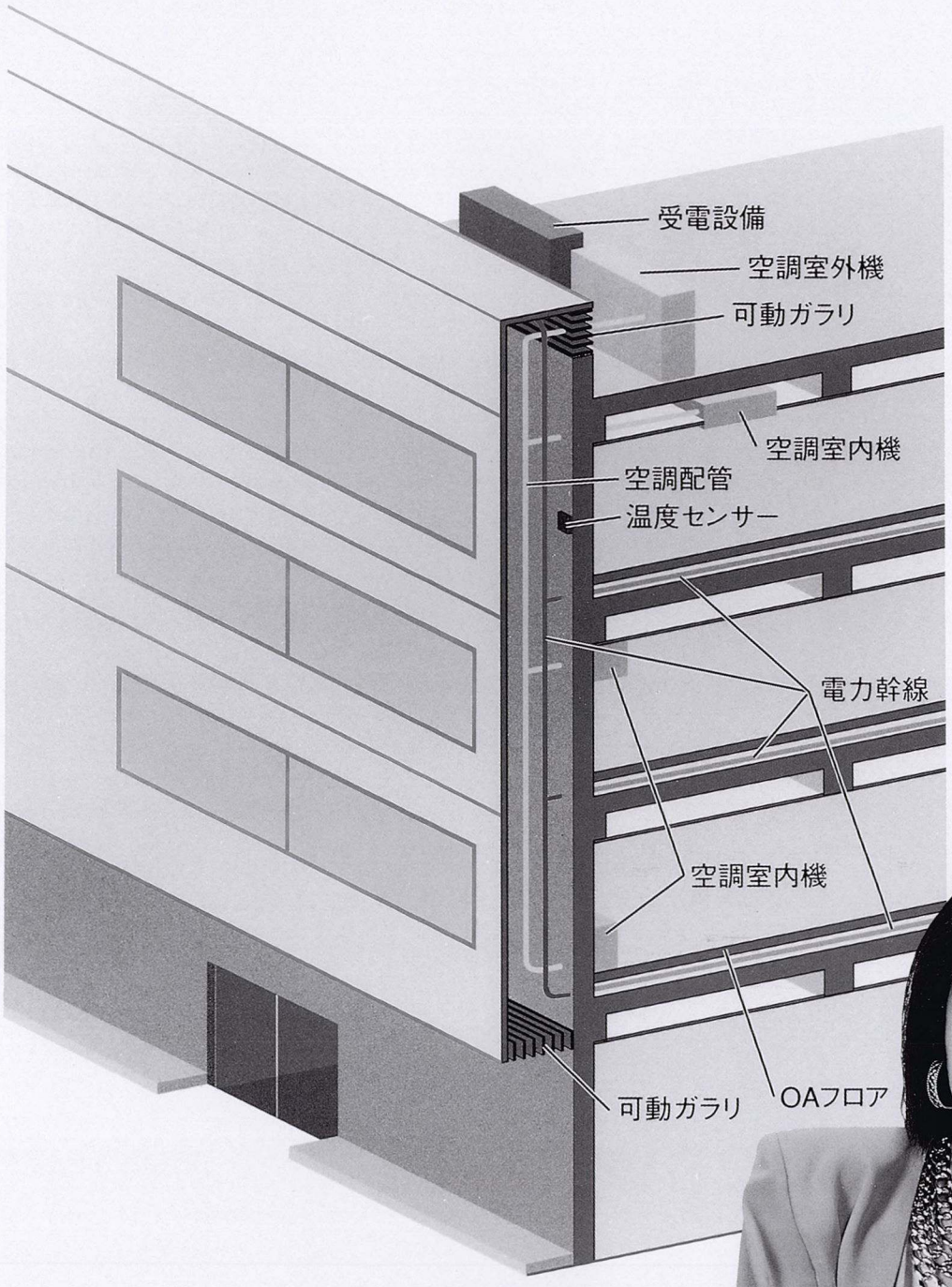
編集　注）条例のパンフレットや関係規程集を入手ご希望の方は、兵庫県都市政策課へご連絡下さい。

新しい時代の、新しい扉をひらきたい。

TOYO Shutter

ビルが呼吸を始めた……

ビルの省エネ対策、インテリジェント化を実現するビルファイン。





ビルファインは、温度センサーが働き、快適なビル環境を維持する省エネビル外装改修システム。春夏秋冬の気温にあわせ、内壁と新壁との空気の流れを調節し、ビル全体の省エネルギー化を実現します。また、電信電話や光ファイバー、電力幹線等の新設や増設に対応。インテリジェントビル化にも適応した次代のリファインシステムです。

東洋シヤッター株式会社

本　　社 〒540 大阪市中央区南新町1-2-10 TSビル ☎06(943)6571
東京本社 〒106 東京都港区六本木6-3-18 第一地所麻布ビル ☎03(3479)2911

新建材紹介コーナー
208

日本建築協会建材委員会

ビルの省エネ外装改修システム

BILLFINE

東洋シャッター株式会社
本　社　大阪市中央区南新町1-2-10(TSビル)〒540
TEL(06)943-6571
東京本社　東京都港区六本木6-3-18(第一地所麻布ビル)〒106
TEL(03)3479-2911

❶——はじめに

省エネルギーは地球環境問題への対応として国を挙げての課題であり、関係省庁は昨年の住宅省エネ基準につづいてビルの省エネ基準をも設けて、省エネルギーの一層の促進を図ろうとしています。

このビル外装改修システムは、従来のビル外壁の改装工事に生じる新旧外壁間の空間に着目し、これを単なるリファインだけではなく、そのダブルスキン構造をパッシブに利用して改修後のランニングコストの低減をめざした、大幅な省エネルギーを実現し、それをシステムとして取り入れた画期的な外装改修工法が特色です。

■省エネ効果で冷暖房負荷を大幅削減(15%程度)
■老朽ビルのインテリジェント化を可能
■自由なデザインでドレスアップ

❷——背景

OA化・インテリジェント化の要求が高まる中で、それに応えられない老朽化したビルが街に溢れています。ご高承のとおり、現在古いビルは次のような諸問題をかかえております。

①ビルの外観を美しくしたい。
②建て替えるのは無理だが、ローコストでビルの蘇生をはかりたい。
③ビル外壁のモルタルやタイルなどの落下の不安がある。

このような諸問題に応えて、老朽化したビルをリファインするカーテンウォール工法に、改修後のランニングコストの低減を図るため、新旧外壁間に生じた空間を利用して、省エネルギーを実現し、それをシステムとして取り入れたものが、この省エネ外装改修システムです。

また、このシステムは省エネシステムだけではなく、新旧外壁間に生じた空間を設備増強の配管スペースとして利用し

④ビルをインテリジェント化したいが、設備を増やすスペースがない。
⑤給排水設備が古く、設備を更新したいがそのスペースがない。

と言った状況に対応し、老朽化したビルをリファインします。

❸——概要

アルミパネルなどの新壁とビルの旧壁の空間にできる空気層をパッシブに利用して、ビルの省エネルギー効果を果たす機能を付加しシステム化したものです。

夏は、上下の可動ガラリを開放、ダブルスキン内に常に外部の新鮮な空気を取り入れ、ビルを冷やすとともに、新壁とシャッタープラインド等によって夏の日ざしを遮り冷房の負荷を助けます。(ペリメーターゾーンの省エネルギー量は、20～40%《方位によって変動》が期待できます。)

冬は、上下の可動ガラリを閉じて空気を閉じ込め、ビルを暖かい空気で包み暖房の負荷を助けます。(ペリメーターゾーンの省エネルギー量は10～20%《方位によって変動》が期待できます。)

また春と秋には、気温の変化に応じて室内に設けた温度センサーにより可動ガラリを開閉して、ビル内部を常に快適な温度に保つ働きをします。

❹——特徴

第1に、新壁と旧壁とのスペースを利用して温度センサーとガラリを連動させ、自然の空気の流れを生かしたダブルスキン効果により、冷暖房の負荷を軽減させるパッシブ型の省エネルギーシステムです。第2に、ビルの外観を美しくするとともに、ビルの機能を大幅にグレードアップさせ、インテリジェント化の促進と老朽化した設備のリファインを可能にし、かつ、旧外壁のモルタルやタイルなどの落下を防止しビルの安全性を高めます。

第3に、新壁のパネルの一部を広告媒体として利用ができます。またソーラーシステムの組み込みと言った多目的にも利用ができます。

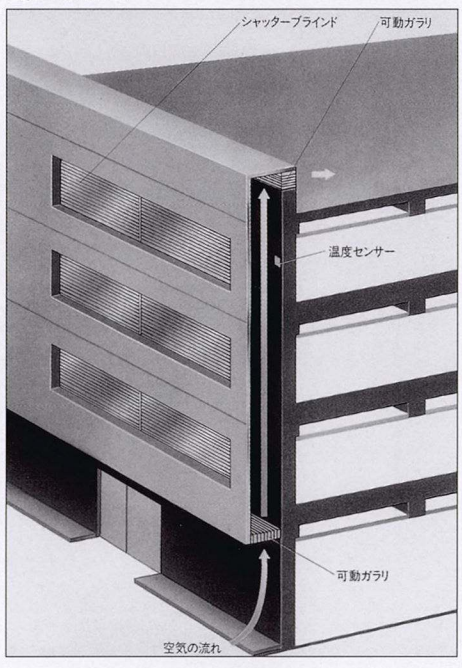
第4に、新壁のご設計は自由なデザインが可能で、存分にデザイナーの意図を活かし、かつお客様のご要望にお応えできます。

❺——今後の展開

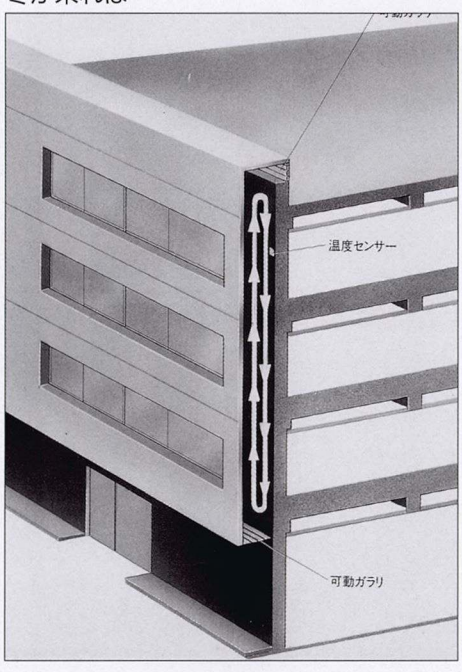
建築統計によると、建築年数が15年以上28年以内のもので5階建までの中低層ビルだけでも全国に140万棟以上あると言われております。外壁改修工事は関係省庁が低利融資や税制上の優遇制度を設けているほか、街並などの景観を構成する「景観材料」の普及を狙い関係諸団体を後援するなど、積極的な推進が図られており、安全で美しい都市づくりの観点からも老朽ビルのリファインの進展が期待されています。

■インテリジェント化の絵図については対抗ページの広告面をご参照ください。

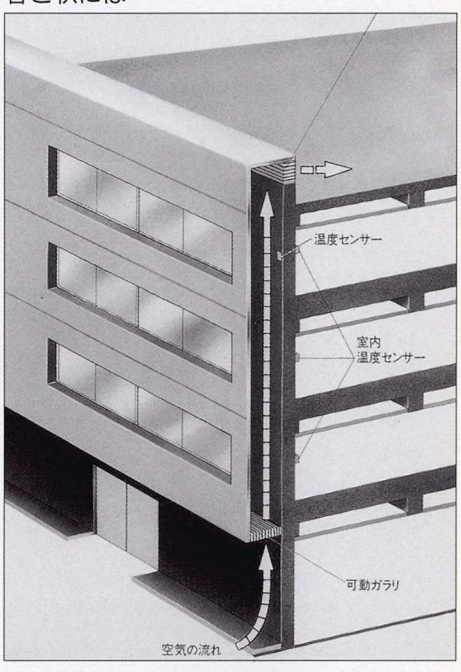
夏になると……



冬が来れば……



春と秋には……



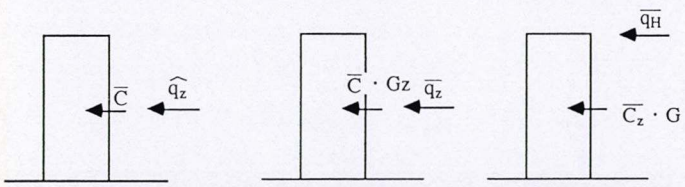
GBRC ニュース
GENERAL BUILDING RESEARCH CORPORATION OF JAPAN

財団法人 日本建築総合試験所
〒565 吹田市藤白台5-8-1
TEL.06-872-0391 FAX.06-872-0784
業務時間 9:00～17:15(土曜休業)

新荷重指針の外装材設計用風荷重と風洞実験

1993年6月、日本建築学会より建築物荷重指針・同解説が発刊された。当指針はより合理的な設計荷重を設計者に提供するもので、多くの最新の研究成果が盛り込まれている。ここでは、当指針に示されている外装材設計用風荷重を取り上げ、これに対応する風洞実験の例を紹介する。

風荷重は常に時間変動するので、設計対象物、この場合外装材は変動のピーク時の荷重に対して安全でなければならない。このピーク時の荷重の考え方を他の基準と比較してみると下図に示すとおりである。



a) 告示109号　b) 旧指針　c) 新指針

ここで、告示109号とは建築基準法に基づく建設省告示109号を、旧指針とは日本建築学会編建築物荷重指針・同解説1981年版、新指針とは今回改定の建築物荷重指針をさす。告示109号ではピークの速度圧$\hat{q}_z$に平均風圧係数$\overline{C}$を乗じてピーク荷重を算出する。このとき、$\hat{q}_z$(=120 4$\sqrt{z}$)は過去に記録された最大瞬間風速を元にして決められており、全国一律の値をとるために、所によっては過大な設計荷重となる。これに対し、旧指針では地域性を考慮した平均風速を元にした平均速度圧$\overline{q}_z$に平均風圧係数$\overline{C}$およびガスト影響係数Gzを乗じてピーク荷重を算出する。ガスト影響係数は瞬間最大風圧係数と平均風圧係数の比で、旧指針では風の乱れの程度から計算で求まるとした。

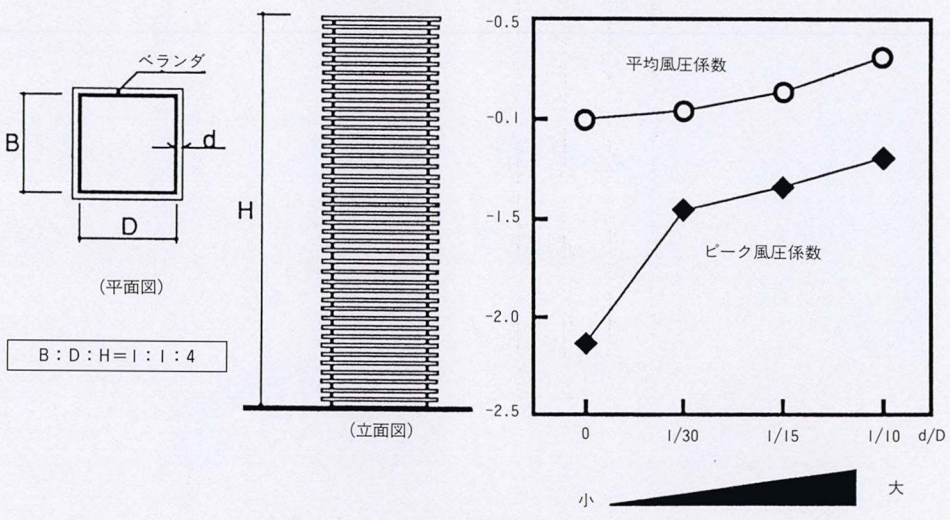
新指針が旧指針と大きく異なる点はガスト影響係数の与え方にある。つまり、風圧の変動は必ずしも、風の乱れの程度だけで決まるものではなく、側壁面などは建物自身から発生する渦の影響などを強く受ける。そこで、新指針ではガスト影響係数Gを風上面については旧指針と同じく風の乱れから求められるとしているが、側面や背面では風洞実験に基づいて設定したのである。また、旧指針では速度圧$\overline{q}_z$を高さ方向に分布させる代わりに、風圧係数は高さ方向に一定値$\overline{C}$をとることになっていたが、新指針では逆に速度圧を建物頂部高さでの一定値$\overline{q}_H$とし、風圧係数$\overline{C}_z$を高さ方向に変化させることとした。こうすることにより、荷重の分布が理解しやすくなる。さらに、旧指針では室内圧係数は$\overline{q}_z$に対して-0.2～0.2の値を設定することとしていたが、新指針では室内圧係数を建物頂部高さの速度圧に対して-0.4～0の値をとることとした。多くの閉鎖型建物では室内圧は負になることが知られたためである。

ある建物の外装材の風荷重を設定する場合、風洞実験によって風圧係数を決定する方法はより合理的な荷重を見積ることができる。建物形状が複雑であったり、近くに大きな建物がある場合など、実際の建物では風荷重を決定する要因が多く、すべてを告示や指針に盛り込めないからである。

風洞実験では通常1/200～1/500程度の縮小模型を用い、模型表面に開けた孔に加わる圧力をビニルチューブで圧力計に導いて電気信号に変換する。このとき、主にビニルチューブ内の空気溜まりがその容積に応じた固有振動数をもち、圧力変動に歪みを生じさせる。この歪みを何らかの方法で除去できれば建物表面に加わる圧力変動を正確に知ることができる。圧力変動が正確に測定できれば、ピーク荷重を知ることができる。新指針で定めたガスト影響係数の値はこのようにして行った風洞実験結果から決められた値である。

前に述べたように、実際の建物とその周囲の状況は非常に複雑で、限られた風洞実験から設計荷重を定めるためには安全率を大きく見込まなければならない。ともすれば過剰設計になってしまうことは否定できないであろう。日本建築総合試験所では、ピーク風圧係数を直接短期間で測定するシステムを作り、合理的な外装材設計用風荷重を設計者に提供している。合理的であるということは必ずしも荷重を小さく設定できるということではない。建物形状によっては、思わぬ部位で大きな荷重を設定しなければならない場合もある。今後、種々の実験のデータを公表していきたいと考えている。なお、ベランダなどが建物表面に凹凸を作る建物について荷重を低減できる例を示す。参考にしていただければ幸いである。

(耐風圧試験室　西村宏昭／主任研究員)



壁面の凹凸による側壁面風上部の風圧係数最大値の変化例

第39回 工高生デザインコンクール

設計課題／地域に建つスポーツ施設

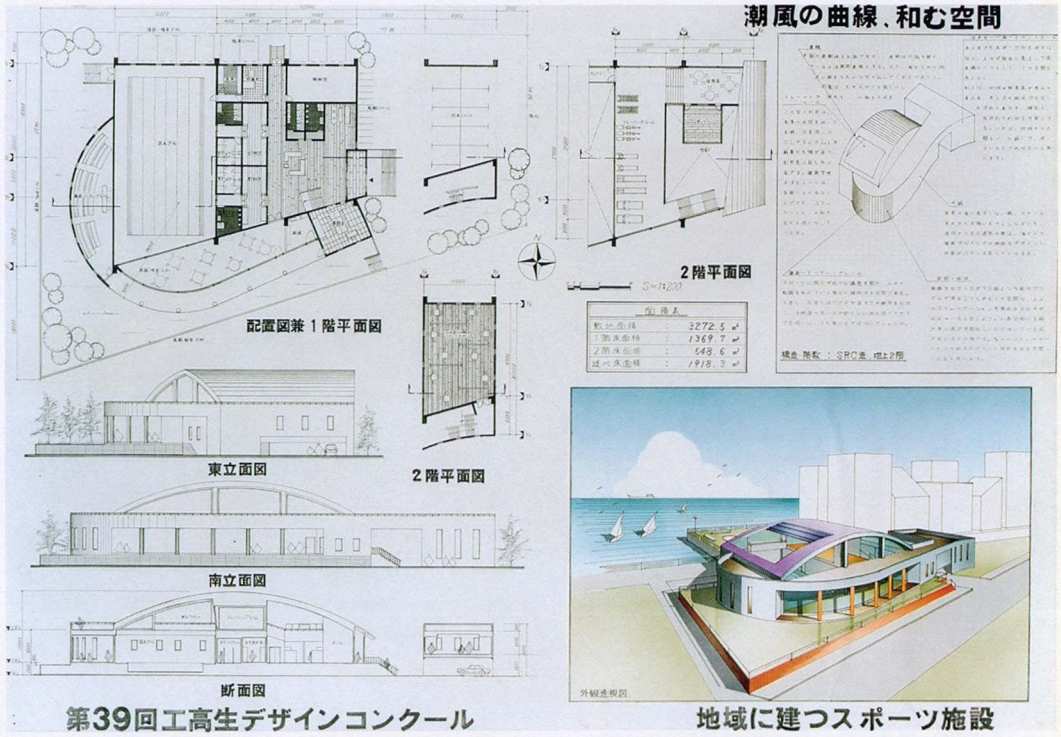
応募校数●20校　応募作品数●148点
締切日●平成5年9月24日　審査会●平成5年10月23日　表彰式●平成5年11月20日

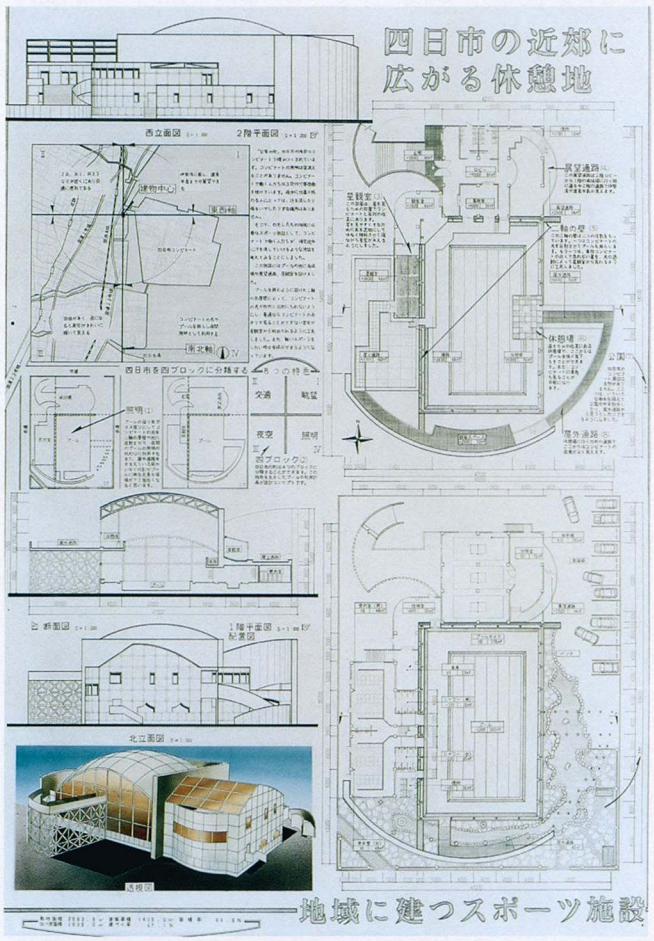
入選・最優秀賞

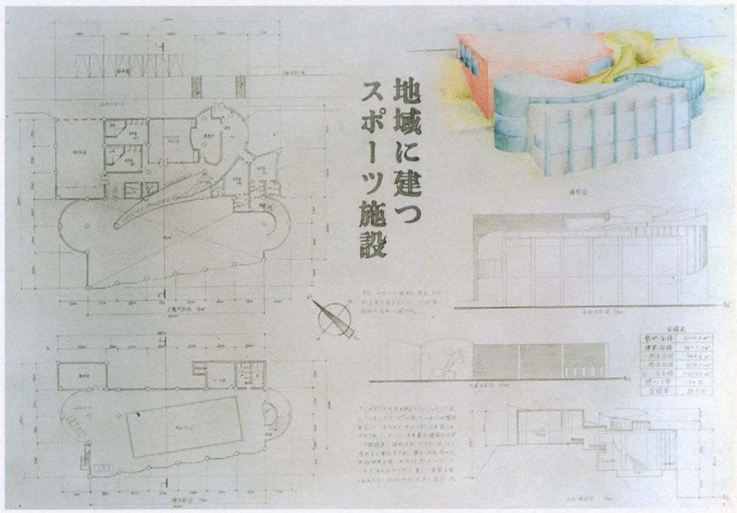
有坂幸恵

(群馬県立高崎工業高等学校3年)

もし、私の街に海があったら…、そんな思いを託して海辺の地域をイメージし、設計しました。
街の様子や海が一望でき、多目的に利用できる屋上広場や談話・喫茶スペースなど、人々のコミュニケーションを深めるための空間を設けました。この建物の屋根は開閉式とし、海からの心地よい風をプールサイドに吹き込み、気持ちよく泳げるプールを考えました。さらに、地域とのふれあいを考え、スポーツだけではなく、地域の特産物の展示会や各種催しなどのための「イベントホール」を設けました。
最優秀賞をいただき、本当に嬉しかったです。皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。







入選・優秀賞

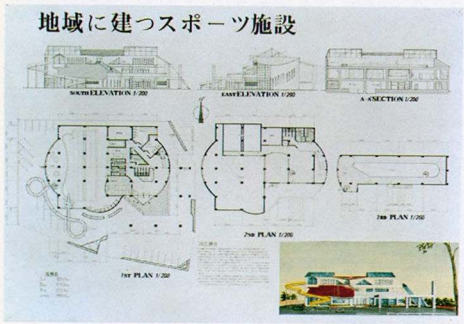
中村英樹

(大阪市立工芸高等学校3年)

このスポーツ施設を計画するにあたり、大阪の人々に身近な場所である淀川の自然の中で解放感を味わえ、夜でもすがすがしくスポーツを楽しめる空間を創ろうと考えました。外観は淀川の自然と調和させ、内部空間は運動しながら緑や夜空の星を眺められるようにしました。自分なりに考え、努力して書いた作品だったので、入選できて大変嬉しかったです。

入選・優秀賞　**加藤俊一**　(三重県立四日市工業高等学校2年)

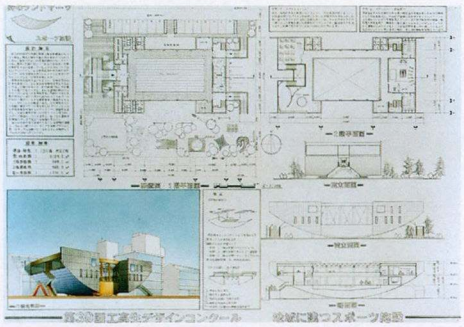
四日市はコンビナートが建ち並んでいて、コンビナートは休むことなく動いています。三交代で夜出勤する人たちは、普通の人とは反対の生活を送っているので、心も体も休まる所がありません。そこで、出勤する前や仕事帰りに寄っていけるような、夜間も利用できるスポーツ施設があればよいと考えました。
本校に入学して1年4カ月、今回のデザインコンクールで今まで学んだ力を試すために出品しました。建築科の先生や友達の応援で、この賞がとれたと思います。



入選　吉田昇司

（群馬県立桐生工業高等学校３年）

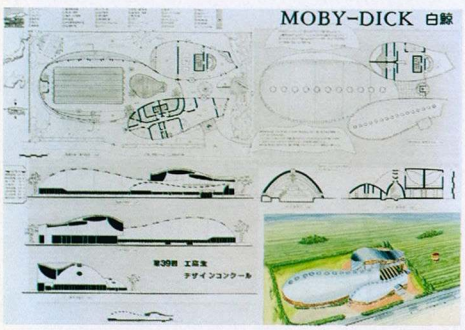
今回の作品のテーマとして、周辺地域と調和させることを第一に考えました。建物の特徴としては、「角」の数カ所に曲線を用いました。インパクトを与えるために屋外には、ウォータースライダーを付けました。屋内では一つの空間にまとめるために吹き抜けと階段を多く設けました。また、体の不自由な方や老人などのために、なるべく段差を設けずに休憩スペースを広く設け、ゆとりのある交流の場を計画しました。
時間がなくて細かい部分まで描くことが出来ませんでしたが、入選できて嬉しかったです。



入選　松本　進

（群馬県立高崎工業高等学校２年）

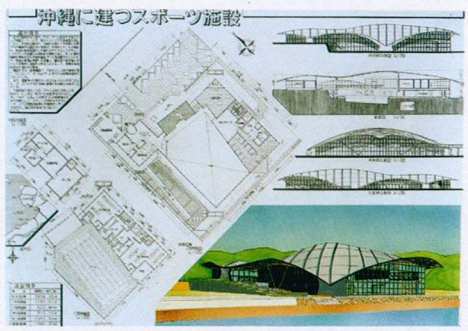
現代の都市の中で〝街のランドマーク〟になるようなスポーツ施設を計画しました。建物の中には、〝太陽の光が十分に降りそそぐメインプール〟と、トレーニングルーム、そして親子で楽しめるパソコンルーム、ギャラリーや談話室などを設けました。スポーツをする人ばかりでなく、スポーツの後の休憩に、スポーツはちょっと苦手という人にも、気軽に地域・家族のふれあいの場としての空間を考えました。
このようなすばらしいコンクールを催して下さった皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。



入選　小澤映里

（静岡県立静岡工業高等学校３年）

〝なだらかな丘陵地に広がる茶畑に、いつか大きな鯨が泳いだら〟という夢に今回の課題を重ね、そしてエイハブ船長の〝執念・モービー・ディック〟とピノキオが鯨に飲み込まれてしまった童話もダブらせて設計してみました。鯨の体内で泳ぐ人々は、胎内にいる赤子のようにユッタリと気の向くまま一日過ごせると同時に、ここを通り過ぎる地域の人々も豊かな想像と夢の世界に誘われることを期待します。
入選して今まで頑張ってきたかいがあったと思います。指導していただいた先生方、励ましてくれた父母、友達に心から感謝いたします。



入選　弘田　元

（大阪府立西野田工業高等学校３年）

最初に課題の「地域に建つスポーツ施設」を聞いたときにイメージしたのは、水泳＝夏を思い、日本で一番夏をイメージする沖縄を選びました。スポーツを考えていく中で、一度トライしてみたいスキューバーダイビングを思いつき、スキューバー用プールを取り入れた明るいスポーツ施設を試行錯誤していく中で、シェル状の屋根とカーテンウォールで建物を表現しました。これから卒業するまでの作品に力を入れ、将来の仕事につながるものを創っていきたいです。

課題の趣旨

近年、高齢化社会・余暇社会への対応、価値観の変化などによって健康管理に対する意識が高まってきたことから、スポーツが生活の中で占める位置が従来より一層身近になり、多くの人々がいろんな形で、参加するようになってきている。
そこで、健康とリフレッシュのために一汗流したり、スポーツを楽しむとともに、地域のコミュニケーションが生まれるようなスポーツ施設が求められている。
本課題のスポーツ施設は、温水プールを主とするが、トレーニングのためだけでなく、地域の新しいコミュニケーションに積極的に利用できるような魅力あるスペースの提案を期待する。

設計条件

敷　　地：3000㎡程度とする。
規　　模：延べ面積2000㎡以内。階数・構造は自由とする。
所 要 室：●温水プール／25m６コース程度とし、形は自由に変えてもよい。
［シャワールーム、更衣室、事務室、便所、洗面所、倉庫、機械室等の諸室］―面積適宜
●課題の趣旨に沿った新しい提案のためのスペースを設ける。
屋外施設：駐車場・駐輪場・植栽などの計画を適宜行う。

審査総評　　審査委員長　森本正一

課題はスポーツ施設であったが、「地域に建つ」とタイトルしたのは、前年度の総評で、建築における社会性や地域性の必要性が指摘されたことにもよる。スポーツ施設としての機能に加えて、この施設の建つ地域や、これを利用する人々、それらがどう読みとられ、どんな形や空間として生きているか、これが主題に対する応答として期待されるところであった。課題には「スペース」としているが、これは必ずしも機能的な空間であるとは限らないから、審査では、案の中にこれらがどう入っているか、いろんな視点から探っていった。また、これらのことは建築としての魅力の上に立ったものであるのは当然で、最終的な審査は、デザインコンクールとしての総合的な視点で行われた。
この地域性という本題の主旨に、ともに四日市コンビナート地域に対する提案で、直接的に対応した加藤案、萩原案は、確かな分析力や表現の完成度の高さで当初から注目を集めた。反面、行動のプログラムの硬さと、空間の自由度の欠如が指摘された。この点の僅差で加藤案が優秀案となった。一方、分析的でなく、堤防というシチュエーションをうまく利用して、形と空間の魅力を出した中村案が高い感性で評価されて優秀案となった。何人かの審査員からは特に高い評価があった。しかし、必ずしも完成度は高くない。この二つのやや対極的な視点が審査員一同を二分し、大いに悩ませた。結果、それぞれの視点では両者に譲るが、素直な表現とまとまりの良さで好感を得た有坂案が、総合力で最終的に過半の票を得て、最優秀案に選ばれた。
優秀案を争った他の案に、鎮守の森とつながるという外部空間が魅力的な中林・山下案がある。建物のデザインがもっと練られていればと残念である。吉次案は建物を沈めて地下中庭による別世界を創ったアイデアが評価されたが、これももう少しのデザイン力が要求された。弘田案、吉田案はともに完成度の高さで評価された。ただし前者は沖縄という点で、後者は形がややもの足りない。小澤案、松本案は形の魅力で入選をはたした。北海道庁風の高宮案、登呂遺跡風の槃木案は、地域性という意識と、案の完成度の高さで、当初多くの票を集めたが、審査が進むにつれ、あまりに直喩的な表現が欠点となり、入選を逸した。
高校生にとって、地域性を形に出すことは難問であったと思う。いろいろなとらえ方の地域性があって、審査も予想以上に難題であったが、それぞれの地域や場所に対する思い入れをみるのは楽しいことでもあった。これは年齢とともに濃くなってゆくものでもあろうから、実社会の中での建築には、この視点の大切なことを記憶にとどめておいてほしいと願っている。

●審査記録

9月24日　応募作品受理
10月7日　予備審査―応募作品について応募規定の点検（工高生教育小委員会）
規定不適合事項または記入もれのある作品
01／148
10月20日　事前審査―審査会欠席の審査員1名による。
10月21日　事前審査―審査会欠席の審査員1名による。
10月22日　事前審査―審査会欠席の審査員1名による。
10月23日　審査会――審査員10名
（審査時間13：40～18：20）

●審査経過

審査を開始するに当たり、予備審査の報告があり、応募条件を大きく逸脱した作品がないことから、審査方法・条件の内容を確認の上、審査に入る。

■1次（審査員10名、事前審査3名）
全応募作品について審査員1名が10点を選び投票する。当日欠席の審査員3名の事前審査の投票(30点)を加える。（審査時間　14：00～15：50）

得　票	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
作品数	1	2	2	2	2	0	1	3	6	2	12	115

※得票2以上の作品(21点)について、1次審査を通過したものとする。
※得票1以上の作品について検討し、審査員が強く推薦する作品1点を2次審査に加える。

■2次（審査員10名）
22作品について審査員1名が5点選び、投票する。
（審査時間　15：50～16：30）

得　票	6	5	4	3	2	1	0
作品数	4	1	1	2	4	3	7

※得票0について検討。引き続き審査対象となる作品はなく、得票1以上の15点を、2次審査を通過したものとする。

■3次（審査員10名）
2次審査において得票1の3作品について議論。検討の結果、1点を残し、13点について入選作品の審査を行った。得票数を参考に各作品を検討し、7点を入選とし、残り6点より入選案3点を選出するために審査員1名が3点を選び、投票する。
（審査時間　16：30～17：05）

得　票	9	8	3	1	0
作品数	2	1	1	1	1

※高得点の3点が、3次審査（入選案10点が決定）を通過した。

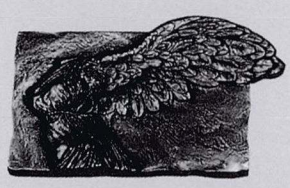
■4次（審査員10名）
入選案10点を議論。最優秀1点、優秀作品2点を選ぶ議論にのせるのに5点を選ぶこととなる。審査員1名が3点を選び、投票する。（審査時間　17：05～17：35）

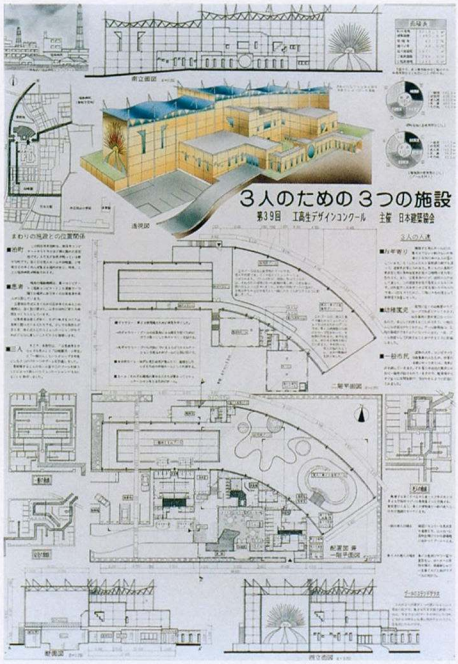
得　票	6	5	4	3	2	1
作品数	1	1	1	4	1	1

※得票3以上の7点を討議し、得票3の4点より2点を選び、高得点の3点に加え、5点を4次審査を通過したものとする。

■5次（審査員10名）
上記5点を討議し、審査員1名が3点を選び、最優秀案に◯印をつけ投票する。優秀案1点は決まるが上位2点の得票、◯印とも接近しているため、決戦投票の結果、最優秀案を決め、審査会を終了する。（審査時間17：35～18：20）

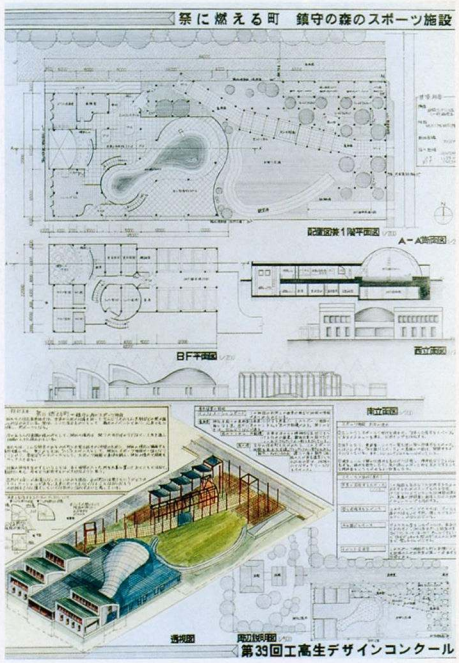
入選賞牌
賞牌の原案は、サモトラケで発見された「ニケの像」をモチーフとしたものです。





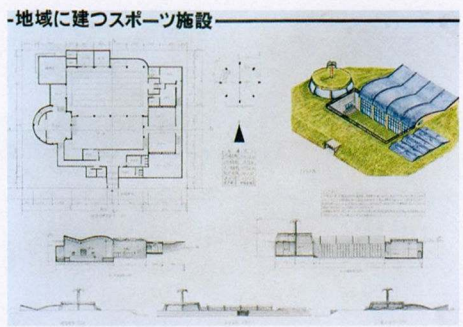
入選　萩原幸子
（三重県立四日市工業高等学校2年）

3人（障害を持った老人、幼児、大人）がそれぞれの目的を達成しながら、一方で、コミュニケーションのとれるプールがあったらいいなと思い、制作にあたりました。スポーツ施設は、大人のものというイメージがあるので、それを感じさせない、誰でも気軽に入れるようなイメージづくりをしました。内部は、緑のある自然空間をつくり出すため、中庭を設けました。全体として明るく、心が休まるように計画しました。
部活動もやりながらで、忙しく充実した毎日でした。今しかチャレンジできないコンクールで入選できたことを誇りに思います。来年もぜひ参加し、上位入賞をねらいたいです。



入選　中林昭次・山下崇博（共同制作）
（堺市立工業高等学校2年・2年）

特徴のある地域性を考えていく上で思い浮かんだことは、ぼくたちの住んでいる地域にはだんじりという、街が一つになる祭があるということだった。地域のコミュニケーションということを考えると、これが一番で、スポーツ施設と結びつけることで日常的な利用ができると考えました。人々が気軽に立ち寄って、隣接する神社の空間も取り込んで、おばあちゃんのような鎮守の森の中にスポーツする空間ができれば、楽しいのではないかと考えました。
最後まで見捨てず厳しく指導してくださった建築科の先生に感謝する思いです。



入選　吉次隆史（大阪市立工芸高等学校3年）

まず、僕がこの作品を制作するにあたって考えたことは、人がたくさん集まりコミュニケーションができる自然の豊かな公園で、水泳などの軽いスポーツができるとよいということでした。
公園は広い芝生がひろがっていて、環境を壊さないように低層の建物にして、周りの環境に馴染ませました。芝生という広い海の上に浮かぶ島をイメージしています。
授業の課題として描いたもので、自分が入選するなんて思ってもいませんでした。自分もやれば出来るということがわかり、大変嬉しいです。

上記入選者の感想文は、誌面の関係上、委員会にて要約の上掲載しました。（文責・小久保到／教育委員会）

所要図面

配置図兼　：縮尺1：200
1階平面図
各階平面図：縮尺1：200
立　面　図：縮尺1：200（2面以上）
断　面　図：縮尺1：200（1面以上）
透　視　図：設計意図を表すところ。着色仕上げ。
設計説明：設計趣旨（立地についての説明を含む）および建築概要（敷地面積、建物の構造・階数および床面積など）を簡明に示す。
そ　の　他：平面図・断面図には室名・主要寸法を記入する。
その他必要と思われる図面を描いてもよい。

審査員（50音順・敬称略）

森本　正一（㈱浦辺設計副所長）―委員長―
石川　康介（近畿大学理工学部建築学科助教授）
北浦かほる（大阪市立大学生活科学部生活環境学科助教授）
北村　陸夫（ズーム計画工房代表）
久保　清一（大阪芸術大学芸術学部建築学科助教授）
塘　伸夫（㈱東畑建築事務所設計部長）
遠松　展弘（㈱日建設計設計部長）
本多　友常（㈱竹中工務店大阪本店設計部設計課長）
増井　正哉（奈良女子大学生活環境学部人間環境学科助教授）
三谷　幸司（㈱大林組本店建築設計第3部部長）
森田　晴美（鹿島建設㈱大阪支店建築設計部副部長）
横尾　迪夫（㈱安井建築設計事務所専門部長）
吉羽　逸郎（㈱アイ・エフ建築設計研究所所長）
若林　広幸（若林広幸建築研究所主宰）

建築の眼

職人の技と現代建築

京都で仕事をしていると、建築にかかわる伝統的な技に関する話を聞くことが多い。ところで現代建築として新しく建つ建物は、「伝統的」という言葉を冠せる分野のそれを一部に持つという状況になっている。「伝統的」という一つの分野の建物の存在をそれは示している。現代建築の中のある割合を、しかも多くない割合で存在するものとして、「伝統的」なものがあるのである。しかし、「技」についていえばそうではないと考えたい。伝統的な技は、現代に確かに生きていると思えるのである。

近代の建物が伝統の中に無い新しい技術を求めたから、一つの建物の中で伝統的技に繋がるものは全体の何分の一かであることは確かである。伝統的な技が一つの建物の中で部分として生きているというのが正確であるだろう。しかし建築の部分には全体にとっての重要さにおいて差がある。部分にしか関係しない伝統的技がその建物全体の中で重要な意味を担うとすれば、その建物を決定づけるものとなるはずである。しかも「技」とは部分を繋ぎ部分相互の関係を作りだすものであるから、伝統的か新素材かにかかわらず、技の精神は伝統の言葉を超えて存在する。この部分総合の技の精神を学ぶには、伝統的建造物が良い教材となる。

河邊　聡　京都工芸繊維大学教授

ダウンサイジング

先日、松下電器技術館を訪ね、製品の数々を見学する機会があったが、とりわけ半導体の高集積化、超々SLIの実物を目のあたりにし、その驚異的極微技術に今更乍ら感嘆した次第である。

那野比古氏（科学技術ジャーナリスト・ペンネームのナノは10億分の１、ピコは１兆分の１）の「マイクロマシン(講談社新書)」によれば、半導体製作と共に進歩してきた先進技術により、一昔前の映画「ミクロの決死圏」さながらの医療用マイクロロボットや、産業用マイクロマシンの量産が夢でなくなる日も近い様である。特に興味深かったのは、我々の生血を吸うあの微小な蚊をマイクロマシンにみたてての件りである。先ず獲物を探すためのCO_2センサーと体温を感知する赤外線センサー、汗を感知する乳酸センサー、人の血流を感知する超微小の音波センサー、二重パイプ構造の口吻、血漿を感知するセンサー、血液を吸い上げる微細なポンプ（特にミクロの世界では粘性が凄い）、溶血剤を注入するポンプ（これが掻ゆみの原因）、自衛の為の気圧センサー等、これらの超高度の機能をマイクロマシンとして、超極微技術により人工的に作るのが夢である、とある。

季節外れではあるが、以来蚊に刺されるたびに複雑な想いである。次世代の産業構造、建築を含めて人類を取り巻く環境は、その折どう変貌しているのであろうか。

山下　勝　双星設計代表取締役社長

生活空間雑感

北浜界隈にかなり古くから「生活空間」と言う居酒屋があって、屋号のモダンさに比べて、古くて、狭くて、安くて、そしてサラリーマン諸氏の安らぎ処として賑わっていたので印象に残っていた。

平成６年度、国の予算編成の基本方針の一つに住宅・社会資本の整備があり、その第１に快適で質の高い「生活空間」づくりを主要な課題とし、「生活空間」先進国の実現に向けた建設行政の新たな展開を図る事としている。

この言葉が、後者の「ゆとりとうるおいのある生活空間」と前者の「狭いながらも安らぎのある空間」との対比をイメージさせた。

経済大国から生活大国への方向転換、我々に取っては誠に有り難い話であるが、新しい升にふるい酒を盛ったと言った感じがする。住生活の整備は、大都市圏を見る限り未だしと言わざるを得ない。国民的課題として地方自治体も頑張らなくてはならないが、政府の施策方針があってのこと。大都市の民は、住宅に就いては実に我慢強い。子供の頃に聞いた歌のフレイズ「狭いながらも楽しいわが家」を連想する。しかし本府の生活意識に関する世論調査では、20代、30代の方々が住宅・住環境の整備を第一に期待している。住宅の問題は端的に言って「狭さからの脱出」である。住宅元年と言えるような思い切った住宅投資が望まれる。

笹川敏昌　大阪府建築部副理事

オリジナル―模倣から昇華へ

その時私は、スウェーデン・ストックホルム市庁舎の〝青の間（ま）〟に居た。北欧の研究所施設を訪ねる旅の、休息の一日だった。

支庁舎はメーラレン湖畔に立つ。正面入口から入った中庭を囲む四面の意匠はそれぞれ異なり、その趣きを味わううち、いつしか意識はロジアの柱列に垣間見えるメーラレン湖と、対岸に引き込まれていく。不思議な感情操作を覚えながら右手の階段を上がり、エントランスを抜けたところが〝青の間〟である。その名前の由来を知らずとも何となくそれが分かるような、そしてスケールやディテールで語ることを忘れさせる空間が、訪れる人を包む。

ギリシャからローマ、中世、ルネッサンス、バロックまで、この建物にはさまざまな建築からの引用がある。参考とされたオリジナルが存在し、初期のイメージはその模倣で構築された。しかしそれは、20年にわたる設計において創意と精神が塗り込められ、新たなオリジナルへと昇華した。

現代これほどの設計期間は望むべくもないが、新たなオリジナル創りへの熱情と執着心は、持ち続けたいものである。

藤崎安弘　奥村組建築設計部長

キッチュとオーセンティックのはざまで

コピー文化の新時代



SSAWS

総論　複製技術時代における建築／片木　篤
各論　それでも本物にこだわる建築材料／小西敏正
各論　私の空間作法―素材の新しい使い方
瀧月夜の家・東京竹葉亭／出江　寛
ホテル川久／永田祐三
ALPHA BLANCA ST／池上俊郎
KIM HOUSE／岸　和郎
NEXT21―303住戸／シーラカンス
ファンハウス／大江　匡
各論　本物を再現する建築の試み
ららぽーとスキードーム〝ザウス〟／KAJIMA DESIGN、NKK
オーシャンドーム／三菱重工業神戸造船所
高田城三重櫓／構造計画研究所
レポート　街にあふれるコピー文化／編集委員
復原建築・建築材料・看板・人形・コピー食品・食品サンプル・模型・美術品・擬似自然・装飾品・ものまね
エッセー　法律家の眼でみたコピー文化―合法と違法の境目／桑森ひとみ
エピローグ　コピー文化の新時代をみつめて／吉村英祐

合同分科会編集委員　吉村英祐・石山道男・福田由利・横関真紀・江副敏史・増田邦子

複製技術時代における建築

片木 篤

1．これはパセリである

一枚の写真（図1）を手掛りにして、複製（copy）について考えていこう。恐らく、全国津々浦々のスーパーマーケットで売られているだろう惣菜、黄金イカのパッケージがある。白い生イカと黄色い魚卵とをまぶした菜が、発泡スチロールのパッケージに盛られており、その傍らに青々としたパセリが彩りを添えているように見える。が、じっと眼を凝らして見たり、菜を食べ終わって見ると、そのパセリは本物ではなく、パセリの写真をパッケージに印刷したものであることに気付くだろう。元々、パセリは野菜として食に供されるものであるが、専ら主菜がおいしく見えるように緑の彩りを添えるものとして、あるいは菜と菜との間を仕切るものとして用いられている。つまり、自ら菜であるにもかかわらず、他の菜を引き立てる視覚的添加物として用いられているのである。パセリが既に視覚的添加物に還元されているのであるならば、本物の視覚的特徴だけを抽出した複製が作られるのは、蓋し当然のことといわねばならない。

このパセリの複製は、本物のパセリの形態や色彩といった視覚的特徴だけが抽出されたものであり、しかも本物のパセリの3次元の量塊が、写真と印刷とを通じて、パッケージ内側の2次元の面に写し取られたものである。複製技術は、「もの」のもつ臭い、味、舌触りを全て、見かけに肩代わりさせて、即ち様々な感覚を通じて得られる「もの」の特徴を視覚的特徴にからめ取ってきて見せる。それに慣らされた眼は、「もの」を視覚的特徴―ベルグソンの言う「イメージ」―に還元して見るようになる。更には、サランラップという透明の被膜の介在によって、「もの」の嗅覚、味覚、触覚的特徴が実質的に感じ得ないとなれば、「もの」はなおさら「イメージ」だけで評価されるようになる。このパセリの複製こそ、「イメージ」としての「もの」の典型例だろう。

しかもここでは、パセリの「イメージ」がパッケージ面に印刷されている点で、ビニール製の葉蘭と大きく異なっている。ここではパセリの「イメージ」が「もの」の痕跡として残されるだけであるのに対し、ビニール製の葉蘭は、素材こそビニールに置換されているものの、まだ菜と菜とを仕切る「もの」として存在しているからである。また、パセリが印刷されたパッケージは、杉の皮が印刷されたパッケージとも違っている。前者では、パッケージの上にそれとは別の「もの」の視覚情報が刷られているのに対し、後者では、パッケージその「もの」について、実際とは別の素材の視覚情報が刷り込まれているからである。換言すると、前者のパッケージが、別の「もの」の「イメージ」を包含する画面となっているのに対し、後者のパッケージは、自身の「もの」の「イメージ」を置換しただけの面に止まっていると言えよう。こうした様々な複製を組み合わせた例が、アジの開きのパッケージ（図2）であって、そのパッケージには杉の皮と杉の葉とが印刷されるばかりか、ビニール製の葉蘭までもが添えられているのである。

こうしてパセリという「もの」の「イメージ」を包含する画面と化したパッケージを考える際、ミッシェル・フーコーの『これはパイプではない』(1973年)が役立つだろう。フーコーによると、西洋



図1　黄金イカのパッケージ



図2　アジの開きのパッケージ

の絵では「イメージ」が「もの」に類似していることと「テキスト」が「そのものである」と肯定することが等価であったのに対し、ルネ・マグリットの「二つの謎」(1966年、図3)という絵では、パイプの「イメージ」について「これはパイプではない」という「テキスト」が添えられており、「イメージ」と「テキスト」との間に不等価性が打ち立てられている。その結果、従来の絵では「イメージ」が「もの」をモデルにした類似的表象であったのに対し、マグリットの絵では「イメージ」自体が「もの」となって相似的反復を繰り返すことになる。フーコーの論法を敷衍すると、パセリの写真が印刷されたパッケージは、その「イメージ」に「テキスト」が忍び寄って、「これはパセリである」と肯定しているのである。かくして、写真、印刷、複写等によって複製された「イメージ」は、暗々裡に「テキスト」にからめ取られてしまう。逆に、マグリットと同様その事態を批評したのが、アンディ・ウォーホールの「キャンベル・スープ鑵100箇」(1962年)であって、それはフーコーの言う「模像の循環」、ジャック・デリダの言う「オリジナルなきコピー」の例示となっているのである。

2.「のようなもの」としての建築

「テキスト」にからめ取られた「イメージ」、言葉に従属する造形とは、「のようなもの」と言明されるような類似的表象のことである。例えばラブホテルでは、ヨーロッパの城郭の視覚的特徴—ヤコブソンの言う「弁別特性」—である円筒形の隅櫓や円錐形の屋根が模倣されて、ヨーロッパの城郭「のようなもの」が形造られており、ヨーロッパの地名を冠した名称がその類似を肯定している。そして、そこで男は白馬にまたがった王子に、女はその王子に救い出される王妃に自らを見立てて、騎士物語に出てくる恋愛を模擬する。逆に言うと、絵本に描かれていた王子と王妃の恋愛を模擬するのに相応しいように、ラブホテルがヨーロッパの城郭「のようなもの」として造形される(図4)。あるいはまた、王子と王妃の結婚式を模擬するに相応しいように、結婚式場がヨーロッパの中世教会の塔「のようなもの」と近世宮殿「のようなもの」とを組み合せて建てられたり(図5)、「赤毛のアン」や「若草物語」等の少女小説に描かれた古きアメリカの生活を模擬するに相応しいように、ペンションがコロニアル様式の住宅「のようなもの」として建てられたりする。果ては、日常的な生活の場である住宅が、レジャーという非日常的な生活の場であるペンションを原型として形造られ(図6)、そこでペンションにおける古きアメリカの生活の模擬が模擬されることになる。

こうした類似的表象としての建築は、ルートヴィッヒ2世のノイシュヴァンシュタイン城に代表されるようなロマンティシズムの標題建築の商業化された末裔であり、それを、お望みならばキッチュ(kitche)と呼んでよい。それを見る人は、模像から原型へ、原型から物語へといわば数珠つなぎに思い浮べることができ、逆に、人に物語を想起させるように、原型の模像が作られている。それこそが、H.ローゼンバーグのキッチュの定義—「キッチュは、芸術における規範がそれぞれの芸術家によって疑問にされる、まさにその時に、制度化された規範に追随する芸術である」—に相当するからである。

反対に磯崎新のつくばセンタービル(1983年)では、ミケランジ

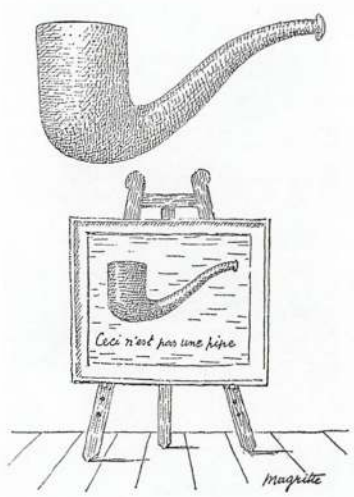


図3 「二つの謎」ルネ・マグリット画 1966年



図4 ホテルケルン


図5 宇都宮玉姫殿

ェロのカンピドリオ広場が反語（irony）的に引喩（allusion）されており、模像と原型との距離―クリステヴァの言う「間テキスト性」―が対象化されている。が、それが国家権力という物語のパロディ（parody）として読み取られたかどうかは定かではない。このように引用（quotation）においては、模像と原型との類似から差異性が読み取られるのか、同一性が読み取られるのかで、ハイアートとキッチュとが区分されるだけであって、たとえ前者の場合であったとしても、制度化された規範を侵犯していること自体が、その制度化された規範を強化することにつながってしまうのである。

3．情報化される被膜

「のようなもの」は、建築のエクステリアばかりでなくインテリアにも及んでいる。巷に溢れているインテリア雑誌に紹介された例を拾ってみると、木製の床と白い壁に囲まれた中に、黒い家具が配されたカフェバー「のようなもの」―「都会風」の部屋があるかと思えば（図7）、花柄のファブリックの中に、白木の家具が配されたペンション「のようなもの」―「田舎風」の部屋がある（図8）。あるいは、海と空の絵が描かれた襖、海を思わせる青い絨毯の中に、観葉植物とイミテーション・グリーンが飾られるとともに、ビーチ・チェアまでが置かれた海浜リゾート「のようなもの」―「南洋風」の部屋があるかと思えば（図9）、ピンクのフリルの付いたファブリックに覆われた中に、ミッキーマウスのアップリケや人形が配されたディズニーランド「のようなもの」―「おとぎの国風」の部屋がある。（図10）

このような個室のインテリアでは、カフェバー、ペンション、海浜リゾート、ディズニーランドといった現実にあるレジャー施設が模倣されているが、模倣されているレジャー施設も元を質せば、小説、漫画、映画、テレビ等の情報メディアで描写されていた施設の模倣であった。情報メディアの中の虚構の生活が現実のレジャー施設において模擬され、更にその非日常的な生活の模擬が、日常の生活において模擬される。模擬の循環の果てに、虚構―現実、非日常（ハレ）―日常（ケ）が逆倒されることになる。

また、このような個室が集合したワンルームマンション全体が、ディズニーランドの模像であると言い直すこともできる。何故なら「都会風」がワールドバザールに、「田舎風」がフロンティアランドに、「南洋風」がアドベンチャーランドに、「おとぎの国風」がファンタジーランドにそれぞれ対応しており、それに「宇宙風」―トゥモローランドを加えたものが、ディズニーランドであったからである。ディズニーランドは、全ての情報メディアで描かれた虚構を時間・空間別に分類し、それらを現実の3次元空間に写し取った全歴史・全世界の模像であって、そこでの現実の経験はノスタルジアに彩られた虚構の模擬と化す。そして、その模擬をもう一度模擬する場として、ワンルームマンションの個室が形造られているのである。

個室のインテリアが、ひとえに壁紙、絨毯、カーテン、敷布等のファブリックと家具との視覚的特徴によって分類されていた所を見ると、それがファブリックという薄い被膜によってすっぽりと囲い込まれた繭状の空間であることが了解される。人は、巨大化して表裏をひっくり返した衣服によって包まれていると言うべきだろうか。



図6　三井ホーム「エリー」



図7　「私の部屋づくり」1989年



図8　「ティーンの部屋」24号

あるいはまた、花にせよ、海にせよ、ミッキーマウスにせよ、別の「もの」の「イメージ」が鮮やかに表象されたその被膜は、パセリの写真が印刷されたパッケージと同じであって、人は黄金イカと同様にして、情報化された被膜でパッケージされていると言うべきだろうか。しかも、情報化された被膜は、年毎、季節毎に交換され得るし、また夜にブラックライトを点けると昼とは違う装飾模様が浮かび上がるインテリア（図11）のように、一日の昼と夜とで情報が交互に入れ換えられる極端な場合すら見受けられるのである。

かつてヴァルター・ベンヤミンは『複製技術時代における芸術作品』（1936年）の中で「複製技術のすすんだ時代のなかでほろびてゆくものは芸術作品のもつアウラである」ことを喝破した。彼の言うアウラとは「オリジナルの『いま』『ここに』しかないという性格によってつくられる」ものであったが、現代の情報メディアは、そのアウラを喪失するだけに止まらず、人に「いま」「ここに」いないという幻影を絶えず変化させながら与え続ける、即ちアウラ「のようなもの」を際限なく捏造しては押しつけてきている。「いま」「ここに」あるという一回性を「いま」「ここに」ないという反復性に反転することに加え、そのアウラ「のようなもの」は、薄い被膜となって、個人を包み込んでは自閉させ、相互のコミュニケーションを遮断してしまうのである。そうした事態への対応が、今、建築家に求められているのではなかろうか。

（かたぎ　あつし／建築家・名古屋大学工学部建築学科講師）



図9　「ひとり暮らしの生活マニュアル」1988年

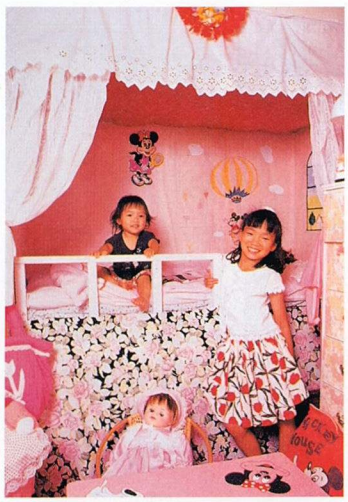


図10　「わたしの子供部屋」1989年

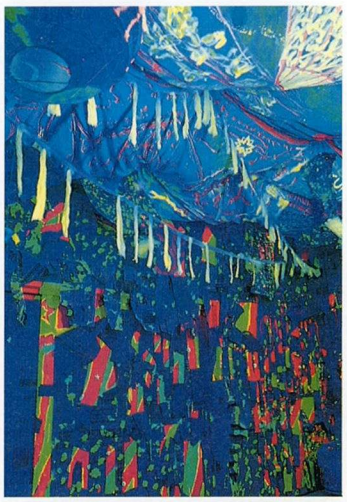


図11　「ひとり暮らしの部屋」1987年

それでも本物にこだわる建築材料

小西敏正

コピーがあまりにも普及しすぎ無駄に使われる紙の量が馬鹿にならなくなり、コピーした紙をその場で白紙に戻す機械が開発されたということである。それはともかく、コピー文化と建築材料との関わりを考えてみると、次の5つが挙げられる。

1．生活形態の非地域化の影響
情報の広範囲化により、生活そのもののがコピーされ各々の地域に昔からあった習慣風俗が薄れ、何処に行っても同じような生活が行われ、それに応じ材料も非地域化される。

2．建物の情報の伝達手段の視覚化による影響
最近の建築雑誌は写真優先で、コピー可能なビデオの普及も含めて、写りの良い形態や仕上げが選ばれるようになった。カタログ・広告も然り。

3．本物の材料からコピーした疑似材料
木目を印刷した合板、石の模様を印刷した金属板、タイル張り風の壁紙。デザイン的要求を満たすために本物をコピーした材料がつくられる。

4．設計作業のコピー化による影響
明治時代、建築の図面は、オリジナル一枚しかなく、大変に貴重であった。青写真、リコピー、電子コピーと進んで、CADになり、図面の情報の入ったフロッピーディスクそのもののコピーや、その設計手段自体のソフトもコピーできる時代に変わった。その中に一度インプットされた材料・部材名、その仕様などもコピーされ繰り返し使われる。

5．大量生産も物のコピー
工場での部品の大量生産、材料の大量生産これらも広い意味でのコピーである。そして大衆の夢を満たすため、建築自体や部品が大量生産（コピー）される。

以上を考えながら、建築材料の最近の本物志向を見直してみよう。

本物志向

本物志向は贅沢につながっているが、本物の材料というと、まず頭に思い浮かぶのが木や石などの天然材料や古くから使われていた伝統的材料である。(写真1)

日本のように石材が高価な国では石を使った意匠が豪華さの表現に使われる。(写真2)しかし、経済的に十分に素材を使えきれない場合は、表層だけに用いられたり、偽物が使われることになる。ヨーロッパ調の邸宅に対する本物志向は、時として、張りぼてや紛い物により構成される。(写真3、4)本物志向の空間が実は偽物ばかりでできていることも珍しくない。

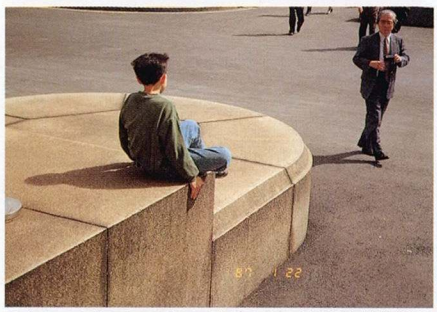


写真1　本物の石の重みを感じさせる上野国立博物館入口

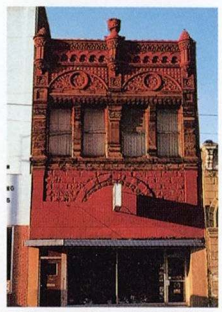


写真2　石にペンキを塗ると、もったいないと思うのは日本人の故か。石の多い国では単なる一素材なのである。

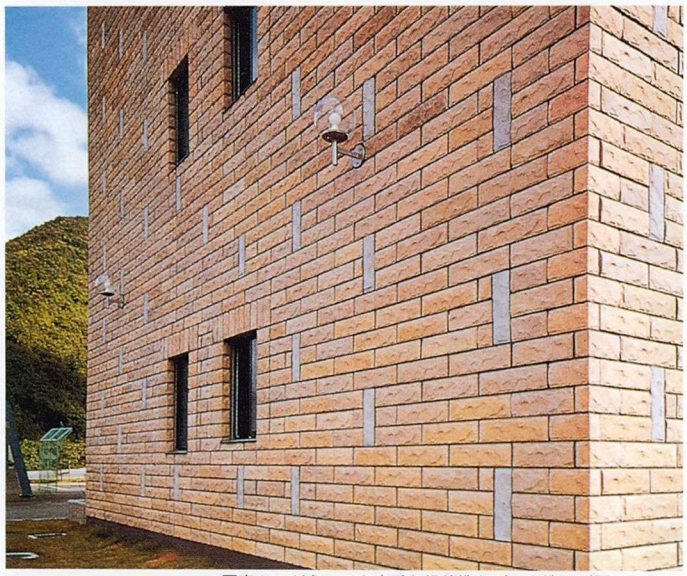


写真3　どうみても立派な組積造だが、人造石が張ってある。



写真4　これも立派な石造建築に見えるが金属パネルの外壁

本物と偽物の境界と接点

本物、偽物といってもその境目は、はなはだ紛らわしい。本物らしい偽物とか、偽物らしい本物とかがでてくる。天然素材、伝統的材料は、自然にしては珍しいもの、色形がそろった物が高級品として尊ばれてきた。無節、柾目の木材、純白、不思議な形をした石理の大理石。そして、初期の代用品の手本となったものは、最高級の物であった。それが裏目にでて、最近では、木目の綺麗過ぎる床板などまず信用されないというように天然の最高級品は、偽物ではないかと疑われる。

反対に、現代科学技術のお陰で、これはどうみても、本物だとしか思えないものが、実は偽物であることも少なくない。節の模様のついた杉板風の塩ビ鋼板、人工大理石、集成材を使った化粧柱、塗り壁風壁紙などなど……。また、白黒つけにくいものも少なくない。天然化粧合板だが、これなどプリント製品に比べれば、表面材は確かに本物なのだが、無垢材に比較すれば、やはり偽物である。削ったりすればすぐに化けの皮がはがれる。煉瓦という古典的な材料も風合いが好まれる。組積造の建てにくいわが国では、積まずに煉瓦色のタイルが張られる。(写真5)しかし、風合いがちょっと違うと言うことで、タイルと同じ厚さに焼いた煉瓦が張り工事専門に使われる。これなど本物なのか偽物なのかということになってしまう。材料その物はともかく、煉瓦造らしく見せているところなど、できた建物はやはり偽物である。性能的に優れた性能を持つものとそうでないもので、本物偽物が分かれることもある。フッ素樹脂塗料は、耐久性がきわめて優れていることが知られ、これこそ本物の耐久性塗料だと言われ漆が本物の塗料だとは言わない。

偽物と性能

大衆食堂のテーブルの天板など、メインテナンスを考え、木目模様のデコラなどが使われることが多い。つい代用品の安物だと考えてしまう。それに比べ本物はなかなかいいところがある。天然の材料の場合、大量生産された材料と違い同じ模様の物は2つとない。(図1)建物を解体して、解体材を再利用する場合など無垢の木だといろいろ使え省資源に役立つ。石の場合だってそうだ。解体とはいかなくとも、傷をつけたときなど無垢の材料は愛着が加わることもある。だから本物は使い込み傷つけば傷つくほど味がでるという。偽物にはまねのできない良さがあると言える。(写真6、7、8)

本物は良いに決まっているというが、偽物だからできるという場合もでてくる。偽物の方がどう見ても高性能で、それでもあなたは本物を選びますか？と聞きたくなることもある。

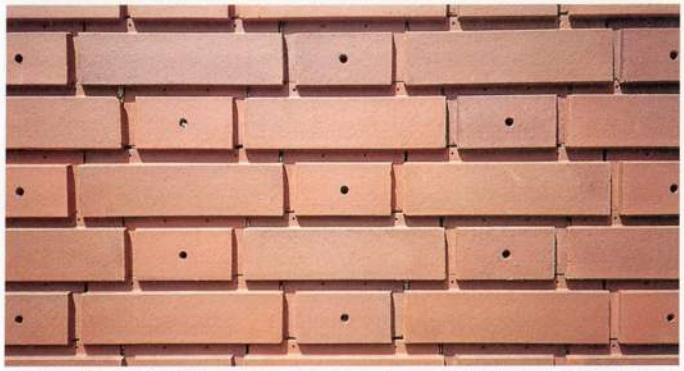


写真5　打込みタイルであることを示すセパレーター用の穴が見れる。タイルをタイルとして使用しているが、目地は煉瓦そのものである。

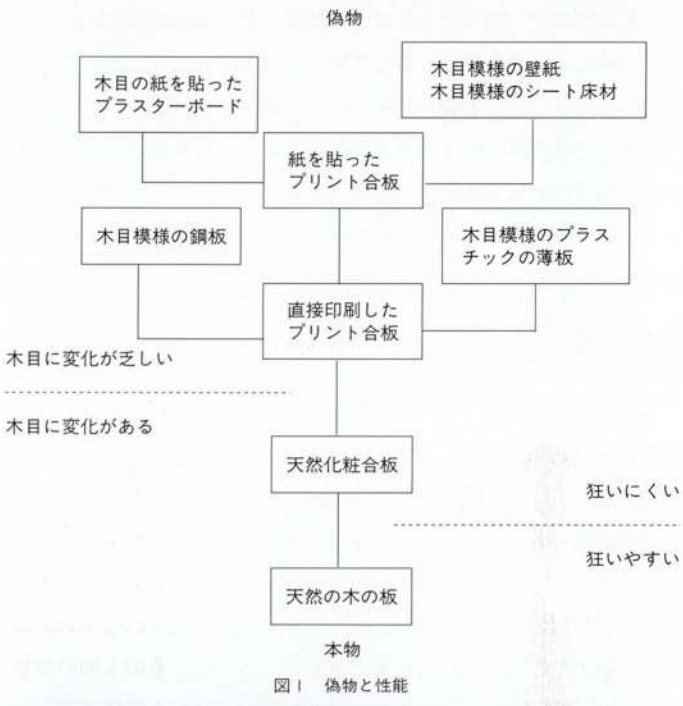


図1　偽物と性能



写真6　本物の焼杉の外壁（琵琶湖・湖北・菅浦集落）



写真7　焼杉風の塩ビ鋼板でなかなかうまくできている。(同上)



写真8　鋼板の板壁は年とともにばけの皮がはかれる。

本物の無垢の木はよいのだが暖房をいれるとちじんだりひびが入ったりする。床の縁甲板などその良い例だ。合板や集成材を使った床材が普及している。表層にオークなど高級材の突き板を張って写真やＴＶの情報から得た欲求にも応えている。高級家具も床暖房をいれたら割れたと言うようなことを聞く。集成材ならその心配が少ない。柱も、高級な柱は、むしろ集成材だといわれる。暖房をいれても狂いがこない。本物だって、よく乾燥させれば大丈夫だというが、ゆっくり自然に乾燥させる時間がない、人工乾燥という手段もあるが厚い材料は天然乾燥ほどはうまくいかない。本物は時代の流れについていけなくなってきている。だからこそ貴重だということもできるが。

偽物の汚名を返上するために

ところで、図面などをいれる紙筒には何故か鰐皮だか蛇皮の模様がついている。最近は、プラスチックの筒が多くなってきたが卒業免状だの表彰状などは今でも紙筒が使われている。もしかすると貴重な羊皮紙の書類はそういった皮でできた入れ物に入れ、保管したり運んだりしたのが起源なのかもしれない。それを知る人がほとんどいなくなってもそれが使われる。起源が忘れられるのも偽物が独立して本物となる一つのあり方であるが、この場合紙筒をありがたがる人がいないから、本物志向とは関係がない。

偽物だ、偽物だと馬鹿にしていた材料がいつのまにか本物として認められることがある。また、優れたところが在れば、単なる、代用品以上の地位を獲得し、本物と呼ばれるようになる。(写真９)各種材料や部品など、オリジナルのものに対して、その模倣品がつくられる場合が少なくない。たとえば、米国のオリジナルのシート状の張り床材で煉瓦張り風のものは、見本でみるかぎりあまり本物らしくないのだが、遠く離して見たり写真にすると他の模倣品より優れている。コピー文化の本物であり形状や柄をまねた製品などやはり偽物ということになる。

人工大理石をめざした結晶化ガラスはその性能を認められて、普及したが、(写真10、11、12、13)製法上、天然の石にはない色合いのものが可能である。ピンクや、ブルーの結晶化ガラスは単なる代用品を超えた素材と言える。そして、偽物ができそれが定着すると偽物の偽物が造られる。ところで、天然大理石に人工着色した化粧板は、結晶化ガラス以上に鮮やかなブルーの仕上げができ、これではどちらが本物なのか偽物なのか分からなくなる。

ラワン合板に銘木の模様を直接印刷し導管のところを艶消しにして、斜めから見てもつるっとのっぺりした面に見えない工夫しているプリント合板。写真技術を利用して造った壁紙や床材、アルミパ

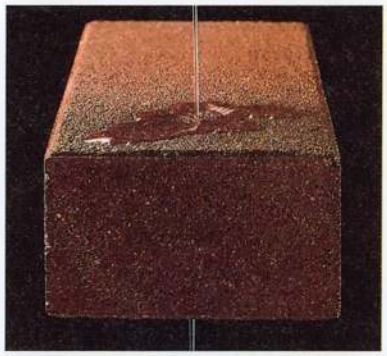


写真９　コンクリートブロックでも煉瓦でも、石でもない。透水性の舗装材料。特殊な機能を持つものは最初から独立を認められる。しかし形状・色は何故か何かに似ている。



写真10　曲面を自由につくれる結晶化ガラス。



写真11　人工大理石の一種



写真12　人工大理石の一種



製品規格サイズ(長さ×幅×厚さ)
300×150×約10mm
400×200×約10mm
600×400×約10mm
300×300×約10mm
400×400×約10mm

写真13　張ってしまえば、わからないというもののあまりにも薄い石は石材の重量感が何故かでない。

ネルに大理石や御影石などの模様をインキ製造の技術システムを用いて熱転写させたものなど工夫されており、偽物を造る技術も、戦後間もなくの新建材の稚拙さと比べ格段の差がある。(写真14)

偽物らしい偽物の楽しさ

アルミの板に何遍もペンキを塗り重ねた年季の入った下見坂のようにプレスをした外壁材があるが、一見して、本物の板壁でないことは分かるのだが雰囲気はでており性能も良い。どうせ偽物ならそれを承知で堂々と使えば、偽物も偽物でなくなる。もし、この場合あまりにも本物らしいと、ペンキを何遍も塗り重ねる習慣のある北米のデザインを、コピー材料でコピーして、塗り重ねられた苦労の歴史を大量生産し誰にでも使えるようにしたことになる。おおげさにいえば、歴史への冒瀆である。それにしても何故アメリカのカントリー風な外壁を日本でつくらなければならないかは分からない。(写真15)

また、発想転換をして、スケールを読み変えることも材料を面白く使う一つの方法である。たとえば、ネクサスワールドのクリスチャン・ポルザンパルクのマウンテン棟は、(写真16) 壁の模様がテラゾーの種石のように見える。写真で見ている限り、当り前にさえ感じられるのだが、近くで目のあたりに見ると驚ろかされる。坂倉建築研究所設計のJTBフォレスタの打ち放しのコンクリートにあいた規則正しい丸い穴は巨大なパンチングメタルを連想させる。パンチングを見ているとコンピュータの命令によって次々に繰り返されるパターンを連想させられる。IC回路のパターンと同じように、嫌悪感を一方で持ちながら受け入れざるを得ない現代性の表現であろう。いずれにしろ、スケールをここまで変えると偽物というジャンルではなくなってしまう。(写真17)

結局、本物、本物といいながら、意識、無意識に関わらず、現代技術の助けを借りたものに置き換わっている場合が多い。その技術がまた、本物かなどと問われるわけであるが、そこまでくると、材料が本物であることが大切かどうかなど分からなくなってしまう。単純にうまく使えば本物であり、下手に使うと偽物と言うことになるのかも知れない。本物を見極めるのは至難の業である。それでも人は何故か本物の材料という言葉にこだわる。

(こにし　としまさ／宇都宮大学工学部建設学科教授)



写真14
天然の木材を型にして製作したGRC（ガラスファイバー強化コンクリート）を用いた擬木、写真で見る限り木造にしか見えない。



写真15
木目模様の金属板



写真16
ネクサスワールド　マウンテン棟外壁（設計/Christian de Portzamparc）のテラゾーの様な外壁の模様

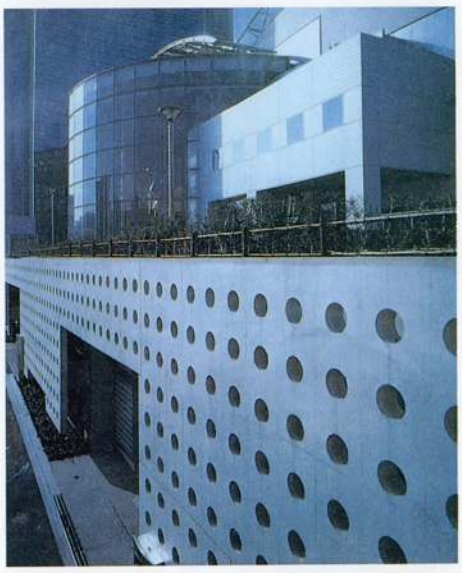
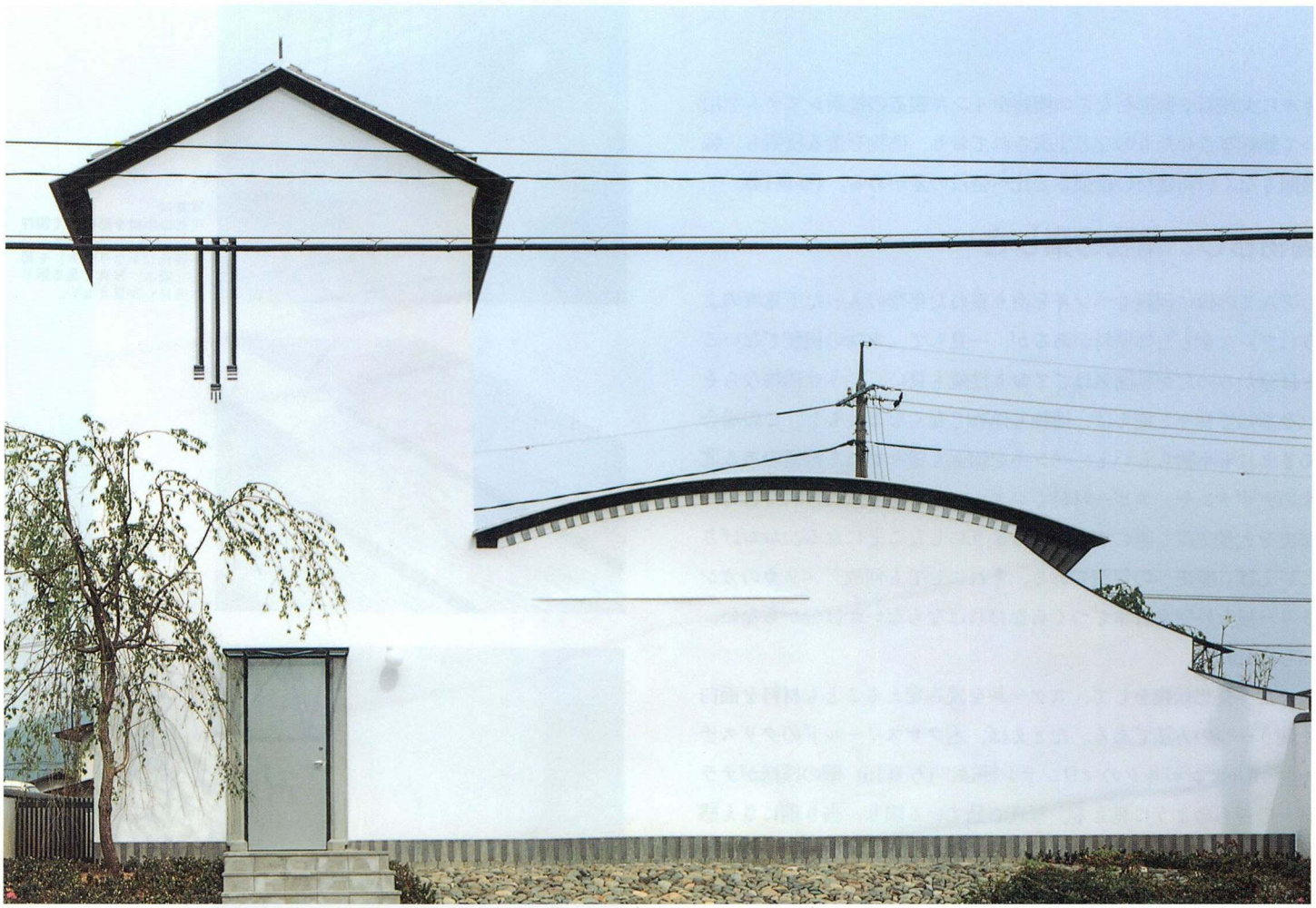


写真17
コンクリートの外壁に開いた丸い穴。パンチングメタルを思わせる。

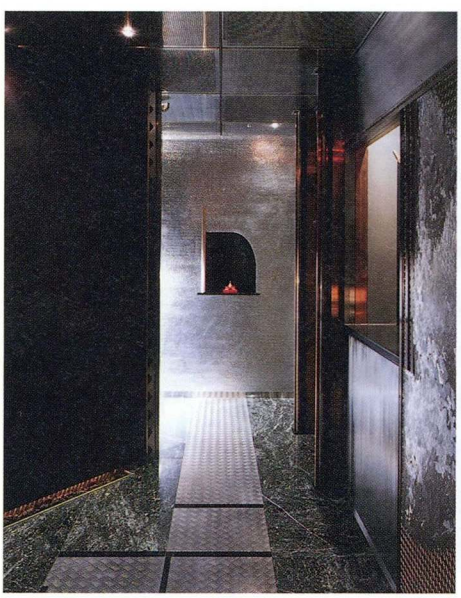
私の空間作法　素材の新しい使い方



朧月夜の家　写真　村井　修

朧月夜の家・東京竹葉亭

出江　寛



東京竹葉亭

現代建築は絵にならない。
言い換えるなら現代建築は〝綺麗〟(衛生的)にはなったけれども〝美しく〟はなっていない。
それは、その表面を覆い尽くしている〝素材のコピー〟に一因があるのではないだろうか。
〝素材のコピー〟とは、いわゆる「新建材」と呼ばれている材料である。

例えば、外装材では、
レンガのようなレンガタイル
大理石のようにみえるプラスチック
石のようにみえる樹脂板
木目のように見えるサイディング‥‥

内装材では、
高級そうな木目をプリントしたベニヤ板
コンクリート打放しに見せかけたビニールクロス
革に見せかけたビニールレザー‥‥

それらは表面的なまやかしに過ぎず、ぺらっとめくれば全ては露呈する。内側から輝くポテンシャルをもたないため、時間とともにその価値は減少する。(本物は時間とともにその価値を増してゆく)。
もちろん、新しいテクスチュアとしての可能性を目指すというなら話は別だが、あくまで〝本物らしさ〟を目的とするコピーは、本物に憧れ、時に嫉妬し、そして決して追いつくことなく、やがて果ててしまう運命にある。
つまり表面的な、視覚のみを意識したコピーは短命であり、〝古びる(災)〟美学をもたないのだ。
ここでいわゆる新建材というコピーに付着している〝模倣(まねごと)〟という意味をはぎとってしまうとどうだろうか。その下部からは本物が表出するではないか。

プラスチックがわざわざ大理石の表情を装って偽物になり下がる必要はない。
ビニールだって立派な材料ではないか。正直に表現すればよいのだ。
我々はそれぞれの素材としての本質(可能性)に着目すべきなのである。

(いずえ　かん／出江寛建築事務所)

私の空間作法 素材の新しい使い方

ホテル川久

永田祐三

1991年11月に完成したホテル川久の中には新しい手法でつくられた沢山の表情を変えた材料がありますが、その中でも特記すべきは、長さ80m 巾24m 高さ11mのロビーを支える石膏マーブルです。

計画当初は、エジプトの神殿やギリシャの神殿にみられるような柱列を頭に描いていたので、一応仕上げ材としては石材ということにしていました。工事がスタートしてまもなく、私は不思議な左官職人、久住章に会う機会があり、彼と色々と左官の仕事に関して話をしました。

その中で私が特に興味を覚えたのは、この石膏マーブルという材料でありました。彼は一度昔のヨーロッパに栄えて今日ではすっかり姿を消したこの手法を再現したいという希望を強くもって居りました。彼は今日残っている石膏マーブルの建物を色々と私に教えてくれましたので、ヨーロッパに出張し、それらをみてまわることにしたのであります。

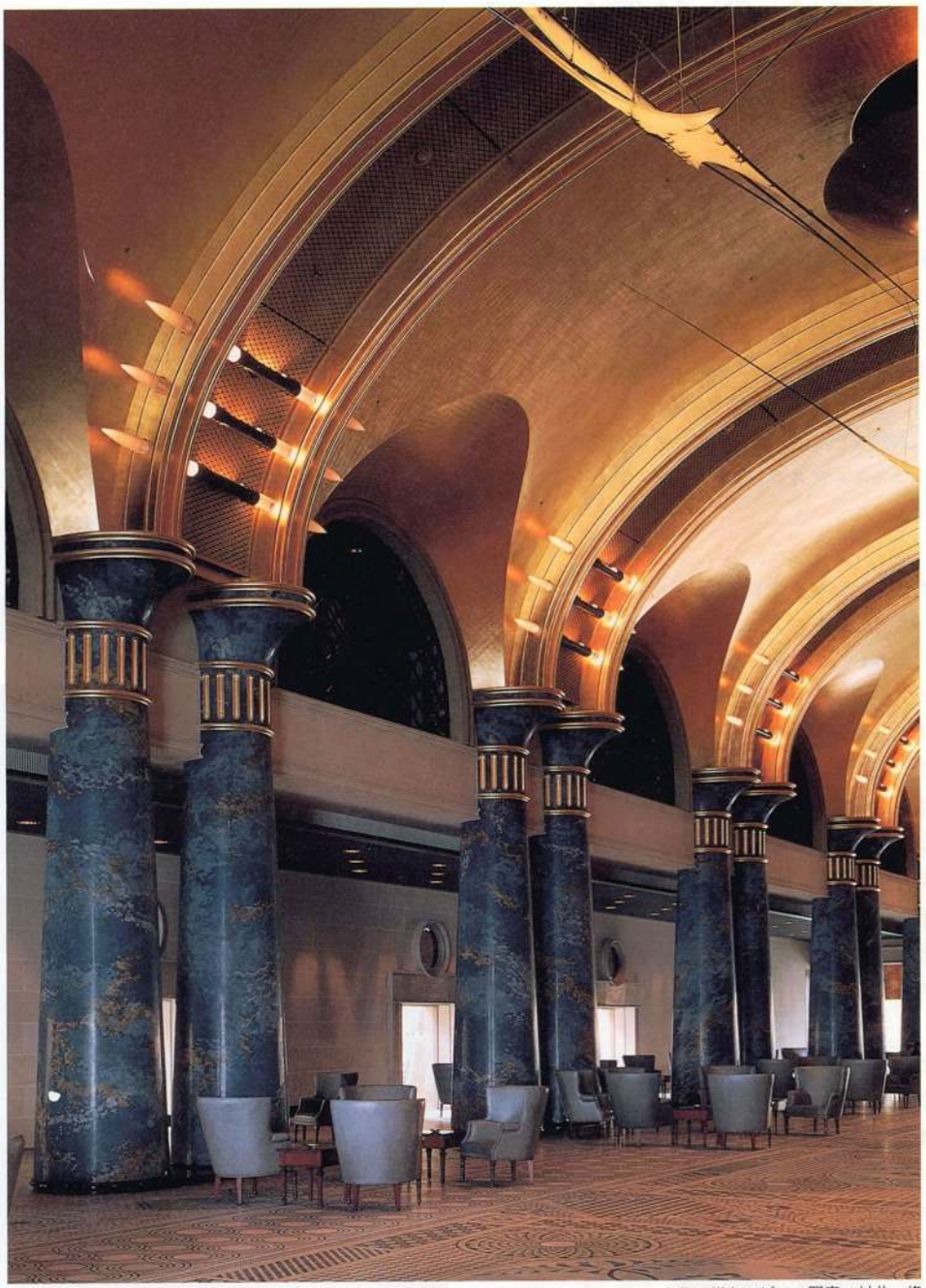
私は、このロビー空間の柱列に石張りの時の目地があってはならないと考えていました。ですから、彼の言葉に強く惹かれたのでありますが、しかし、現実にはヨーロッパでは感動するような石膏マーブルの柱に出会うことはありませんでした。ひどいときには全てFAKE (だまし絵) の場合もありました。私は少し落胆して帰ってまいりました。

帰国してまもなく私はこの不思議な左官職人、久住章に再び会いました。彼は石膏マーブルの断片を手にしながら現われたのであります。私はこの見本をみてこれだと思いました。あこがれのブルーバヒア色の石膏マーブルがその中にあったのです。私は直ちにこれをすべての柱列に使用することを決めました。彼が手法を教えることを拒むヨーロッパの職人に対抗して、自ら開発した石膏マーブルであります。

彼の口癖は「なぁ〜んや、そんなん、かんたんや」でありますが、これの実現には本当に苦労しただろうと思います。彼の工房を見学したときも四苦八苦しておりましたが、やはり「なぁ〜んや、そんなん、かんたんや」といっていました。

金箔のアーチの天蓋、それを支えるブルーの石膏マーブル、そしてそれを支えるモザイクの床、私にとっては満足すべき仕上がりでありました。

(ながた　ゆうぞう／永田・北野建築研究所)



ホテル川久ロビー　写真　村井　修



左官職人　久住　章

私の空間作法　素材の新しい使い方

ALPHA BLANCA ST

池上俊郎

建築における素材には、いくつかの側面がある。一義的には、素材は、表面仕上げの肌理の状態を示している。
石や木や金属といった材料の肌合いである。しかし、3次元の場を形成する素材としては、私達の精神的な空間応答の基材である形態構成要素、ヒエラルキーを有する色彩も大きな役割を演じている。

かつて、日本料理店のインテリアデザインに携わったことがある。白い土塀をアルマイトのパネルに置換し、スリガラスに障子の役割を与えた。また、紀伊半島山中に求めた紅葉の木を彫刻家の友人とともに鋳込み金メッキ仕上のブロンズ像に変化させた。これらの作業は、いずれも具象的なあるものを、同等の価値を有する現代的素材を見いだし、「和」の世界として、再構築する仕事であった。自然描写に始まり、日本絵具の可能性を熟知し、作家の内面的な精神の高揚とともに表現されていく日本画の世界にある意味で近い作業であった。

ここに紹介するのは、福井県三方町に竣工したブライダルメーカー、ALPHA BLANCAの複合施設である。製造・出荷・展示・会議・ショーイベント・配送のための総合的なパワー・ステーションである。
私達は、無柱空間に近似する場の構成を探った。施設の機能配置の検討の結果、形成されたのが、現在のような構造体の構成である。
X形の柱を南北方向端部に配し、中間部に ϕ276の丸柱を2本設けた。2本の列柱部が、廊下を自然に産みだし、W28.2m×D45mのオープンなスペースに一定の機能構成の方向を与えている。X型のユニット構成は、屋外空間においてはH鋼のオーバーハングした壁面、内部空間においては、上部に開かれたスペースを逆台形の断面として構成する。単純なフレームの繰り返しを構造素材として、空間を発生させる原点となっている。
外壁は、ステンレスの折版に2液性のメタリック系ウレタン塗装を施した。ステンレスをイメージさせる、透明性を持つ肌合いが、自然と応答する。



ALPHA BLANCA ST　外観


ALPHA BLANCA ST　内部空間

生産ラインの関係により、ヘアーライン仕上げのステンレスが使用不可能のため、塗装方法・塗装材料を探った結果、今日の塗装方法に決定した。太陽の変化を受け、ゆるやかな変容を見せる。
また、折版の深いヒダは、屋根と壁面の接合部の処理を通じて、形態を特異づける素材として活かされた。
内部空間においては、列柱とH鋼のフレームに彩色を施し、空間的強弱を産んだ。色彩素材と、構造素材が、空間のヒエラルキーの構築を求めて、同時に操作された。
前述した「和」においては直接的な方向性を生かした肌理素材のいわば現代的直喩であった。

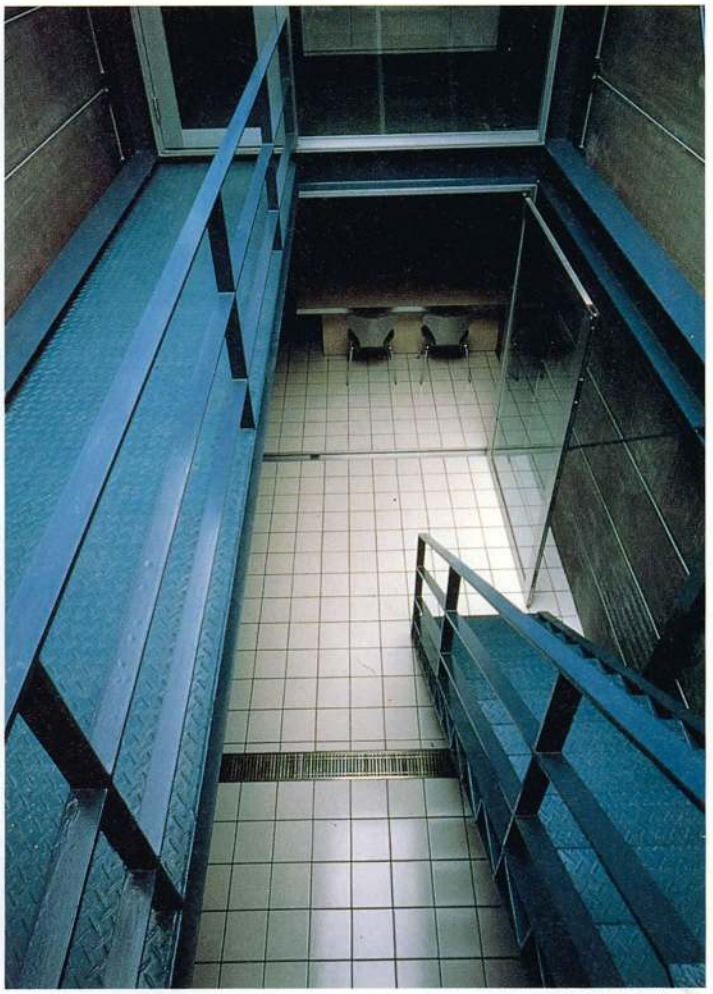
ALPHA　BLANCAでは、構造素材・色彩素材・肌理素材の複合的操作により、直喩でも隠喩でもなく、新たな体験的世界の構築の可能性を探った。

（いけがみ　としろう／京都市立芸術大学美術学部
環境デザイン研究室助教授）

私の空間作法　素材の新しい使い方



KIM　HOUSE　外観



KIM　HOUSE　中庭　写真　平井広行

KIM HOUSE

岸　和郎

素材に対して誠実であることは、ある意味では近代建築そのものの在り方と同義である。

鉄、ガラス、コンクリートという三つの材料は近代建築を代表する素材であるかのごとく考えられているが、実はそれぞれが建築史の中で、数世紀から十数世紀の歴史を持っている。しかし近代主義的な意味においては、ミースやコルビュジェ、或いは初期モダニスト達によって初めてその合理的形態を与えられたのである。より具体的に言えば、フィレンツエのドゥオモが鋳鉄の引っ張り材によってその形を保っているとしても、初めてスチール自身を主役にしたのはそれから数世紀後に登場したミースに他ならないということなのだ。

7年前、縦割り長屋の中の一軒を新築するという条件下での住宅の設計依頼があった時に、本来は仕上げを施すことを前提として開発されたであろう成形セメント板を、内外装ともに仕上げをせずに使用した。この材料が持つ純粋な美しさを認めたからであり、材料自身もそう見せられることを求めていると感じたからだ。それはとある地下室の二重壁の内装として使用された成型セメント板の上にボードが貼られ、白く塗装されて一般的にいえば小綺麗に、しかし材料にとっては無残な姿になっていく過程を見たとき、「この素材は露出させて使ったほうが美しい」、と感じたことも直接の引き金になっていると思う。そこには素材は生地が美しい、とする日本的感性が働いたかも知れない。例えば私は和室を考えるとき、吹き付け聚楽よりもベニアの方が美しいと感じてしまうのだが、それと似たようなところがある。

何よりも、この成型セメント板は我々の時代のものだ、ということは重要である。この材料は工業製品であり、大量生産品でもある。材質という面から見ると、多孔質（ポーラス）であるというよりはむしろソリッドであり、均質な表情を持っている。しかも500㎜あるいは600㎜という寸法に支配されている。

我々が何らかの形でテクノロジーの関わりを意識せざるをえないのが現代という時代であるとすれば、クールで、しかも材質感をも合わせ持つこの素材は、現代そのものを表現しているような気がしてならない。

（きし　わろう／京都工芸繊維大学助教授）

私の空間作法　素材の新しい使い方



南側ブリッジより４つの個室をのぞむ



スペースＡ　撮影　近幾サービス　三村明夫

NEXT21―303住戸

シーラカンス

この住宅は、実験集合住宅として大阪ガスが建設したNEXT21の中の住戸である。私たちに与えられた「自立家族の家」というテーマに対して、４人の家族のためにそれぞれの玄関兼個室とスペースＡと呼ぶコモンスペースからなるプランを提案した。

スペースＡは、基本的に個室を通ってしか外とつながっていない広いスペースで、個室は、人一人が日常生活を送れる最小限の広さで個人の持ち物は収納できる。また、個室は南北両側の壁一面の建具を開放することによって北側のスペースＡの一部になったり、同レベルで南側の外部の床とつながったりする。この住宅は、平面つまり床によって、新しい家族の生活を提案している。従って床材の選択は重要な意味を持っている。

スペースＡには床材として厚さ5.5mmのOSBと呼ばれる合板を使用している。これは、ストランドという薄く細長い木片を接着剤で固めたものを何層か重ね合わせた合板で、これにサンダー仕上げを施したものに、クリアウレタン塗装を施している。

四つある個室の床には、厚さ12mmのMDFと呼ばれる中質繊維板（主して木材繊維を成形熱圧製板したもの）を黒に染色してウレタン塗装を施したものを広幅で使用している。

二つの素材は、木材を主原料として加工した工業製品でふつう床にはあまり使用されない。MDFは、過去にいすやテーブルを作るときに使ったことがあって、安価で加工性がよく見た目には方向性がなく均質なテクスチュアが気に入っていた。

二つとも下地材としてつくられた工業製品でありながら、実際に人間の肌に触れたときの感触や温度に木の天然素材としての良さが感じられるし、安いけれども安物っぽくない。かといって石のように素材そのものが持っている迫力や豪華さとは違う感触を持っている。しかも、普通の既製フローリングと違って南洋材を基材としていない。木製品を使用する時は、熱帯雨林の破壊は、気になる問題である。そんなことで床材として実験的に使用してみることにした。

使ってみて、MDFはお堂の床のような黒光して平滑で柔らかく光りを反射して落ちついた雰囲気がつくれた。スペースＡとの対比も鮮やかになった。また、OSBは少しざらざらした足裏の感触があって、コンクリートそのままの天井や柱の中で、石やタイルに近い床面の強さのようなものも感じられるようになったと思う。

（堀場　弘／シーラカンス代表取締役・パートナー）

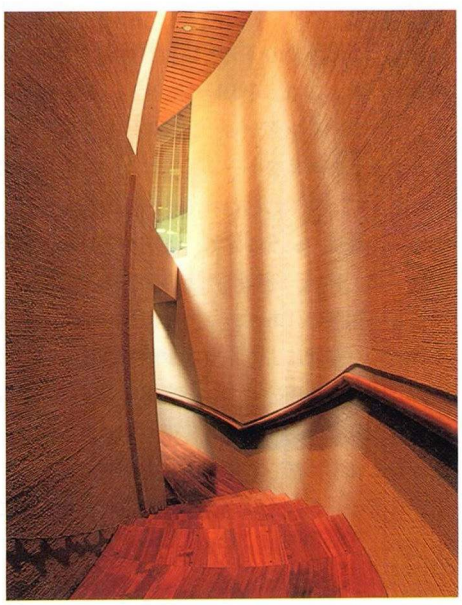
私の空間作法　素材の新しい使い方



ファンハウス　外観

ファンハウス

大江　匡



ファンハウス　内部空間

私は今、自然素材と建築の論理的な構成というものが共生できるのかどうかということに興味がある。これは、実は、自然主義的で有機的なる相対知と幾何学的な絶対知の共生が可能かということを含んだ問題でもある。

10月の前半にオランダのクレーラー・ミューラー美術館を訪れた。約50km²の広大な敷地の中で、本館はアンリ・ヴァンデ・ベルデとクイストが設計したものだったが、私はリートフェルトが設計した分館であるということで、そちらの方へ足を向けた。

そこには、私がこれまでシュレーダー邸や赤と青の椅子を通じて理解をしていたリートフェルトとは全く違う作品が存在していた。確かに壁や屋根を完全な面を保ちながら構成していく手法やミース・ファン・デル・ローエにも似た構成主義的な壁の配置は、リートフェルトそのものなのだが、そこに使われている素材はラフな穴あきブロック（それも穴の径がランダムで非常にナチュラルな感じになっていた。）木材、あしの葉などの自然なものばかりで、白や赤、青の色、コンクリートとスチールなどの素材は全く見当たらなかった。

1930年代の作品をオランダでもかなり見たのだが、メンテナンスをあまりしていなくても、作品としての美しさを保っていたのはこの建築だけであった。そこには、時間を越えてきた素材が存在をしていた。近代建築は完成した時が一番新しくて、だんだん古くなるという宿命を、この建築はくつがえしているように思えた。また、構成主義とナチュラリズムは相反するのではなくて融合することもできるのだということを教えられた気もした。建築の中の時間は、建築家の中の裁量で大きく変る。保存を創造行為に転換するということは、時間をどのようにその作品の中に封印するかということではないだろうか。

そういった意味で、私も最近興味があるのは自然な土や木材というものである。

10月に完成したファンハウスでは、外壁や１階のエントランスホールに硅藻土という材料を木と組み合わせた形で使用している。これは、全体の構成とあいまって、時間を空間の中に封印していく概念を体現するのに効果のある材料であったと思う。

（おおえ　ただす／プランテック）

本物を再現する建築の試み



外観



内部空間

ららぽーと スキードーム〝ザウス〟

共同設計監理　KAJIMA DESIGN
NKK

余暇開発が叫ばれた80年代の中頃、鹿島は「アーバンスラローム」、NKKは「ポップスノーアリーナ」という名で、各々全く独自に屋内人工スキー場構想とそれに伴う技術開発に着手した。技術的な実現可能性の目途が立ち、87年に鹿島、88年にNKKと続けて新聞発表された。

当時、スポーツ・レジャー事業への進出を検討されていた三井不動産に対し、我々はコンペティティブな立場で別々にアプローチしていた。88年11月に、三井不動産の総合企画により、KAJIMA DESIGNとNKKの共同設計により、建築と造雪という各々の得意分野を生かしてプロジェクトを進めることになった。

三井不動産から提示された施設のイメージ・コンセプトは「スカンジナビア・モダン」。及川政志氏（空間設計）、ペア・シュメルシュア氏（P・Sクリエイティブ）が参画し、アートディレクション・ミーティングが繰り返し開催され、プランニング・コンセプトを施設デザインにまでブレーク・ダウンする作業を行っていった。自然の雪山の擬似空間を屋内に持って来るという考え方は最初から否定された。自然のイミテーションを作るのではなく、ハイテクノロジーの結晶としてのSSAWSを全体のフォルムに表現しようと努力した。そういう意味で、過剰なデコレーションを排し、研ぎ澄まされた機能美のなかに人への限りない優しさを追求する「スカンジナビア・モダン」は最もこの施設にふさわしいコンセプトであったと思う。

カラフルなウェアを身につけたゲストで満たされた時に、この施設の「シーン」が完成するという基本的な考え方は、その巨大なゲレンデのシルエット、カラーリングから、施設のインテリア、またスタッフのユニフォーム、レストランの食器にいたるまで、全てにわたって統一された。

世界初の施設ということで、前例が無い為、建築計画、防災計画、避難計画等の屋内スキー場という新しい施設の「あり方」の提案。38条認定を伴う特徴的な形態による複雑な挙動の解析や構法の検討。屋内大空間の中で、パウダースノーを降らせる等、数々の関門を越えて来た訳であるが、とにもかくにも、「都心で一年中スキーができたら」という「夢」がひとつここに実現されたということであろうか。

（澤田賢次／KAJIMA DESIGN 建築設計部）

本物を再現する建築の試み



ドームが開口した状態

オーシャンドーム

設計監理　三菱重工業神戸造船所一級建築士事務所



全景

94年秋グランドオープンするフェニックスリゾート「シーガイア」の集客の核として位置づけられている全天候型ウォーターパーク「オーシャンドーム」がホテル等に先がけ93年7月オープンした。

『海を超えた海、空を超えた空』をイメージコンセプトに掲げ、企画段階より一貫して〝自然の海景観のコピー〟という考え方ではなく、人間にとって〝好都合な海〟(超自然)を目指した。

具体的には、透光率10%の二重膜構造開閉屋根によって四季を通じて快適環境を提供した。また〝カリブ海に浮ぶ1915年のコロニアルリゾート〟というモチーフを掲げてデザインした人工景観造形によって時間と空間の異なる〝別世界〟を提供した。更に自然の海に不足している娯楽的要素を加味するため、水着のままで乗れるシミュレーションシアター等のハイテクアミューズメントを導入し、単なる〝水遊び〟の枠を超えた〝海のディズニーランド的〟要素を提供した。更に昼間のウォーターパーク空間が夜には〝ショー空間〟に変わる機能を持たせ、2.5mの波高を誇る造波装置や3面マルチウォータースクリーンをはじめ、音響、照明、レーザー、噴水等の充実した演出設備によって幻想的なショー体験を提供した。

このような「超自然空間」づくりにおいて特に留意した点として、

1. 現実世界(エントランス)から別世界(ドーム空間)への違和感のない導入手法
2. 数々の演出を支える技術を一般の客に感じさせないこと
3. 人工景観には自然よりも過剰な表情変化を持たせたり、モザイクタイルや土壁など人工物をポイントに使用して、逆に自然景観らしさを際立たせたこと

などがあげられる。

当初、新聞紙上では「なぜわざわざ南国宮崎の海岸線に南の海を模したプールをつくるのか」といった疑問・批判の記事が度々取上げられたが、竣工後は幸いにも完成度の高さに対する評価はあっても同種の批判は見受けられない。従来からの宮崎の持つ南国イメージ・気候風土とオーシャンドームのコンセプトが仮に相入れないものであったなら、果して都市部に住む人々にとっての宮崎のイメージが向上し、観光客の増加に寄与できたであろうか。

オーシャンドームの魅力と従来からの宮崎の気候風土の魅力による相乗効果によって、フェニックスリゾート「シーガイア」が日本を代表する複合コンベンションリゾートとして発展し、〝観光宮崎〟が復活する日が来ることを期待する。

(山本正雄／三菱重工業株式会社神戸造船所鉄構部)

本物を再現する建築の試み



外観　写真提供 新日本製鐵㈱

高田城三重櫓

設計監理　構造計画研究所



内部

高田城跡は新潟県指定文化財で、上越市高田の街中に残る近世の土居形式を特色とする平城城址である。本城の象徴的建築物である三重櫓を史跡上に再建するについては、伝統木造建築を本物志向で建築し、加えて建物の主用途を博物館とし、人々が利用できる施設を建設することを第一義としている。現行の法的規制の枠内で、外観は勿論内観についても可能な限り木材を使い、史実に忠実に復原することを心掛けた。歴史的に精度の高い復原を行うことは当然であるが、再建された伝統建築物自体が『生きた文化財』として活用される事が何よりも重要な課題とした。

以上の諸条件を満たす解決策として、主要な骨組みに耐火鋼材を使用し、耐火被覆材の厚さを軽減した鉄骨構造と、屋根下地材・小屋組材は伝統技法による木構造とした混成構造を採用することにした。所謂『木造』の伝統を活かした『木質建築』による復原を提案し、建築基準法38条の認定を取得している。その際努力したのは伝統的木割に従い、デザインはあくまでも日本建築の古典の現代化を意識している。具体的には鉄骨架構材は木構造を下敷きに同様に架構し、見掛り鉄部は全て厚板木材で化粧隠蔽し、外見上は木造と遜色ない仕上げを施している。壁表面は漆喰塗りを施し、床材は広幅のフローリング張りとし、天井はRC床版下面に広幅張りの根太組みを行っている。上下階の昇降は階段形式を採用、非常時避難用の階段室は鉄骨造とし、見掛り鉄部は木材で化粧している。このように近代の建築材料と技術を用い、表装材については伝統的材料と技法を使っているのである。科学技術が進展し、一方で伝統材料と技術伝承が問題化している今日、全て伝統的材料と技法を使って伝統的建築物を再建することは困難なことは明らかであり、事実上不可能に近い。一部に近代工学的材料と技法を取り入れたこのような『木質』建築手法が最適と考える所以である。

復原した三重櫓は高田藩創設以来、藩の伝統的文化意識として当時、家康の駿府城で具体化した御殿風の意匠を採り、望楼型真壁構法による様式である。黒塗り素木部分に白壁が映え、金箔置き錺金具の装飾を配し、武家文化の格式を正統的に表現している。平成5年4月竣工以来、床面積258㎡足らずの三重櫓に来観者が半年で上越市人口の13万人を越えた。尚、本復原は内藤昌教授の設計指導を仰ぎ実現したものである。

（木村善行／構造計画研究所建築設計部室長）

街にあふれるコピー文化

復原建築



イタリアの古い街並みを再現し、自動車を展示したショールーム。「環境とクルマ」をテーマに舞台美術家妹尾河童氏がデザイン。「トヨタオートサロン・アムラックス大阪」2F（大阪市北区小松原町3－30Sビル）開館時間平日11：00～20：00　日祝日10：00～19：30　月曜休館



◀ポーランドのワルシャワの旧市街。第二次大戦で壊滅した街を絵画に基いて復元。

再現された戦前の大阪の街並みが売物の飲食街「滝見小路」（梅田スカイビル地下）





日本最大の規模で戦国時代の様々な建築物を再現した「伊勢戦国時代村」。写真は、その中の「合戦砦食事処」。三重県度会郡二見町大字三津1201－1（Tel 05964-3-2300）。無休。営業時間 9：00～17：00（12月～3月までは16：30に閉村）

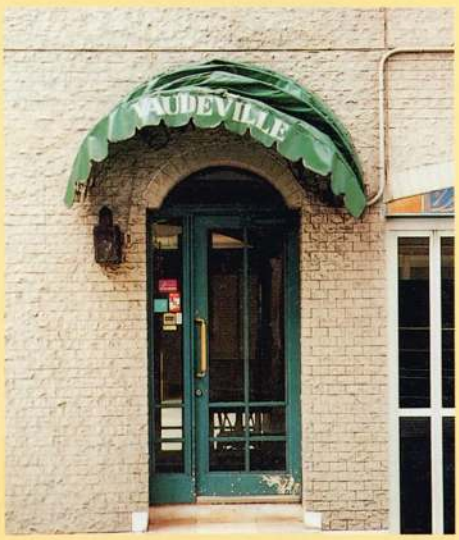




宝塚ファミリーランドにある「ノイシュヴァンシュタイン城」のコピー。（左）
小矢部市（富山県）の松本正雄市長（当時）は、国内外の有名建築のコピー建築を30以上も設計した。大谷中学校校舎（迎賓館、東大安田講堂、東大医学部のコピーの組み合わせが面白い。）（右）

建築材料





大阪・ミナミの建物の石積み風石貼外壁。（左）
大阪・梅田の石積み風タイル貼り壁（右）





ビルのエントランスホールのトップライト、ステンドグラス風色ガラス



コンクリート製の焼杉。遠目には本物と区別がつかない。（DIY ショップの店頭にて）
プラスチック製の建仁寺壁、いつまでも色が変らぬメンテの容易さ。（大阪・天満橋）

看板





これはもはや大阪の名所のひとつになった動く巨大なカニの看板「かに道楽」（大阪・ミナミの道頓堀）（左）
〝柳の下のどじょう〟ならぬ伊勢海老の看板「えび道楽」（同上）（右）







巨大なドーナツを看板にしたロス・アンジェルスのドーナツスタンド。（左）
ピエロの顔を看板にした大阪・ミナミのアメリカ村の店。（中）
パチンコ店の屋上にそびえる自由の女神。パチンコ「SSS」（大阪市淀川区東三国）。（右）

人形





大阪心斎橋筋にある店先の子供のマネキン。（左）
ショッピングアーケードのベンチに座っているチャップリンの人形（カリフォルニア州・ビバリーヒルズ）（右）

コピー食品

人造からすみ（左）とカニかまぼこ（右）のコピー食品。カニかまぼこは、いまや世界的なヒット商品。



食品サンプル

飲食店のショーケースにあるリアルメニュー見本。本もの以上の迫力が見る者の食欲をかきたてる。



模型



◀©東宝 東宝映画
「ゴジラＶＳメカゴジラ」（東宝系）上映中より。ゴジラとメカゴジラが決戦する東京新都心・幕張ベイエリアシーンの建築模型の精巧さ。





大阪・西梅田で開催されていた「ディノ・アライブ」の全長15mのティラノサウルスのリアルな「動く恐竜」。ハリウッドの映画スタッフの製作だけに、コンピュータ、油圧装置で動き、吼える。（上）ティラノサウルスの「動く恐竜」の製作中の写真。（右）

美術品

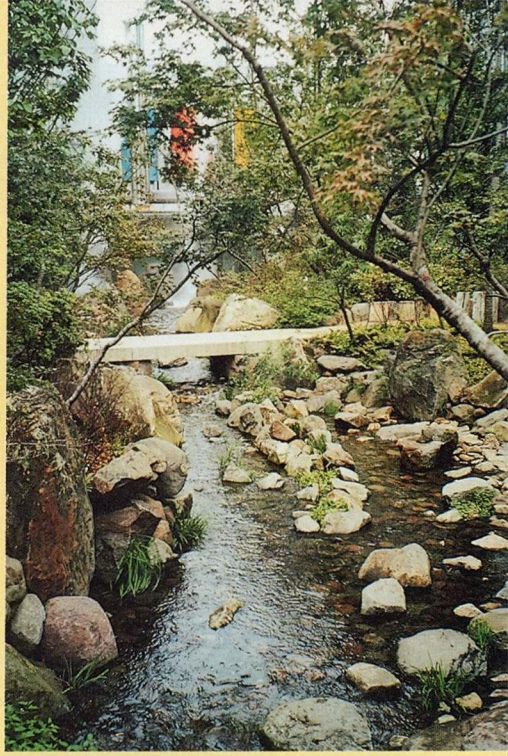




宝塚ファミリーランドにある祇園神社石燈（滋賀県蒲生郡祇園神社、本物は南北朝の頃のもの）。コピーも建てられ数十年になるので、すっかり風格が出て、庭の一隅に納まっている。（左）
骨とう屋の店先に置かれた、タヌキ、鶴、カエル、そして小便子僧や石燈のコピー。（大阪・ミナミ）（右）

疑似自然





フィッシングの「ウェットフライ」。溺れた昆虫をコピーした〝毛針〟。魚がコピーの動きに興味をもって近ずき、食いつくと仕組んでいた針にかかる。(左)
都心に人工の自然を創った、森と川「中自然」(梅田スカイビル)(右)





美しい花々と緑あざやかな観葉植物。近ずいても人工のものとは思えない。メンテが容易なとこから、大流行している。(左)
料理屋のショーウィンドーに「中庭」が。(大阪・梅田)(右)

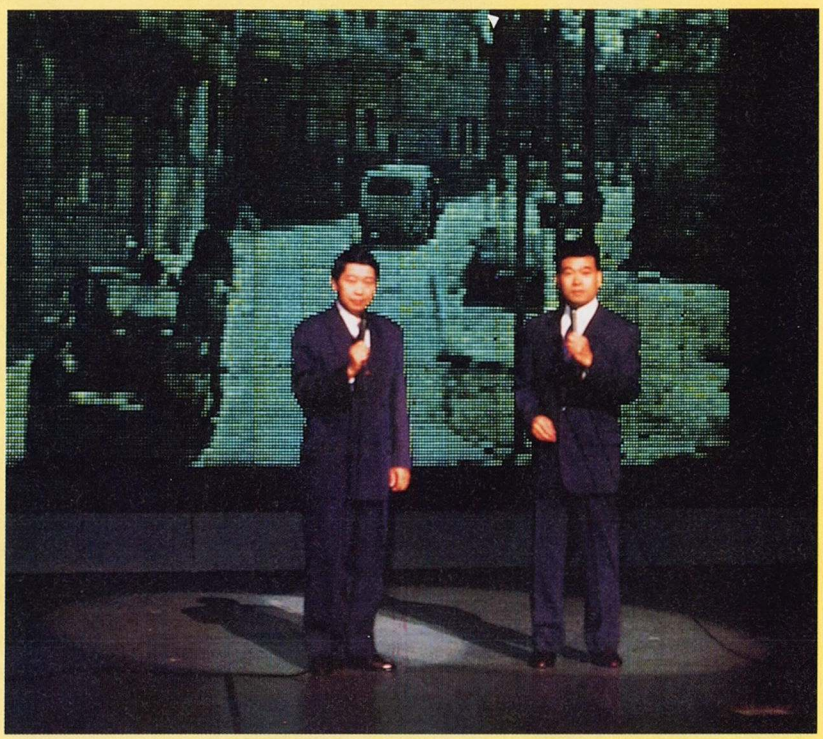
装飾品



女性の心を微妙にくすぐるアクセサリーの数々。じつは全部イミテーション。

ものまね

「サウンドコピー久保田進・上純一」(吉本興業所属)財津一郎や柳家金語楼の物まねで知られる元トリオ・ザ・コミックが2人組になり「サウンドコピー」に改名。映像にあわせてカーチェイス音、銃撃音などを再現するコピーアーティストとして活躍中。



法律家の眼でみたコピー文化

――合法と違法の境目――

桑森ひとみ

1．偽札のケース――通貨偽造罪

コピーが至る所に溢れている現在、何が許され何が許されないかを法律的な観点から考えてほしい、特に、普通、違法であると思っているのがそうでなかったり、違法でないと思っているのがじつは違法であったりするというように、意外に感じる場合を挙げてほしいということで原稿の依頼を受け、私のほうも何かあるだろうとタカを括って簡単に引き受けたのであるが、さて、改めてあれこれ考えてみると、これがなかなか思い浮かばない。

読者の方々を含めて一般の人々が、あるコピーを前にして、これはどうも違法ではないか、或いは合法ではないかと判断した場合、大体、それは法律的にも違法であったり合法であったりするのであって、一般人が考える結論と法律が予定している結論とが異なるということはめったにないのである。

普通の人にとって、法律は非常に難解なものだというイメージが定着しており（実際、なんというか法律の文章は、一回読んだくらいでは理解できない言葉を羅列しているように見える）、まあ、だからこそ、私たち弁護士の存在意義があるともいえるのだが、実のところ、よくその内容を検討してみると、法律を適用して得られる結論と、一般人が妥当であると考える結論というのはほとんどの場合一致しているのである、というかそのように規定されているのである。

例えば、コピーにおける違法・合法を考える場合、よく思い浮かべる例としては偽札がある。偽札を造れば通貨偽造罪になるということは、大体誰でも知っていることである。

しかし、高校の先生が教材として偽札を造った場合、或いは、子供のおもちゃとして偽札を造った場合、これが通貨偽造罪になると考える人は余りいないであろう。

通貨偽造罪を規定している刑法も同様であって、上のような例の場合は犯罪は成立しないとしている。つまり、偽札を偽札として使用する積もりで偽札を造った場合だけ（刑法上は「行使の目的」となっている。）、通貨偽造罪になるとしているのである。

従って、本物のお札と寸分違わぬ偽札を造ったとしても、その人に行使の目的がない場合には、決して罰せられないのである。

なお、蛇足ながら、反対に、偽札として使用する意図で偽造しようとしたが、技術が稚拙なためうまく造れなかった場合や、偽造の途中で、造るのを止めたような場合はどうなのかというと、これはそのような意図を有した以上、通貨偽造罪の未遂罪になるというのが法律の扱いである。悪いことはやはりするものではないということであろう。

2．文書複写のケース――文書偽造罪

ところで、これは、日常、私たちがコピー機であらゆる文書を複写している場合にも言えることである。

私たちは、コピーを日常茶飯事、ごく当たり前にしており、コピーをすることが違法であると考えもしないであろう。

しかし、これも、コピーをコピーとして使っているからこそ違法ではないのであって、もし、コピーを原本として使用する積もりで複写した場合には文書偽造罪になるのである。

昨今のコピー機の発達によって、原本と寸分違わないものを複写できるようになり、悪用される危険性が非常に高くなっている。

特に、公文書などは、その危険性の高いことから自衛手段としてコピーをすれば無効の文字が出るようにしたりしている。

ただ、文書の場合は、通貨の偽造の場合とは少し異なり、私文書の場合であれば、コピーを原本として使用する積もりであっても、原本作成者が同意していれば、偽造罪にはならない。使われる人がいいといっているのであるから罰する必要がないのである。

ところで、公文書の場合には、どんなものであれ文書を使用目的で偽造すれば文書偽造罪になるのであるが、例えば、AはB子さんが好きなのであるが、B子さんはCさんが好きなので、AはCさんの署名をコピーし、B子さんに「君のことが嫌いです。」という文書をCさんが書いたようにして送ったとしよう。

このような文書を書くことにCさんが同意するはずはない。では、私文書偽造罪になるのかというと、ならないのである。

私文書については、他人の権利義務に関する文書を偽造した場合だけ犯罪になるのであって、好きとか嫌いなどという感情を内容とするだけでは原則的には罰せられないのである。ただ、だからといって、書いていいというものでもないが。

3．偽ブランドのケース――商標権侵害

さて、偽造罪の話はこれくらいにして、女性に関心の深い偽ブランドについて、少し考えてみよう。

日本は偽物天国といわれるように、巷では、偽ブランド物が溢れている。街を歩いていると必ず一度や二度は偽ブランド物を目にするはずである。さて、法律はそのような偽物に対してどう対処しているのかというと、これに関しては、不正競争防止法、工業所有権

法など様々な法律が規定されているが、ブランド品については、商標法が適用されることが多い。

いわゆるブランドといわれるものを商標として登録することにより、第三者がそれと同様或いは混同を招くようなものを使用すれば、その使用の差止めや損害賠償を請求することによって、そのブランドを守ることができるのである。

よく偽物が話題になるルイ・ビィトンの鞄のマークも商標登録されているし、いわゆるその固有の品物につけられている商品の名前、例えば、アリナミンVという薬につけられている名前なども商標として登録することによって第三者が使用するのを防ぐことができるのである。

ところで、商標の場合、通貨偽造や文書偽造と異なり、偽物を偽物として使用する積もりであっても、商標権侵害になる。

例えば、ルイ・ビィトンのマークのうち、絵柄の部分は同じで、LVの組合わせの部分だけをLCとして売り出した場合、なるほど、よく見れば偽物であることは明らかだとしても、マークの全体を見れば、ルイ・ビィトンと混同することは十分有り得る以上、やはり商標権侵害となる。アリナミンVについても同様で、アリタミンVなどとつければ商標権侵害になる可能性があるのである。

ただ、商標権というのは、あくまで、その商品のブランドを守るということであるから、対象が限定されている。

つまり、ルイ・ビィトンであれば、それは鞄について言える事であって、ルイ・ビィトンの登録商標を車のボディ一面に書いて街中を走ったとしても、商標権侵害にはならないし、また、シュワルツネッガーと宮沢りえちゃんがVサインをしている写真の下にアリナミンVと印刷しているTシャツを着ていても、薬品会社から商標権侵害として訴えられることはないのである。

4．「偽人ー整形美人及び性転換」のケース
——法律家も困る

さて、最後に、人について、偽物を考えてみよう。

法律的に問題になるものといえば、身代わり犯人が、直ぐに思い浮かぶかも知れない。

真犯人には、当然、犯罪が成立するとして、身代わり犯人となった者自身も、例え、真犯人のためにしたとしても、刑法上は、犯人隠避（いんぴ）罪となり、2年以下の懲役か20万円以下の罰金が課せられることになる。

などと聞くと、例えば、息子や夫のために身代わり自首した場合の父親や奥さんは、あまりに可愛そうではないかと思われるかもしれない。確かにその通りで、そのような場合には親族間の特例として、刑が免除できる事になっているのである。ただし、これはあくまでも親族間だけで友人の場合には適用されないから、むやみに身代わり犯人になどなるものではないということである。

偽人の例として、最近盛んな美容整形の場合はどうか。

以前に、「結婚してから奥さんが整形美人だったことが分かった、これは詐欺ではないか、離婚の理由にはならないのか。」という相談を受けたことがある。

これには、答えに困ってしまったのであるが、やはり、奥さんが例え整形美人であったとしても、それは詐欺にはならないし、またそれだけでは離婚原因として離婚することができないであろう。

結婚するときに、当事者双方は、それまでの自分の経験した事実をすべて相手に告知する義務はないのである。

さて、美容整形の際たるものに性転換がある。

女性から男性に転換するというのはあまり聞いたことがないので、男性から女性に転換する例を考えてみるが、まず、転換すること自体、法律的に許されるのかであるが、現在、性転換手術は、今だ社会的コンセンサスが得られていないと言うことで、法律的には、痔手術をした医者の行為は傷害罪に当たると解釈されている。

例え、本人の同意があったとしても、行為自体が違法である以上、違法性は阻却されないと言うことであろう。法律的には非常に難しい問題である。

5．最後に

さて、コピーを、主に、違法の面から取り上げてみたが、コピーは、半面、技術の発達を促し、社会に貢献している点もある。

そして、これは、法律の面でもいえることで、コピーによって、法律の解釈の変更を迫られたり、法律そのものを改正する必要さえ生じる場合がある。例えば、文書偽造罪の文書は、刑法制定当時、原本を指すものと解釈されていたが、コピーそのものが、原本と同じように使われるようになり、それが偽造されるようになると、文書概念を拡大解釈することが要求され、更には、フロッピーディスクによる文書内容のデータ化が進むことによって、その偽造行為を処罰するため、文書偽造罪には、電磁的記録物の偽造も含むというように改正（平成3年改正）せざるを得なくなったのである。

コピーは、法律そのものにも、影響を与える存在なのである。

（くわもり　ひとみ／弁護士・阪神法律事務所）

コピー文化の新時代をみつめて

吉村英祐

文化をになうコピー

コピーという行為は、人類の文化を後世に伝えるための重要な手段であり、言語、宗教、儀式、習慣、建築、芸術、服装、料理など、およそ人間の生活にかかわることは、ほとんどすべてコピーという行為を通して後世に伝えられてきた。しかし写真、複写、録音、録画などの技術がなかった時代には、コピーの段階で情報の欠落や変質が生じるのは避けられなかった。確かめる方法はないが、雅楽や能・歌舞伎などの古典芸能や祭事の儀式も、長年のうちにかなり変化しているはずである。デザインのコピーも、伊勢神宮のように式年遷宮を繰り返し、60回のコピーを経た1,200年後の現在も当初の姿をよくとどめているものもあるが、これはむしろ例外に属する。たとえば仏教寺院の様式や仏像は中国、朝鮮半島、日本と仏教が伝わっていくうちに次第に変化しているし、隠れキリシタンがひそかに信仰していたキリストの像は、キリスト教が解禁された明治維新の頃には、仏像のような顔や姿に変化していたという。

コピーのおもしろさ

そっくりさんは、なぜおもしろいか？　この問いにまじめに取り組んだフランスの哲学者・ベルグソンによれば、似ている人がおもしろいのは不完全に似ているからであり、似すぎていると感動が笑いにまさってしまうのだという。たとえば、週刊朝日の「山藤章二の似顔絵塾」に載る投稿作品には思わず笑ってしまうが、逮捕された犯人がモンタージュ写真や人相書きにそっくりであれば、感心こそすれ、おかしいとは思わないであろう。

建築でいえば、明治時代に大工の棟梁が洋館を見よう見まねで建てた「擬洋風」の建築や、古今東西の有名建築を模倣した富山県小矢部市のコピー建築群（日経アーキテクチュア1990年２月５日号、pp.94-98)、中世ヨーロッパの民家や城のデザインをまねた遊園地、レストラン、喫茶店などのデザインが「おもしろい」コピーの例である。しかし、その多くはオリジナルとの差が歴然としており、中途半端、安っぽい、あるいは単なる寄せ集めという印象から、コピー文化が一段低く見られる一因ともなっている。一方、われわれを無条件に感動させるのが、オリジナルに肉薄する精巧なコピーである。超精密模型やスーパーリアリズムのアートの前では思わず顔を近づけ眼を凝らしてしまうし、身近なところではレストランの店頭にあるロウ製の料理見本もそうである。

ところで大阪に最近、「アムラックス大阪」「滝見小路」「ディノ・アライブ」という「感動する」精巧なコピーがあいついで出現し、ちょっとした話題になっている。「アムラックス大阪」は梅田ＯＳビル内に昨夏オープンしたトヨタのショールームで、その２階にはイタリアの古い街角が、妹尾河童氏の手で石積みの壁から店先の小物にいたるまで凝りに凝って再現され、イタリア人も感心するという、すばらしいできばえである。「滝見小路」は、梅田スカイビル地下にある、昭和初期の大阪の街並みを再現した飲食店街で、郵便局、居酒屋、理髪店などの店舗のファサードや字体、うすよごれたポスター、錆びたホーローの看板類まで、その凝りようも相当である。「ディノ・アライブ」は昨年、西梅田のＪＲコンテナヤード跡地で開催された一大恐竜イベントで、最新の学説とハイテク技術を駆使した恐竜のメカニカルモデルが目玉として展示されていたが、その大きさやダイナミックな動き、皮膚のテクスチュアのリアルさなど、従来の水準をはるかにこえた迫真の恐竜模型に圧倒された。

完全コピーの出現

写真、複写、録音、録画と進歩してきたコピー技術は、ついに「完全コピー」を生み出すにいたった。従来のコピーは、どんなに本物（オリジナル）に近づいても決して本物と同一にはなりえず、たとえば録音やビデオテープはコピー（ダビング）をくり返すほど音質や画質が劣化するのは避けられなかった。しかし、ＣＤなどに使われているデジタル信号の登場により、何十回コピーしてもまったく劣化しない「完全コピー」が可能になった。バイオテクノロジーの進歩は、生命の世界にまで「完全コピー」を生みだした。遺伝子のレベルまで全く同一の個体であるクローン、さらにクローンのクローン（リクローン）が作られ、クローン牛はすでに実用化している。最近、人間の受精卵のクローン化に成功したと新聞で報道されたが、生命倫理上の問題が大きく、その危険性が強く指摘されている。

コピー文化の新時代にむけて

コピー技術の進歩は、われわれに数知れない恩恵をもたらし、また人類の文化の発展に多大な貢献をしてきたが、一方で偽造の精巧化、著作権の侵害、犯罪の高度化・複雑化、生命倫理の危機などの問題を新たにかかえることになった。いったんハイレベルのコピー文化を経験してしまった社会はますます本物志向を強め、新たなコピー技術を次々に開発していくであろう。しかし、新しい技術を獲得し利用するためには、それをコントロールする高い倫理性が要求され、コピー技術の進歩も例外ではない。文明は時に文化を破壊するといわれるが、コピー技術という文明をコピー文化の発展のために使っていくことができるかどうか、今われわれの英知が試される時代を迎えている。

（よしむら　ひでまさ／大阪大学工学部建築工学科助教授）

MAKE UP THE CITY

優れた技術力で
"都市の顔"をクリエイトする。



大同生命大阪本社ビル（大阪市'93年）
設計監理 日建設計・一粒社ヴォーリズ建築事務所

営業種目 ●プレキャストコンクリート・カーテンウォール　設計・製造・施工
●ビル外装材輸入・販売

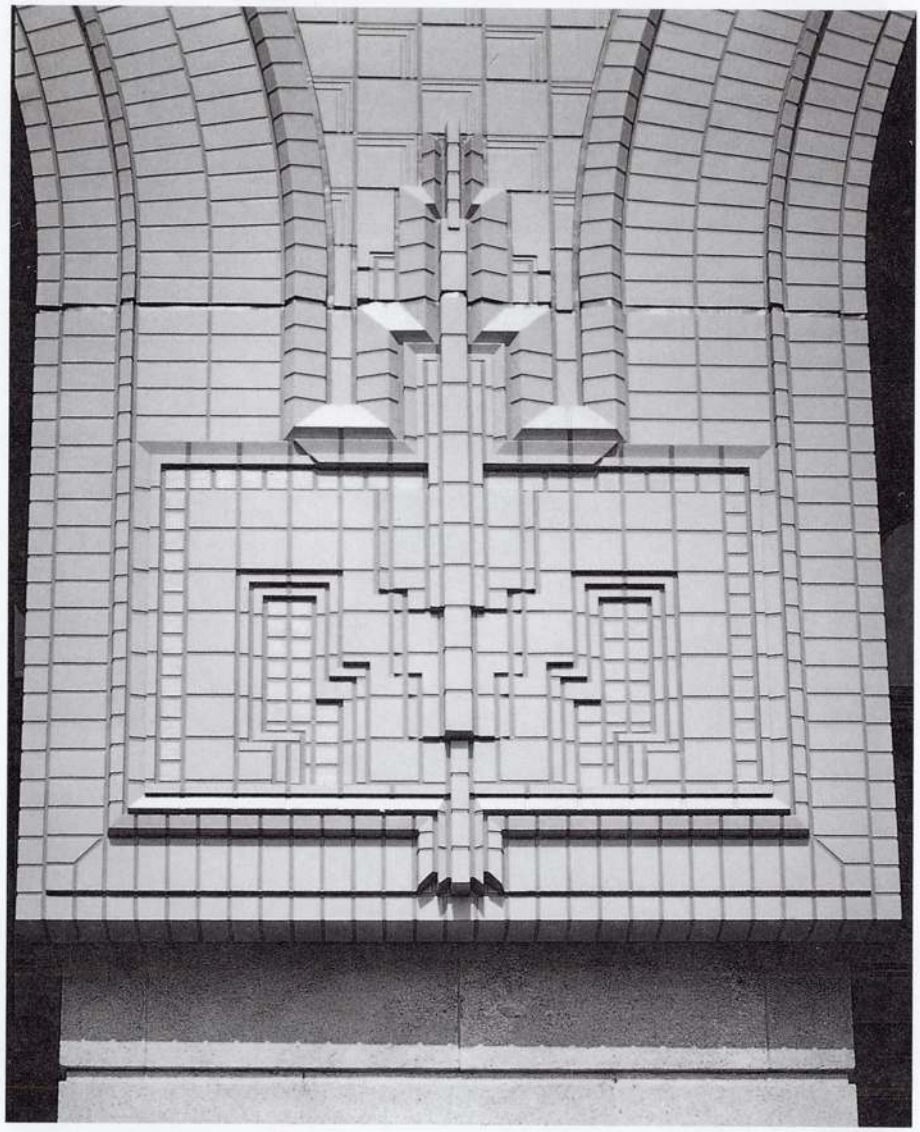
（コンクリートカーテンウォール工業会一種会員）

株式会社ダイワ

本社・工場	三重県員弁郡大安町大字梅戸字笹谷1316	〒511-02	TEL. 0594-77-0821
名古屋支店	名古屋市昭和区鶴舞2丁目5番22号	〒466	TEL. 052-883-2611
大阪支店	大阪市西区西本町1丁目15番8号	〒550	TEL. 06-532-1175
東京事務所	東京都港区元赤坂1丁目5番31号	〒107	TEL. 03-3796-6030

建築美の再現

歴史的な建築美を現代から未来へと伝える修復工事。
建物の機能を向上させながら、旭硝子のＧＲＣ「サンクリート」の成型性・造形性を生かして、ディテールからテクスチユア、素材の質感まで、美しく再現するリフレッシュ工法です。



丸の内ビルヂング（タイル模様 GRC にて再現）
所在地／東京都　建築主／三菱地所㈱　設計監理／三菱地所㈱　施工／㈱大林組

旭硝子株式会社

本　　社	〒100 東京都千代田区丸の内２－１－１（千代田ビル）	電話	03(3218)5792(窯業建材事業部)
東京支店(分室)	〒110 東京都台東区東上野２－１－13(東上野センタービル)	電話	03(3842)6201(GRC 課)
大阪支店(分室)	〒523 大阪市淀川区西中島５－３－10(タナカ・イトーピア新大阪ビル)	電話	06(885)7875(GRC 課)
札幌支店	〒060 札幌市中央区北２条西４－１（北海道ビル）	電話	011(212)3885(GRC 課)
仙台支店	〒980 仙台市青葉区一番町３－１－１（富士ビル）	電話	022(225)7303(GRC 課)
関東支店	〒100 東京都千代田区有楽町１－12－１（新有楽町ビル）	電話	03(3283)9351(GRC 課)
名古屋支店	〒450 名古屋市名駅４－11－27（第二豊田ビル東館）	電話	052(583)2882(GRC 課)
広島支店	〒730 広島市中区新天地２－４（有楽ビル）	電話	082(248)3739(GRC 課)
福岡支店	〒812 福岡市博多区博多駅前２－２－１（福岡センタービル）	電話	092(441)4124(GRC 課)

鉄骨&PC

IRON FRAME & P.C.STEEL INDUSTRIAL METHOD

豊国重機株式会社
本　　社／広島市中区大手町5丁目16-1
☎代表(082)246-4455 FAX(082)246-8930

営業所／広島・東京・大阪
工場／広島・千葉・宮城

KOKUYO


秋田市立千秋美術館



グッドデザイン選定商品
四面ガラスケース(自然循環型)
MU-C163UG

ベストコレクションを
ベストコンディションで。

Museum Case
コクヨ〈ミュージアムケース〉

鑑賞のための展示条件と、展示物を保護するための保存条件を同時にクリア。展示&保存のベストコンディションを実現しました。

コクヨ株式会社 ●本社 〒537 大阪市東成区大今里南6丁目1番1号☎(06)976-1221(大代) ●オフィス所在地/札幌・仙台・品川・横浜・浦和・名古屋(中区・東区)・大阪・広島・福岡

THE HUMAN DIMENSION FROM KOTOBUKI



K•O▲T■O•B▲U■K•I

株式会社コトブキ 本社：東京都千代田区有楽町1-2-12 〒100 Tel.03-3591-1311㈹

札幌011-221-3496/青森0177-43-7321/秋田0188-63-9511/盛岡0196-25-0713/東北022-284-1011/水戸0292-25-8222/北関東0286-62-7251/千葉043-275-2161/埼玉048-644-5275/武蔵野0422-53-8221/横浜045-471-7151/新潟025-243-2216/長野0262-28-9722/静岡054-282-8792/名古屋052-773-4321/京都075-371-3221/大阪06-396-5111/金沢0762-47-7422/神戸078-271-8585/岡山086-246-0818/高松0878-51-9140/広島082-230-1261/山陰0852-22-7511/九州092-441-0763/長崎0958-64-0102/鹿児島0992-58-2361/沖縄098-863-7803

三晃金属工業株式会社
Sanko



屋根を創る
屋根を守る
屋根を活かす

金属屋根工事・防水工事・塗装工事・建材
全国に広がる販売網と施工体制

三晃金属工業株式会社

本　社　東京都中央区京橋2—9—2 第1ぬり彦ビル　〒104 ☎03(3567)3551(代)
東　京☎03(3297)5180～3　横浜☎045(681)1235～7　名古屋☎052(582)0311 (代)
大　阪☎ 06(231)8571 (代)　中国☎082(264)7881 (代)　九　州☎092(441)3551 (代)
北海道☎011(726)3551 (代)　東北☎022(225)7591 (代)　北　陸☎0762(23)4980～2



豊富な実績と経験から得られた
幾多のノウハウに最新の技術を
加えた三精輸送機の総合力は、
あらゆるニーズに的確にお応え
します。

舞台機構・昇降機・立体駐車装置・遊戯機械装置　設計／製作／施工

三精輸送機株式会社

代表取締役社長　太田昭比古

本　社　大阪府吹田市江坂町1丁目13番18号　〒564　Tel 06-385-5621（大代表）
東京支店　東京都渋谷区千駄ケ谷5丁目29番11号(ナカニシビル)　〒151　Tel 03-3356-5651
営業所　札幌・青森・仙台・秋田・金沢・名古屋・広島・九州
工　場　京都府福知山市長田野2-45　〒620　Tel 0773-27-1211



株式会社平田タイル®

本　　社／〒550大阪市西区阿波座1-1-10
☎06-532-1231
東京事務所／〒107東京都港区北青山3-6-19
☎03-5485-0731
●富山●金沢●大津●京都●京都南●吹田●池田●大阪
●門真●東大阪●堺●岸和田●神戸●姫路●岡山●広島
●岩国　アクアピア芦屋

スポーツフロアに要求される機能を
あらゆる角度から追求しました。



〔特徴〕
●クッションゴムと独自のパネル式構造の組み合わせにより、均一でムラのない床弾力性を得られます。
●移動観覧席や土俵など重量物が設置されるような多目的用途でも、十分な強度を保ちながら床弾力性を損なわない対応ができます。
●ユニット工法のため、作業は簡単で、工期の短縮が可能です。
●床下空間が広く、換気通風性に優れています。
●階上体育館でも、階下に対して大きな防音効果を得られます。

スポーツフロア用床下地システム
ユニットフロアG

株式会社ブリヂストン
東京都中央区京橋1丁目10番1号 〒104
建築用品販売第1部
TEL.03(3563)6925
FAX.03(3567)0562

〝第12回アジア競技大会 広島1994〞によせて

中国支部特集

広島の新しい街造りとアジア競技大会の会場巡り



メイン会場より選手村(A.CITY)を望む
〔C・G〕野村不動産提供

巻頭の言葉

第12回アジア競技大会広島1994

作　　品

広島広域公園陸上競技場(広島ビッグアーチ)

広島県立総合体育館(グリーンアリーナ)

広島市総合屋内プール・東区スポーツセンター・牛田公民館

広島広域公園テニスコート

広島市民球場

広島広域公園第一球技場

広島広域公園第二球技場

広島市中区スポーツセンター

広島市中央庭球場

広島市佐伯区スポーツセンター

広島市安佐北区スポーツセンター

広島安芸区スポーツセンター

広島経済大学石田記念体育館

広島競輪場(入場門他)

東広島運動公園体育館

みよし運動公園陸上競技場

呉市営二河野球場

広島サンプラザ

広島県立総合体育館大型映像装置

〝アジア競技大会〞に向けてホテル建築のつづく広島市内

第12回アジア競技大会広島1994競技会場マップ

記　　事

民間の好意で利用できる選手村→A.CITY

広島西部丘陵都市の概要

「アストラムライン」(広島新交通システム)の概要

本特集支部編集委員会

平本俊秋、稲葉　登、古林敏郎、平本悦人、有信小枝子、主田和明

岡田幸雄、横田昇三、森畑　武、橋本秀夫、柴田修身、辻　誠治

作品写真撮影　国際写真

第12回アジア競技大会 広島1994

財団法人　広島アジア競技大会組織委員会　会長

古橋　廣之進



皆様、明けましておめでとうございます。

アジアの若者達が力と技を競い、交流を繰り広げるスポーツと文化の祭典、「第12回アジア競技大会広島1994」がいよいよ今年10月に迫ってまいりました。

このアジア競技大会は、スポーツの公正な競争を通じて、アジアの若人の中に道徳的、身体的な資質の向上と国際的な尊敬心、友情及び親善を促すことを目的としたアジア諸国・地域の総合的なスポーツの祭典です。

第１回大会は、1951年（昭和26年）に大会開催の提唱国であるインドのニューデリーで開催され、以後原則として４年に一度、オリンピックの中間年に行われてきました。財政事情などにより、急きょ開催地が変更になるなど幾つかの曲折はありましたが、大会は順調に発展し、アジアのスポーツ振興と交流拡大に大きく貢献してきたのです。公式プログラムには、スポーツ競技のほか、建築・絵画・彫刻の展示や音楽・伝統芸能の公演などの芸術展示もふくまれ、文化の交流も図られています。

大会の主催はアジアオリンピック評議会（略称：OCA）で、アジア競技大会は言わばアジア地域のオリンピックと言えましょう。

我が国では、1958年（昭和33年）に東京で第３回大会が開催されており、広島大会は実に36年ぶり２回目の開催となりますが、首都以外の都市での開催は大会史上初めてとなります。

さて、広島大会は、本年10月２日㈰から16日㈰までの15日間開催されます。この大会期間は、広島地方の過去30年間の気象状況を調査のうえ決定しました。実施競技・種目は、陸上競技、水泳を始めとする34競技337種目です。競技会場は、広島市を中心とする県内８市２町２村の各地（自転車競技の団体ロードは、山口県の宇部興産専用道路）の43会場です。また、参加国・地域及び参加選手・役員はOCAに加盟する43の国と地域から約7,300人の参加が見込まれております。これは、競技・種目数、参加国・地域数、参加選手・役員数のいずれもアジア競技大会史上最大規摸となっており、参加選手・役員数は1964年（昭和39年）の第18回オリンピック東京大会にも匹敵（7,482人）し、しかも実施競技数（20競技）は約２倍になるなど、我が国で開催される国際的なスポーツイベントとしては最大規模となります。

広島大会開催意義の第一は、国際平和、国際親善への貢献です。原爆被災という人類史上例を見ない惨禍を体験した広島は、戦後一貫して核兵器の廃絶と恒久平和の確立を世界に向かって訴え続けてきました。

アジアの明日を担う若人が集い、被爆から見事に立ち直った広島の姿を通じて、また、広島県民・市民とスポーツを通じて交流し、ヒロシマの願いを理解し、平和の尊さを感じ、平和への関心を高めることは、世界平和に大きく貢献することになります。



メイン会場及び選手村(A.CITY)〈工事中〉　　野村不動産提供

もとより、世界平和は、国と国、民族と民族が交流を深め、多くの人々が手を取り合い、心を触れ合うことから培われるものと思います。広島大会はこうした交流を深める場として期待されます。

第二は、スポーツの振興です。最近は、健康づくりへの関心が高まり、多くの県民・市民が余暇を利用して、各種スポーツ大会やスポーツ教室などに参加し、積極的にスポーツに取り組んでおられますが、アジア競技大会を開催することにより、スポーツへの関心が高まり、スポーツ愛好家をさらに増加させることになります。アジア競技大会開催を契機に、広島市内はもちろん、広島県内に数多くのスポーツ施設が整備されましたが、これらの施設がより多くの広島県民・市民に利用されることになるでしょう。

第三は、21世紀に向けた都市基盤の整備が促進されることです。アジア競技大会を円滑に運営していくためには、各種競技施設、選手村はもとより、道路、大量輸送機関、空港、下水道等の整備を図ることが必要です。

これらの都市基盤の整備については、国や地方公共団体などが地域の発展と住民の快適な生活環境を確保するため、長期計画を策定して事業を進めていますが、アジア競技大会の開催を契機として事業の整備促進を図ることができます。それを裏付けるように、広島県内の各地で整備が進んでいる競技施設、道路、空港などの大会関連公共事業の総額は、１兆５千億円にのぼります。

一般的に、社会資本投資の誘発係数は、２倍から2.5倍と言われており、アジア競技大会開催による経済波及効果が３兆円以上となるという試算がでています。また、ホテルなどの民間投資も相次いでいます。

その他、巨大なイベントを開催するためのノウハウの蓄積、国際化の推進、スポーツ王国・広島の復活等々が広島アジア競技大会の開催意義として考えられます。

大会運営費に対する国からの直接補助はありませんが、『Asian Harmony～わかちあう感動、結びあう友情。～』という大会スローガンのもと、質素であっても〝温かみのある大会〟こそが広島大会の目指す方向であり、広島大会のセールスポイントは人情の温かさであると考えております。

大会期間中はもちろん、大会終了後、いつまでも「広島に来てよかった。」「広島に行ってよかった。」「広島は良くなった。」と言われることが、大会の成功につながります。そのためには、広島県民・市民を始め、数多くの人々の力が必要です。その力が結集できれば、地域を見直し、地域を飛躍させることも大いに期待できます。

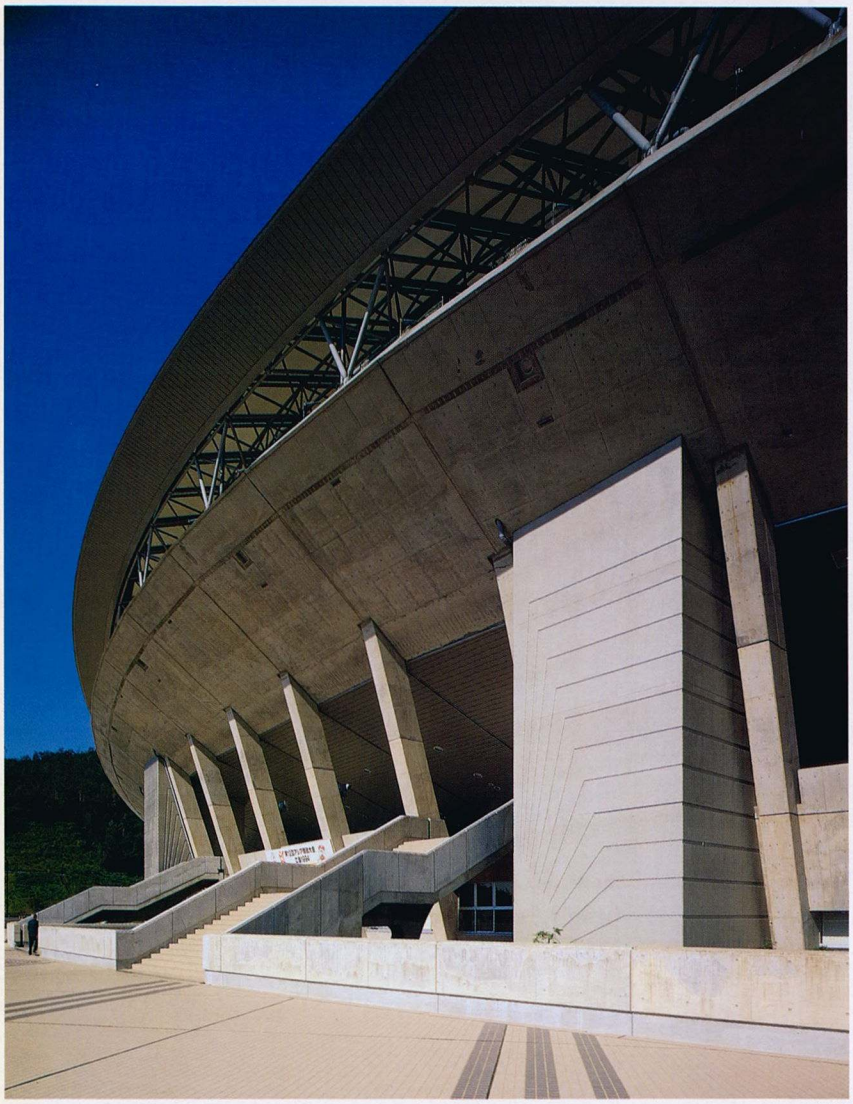
広島大会を成功させるために、皆様一人一人のより一層のご協力とご支援を切にお願いいたします。

平成６年１月

第12回アジア競技大会
広島1994

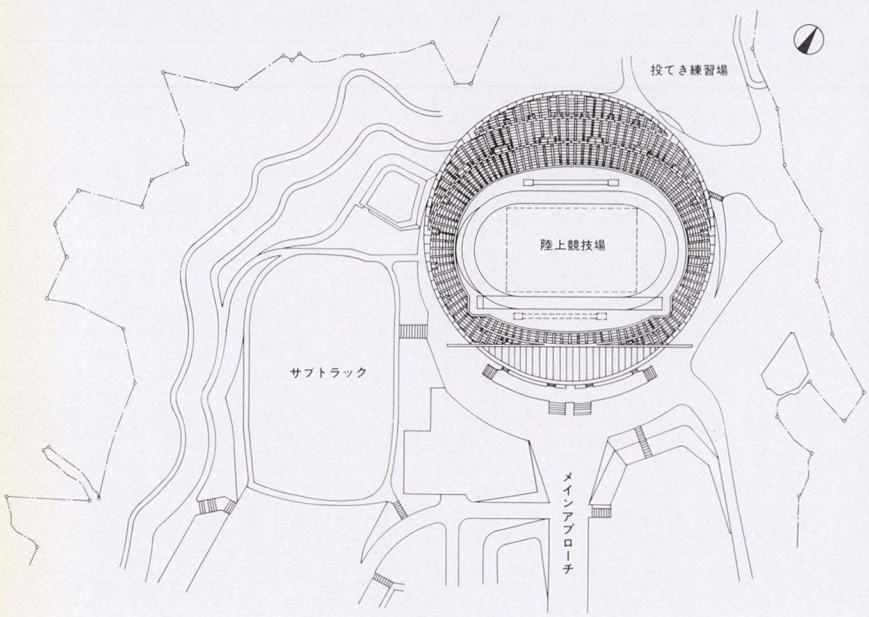
広島広域公園陸上競技場(広島ビッグアーチ)

設計監理　広島市　住宅・都市整備公団　東畑建築事務所
施　　工　大林組・大之木建設・松本建設工事共同企業体
　　フジタ・増岡組・栗本建設工事共同企業体

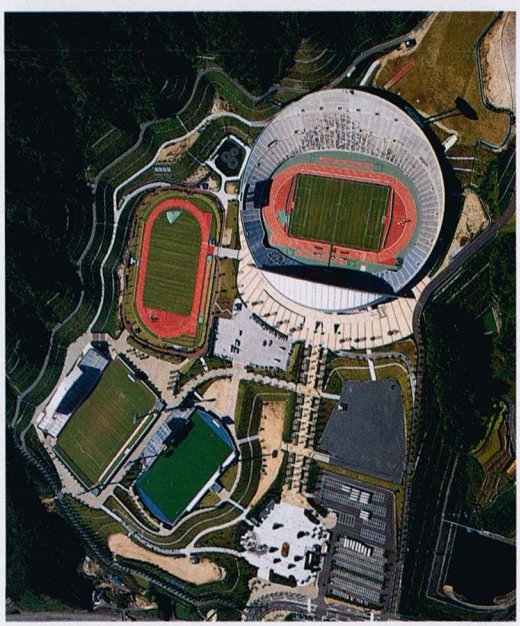


外観





配置図　1:6000



航空写真



南西からのぞむ



カスケードのあるアプローチ

所 在 地　広島市安佐南区沼田町大字大塚
敷地面積　482,774㎡
建築面積　17,684㎡
（競技場水平投影面積45,740㎡）
延床面積　14,895㎡
（収容人員50,000人）
構造規模　SRC、RC、S、5F
工　　期　平成２年１月～平成４年９月
最 寄 駅　山陽本線広島駅



メインスタンドを望む

本競技場は、広島広域公園の中心施設として計画され広く市民に親しまれると同時に、「国際平和文化都市ひろしま」にふさわしいシンボル性に富んだ施設である。

又、第12回アジア競技大会広島のメイン会場として、開・閉会式、陸上競技、サッカー競技が行われる。このような国際レベルの祭典にも幅広く対応できるとともに、象徴的なデザインと文化性の高い運動施設を目指して計画を進めた。

競技場の平面形状は直径240mの真円で、世界にも例が無く、無限の広がりと連続性を意図し完結された美しさを表現する。又、長さ200mの大アーチは、市民の願いである「恒久平和への祈り」と未来へのかけ橋として、希望に満ちた形でメインスタンドを覆っている。

機能面では、競技内容や大会規模に応じて柔軟に対応できるよう、フリーゾーンと固定ゾーンを設定し、これに合わせて、電気・給排水設備の配置計画を行った。

これからの競技場は、情報発信基地としての役割が重要であるので、特にフィールド内に情報ネットワークを網羅した。

情報処理にはミニコンピューターを導入し、プレスへの十分なサービスや他施設とのネットワークも可能となり、21世紀へ向けての最新鋭のスタジアムであると云える。

さらに、この競技場が今年のアジア競技大会で、その役割を十二分に発揮してくれることを期待している。

(萩原信行・清野真一／東畑建築事務所)



食堂・喫茶室



メモリアルホール(大会時にはプレスセンター)

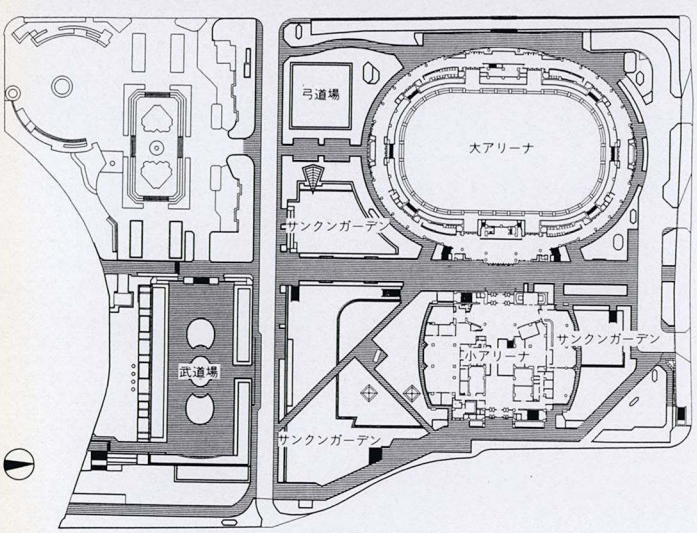
メインスタンド(南西側より)▶



広島県立総合体育館(グリーンアリーナ)

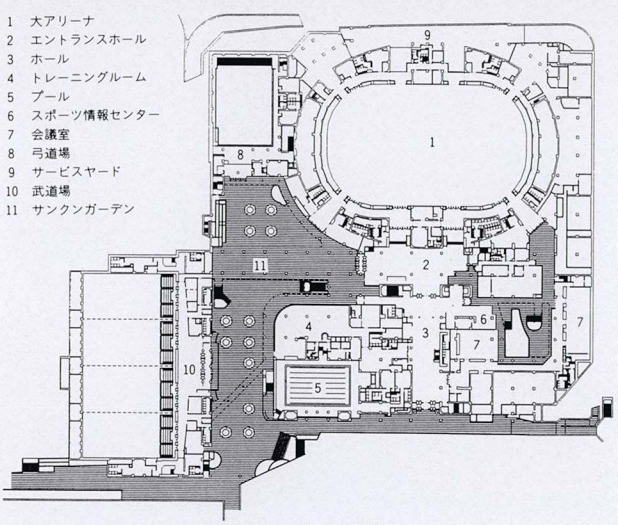
設計監理　広島県 日建設計
施　　工　フジタ・大林組・清水建設・五洋建設・大日本土木・増岡組共同企業体(第1・第2競技場)
　　三菱建設・日産建設・鴻治組共同企業体(第3競技場)





配置図・1階平面図　1：3000

1　大アリーナ
2　エントランスホール
3　ホール
4　トレーニングルーム
5　プール
6　スポーツ情報センター
7　会議室
8　弓道場
9　サービスヤード
10　武道場
11　サンクンガーデン



地下1階平面図　1：3000



第１競技場をのぞむ



第２競技場



第２競技場

所 在 地　広島市中区基町5-1
敷地面積　436,000㎡（公園面積）
　　30,865㎡（占有面積）
建築面積　10,300㎡
延床面積　50,350㎡
構造規模　SRC、RC、B2、3F
工　　期　1990年12月～1993年11月
最 寄 駅　JR山陽本線広島駅



第１競技場▶



小アリーナ

平和記念公園から広島城へ至る都市公園は、戦後の都市計画の中で重要な南北軸として位置づけられている。敷地はその中心部に位置し、東西に広がる美術館、図書館等の施設を含め、緑豊かな景観を形成している。

県立総合体育館は、競技面積3,500㎡の大アリーナを中心に、小アリーナ、武道場を含めた3つのアリーナと、弓道場、プールなどの関連施設から構成されている。公園内施設として建ぺい率が厳しく制限されているなかで、体育館としては、日本でも最大級の面積を有する施設を、都市公園とのバランスを保ち、新しい景観として創造することが設計に際しての大きなテーマとなった。そのために、地下レベルに広大なサンクンガーデンを設け地下空間を最大限に利用している。各施設はサンクンガーデンを中心に配置し、また、地下2階には周辺4つの駐車場をアクセス道路で接続した日本初の地下道路システムが導入される。

地上レベルは、大アリーナと小アリーナを独立した形態で並置した計画とし、その足元は可能な限り歩行者空間として開放した。

周辺部に植えられたくすのき、やまもみじ、けやき等の樹々が年とともに成長し、大アリーナの緑の屋根と一体となった、新しい公園空間となっていくことを期待したい。

(森田一哉／日建設計)



武道場



プール



大アリーナ

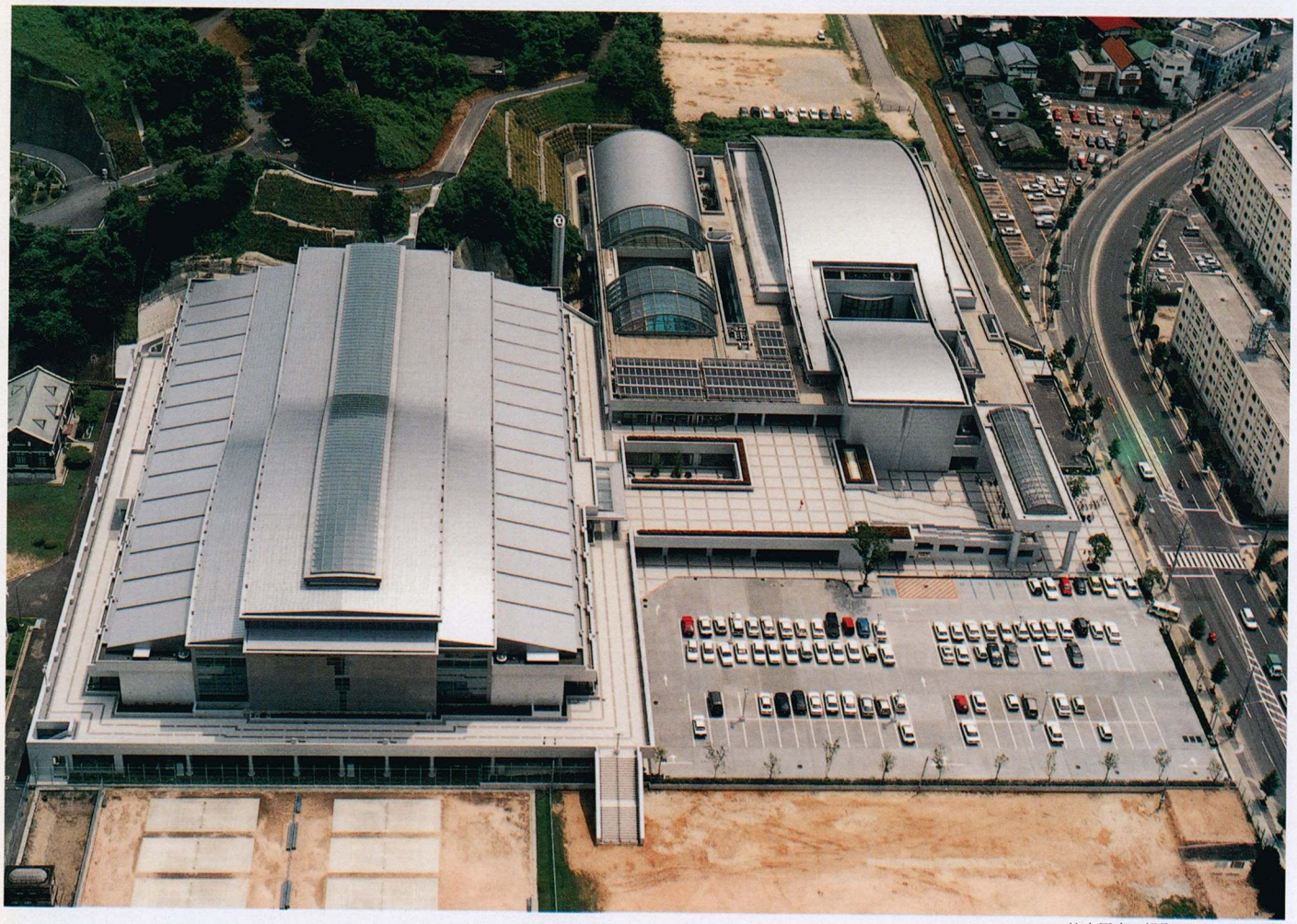


エントランス

第12回アジア競技大会
広島1994

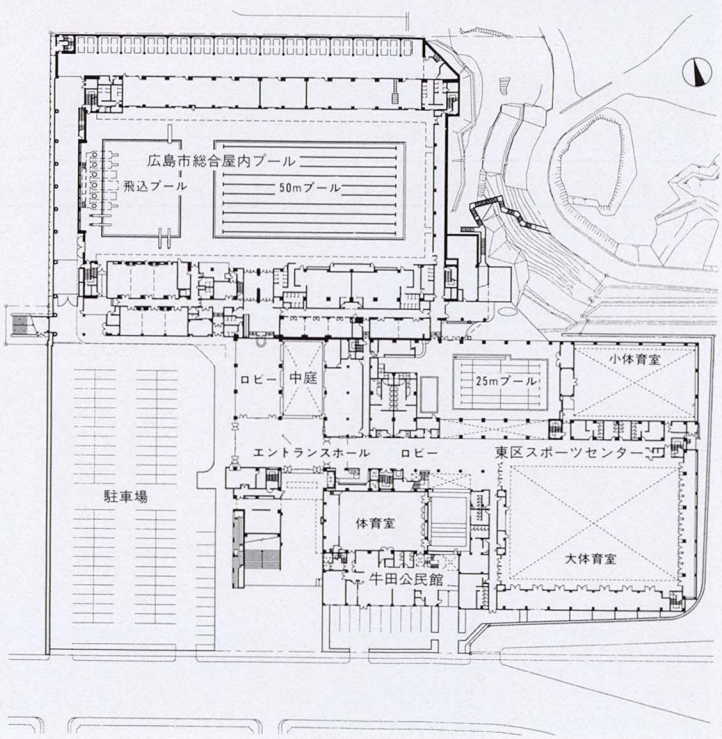
広島市総合屋内プール・東区スポーツセンター・牛田公民館

設計監理　広島市 日建設計
施　　工　フジタ・前田建設・広成建設・正田建設工事共同企業体(広島市総合屋内プール)
　　間組・アイサワ工業・上野谷建設・山陽工業建設工事共同企業体(広島市東区スポーツセンター)



航空写真　撮影　C・Fフォトス

この建物は、効率的な土地利用により内容規模の異なる３施設を総合施設として一体整備し、地域に密着したスポーツ・コミュニケーションの場をつくる為計画された。それぞれの施設が大きな内部空間をもつため、計画にあたっては大空間の施設を全て１階に設け、周辺への圧迫感を避けるとともに利用上の利便をはかり、中庭やデッキを介して形態的にも機能的にも統一感と連続感をもった構造となるように配慮した。
施設利用者と観客動線を分離するために設けた２階デッキは、この施設へのアプローチとしてだけでなく、周辺施設への動線の中心として人々が集まる街並みの核となる。このデッキを施設群の共通の基壇として、水平線を強調した壁面とステンレス曲面屋根による外観は、内部空間の形を外形に表すとともにスポーツの場にふさわしいダイナミックな躍動感の表現を意図した。軽快に流れるような形態は、広島市の象徴であり市章のモチーフでもある「太田川の流れ」のイメージにも結びつく。
飛込・50mの公認プールをもつ総合屋内プールは、高い天井とトップライトの自然採光により広々とした明るい空間とし、セラミックタイル貼のフィンランド式プールサイド・オゾン浄化装置による安全で透明度の高い高品質の水質を保持するろ過システム・屋内プールで国内初のカラー映像大型電光掲示板を設けるなど、メンテナンスと泳ぎやすさを考慮した快適な施設づくりを行った。この総合屋内プールは、大会時にはサブプールとして一体的に利用ガラスドーム屋根が開閉する公認25m温水プール、柔道・剣道・各種球技の国際競技が可能な高い曲面天井の大・小体育室、トレーニング室等をもつ東区スポーツセンターと一体となり、国内有数の総合屋内スポーツ施設を形作っている。　（日建設計）



1階平面図・配置図　1：2000

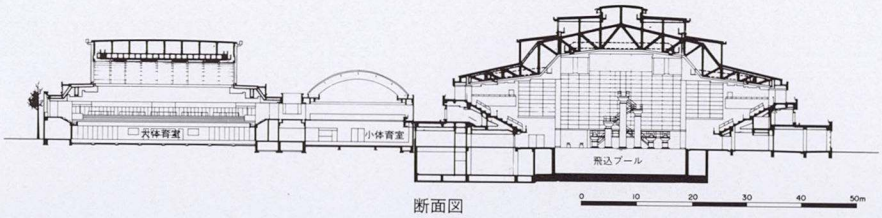
所 在 地　広島市東区牛田新町一丁目
敷地面積　26,000.00㎡
建築面積　16,530.70㎡
延床面積　27,163.42㎡
構造規模　SRC、RC、一部S、B1、2F
工　　期　1987年９月～1989年３月
最 寄 駅　JR山陽本線広島駅



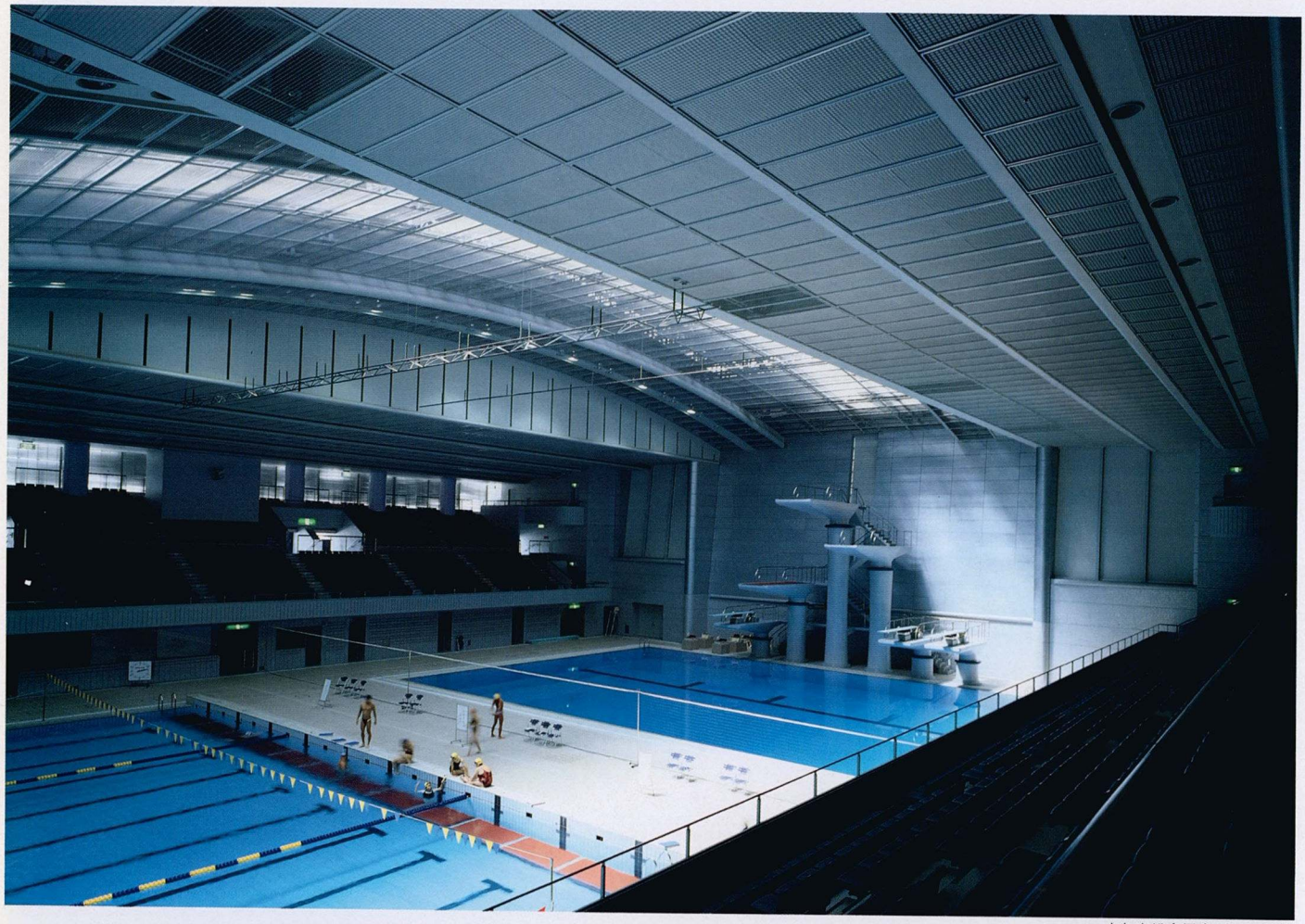
広島市東区スポーツセンター外観



広島市総合屋内プール外観



断面図

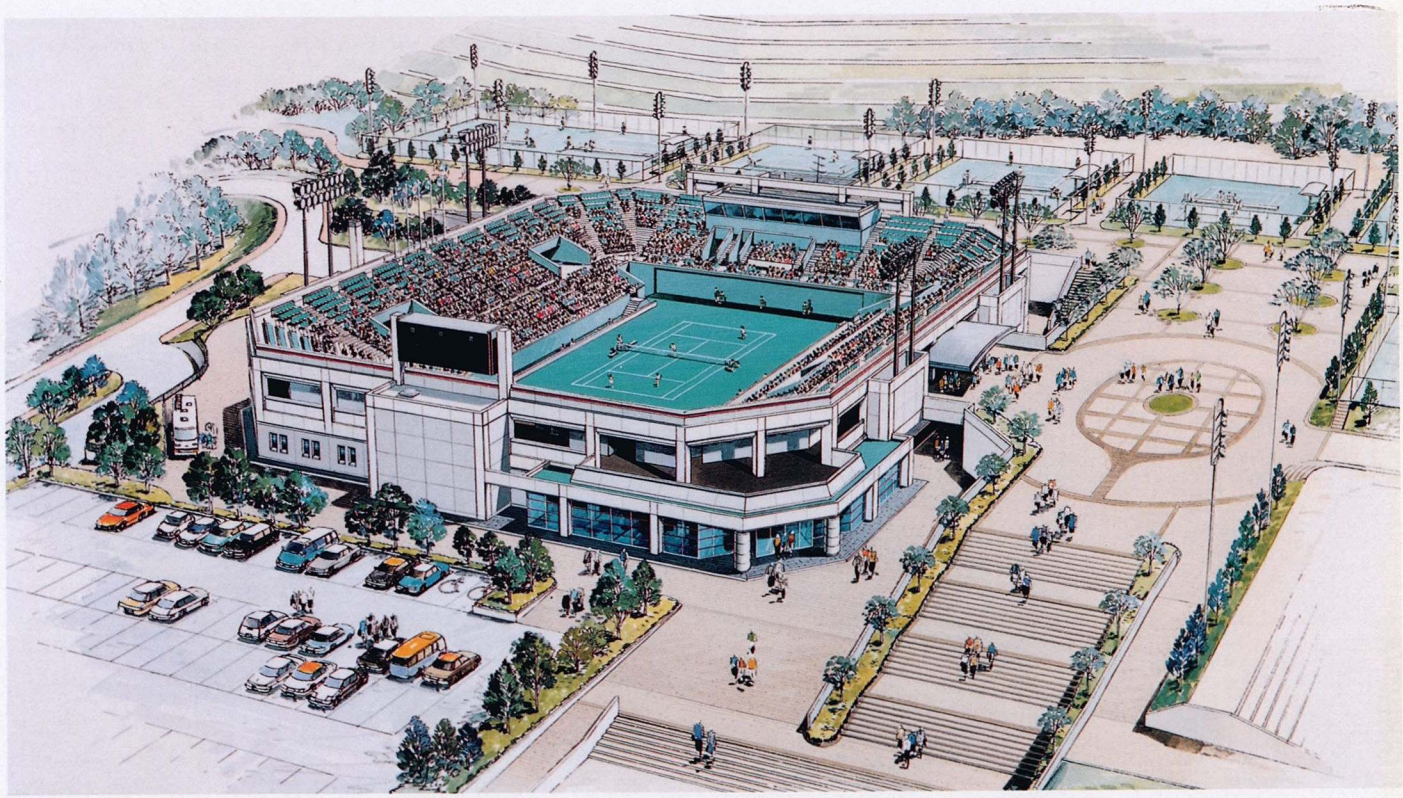

広島市総合屋内プール内部



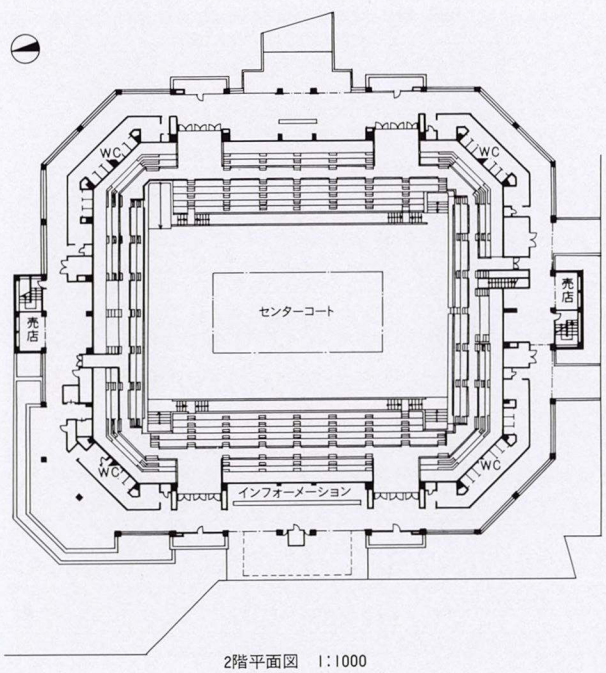
広島市東区スポーツセンター大体育室

広島広域公園テニスセンターコート

設計監理　広島市　安井建築設計事務所
施　　工　フジタ・広成・鴻治建設工事共同企業体



所 在 地　広島市安佐南区沼田町大字大塚
敷地面積　598,694.44㎡
建築面積　　3,595.14㎡
延床面積　　4,821.52㎡
構造規模　RC、一部S、3F
工　　期　平成４年７月～平成５年12月
最 寄 駅　アストラムライン広域公園前駅(予定)



2階平面図　1:1000

「太陽と緑の光り輝く健康スポーツパーク」を基本方針とし、アジア大会の主会場に予定されている、広島広域公園。その北側隣地にはアジア競技大会の選手村としてその一部が利用される人口10万人を目指す西部丘陵都市（A・CITY）が現在開発中である。観客収容数約3,000人のセンターコートと15面のサブコートからなるテニス場は、この西部丘陵都市に面した広域公園の北端部に位置しており、この立地特性と日常的スポーツとしての位置付けにより、日常利用から国際大会まで幅広く対応できる施設となることを目指したものである。

センターコートの平面計画は、サブコート側の南・西面が高く、アプローチ道路側の北・東面が低いという敷地の特徴を生かして、観客動線は西面サブコート側広場より２階通路を経て直接スタンドへ、選手や日常利用者・管理関係者はアプローチ道路より１階ロッカー室などを経てセンターコートへ至る動線としている。

立面計画は、２階スタンド外周部の柱・梁を利用したヒューマンスケールのフレーム構成により外壁表面を構成することで、威圧感をやわらげ、またリズミカルな白いフレームによりテニスのイメージへつながる軽快さ、明るさを表現することで周辺住環境への融和を図ったものである。

本センターコートのひとつの特徴は、ナイター照明灯によるコート面への昼間の日影を避けるために、常時はスタンド後部に収容が可能な伸縮式の照明灯が採用されたことで、他に類を見ないものである。

(横尾独夫／安井建築設計事務所)

広島市民球場

設計監理　広島市　安井建築設計事務所・白土建築設計事務所設計共同企業体
施　　工　増岡組・西本建設・畑中建設建設工事共同企業体
　　松下電器産業

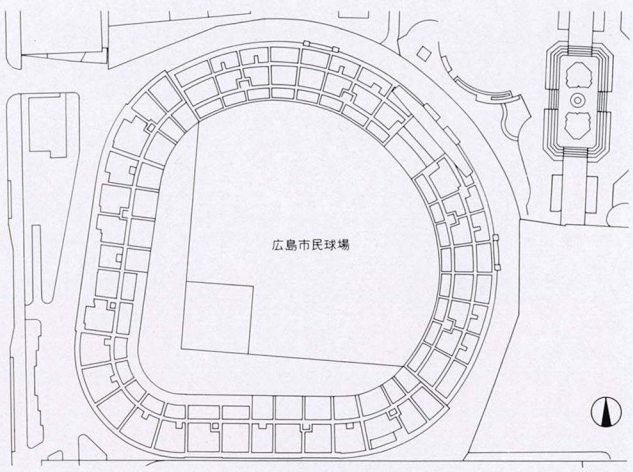


全景

所 在 地　広島市中区基町5-25
敷地面積　球場面積 23,719㎡/グランド面積 12,160㎡
建築面積　6,408㎡
延床面積　12,639㎡
構造規模　観客数 32,000名
工　　期　昭和59年11月～平成5年3月
最 寄 駅　市内電車原爆ドーム前



外野照明塔



配置図　1:3000



電光式スコアボード

昭和30年にオープンした広島球場は地元広島東洋カープ球団とともに歩んできたが、約10年前に改造計画がもち上がった。座席環境の改善を主とした3万人収容の球場として再整備する企画が示されたが、長い間親しまれてきた市民球場を生かしての計画が前提であった。

この条件下でまず2階スタンドを設けることからスタートした。これは構造上完全な別建物として計画された2階スタンドを既設スタンド内に貫通させて設けるものであり、既設の限られたスペース内での施工であるため、RC造で足元を、そして上部をS造として計画した。

また、本球場は都心に立地するとともに平和記念公園に隣接し、特に原爆慰霊塔の真正面になるため建物のボリューム、色彩など景観上十分な配慮が必要であった。2階スタンド新設から始まった整備計画は既設スタンドの改修、照明塔の新設等施設の充実が進められ、今回のスコアーボードの改修工事まで、丸9年をついやして完成することとなった。この市民球場が恵まれた立地や施設内容を生かし、来年のアジア大会での使用をはじめ、市民の球場としてますます発展してゆくことを期待したい。

(北澤修一／安井建築設計事務所)



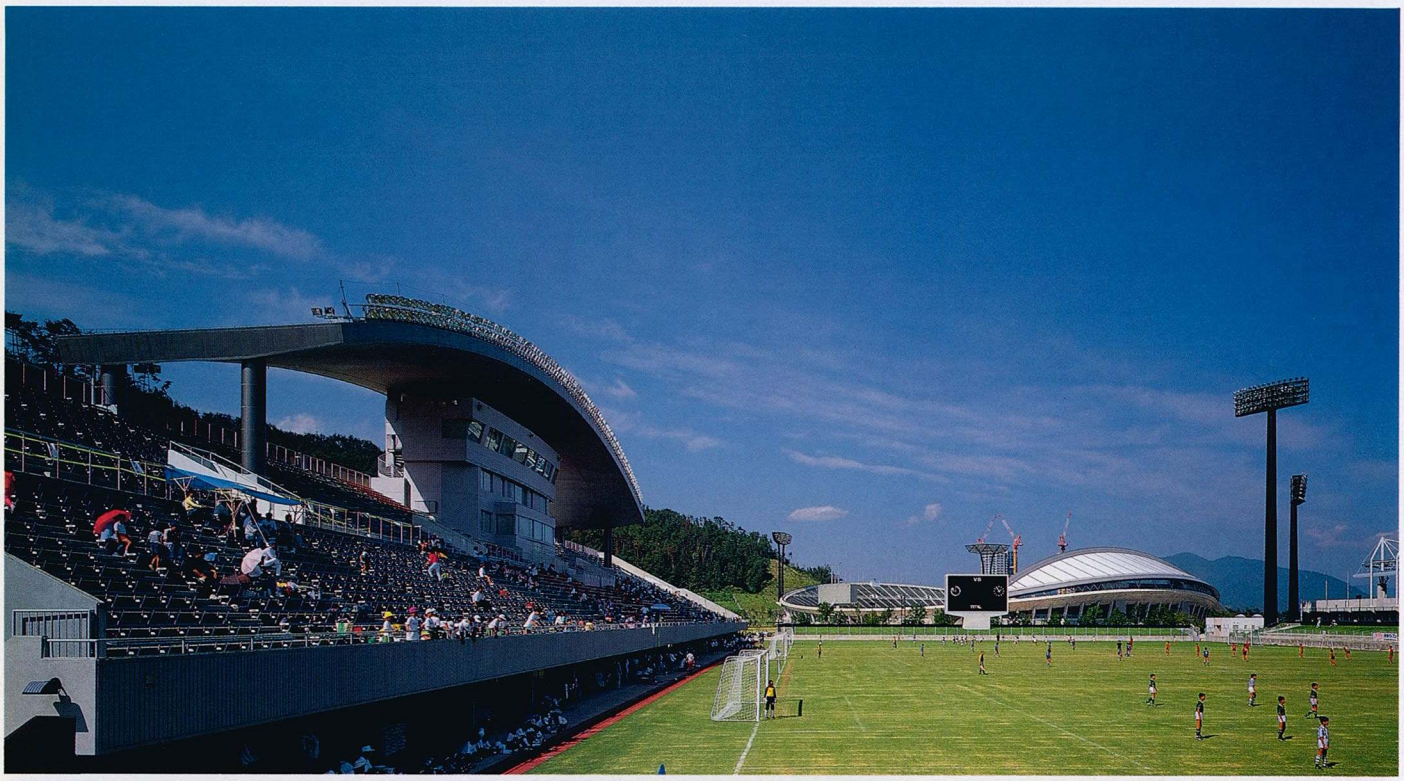
操作室



通路

広島広域公園第一球技場

設計監理　広島市　KAMI・LAT共同企業体
施　　工　安藤建設・錦建設建設工事共同企業体



競技場よりメインスタンドを望む



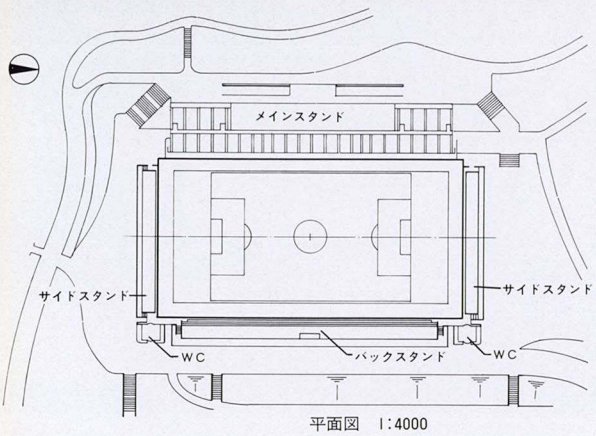
正面入口

第一球技場は、サッカー、ラグビー、アメリカンフットボールなどの球技専用の施設として、国際大会から、一般市民の利用まで幅広く利用できる施設として計画されている。

第一球技場の設計に当たっては、公園内の中心施設である陸上競技場とのデザイン的調和をはかり、公園の環境に融和していくことに留意した。そのことをふまえて、基本的には、象徴性をおさえながら、球技場としての独自性を静かに表現し、また造成の法面など、地形の形状を建物のプランニングに活用することにした。

造形的には、スタンドの屋根を曲面にして陸上競技場との形態的調和をはかっている。

所 在 地　広島市安佐南区沼田町大字大塚字長尾1598他
敷地面積　482,774.09㎡
建築面積　4,376.08㎡
延床面積　5,165.68㎡
構造規模　RC、一部S、6F
工　　期　平成２年３月～平成３年６月
最 寄 駅　JR山陽本線新井口駅



平面図　1:4000

広島広域公園第二球技場

設計監理　広島市　杉田三郎建築設計事務所・K構造研究所共同企業体
施　　工　不動建設・日成建設・広島菱重興産共同企業体



球技場よりメインスタンドを望む

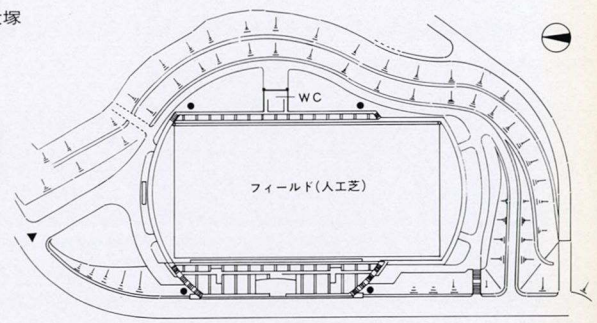
広島広域公園にある第二球技場は、
○市民の健康とスポーツの振興に資する施設とする。
○国際交流や地域の交流に資する施設とする。
○21世紀の「国際平和文化都市ひろしま」にふさわしい施設とする。
の３つの基本方針に基づいて、施設の内容を次のように設定された。
a)日常的から、国際大会まで幅広く利用できる。
b)デザインについては、高い文化性をもたせる。
c)スタンドは3,000人収容とし、利便性、快適性、管理運営等に十分配慮をする。
d)フィールドは、人工芝とし、ホッケー競技の国際大会の条件を満足すると共に、アメリカンフットボール及びサッカー等の平常利用にも幅広く対応させる。
e)場内の諸室は、平常利用、球技大会、その他の利用等にフレキシブルに対応させ、利用動線、管理運営等を考慮する。
f)設備は、ホッケー競技を含め、省エネ、安全性、経済性、管理運営等を考慮し、かつ、諸室の利用形態の変化にも柔軟に対応できるものにする。
デザイン計画としては、
○象徴性をおさえ、しずかな独自性を生かす形態とする。
○他施設との形態的調和をはかる。
○地形を最大限に生かす形態とする。
の３点をベースに施設全体を立案し、形としてはスタンドの屋根にアーチを用いず、風、波、雲といった題材をモチーフに軽いうねりをもたせ、メイン競技場との調和をはかりながら、風に舞う「衣」のようにうすい屋根をつくり、夢の世界→希望の表現としている。

（杉田三郎建築設計事務所）



西面（正面入口）

所 在 地　広島市安佐南区沼田町大字大塚
敷地面積　482,774.09㎡
建築面積　1,777.51㎡
延床面積　2,690.27㎡
構造規模　RC、屋根S、4F
工　　期　平成３年６月～平成４年９月



平面図　1:4000

第12回アジア競技大会
広島1994

広島市中区スポーツセンター

設計監理　広島市　教育施設研究所広島事務所
施　　工　大本組・堀田建設・湯川組・門出工務店建設工事共同企業体



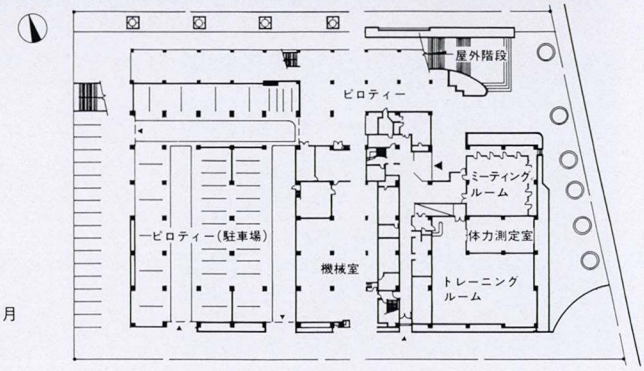
2階正面玄関へ上がる外部階段

本施設の敷地は広島大学工学部の移転跡地にあり、この跡地は区民の教育・文化・健康ゾーンとして、他に工業技術センター・県民プラザ(図書館)・総合検診センター等の公共施設等と、地区公園がある。配置計画においては、限られた敷地内で60台の駐車スペースを確保するために1階をピロティ形式の駐車場に利用し、大小体育館を2階の同一フロアに配置した。管理室も2階に配し、外来者をアプローチから幅6mの屋外階段で2階の玄関へと導いている。

外観デザインは周囲の施設との融合を図りながらスポーツセンターとしてのイメージを印象づけるように心掛けた。外壁のタイル色は跡地利用計画のベーシックカラーであるベージュを採用した。大小体育室のギャラリー1階の窓は大きな横長の連窓として扱い、2、3階デッキ部分の手摺の水平ラインと合わせて建物に軽快さを持たせた。又、大体育室の屋根部分は斜めにカットし、軽いイメージの金属板を使用することで、建物全体の重量感を和らげている。　(教育施設研究所)



大体育室



1階平面図　1:1500

所 在 地　広島市中区千田町3-8
敷地面積　7,065.03㎡
建築面積　4,308.57㎡
延床面積　8,284.73㎡
構造規模　SRC、一部S、3F、一部5F
工　　期　昭和61年10月～昭和63年3月
最 寄 駅　広島電鉄宇品線御幸橋電停

広島市中央庭球場

設計監理　広島市　日建設計
施　　工　清水建設・鴻池組・鴻治組建設共同企業体



周囲を緑に囲まれた庭球場

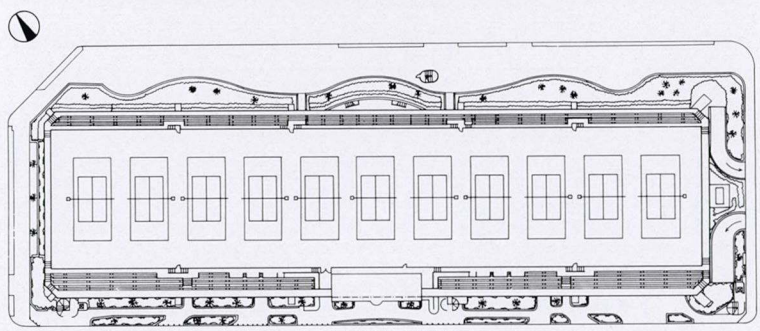


クラブハウス全景

ソフトテニスの会場に予定されている「広島市中央庭球場」は広島城の南東に位置し、広島美術館、県立体育館へと連なる中央公園のグリーンベルトの東端を占める。コート数はクレイコート11面で照明により、昼夜のプレーが楽しめ、コートの南側中央にRC造３階のクラブハウス、南北に約3,000人の座席数を持つスタンドが配置されている。

周囲の環境に配慮して、敷地外周には樹木が植えられ、公園の中のテニスコートとしての雰囲気が保たれている。クラブハウスの外壁は、周囲にとけ込む色調とする一方で、庭球場全体のランドマークとして印象的な形状となっている。

都市中心の敷地の有効利用を計るため、庭球場の地下は約400台収容の市営駐車場が設けられており、庭球場全体が地下駐車場による人工地盤に載った形となっている。地下駐車場の換気塔類はスタンドの裏側に配置され、地上構造物と地下構造物を一体的に計画を行うことによる景観への配慮がなされている。　（日建設計）



平面図　1:2000

所 在 地　広島市中区基町
敷地面積　15,470.00㎡
建築面積　222.59㎡（クラブハウス）
延床面積　628.12㎡（クラブハウス）
構造規模　RC、一部S、3F
工　　期　平成５年３月～平成６年３月
　　（駐車場平成３年12月～平成５年12月）
最 寄 駅　JR広島駅

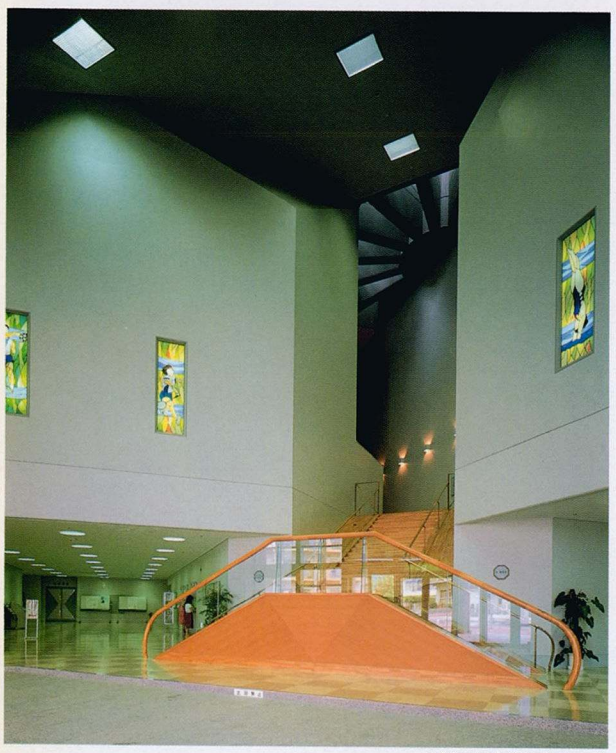
広島市佐伯区スポーツセンター

設計監理　広島市　中電技術コンサルタント
施　　工　青木建設・佐藤組・創建工業・野村建設共同企業体

所 在 地　広島市佐伯区楽々園6丁目
敷地面積　9,826.92㎡
建築面積　5,715.35㎡
延床面積　8,510.50㎡
構造規模　SRC、B1F、2F
工　　期　1989年9月～1991年3月

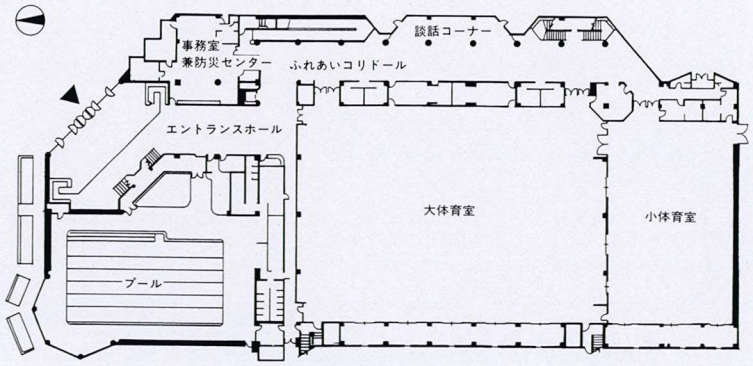


1階正面入口



1階エントランスホール

外観のデザインは、勾配のある大屋根によって大空間を包み込み、多角形で有機的な造形を基調として、周辺環境とマッチするように努めた。
デザインモチーフとしては、八幡川、岡の下川のデルタに発展した、この地区に象徴的に残された小島である「海老山」を模したものである。
緑青色の大屋根は海老山の松林を、四隅と建具の半八角形（八角形は八幡にちなんだもの）は大岩の連想を期待してデザインしたものである。
屋根はステンレス銅粉末塗装板の瓦棒葺き、外壁は赤茶色の煉瓦タイル張り、桁梁、腰壁を花崗岩張りとした。ある種の対比的色彩調和とすることで、この地区のランドマークとなることを意図した。　（中電技術コンサルタント）



1階平面図　1:1200

広島市安佐北区スポーツセンター

設計監理　広島市　久米設計・相互設備事務所
施　　工　住友建設・三菱建設・広成建設・下岸建設工事共同企業体



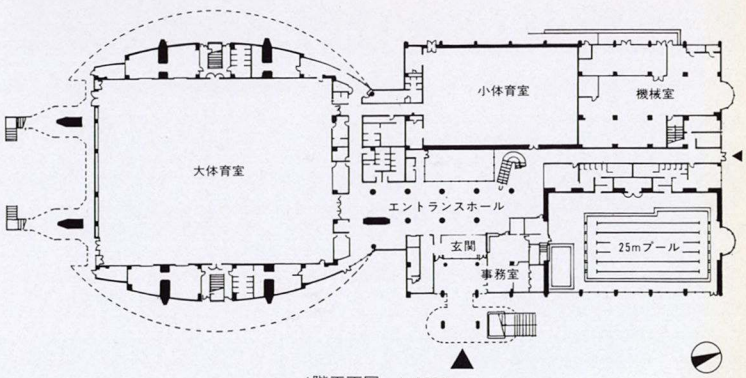
南面（大体育室への入口）

敷地は根之谷川と三條川の堤防に囲まれた、ほぼ平らな田園地帯の中にある。鬼ヶ城山、阿武山など歴史と悠久の時間を感じさせる山々を、水が削りとってできたこの田園は、急峻ながらも丸みのあるかたちと呼応して、おだやかな風景を見せている。
長い年月のあいだに平らにひらけてきたこの敷地には、太古の昔、山々から勢い良く流れ出したエネルギーを感じさせる外観の形態がふさわしいと考えた。ほぼ円に近い大体育室の平面形を、地上から迫り上がるかたちで、観覧席のレベルまで持ち上げ、その上に丸みのある大屋根をかけ、キール（龍骨）と呼ばれる大きな梁で屋根を支持する形態をつくり、プール室、小体育室の上部には川をかたどった二本のボールト状の屋根を配置して、この敷地の持つコンテクストを象徴させている。
主な施設として、大体育室、室内温水プール、トレーニングルームが挙げられるが、大体育室は大屋根を支えるアーチ型の鉄製パイプ造のトラスを交差させたかたちを露出させており、軽快でダイナミックな空間となっている。また、トップライトや大きな開口部を配置することで、日常利用の利便性や省エネを考慮した計画となっている。プール室は、夏場にはガラス製のボールト状屋根が解放でき、透けた外観と呼応して、一年中快適な環境を提供している。

（藪崎剛志・竹田芳之／久米設計）



大体育室



1階平面図　1:1000

所 在 地　広島市安佐北区深川2-50-1
敷地面積　19,019.56㎡
建築面積　 7,406.80㎡
延床面積　 9,393.88㎡
構造規模　SRC、RC、PRC、S
工　　期　平成2年6月～平成4年3月
最 寄 駅　JR芸備線下深川駅

第12回アジア競技大会
広島1994

広島市安芸区スポーツセンター

設計監理　広島市　教育施設研究所広島事務所
施　　工　村本建設・鴻治組共同企業体



北面外観

本施設はレクレーション型スポーツセンター施設であるが、1994年のアジア大会（柔道、テコンドー、武術大極拳）等の一部施設としても対応できる機能をもっている。又、エネルギー省力化に努めた施設でもある。

十分な広さを持たない周辺地面と段差がある敷地を有効利用するためには、大体育室・小体育室・トレーニング室などを重層にして力量感あふれるボリュームを持った個性ある高層建物となっている。

体育施設として十分に見分けができるように、又、イメージがかもし出せるように外観は白を基調としたタイルを張っている。

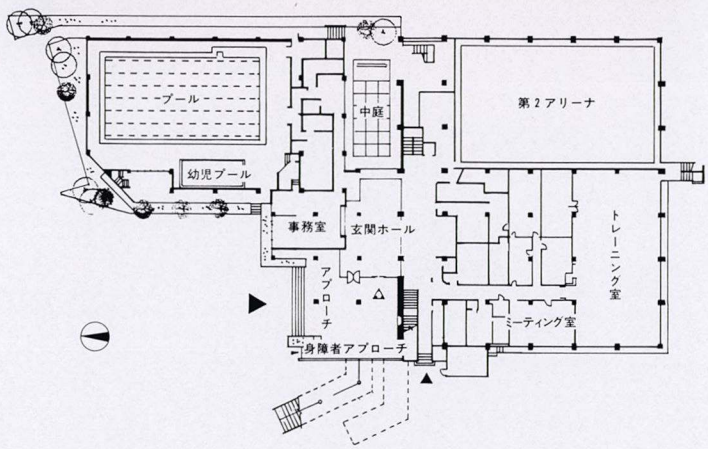
屋内温水プールをアピールするために、低層のプール棟を前方に位置させている。又、前面の広がりを確保して、視覚的に威圧感を与えないようにしている。

省エネ化を高めるため、壁面に断熱材を打ち込み、ガラスは複層の熱線吸収ガラスを採用した。西日本一を誇る486枚の太陽熱集熱気(真空ガラス管）を屋上に設置して、そのエネルギーをプール加熱、給湯、暖房、冷房に利用している。なお、太陽熱依存率は、年間約60%で、オイルを約60,000リットル節約できる施設である。

（教育施設研究所）



大体育室



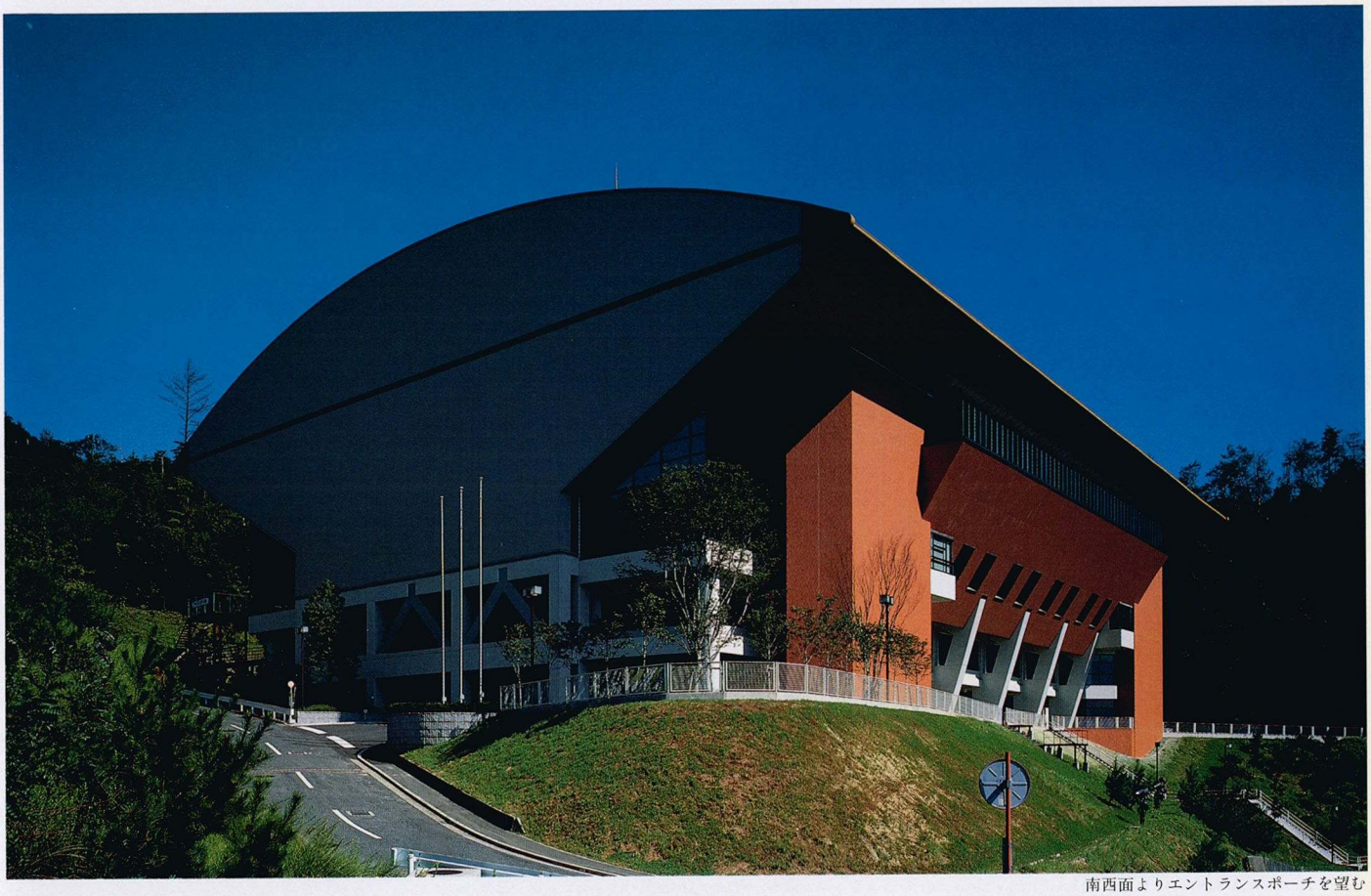
1階平面図　1:1200

所 在 地　広島市安芸区中野東2-3-1
敷地面積　9,536㎡
建築面積　3,830㎡
延床面積　6,607㎡
構造規模　SRC、一部RC、B1、3F
工　　期　1982年12月～1984年3月
最 寄 駅　JR山陽本線安芸中野駅

広島経済大学石田記念体育館

設計監理　久米設計　フクダグローバル建築設計
施　　工　清水建設・小谷建設共同企業体

所 在 地　広島市安佐南区祇園5-37-1
敷地面積　248,307.13㎡
建築面積　4,432.30㎡
延床面積　10,241.70㎡
構造規模　RC、屋根S、4F
工　　期　平成３年２月～平成４年12月
最 寄 駅　JR可部線下祇園駅



南西面よりエントランスポーチを望む

広島経済大学のキャンパスは、銀山城跡のある武田山を背景とする25haの丘陵地に建設されている。太田川から遠望すると陽当たりのよい南下がりの斜面は、そのレンガ色の校舎群と共に祇園地区の重要なランドスケープの一つになっている。

体育館の敷地は、校舎群から少し離れた中腹に開発当初より造成されていたが、体育活動の変化、アジア大会の決定等、与条件も変化した為、実施案では一廻り大きく且つ、武道場を併設し建設されることとなった。その大規模な施設をどのように形造れば環境との一定の調和を保ちながら、スポーツの殿堂としてシンボリックでインパクトのある建物とすることができるのだろうか。

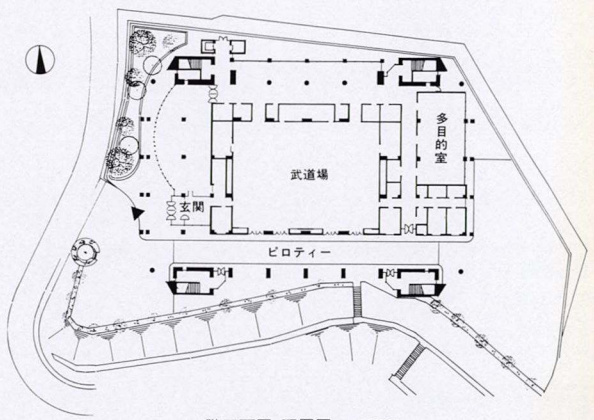
この様なテーマのもとに計画はスタートした。限られた敷地に対して、必要とする規模は大きく、自ずと立体的に武道場とメインアリーナを積み重ねる案が想起されたが、それでもメインアリーナの観覧席と大屋根は台地をはみ出す大きさとなった。大屋根はメインアリーナの空間を覆うと同時に、その内部に宿るスポーツの精神が膨らみ空に向かって扇型に広がる形となり、あたかも巨大な宇宙船が武田山に舞い降りたような形態表現となった。

１Ｆ記念ロビーには国際スポーツの父、ノエル・ベーカー卿の記念レリーフが設置され、アジア大会のバスケット会場として、又、大学の要の施設としてこれからの活用を期待している。

（樋口堅司・藤原一秀／久米設計）



３階メインアリーナ



１階平面図・配置図　1:2000

広島競輪場(入場門他)

設計監理　広島市　村田相互設計事務所
施　　工　勝田工業・門出工務店共同企業体



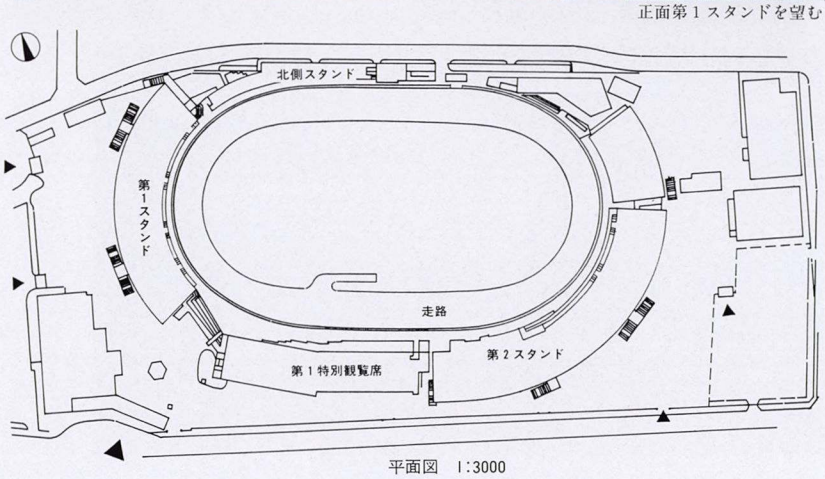
第１スタンドより北側スタンドを望む

1986年に、アジア競技大会に目標を定めた施設整備５ヶ年計画が立案されました。今まで、多期にわたり増改築を繰り返されて、施設全体としての統一感の乏しい状態でありました。年次毎に、選手宿舎、第１特観席、選手管理棟及び第２特観席、サービスセンター、東食堂、北側スタンド、正面・東・北入場口、外周テント通路、400mトラック、外構等の順序で改修工事が進められました。
施設は、今までのイメージを一新させるべく外部になるべく解放された明るいイメージを取り入れ、建物等も競輪のイメージや興業場としての機能も改新されサービス向上に努めたものとなっています。部分的な改修形態であることにより、施設全体一新の感がややおとるが、アジア競技大会には充分その使命を発揮するものと確信しています。

(村田相互設計事務所)



正面第１スタンドを望む



平面図　1:3000

所 在 地　広島市南区宇品海岸三丁目4-70
敷地面積　47,992.749㎡
建築面積　10,742.315㎡
延床面積　18,649.746㎡
構造規模　SRC、4F
工　　期　1988年11月～1990年３月
最 寄 駅　JR広島駅

東広島運動公園体育館

設計監理　東広島市　住宅・都市整備公団　赤松菅野建築設計事務所
施　　工　奥村組・東亜建設工業・鴻治組共同企業体



外観

緑豊かな公園に建つ施設として、景観的調和と植栽との融合を図ることを設計のテーマとして計画する各競技場は有効な機能分離、かつ明快な上下連絡が図られるよう心掛け、それぞれの導入部にゆとりある休憩スペースをコミュニケーションの場として確保している。

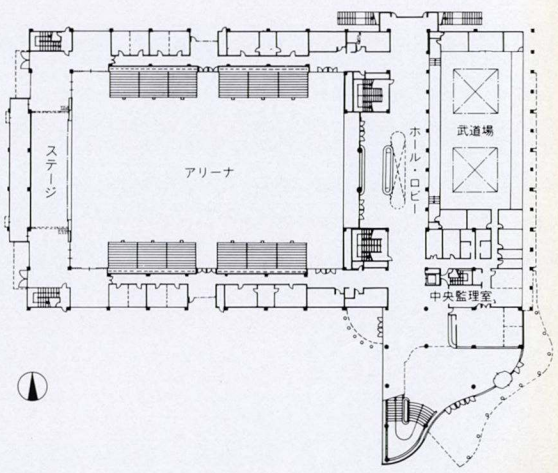
メーンアリーナにおいては、スポーツのもつ力強いイメージを安定感のある三角形で表現し、高さ30mのゆとりのある天井は国際レベルの競技会場として、多目的に利用できるホールとしてふさわしい空間構成を行った。

外観デザインは、ピラミッドの形状とすることで、バランスのとれた力強いイメージとシンボル性をより明確に表現することを意図した。また正面屋根は、地域の酒蔵をモチーフにし、〝したしみ〟ある風景を形づくり、東広島市の〝におい〟を感じさせるデザインも取り入れている。それに玄関回りは、未来を見通すガラスの箱とし、人々をやわらかい曲線で受け止めている。未来的要素と古典的要素を三次元的に融合させた表情は、伸びゆく緑とともに、人々に親しまれる建物としてデザインしたものである。　（赤松菅野建築設計事務所）

所 在 地　東広島市西条町大字田口
敷地面積　173,000.00㎡
建築面積　7,022.76㎡
延床面積　10,409.87㎡
構造規模　RC、一部S、3F
工　　期　平成２年11月～平成４年６月
最 寄 駅　JR山陽線西条駅



アリーナ



1階平面図　1:1500

みよし運動公園陸上競技場

設計監理　三次市　住宅・都市整備公団　KAMI設計
施　　工　砂原組



正面入口

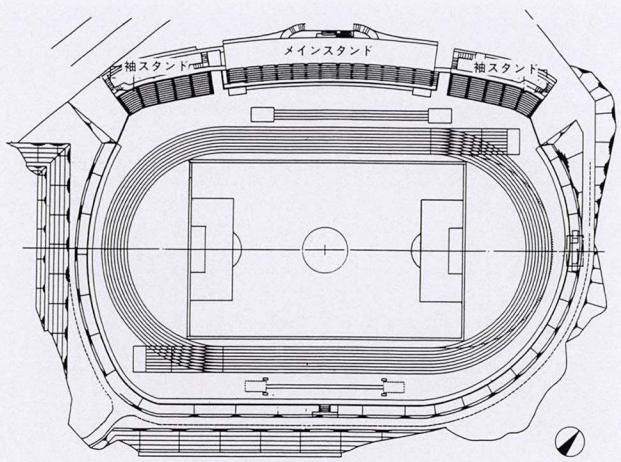
みよし運動公園は、備北地域における各種スポーツ競技大会開催のための核として、また、スポーツを中心として市民が楽しめ、憩える魅力的な場として整備を図ることにしている。
その公園の中心施設として計画された陸上競技場は、公園全体のランドマークとしてのシンボル性をもたせることと、公園の環境の中に調和していくことに留意した。
造形的にはスタンドを構成する柱をスポーツ施設にふさわしい力強さとリズム感を表現する要素としてデザインし、また入口正面には、各競技種目の選手を抽象的に表現したレリーフを設置し、陸上競技場として、象徴的にアピールしている。
さらに、スタンドの屋根は、コンクリートのスタンドの重量感に対して軽快に表現し、相互のバランスをとりながら違和感のないようにした。

(KAMI設計)

所 在 地　三次市東酒屋町大東地内
敷地面積　202,212.445㎡
建築面積　　1,250.629㎡
延床面積　　2,088.422㎡
構造規模　RC、一部S、2F
工　　期　平成３年８月～平成５年３月
最 寄 駅　芸備線三次駅



袖スタンドより競技場を望む



平面図　1:2500

第12回アジア競技大会
広島1994

呉市営二河野球場

設計監理　呉市　車田建築設計事務所
施　　工　熊谷組・木之本建設共同企業体

所 在 地　呉市二河町1番6号
敷地面積　26,601.87㎡
建築面積　 2,342.50㎡
延床面積　 7,967.65㎡
構造規模　収容人員15,000人、照明鉄塔6基、電光スコアーボード
工　　期　平成３年10月～平成５年１月
最 寄 駅　呉線呉駅


航空写真

呉市営二河野球場改造工事は、呉市施政90周年記念事業の一環として行われ、アジア競技大会、広島国体の競技場として利用される予定でもあります。
今回、野外席を有効に残した大規模な改造工事により、センター122m、両翼97.5m、ナイター照明塔も６基設置、スコアーボードはコンピューター制御で記録室から一括操作できる磁気反転式に整備して、プロ野球公式戦ができる野球場として再生しました。施設も２局分のラジオ放送席、同じく２局分のTV放送席をはじめ、室内ブルペン、選手更衣室、トレーナー室、記者室、カメラマン室、貴賓室、会議室等を設置し、充実させました。
二河野球場は、二河運動公園内に位置し、呉市の景観形成モデル地区に隣接しており、これらを考慮して、落ち着いたデザインを心掛けました。長く連なる壁面の要所に曲線を施し、威圧感をやわらげ、特殊型枠等により、変化をつけています。色彩についても、落ち着いた色調のライトグレーを基調としています。また、内的空間となる観客席はオレンジ、黄、青と鮮やかに色分けし、雰囲気の高揚をはかりました。

(車田建築設計事務所)

第12回アジア競技大会
広島1994

広島サンプラザ

設計監理　久米設計
施　　工　三井建設・錢高組・松本建設・錦建設共同企業体

所 在 地　広島市西区商工センター3-1-1
敷地面積　13,069.18㎡
建築面積　 8,754.35㎡
延床面積　19,695.38㎡
構造規模　SRC、RC、B1、4F
工　　期　昭和58年９月～昭和60年７月
最 寄 駅　JR山陽本線新井の口駅


全景

広島サンプラザは、広島市西区商工センターの中心施設のひとつとして建設されて以来、数々のスポーツ大会やコンサート、展示会の大ホールとして市民に親しまれている。
63m×41mという広大なアリーナの周辺を5500席の固定観覧席がとりかこむ空間は冷暖房設備を始め、最新の音響・照明設備、我が国初の20m×11mの天井収納型ハンギングステージや可動プロセニアムアーチと舞台機構設備によって、１万人規模のイベントも開催できる多目的文化アリーナとして設計し実現したものである。広島サンプラザに隣接する４haの既存公園の再整備によって、420台収容の地下駐車場とその屋根を利用したかたちの屋外スポーツ広場、サブ体育館も併設した形となり、まさにアジア大会などの巨大なスポーツ大会の会場にふさわしい施設となっている。
一方、この広島サンプラザは54室の客室を持つホテル、研修室、会議室、レストランなどを同一建物内に有しており、スポーツ大会やイベントの開催運営に資する各種機能を充足する事も設計上の大きなポイントであった。

(山田幸夫／久米設計)

広島県立総合体育館大型映像装置

松下電器産業



広島県立総合体育館外観



大アリーナ

広島県立総合体育館の第一競技場（愛称：グリーンアリーナ）の天井中央部から巨大なスクリーンが吊り下げられている。通常は天井近くに位置し、それはただの灰色の物体にすぎない。しかし観客の視野範囲まで降ろされ、その画面に映像が送りこまれると、それは観客に大きな興奮とともに大迫力の映像を提供する大型映像装置としてその存在を主張するのである。

これは日本初の自発光式での中央４面式の大型映像装置である。それぞれの画面は230インチで、家庭用テレビ100台は優に入る大画面である。この画面にTVカメラ、VTRを中心とした映像や、ゲームスコアや選手紹介を中心としたデータ等を放映する。

１．大型映像装置の現状

国内での体育館における大型映像装置の活躍はここ５年程度で急速に活発化してきた。現在、総合体育館・総合屋内プールで大型映像装置を設置しているのは、東京体育館・大阪府立体育館・千葉ポートアリーナ・広島市総合屋内プール・東京辰己国際水泳場など12ヶ所におよび、これに横浜アリーナ・大阪城ホールなどの多目的ホールを加えると17ヶ所にのぼる。これにすでに工事中、発注済みのものを加えると22ヶ所となり、新設されるほとんどの総合体育館には大型映像装置が企画・設置されているといえる。

２．外観・構造について

この大型映像装置は230インチ（3.5m×4.7m＝16.4m²）の大型画面が４方向の観客席に向けて設置されている。それぞれの画面はその４隅で隣接する画面と接続されており、画面は約10度下に傾けてあり観客からの視認性をよくしている。この一体化した４面の画面は16本のワイヤーで天井裏に設置されたの昇降装置から吊り下げられており、スイッチひとつで上下動させることができる。上下動の速度は約３m／秒で、最上部から床面までは約７分で移動する。画面を使用するときは観客から見やすい位置まで降ろし、非使用時は天井近くの最も高い位置に置く。また、メンテナンス時には床面近くまで降ろし、容易に作業ができる。画面に対する電源や映像信号・コントロール信号は22本のケーブルで天井部から供給される。これらのケーブルは画面の上下動に連動して天井内のケーブルリールに巻き上げられる。

３．画面について

230インチの大画面は約５万個の絵素から成っている。ここで絵素とはR・G・Bの３色の発光素子の組のことである。これら発光素子の集合体として高精細度の映像を放映する。ほぼ一般のテレビ並みの画質が得られる。放映する素材としては映像ソースとデータソースに大別される。

映像ソースとしては、TVカメラ、VTR、書画カメラ、静止画フィルム、文字図形発生装置、TVチューナーなどを設置している。さらに放送局の中継車からのソースを受けて放映するインターフェースも持っている。これらの映像送出システムにより様々な映像を放映し、観客に対するスポーツ観戦やイベント演出の支援を行う。

データソースとしては、各種目のゲームスコアを、ホール内の得点入力端末から入力することにより大画面にカラーで表示することができる。サポートしている種目は、バレーボール・バスケットボール・卓球・テニス・ハンドボール・バドミントンの球技６種目と、体操、新体操、屋内陸上の計９種目である。ゲームスコア以外に選手紹介の一覧表や、成績一覧表などもサポートしている。これらの機器はアリーナ上部の操作室に配置され、ある程度の習熟したスタッフによって管理・運営される。

４．大型映像システムによる演出

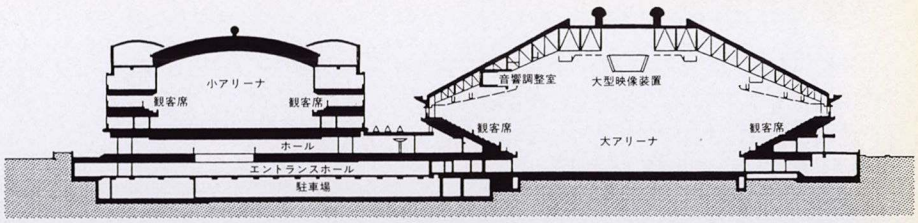
先程も述べたように、体育館をはじめとする多目的ホールへの大型映像システムの導入はますます盛んになっている。大型映像の設置によりこれまでになかった演出を行うことができ、観客に対して新しいサービスを提供できる。TVカメラにより試合の状況やスロー再生の映像を放映することにより、選手や出演者のアップを観客に伝えたり、VTRに収録後スロー再生を放映することにより盛り上がりの興奮シーンを何度も観客に楽しんでもらうことができる。また、静止画の文字図形で主催者から各種インフォメーションを放映したり、アニメーションでルールの説明等にも用いることができる。また、データソースでは前述した９種目の競技について時事刻々スコアの表示を行う。従来の電光掲示板では成し得なかったカラフルな画面で非常にわかりやすい表示を行うことができる。

競技大会以外でも、コンサートや講演会などの各種イベントにおいて大型映像システムは大きな演出支援システムとなる。この場合大画面そのものが主役として働くケースもある。全国の主要な多目的ホールに大型映像装置が導入され、大型映像を演出の一部とした全国イベントツアー等の出現も間近であり、大型イベントに必須の設備となる日も近いと思われる。

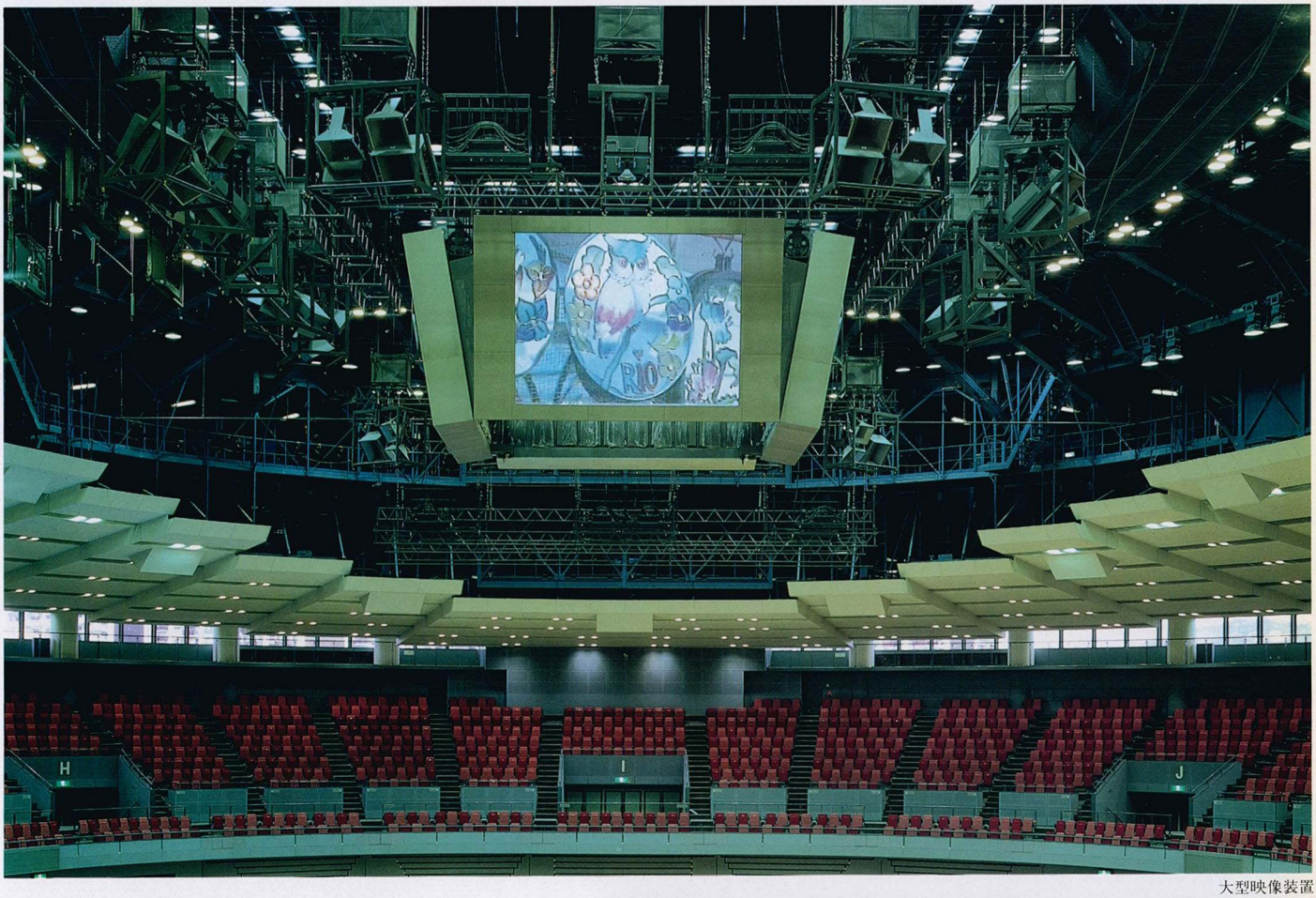
５．結び

広島県立総合体育館の大型映像システムはまぎれもなく全国でも最先端の映像システムと言えよう。映像をかけ橋として、競技者と観客とを一体化する演出支援システム、大型映像装置アストロビジョンは、今後アジア大会を皮切りに大活躍を遂げて行く事は間違いないだろう。しかし、大型映像装置も送出するソースが無ければただの箱である。このシステムを生かすも殺すも運営をいかに行うかにかかっている。今後、イベントと一体となった100%の活用が行われ、大型映像システムとともにこの広島県立総合体育館が大きな発展を遂げられることを期待したい。

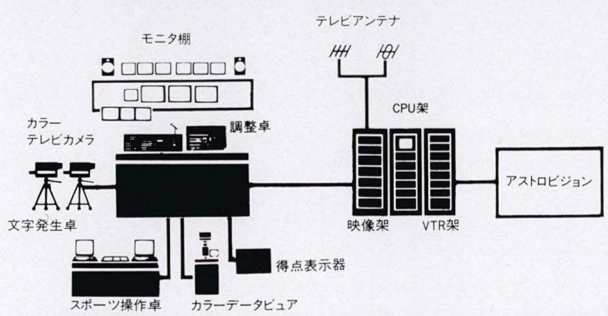
（松下電器産業）



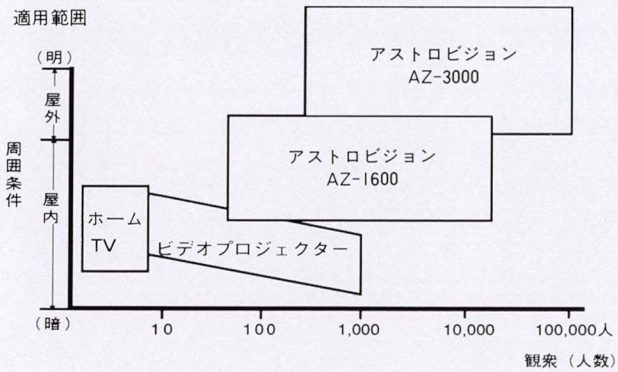
断面図　1:1500



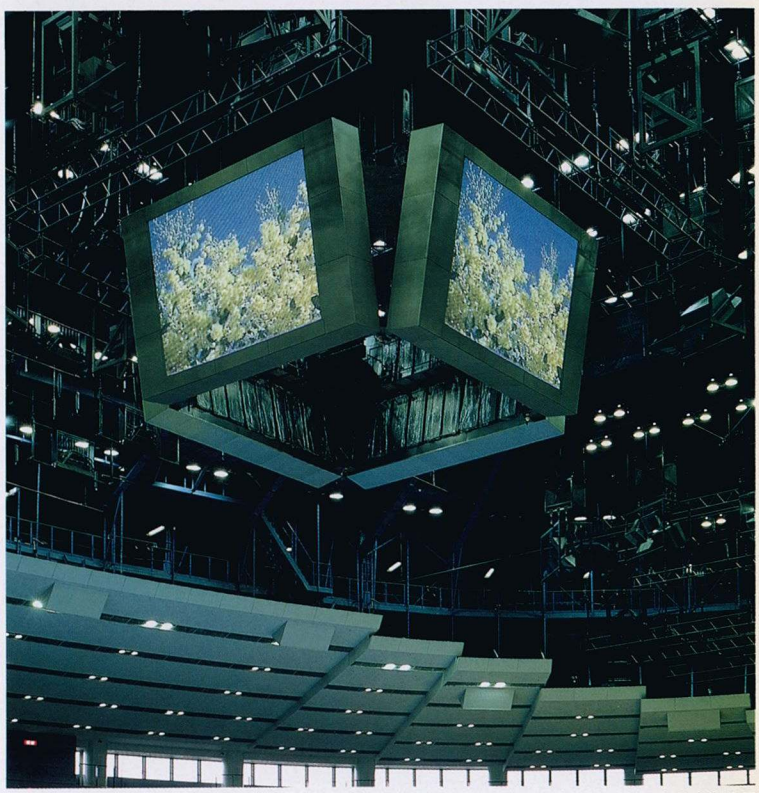
大型映像装置



系統図



ディスプレイの適用範囲



大型映像装置

"アジア競技大会"へ向けてホテル建築のつづく広島市内

広島の街は今ちょっとしたホテル建設のラッシュです。
新交通の工事も重なっていて、一見不況知らずのように見えます。今年10月のアジア競技大会は広島を活性化させる起爆剤でしょうか？
ポストアジア大会も囁かれており、平和都市広島のイメージは暗いですが、アジア大会がスポーツを通じて、明るい平和都市広島へ大きくイメージチェンジが出来るチャンスかも知れません。
国民体育大会、ワールドサッカーなどポストアジア競技大会の議論はすでに始まっています。

(中国支部編集委員会)


広島プリンスホテル

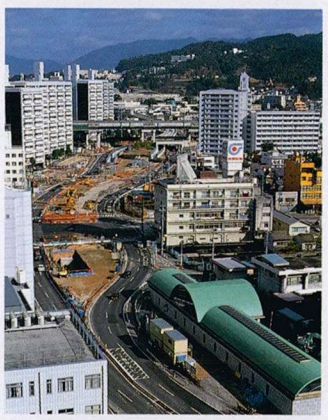

リーガロイヤルホテル広島


広島ロイヤルワシントンホテル

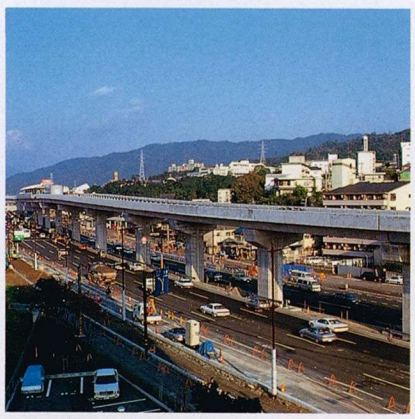

広島東急イン


ホテルサンルート広島


PoPPo(ポッポ)


新交通システム


CuCCu(クック)


新交通システム


新交通システム

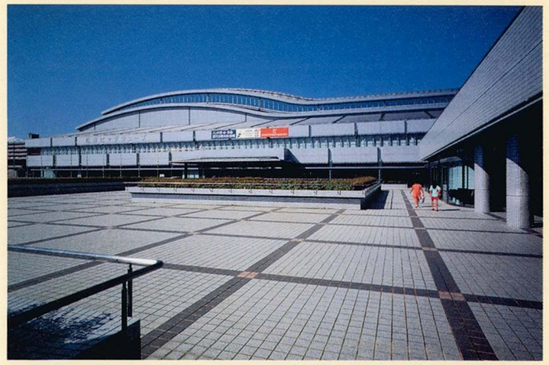
第12回アジア競技大会 広島1994
競技会場マップ

会期／1994年10月2日～16日(15日間)


新広島空港


1　陸上競技・マラソン・サッカー：広島広域公園陸上競技場


2　マラソン(フィニッシュ)：平和記念公園

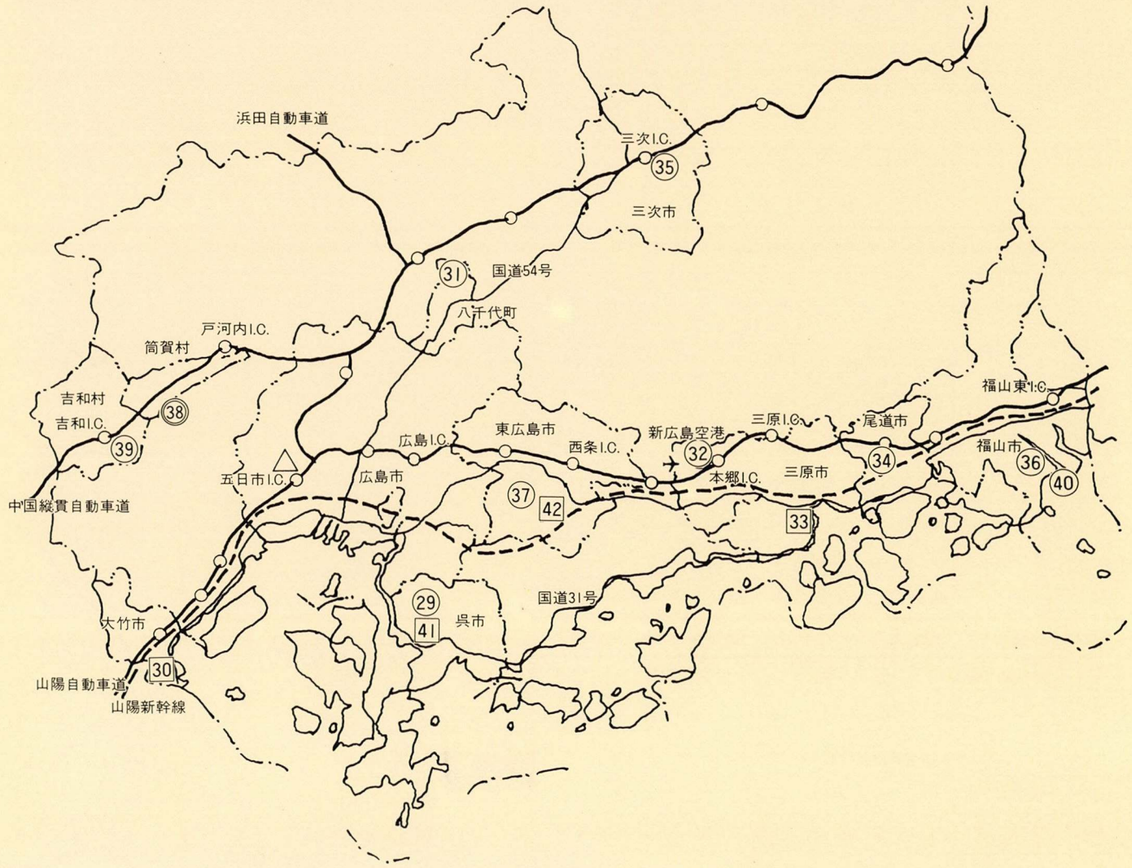

4　水泳・近代五種(水泳)：広島市総合屋内プール

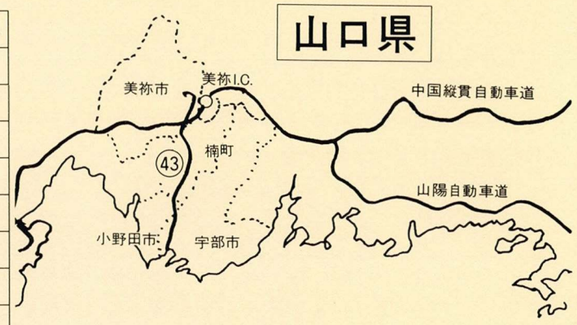

5　アーチェリー：広島市瀬野川公園


6　バドミントン：広島工業大学鶴記念体育館


7　野球：広島市民球場

第12回アジア競技大会競技会場位置図(広島市外)





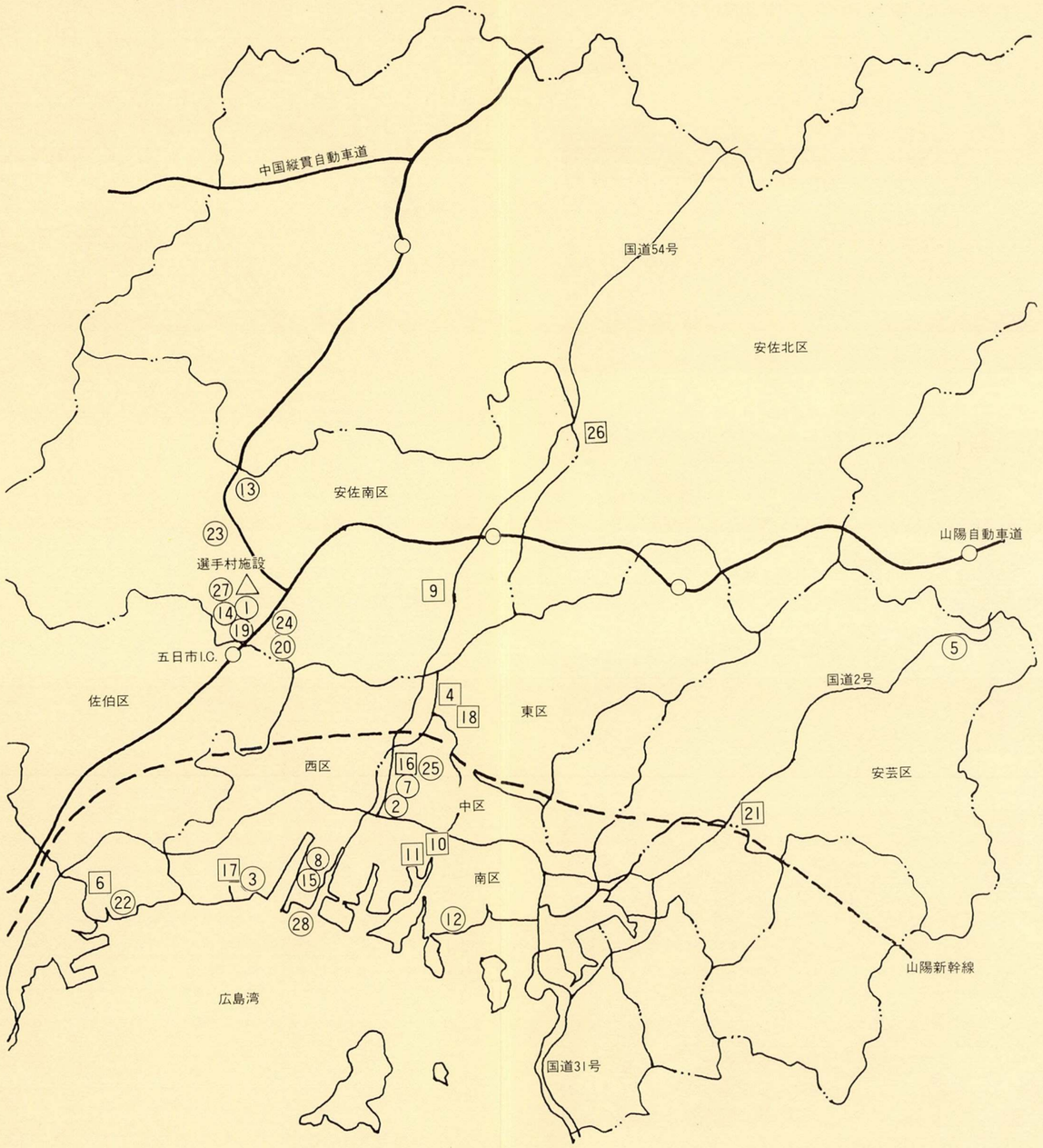
競技名		会場	所在地
野球		呉市二河野球場	㉙
バスケットボール		大竹市総合体育館	30
カヌー		八千代町土師ダム(八千代湖)	㉛
自転車競技	個人ロード	広島県立中央森林公園サイクリングロード	㉜
フェンシング		三原リージョンプラザ	33
サッカー	男子	びんご運動公園陸上競技場	㉞
		みよし運動公園陸上競技場	㉟
	女子	福山市竹ケ端運動公園陸上競技場	㊱
ゴルフ		広島カンツリー倶楽部八本松コース	㊲
近代五種	フェンシング	三原リージョンプラザ	33
	射撃	つつがライフル射撃場	㉘
	ランニング	広島県立もみのき森林公園	㊴
漕艇		福山市芦田川河口湖	㊵
射撃	ライフル	つつがライフル射撃場	㉘
バレーボール		呉市体育館	41
レスリング		東広島運動公園体育館	42
自転車競技		宇部興産専用道路	㊸

〔凡例〕
- ○屋外競技施設
- ◎屋外競技施設(一部屋内競技施設)
- □屋内競技施設
- △選手村施設
- ✈新広島空港

第12回アジア競技大会競技会場位置図(広島市内)

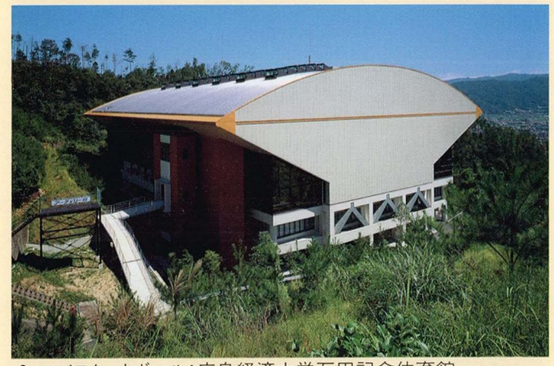
競技名		会場	所在地
陸上競技	トラック&フィールド	広島広域公園陸上競技場	①
	マラソン	スタート：広島広域公園陸上競技場	①
		フィニッシュ：平和記念公園	②
	競歩	広島市西区商工センター内コース	③
水泳		広島市総合屋内プール	4
アーチェリー		広島市瀬野川公園	⑤
バドミントン		広島工業大学鶴記念体育館	6
野球		広島市民球場	⑦
		広島県総合グランド野球場	⑧
バスケットボール		広島経済大学石田記念体育館	9
ボウリング		広電ボウル	10
ボクシング		広島市中区スポーツセンター	11
自転車競技	トラック	広島競輪場	⑫
馬術		広島工業大学沼田校舎大馬場	⑬
サッカー	男子	広島広域公園陸上競技場	①
		広島広域公園第一球技場	⑭
		広島県総合グランドメインスタジアム	⑮
体操		広島県立総合体育館	16
	新体操	広島サンプラザ	17
ハンドボール		広島市東区スポーツセンター	18
ホッケー		広島広域公園第二競技場	⑲
柔道		広島サンプラザ	17
カバディ		広島修道大学第2グランド	⑳
空手道		広島市安芸区スポーツセンター	21
近代五種	水泳	広島市総合屋内プール	4
	馬術	広島工業大学沼田校舎大馬場	⑬
セパタクロー		広島市佐伯区スポーツセンター	22
射撃	クレー	広島西部丘陵都市(リフレッシュパーク)	㉓
ソフトボール		広島修道大学野球場	㉔
		広島修道大学第2グランド	⑳
ソフトテニス		広島市中央庭球場	㉕
卓球		広島市安佐北区スポーツセンター	26
テコンドー		広島市安芸区スポーツセンター	21
テニス		広島広域公園テニス場	㉗
バレーボール		広島県立総合体育館	16
		広島サンプラザ	17
ウエイトリフティング		広島市佐伯区スポーツセンター	22
武術大極拳		広島市安芸区スポーツセンター	21
ヨット		広島湾(広島港観音地区マリーナ)	㉘

〔凡例〕
○ 屋外競技施設
□ 屋内競技施設
△ 選手村施設





8　野球：広島県総合グランド野球場



9　バスケットボール：広島経済大学石田記念体育館



10　ボウリング：広電ボウル



11　ボクシング：広島市中区スポーツセンター



12　自転車競技(トラック):広島競輪場



16　体操・バレーボール:広島県立総合体育館



20　カバディ・ソフトボール:広島修道大学第2グランド



25　ソフトテニス:広島市中央庭球場



13　馬術・近代五種(馬術):広島工業大学沼田校舎大馬場



17　新体操・柔道・バレーボール:広島サンプラザ



21　空手道・テコンドー・武術太極拳:広島市安芸区スポーツセンター



26　卓球:広島市安佐北区スポーツセンター



14　サッカー:広島広域公園第一球技場



18　ハンドボール:広島市東区スポーツセンター



22　セパタクロー・ウエイトリフティング:広島市佐伯区スポーツセンター



27　テニス:広島広域公園テニス場



15　サッカー:広島県総合グランドメインスタジアム



19　ホッケー:広島広域公園第二球技場



24　ソフトボール:広島修道大学野球場



28　ヨット:広島湾



29　野球：呉市二河野球場



33　フェンシング・近代五種（フェンシング）：三原リージョンプラザ



37　ゴルフ：広島カンツリー倶楽部八本松コース



41　バレーボール：呉市体育館



30　バスケットボール：大竹市総合体育館



34　サッカー（男子）：びんご運動公園陸上競技場



38　近代五種（射撃）・射撃（ライフル）：つつがライフル射撃場



42　レスリング：東広島運動公園体育館



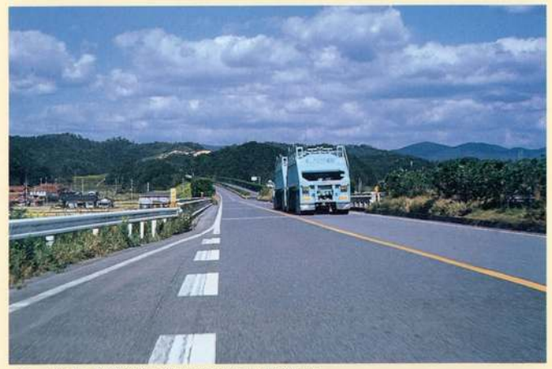
31　カヌー：八千代町土師ダム



35　サッカー（男子）：みよし運動公園陸上競技場



39　近代五種（ランニング）：広島県立もみのき森林公園



43　自転車競技：宇部興産専用道路



32　自転車競技（個人ロード）：広島県立中央森林公園サイクリングロード



36　サッカー（女子）：福山市竹ケ端運動公園陸上競技場



40　漕艇：福山市芦田川河口湖



選手村施設

第12回アジア競技大会
広島1994

民間の好意で利用出来る選手村⇨A.CITY

（緑の丘陵に1000の家族公園都市）

4570haの巨大な用地に出来る人口10万の新都市「広島西部丘陵都市」は、14の開発地区と５つの保留地区の事業が民間の手で進められている。その中のひとつに「A.city」と呼ばれる公園都市（3000～3500人）が建設中である。この「A.city」はアジア大会のメイン会場(ビッグアーチ)の広域公園と隣接しており、選手村利用としてはこの以上最適な場所はないでしょう。

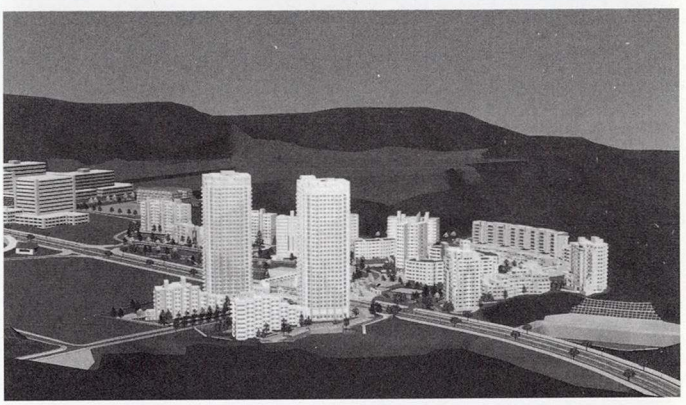
写真の工事中の超高層ツインは、A.City「タワーズウエスト・イースト」で、31階建地上100mで、完成前に選手村として使われます。そのための仕上・設備機器・家具等は全て主催者で設置され、大会終了後は撤去されます。その後デベロッパーが再度工事をして完成され、この街のシンボルゲートになります。



広島広域公園とA.CITY



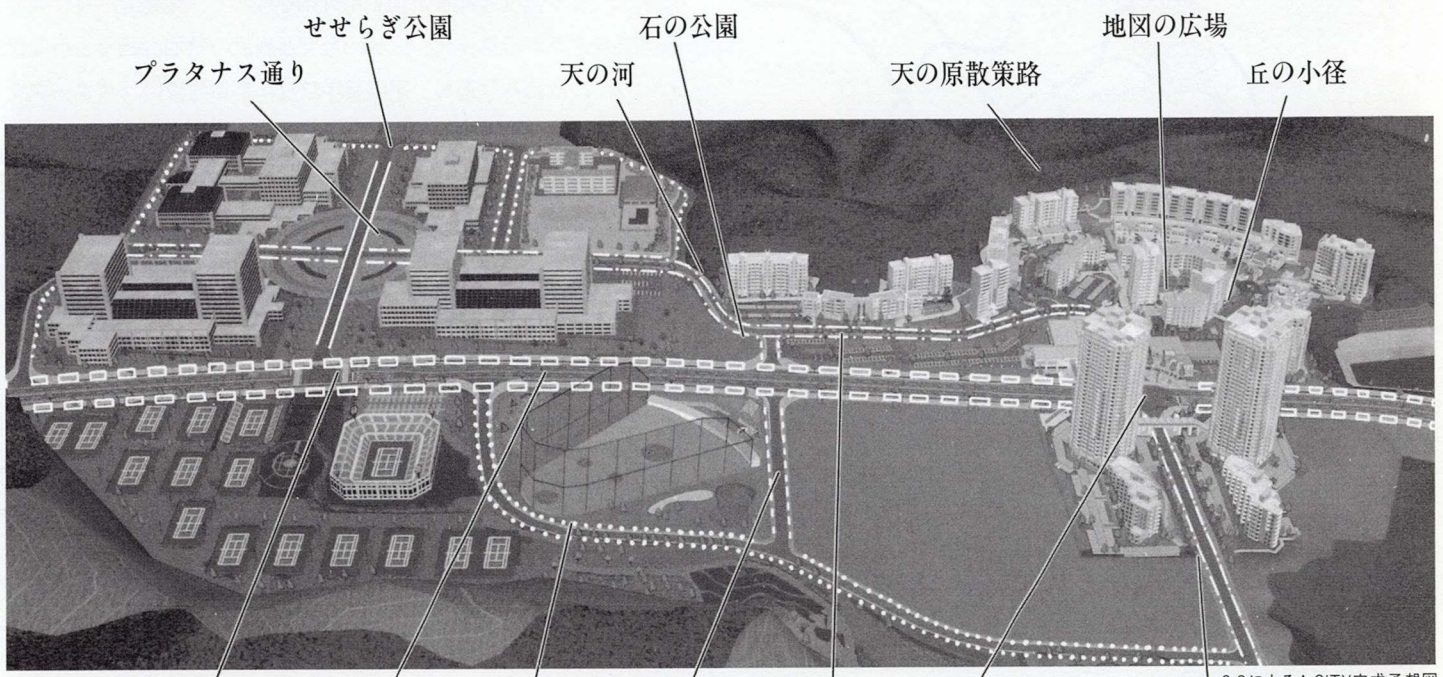
工事中の写真(平成5年11月末日現在)



A.CITY

事 業 主　野村不動産株式会社
基本計画
総合監修　高山英華、磯崎　新

もう街の風景に名前がついています。



C.GによるA.CITY完成予想図

広島西部丘陵都市の概要

——広島の新しい街造り「住み・働き・学び・憩う」——

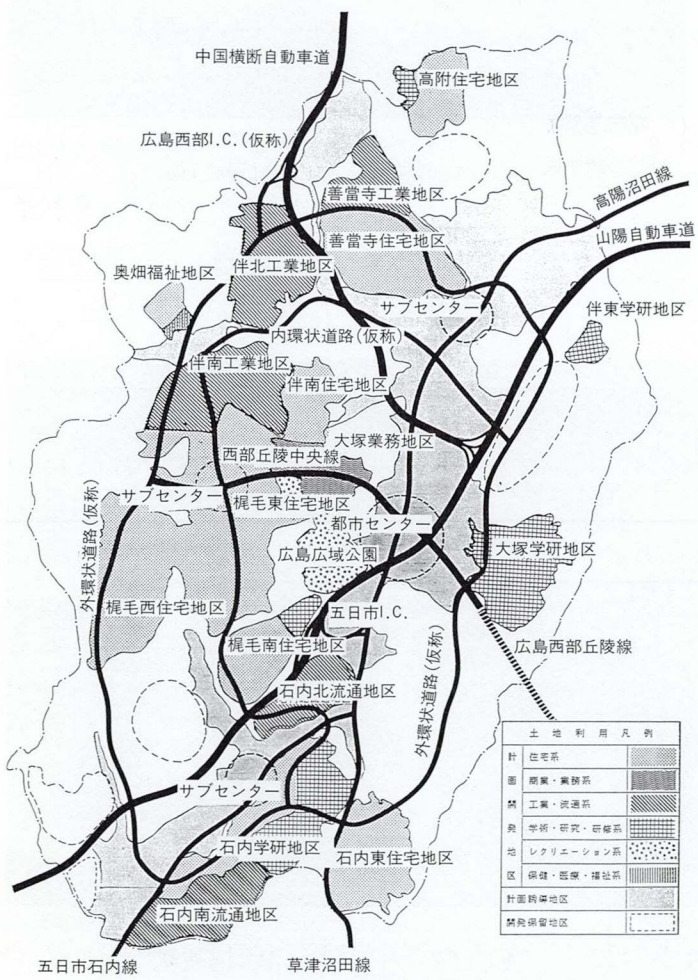
松島義信

はじめに

広島市では、来年10月に開催される「第12回アジア競技大会広島1994」のメイン会場となる広島広域公園を中心とした区域約4,570haを対象として「広島西部丘陵都市」の建設を進めている。

この事業は、広島市の都心部から北西約5～10kmに広がる丘陵地帯において、民間活力の活用を基本に官、民及び地域住民が一体となって「住み」、「働き」、「学び」、「憩う」といった複合機能を備えた人口10万人規模の『総合自立都市』を創り出そうとするものである。

この新都市建設事業は、広島市の「一点集中型」の都市構造を「多心型」の都市構造に変えていく必要があるという基本的な考え方のもとに、計画的な宅地の供給や産業構造の高度化、高次都市機能の充実・強化などの都市課題に対応した新たな都市拠点を形成しようとするもので、広島市が目指す都市像「国際平和文化都市」の実現のため、また広島市が21世紀に向けて飛躍・発展するための先導的プロジェクトとして積極的に事業の推進を図っている。



広島西部丘陵都市開発計画図

1．経緯

この地区は、昭和40年代後半に民間開発事業者により大規模に用地買収が行われた地区であるが、道路、河川、下水道等の関連公共整備が未整備であったことから、昭和50年５月に開発が凍結され、その後十数年手付かずの土地として残された。(当時、開発許認可の権限は、広島県が有していたが、昭和55年４月本市が政令指定都市に昇格した際にその権限が委譲され、本市が主体的に開発に関わることができるようになった。)

しかしながら、この地区は、平地に乏しい本市（市域面積における平地の割合は約17％しかない）にとって唯一残されたまとまった開発可能地であり、また山陽自動車道五日市ICがその中央部に位置するなど優れた立地条件を備えた都市計画上も極めて重要な区域であることから、開発の可能性を模索した結果、昭和59年には単なるベッドタウンではなく「住み」、「働き」、「学び」、「憩う」といった複合的機能を持つ「総合自立都市」として開発する構想を打ち出すに至った。また、同年第12回アジア競技大会の広島開催及び新都市の中心部に位置する広域公園がそのメイン会場となることが決まり、大会関連の公共施設整備が本格化し、都市建設促進の大きなはずみとなった。

その後、開発の前提となる基幹的な幹線道路や河川の整備を行うとともに、地域住民や民間開発事業者の意向を採り入れながら、民活手法により実現可能な土地利用計画を検討し、開発計画及び開発整備プログラムの具体化、広域的な交通施設の整備計画など事業化に向けての取組みを進め、平成元年11月に都市建設のマスタープラン「広島西部丘陵都市建設実施計画」を策定するとともに、新都市の計画区域内で大規模に土地を取得していた16の民間開発事業者とこのマスタープランに基づいて開発を進めることを確認する覚書を取り交わし、開発凍結から解除へと都市建設の諸条件が調った。

2．事業の概要

(1) 都市建設の基本理念

西部丘陵都市を本市が21世紀に向けて発展するための『先導的開発地域』として位置付け、都市戦略を達成するための諸施策を積極的に導入し、①「住み」、「働き」、「学び」、「憩う」といった複合機能を備えた『総合自立都市』、②国際化、情報化、技術革新、高齢化等に対応した『未来都市』、③水と緑、文化・歴史的環境を活かした『快適環境都市』といった都市像の実現を図る。

(2) 計画フレーム

昭和55年度に実施した住宅宅地需給調査により、広島都市圏で今

後20年間に約50,000戸の持ち家が必要となるという結果を得たことから、その約5割に当たる25,000戸を本都市内において供給する。また、住宅の供給フレーム、総合自立都市としての必要人口の規模等を考慮し、長期熟成段階の人口を約10万人と想定する。

(3)土地利用計画

土地利用計画は、計画主体としての広島市が民間開発事業者の意向も加味し、都市全体として適正な都市機能の配置となるよう各団地の土地利用、規模、住宅供給戸数などを定めている。また、民間開発事業者による山地部の開発に合わせて、地元住民による平地部のまちづくりについても、マスタープランに基づいて市が土地区画整理などの誘導を図ることとしている。

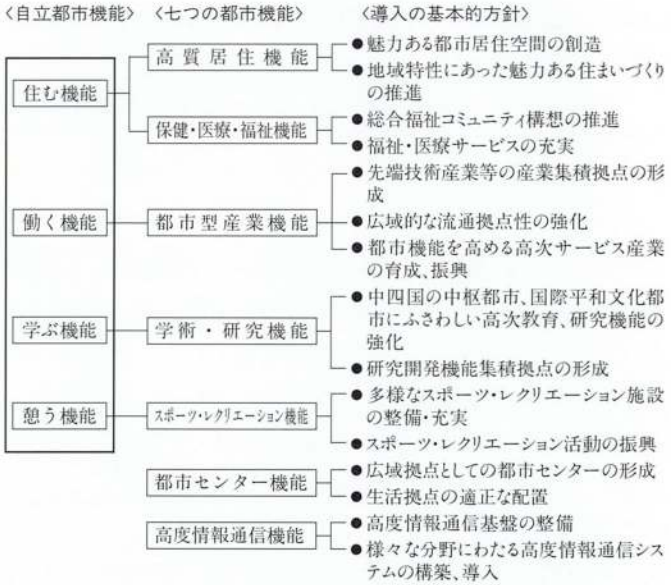
全体の土地利用区分

計画対象区域 4,570ha				
	開発整備地区 2,190ha (47.9%)			
	計画開発地区 1,400ha (30.6%)	計画誘導地区 790ha (17.3%)		
既開発地 570ha (12.5%)	住居系 783ha 商業・業務系 30ha 工業・流通系 361ha 学術・研究系 208ha レクリエーション系 10ha	住宅系 商業・業務系 790ha	開発保留地区 300ha (6.6%)	保全地区 1,510ha (33.0%)

注1) 既開発地：造成済の住宅地、工業用地、大学、山陽自動車道、広島広域公園等の用地
2) 計画開発地区：開発事業者等により開発を行なう山地部の開発適地
3) 計画誘導地区：土地区画整理事業等による整備を促進する地区
4) 開発保留地区：計画開発地区に準じた開発可能地であるが、立地条件、事業熟度等から当面土地利用の方向付けを保留する地区
5) 保全地区：原則として、自然環境の保全または緑地的活用を図る地区

(4) 都市機能導入の目標

総合自立都市として必要な「住み」、「働き」、「学び」、「憩う」といった四つの柱となる機能を具体化するため次の七つの都市機能を掲げ、これらの機能の重点的、計画的な導入、整備を図る。

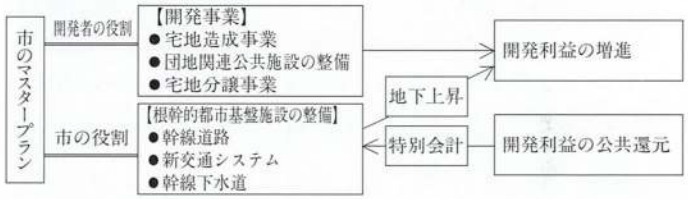


(5) 開発利益の公共還元

広島西部丘陵都市は、市の策定したマスタープランを基本に、行政と民間開発事業者が、それぞれの役割分担の中で協力関係を確保しながら一体となって推進するプロジェクトである。

この理念のもとに、本市は、新都市共通の基盤となりかつ開発の促進に資する根幹的な都市基盤施設の整備を開発に先行して、あるいは開発に合わせて計画的に推進することに努めることとし、一方、民間開発事業者は、広島市が行う根幹的な基盤施設整備により増進する開発利益の一部の公共への還元を約束するという通常の要綱による一方的な負担とは性格を異にする官民協同プロジェクトならではの双務契約的な負担方式としている。

開発利益の還元の構図



3．原状

(1) 都市基盤施設整備

西部丘陵都市内の幹線道路、基幹河川、上下水道幹線については、昭和61年度に新規採択を受けた国庫補助事業（住宅宅地関連公共施設整備促進事業）等により、アジア競技大会の開催される平成6年までに主要な施設の完成を目指し、鋭意、整備中である。

また、民間による都市基盤施設整備を促進するため、NTT－A型無利子貸付金など国の低利融資制度を活用できるよう本市及び民間開発事業者の出資により、第三セクター「広島西部丘陵都市整備株式会社」を平成元年1月に設立し、河川、道路などの整備を進めている。

(2) 民間開発事業

民間開発事業者の開発については、平成2年10月にアジア競技大会選手村を建設する大塚業務地区・伴南住宅地区の開発許可を皮切りに、平成3年10月には広島市立大学（仮称）の建設が決まっている大塚学研地区の開発を、平成4年6月には石内北流通地区の開発を、また本年8月には広島県総合運転免許センター（仮称）の立地が決まっている石内学研地区の開発をそれぞれ許可した。これらの開発事業は、順調に進められており、アジア競技大会関連施設及び市立大学については、建築工事が大詰めを迎えている。

残りの開発予定地についても、マスタープランに沿った開発に向け、開発計画の具体化、関係機関、地権者との調整等、開発許可に

向けての準備が行われている。

(3) 地域住民による土地区画整理事業

地域住民によるまちづくりの気運が盛り上がりを見せており、地域全体の住民間の協議組織が発足し、まちづくりのための会合が重ねられている。広島市としては、この組織を中心に、住民と協調した開発の推進を図ることを基本とし、地元の支援活動を実施している。

特に、アジア競技大会のメイン会場となる広島広域公園の周辺地区では、アジア競技大会までの概成を目指して、市施行による区画整理事業を進めている。

(4) グランドデザインの策定

開発のマスタープランは社会情勢の変化等に対応しながら概ね5年ごとに見直しを行うこととしているが、平成元年の策定後約4年が経過し、都市基盤施設の整備の進展、民間の開発事業の熟度の高まりなどに対応する必要が生じたため、計画開発地区の開発計画の見直し、及び開発保留地区のうち公共性、緊急性の高いものの計画開発地区への格上げを内容とした一部見直しを本年5月に行った。

また、中・長期的観点に立った都市のトータルプランを明らかにし、平成6年度に予定している実施計画の総合見直しに反映させるため、次のような視点から官民共同組織である「広島西部丘陵都市開発推進協議会」において『広島西部丘陵都市建設総合計画（グランドデザイン)』の策定に取り組んでいる。

① 都市建設の新たな段階に向けての対応、都市建設の始動期から人口定着・都市機能立地が本格的に展開する時期を迎え、統一的な都市イメージ、都市環境に関する明確なビジョン等新たな都市形成戦略の構築

② 時代の潮流への対応、環境問題、高齢化問題、少子化問題等社会ニーズへの対応

③ 個別調査・計画の体系化

④ 開発熟度の進展への対応、開発保留地区における開発熟度の高まりや開発ICの設置決定などに対応した交通体系の再構築、土地利用等の検討

(5)アーバンデザインの推進

21世紀のモデル都市を目指す西部丘陵都市にとって、魅力的な都市空間の形成が重要な課題である。都市の景観的、環境的な目標やその実現方法を具体化するため、現在実施中のグランドデザイン策定調査のなかで進めている「アーバンデザイン基本計画」を来年度策定し、協議制度を通してアーバンデザインを推進していくこととしている。

この制度の対象としては、宅地開発、建築物、橋梁等の公共施設のなかから一定規模以上のものとするが、景観上特に重要な案件については、都市デザインの専門家から構成されるアーバンデザインコミッティで審議する。

なお、コミッティは、西部丘陵都市の都市デザインに係わる諸問題について諮問機関として位置付ける予定である。

(6) その他

本市では、緑豊かな丘陵地の自然環境や地形特性等を生かした自然と調和した住みよい住宅づくりを進める目的で、「グリーンフロント住宅建設・購入資金貸付制度」を平成4年度に創設した。この制度は、本市がグリーンフロント住宅と認定した住宅を建設又は購入する場合に住宅建設資金等貸付制度の特別割増貸付を行うもので、西部丘陵都市の第1期開発である大塚業務地区・伴南住宅地区の住宅は、この制度の第1号認定を受けたところである。

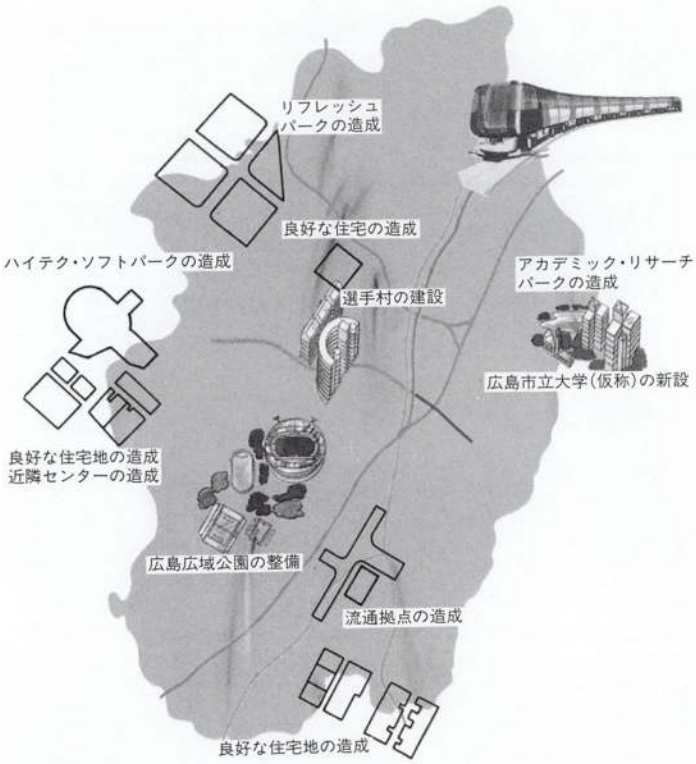
おわりに

広島西部丘陵都市の建設は、アジア競技大会の開催を間近に控え、都市の骨格となる都市基盤施設の整備や第1期の民間による開発事業が進み、都市の全貌も見え始めているが、この都市建設事業は21世紀初頭の完了を目指した長期・大型プロジェクトである。

現在、本市ではアジア競技大会をプロジェクト推進の大きなバネとして、積極的にこの都市建設事業を進めているが、アジア競技大会終了後にどのような施策を展開し、この事業を牽引していくか検討する時期が来ている。

当面、平成8年の国民体育大会の開催、2002年のワールドサッカー誘致等を進めていくこととしているが、この都市が魅力あるものとなり得るよう種々の先進的な施策を展開するとともに、この地から絶え間なく話題、情報を発信し続け、「広島西部丘陵都市」が本市の飛躍・発展又は活性化の原動力となるような都市づくりを進めていきたいと考えている。

（まつしま　よしのぶ／広島市開発局計画調整課課長）



▲

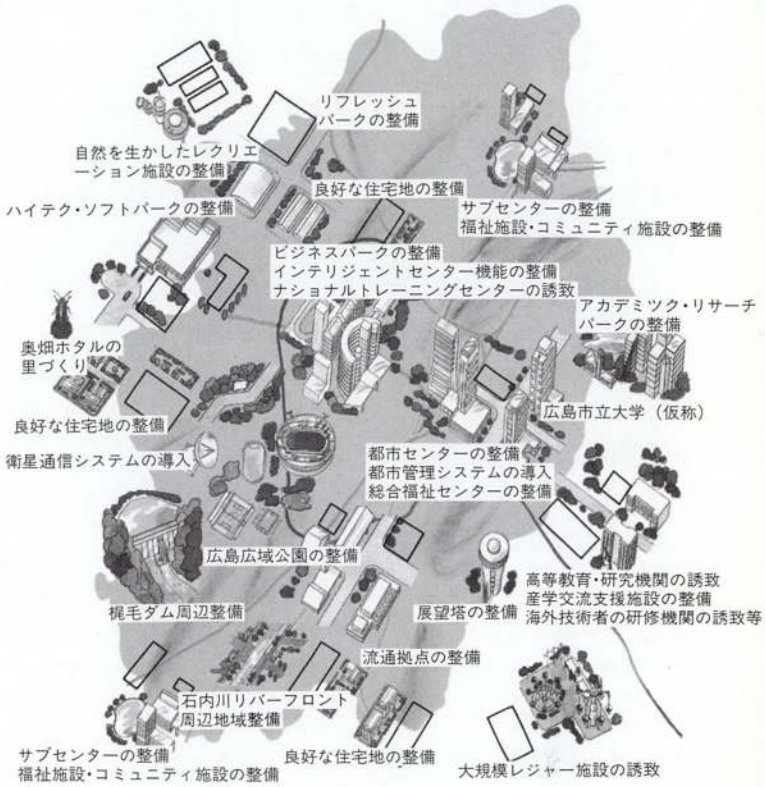
Ⅰ期

1989年～1994年

(平成元年～平成6年)

都市の顔の創出

平成６年の広島アジア競技大会の開催や広島市立大学の開学をめざして、都市の動脈となる幹線道路や上下水道、新交通システム等、各種の都市基盤施設が整備されます。また、学術・研究団地や工業め流通団地、住宅団地等の造成が進み、都市の顔が創出されます。



▲

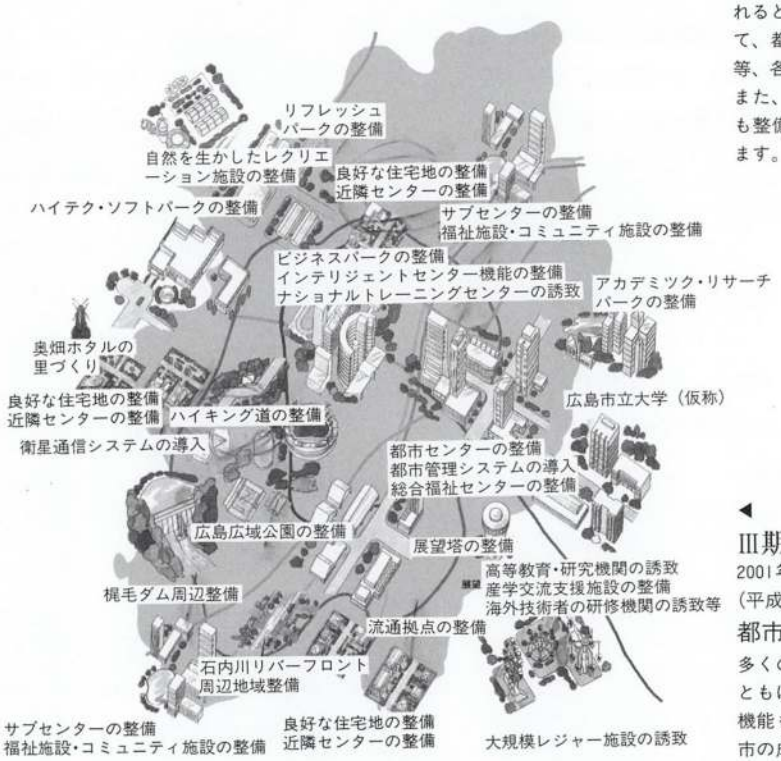
Ⅱ期

1995年～2000年

(平成7年～平成12年)

都市の骨格の形成

研究所や工場等各種企業の立地が促進されるとともに、高質な住宅を供給。あわせて、都市センターやサブセンターの整備等、各種都市機能の整備が進められます。また、広島市都心部と直結する短絡道路も整備されるなど都市の骨格が形成されます。



◀

Ⅲ期

2001年～

(平成13年～)

都市の成熟

多くの企業や研究機関等が拠を構えるとともに、住宅や商業・業務施設等各種都市機能も充実。まちは、一段と活気づき、都市の成熟が図られます。

「アストラムライン」(広島新交通システム)の概要

川原太郎

1．はじめに

広島市の安川流域を中心とする北西部地域では、昭和40年代から急激な宅地開発が行われ、短期間に人口が急増したため、道路等の都市基盤施設の整備が追いつかず、広島都市圏の中でも特に深刻な交通問題が起きている。

一方、広島市では、都市全体の均衡ある発展を促すため、多心型の都市構造の形成を図ることとしており、その先導的な役割を担うプロジェクトとして、市北西部に位置する沼田・石内地区の丘陵地に、「住み」「働き」「学び」「憩う」という複合的な機能を備えた人口10万人規模の広島西部丘陵都市の建設を進めている。

こようなことから、北西部地区の交通問題を抜本的に解消するとともに、新たな街づくりの開発を促進するという必要性から、都心部と連絡する定時性、快適性に優れた軌道系交通機関として新交通システムを導入することとし、昭和62年12月に第三セクターの広島高速交通株式会社を設立し、平成６年９月初旬の開業を目指して現在、鋭意その準備を進めているところである。

また、開業直後に開催される第12回アジア競技大会においては、沿線には、メイン会場となる広島広域公園外各種競技会場があり、観客等の輸送手段の一翼を担うことが期待されている。

なお、本計画の現在までの主な経緯は次のとおりである。

昭和61年４月　建設省の新規路線として事業採択
昭和62年12月　広島高速交通㈱設立
昭和63年８月　特許・免許取得（本通駅～長楽寺駅）
昭和63年12月　工事施工認可取得（本通駅～長楽寺駅）
平成３年３月　特許取得（長楽寺駅～広域公園前駅）
平成３年８月　工事施工認可取得（長楽寺駅～広域公園前駅）

2．計画の概要

(1) 区　　間　中区紙屋町二丁目～安佐南区沼田町大塚
(2) 営業キロ　18.4km
(3) 構造形式　複線：郊外高架式・都心部地下式
(4) 駅　　数　21駅（平均駅間距離920m）
(5) 総事業費　約 1,760億円
(6) 経営主体　広島高速交通㈱（第３セクター）
(7) 開業予定　平成６年９月初旬

3．運行計画

(1) 運行方式　ワンマン運転
(2) 所要時間　約37分
(3) 運行間隔　（ラッシュ時）　本通～大町間　３分

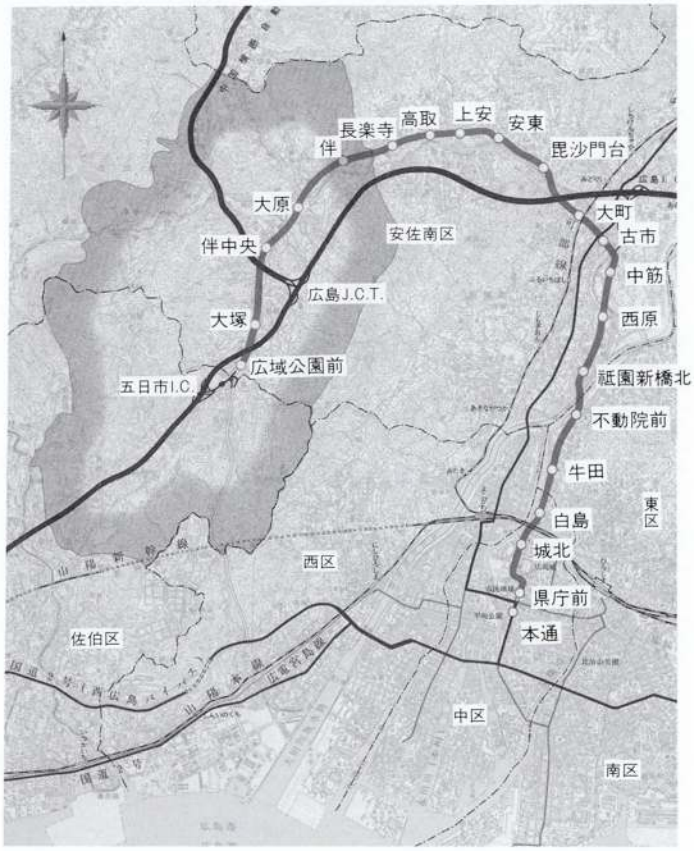


図１　路線図

大町～長楽寺間　６分
長楽寺～広域公園前間　12分

(4) 表定速度　約80km／時（最高速度60km／時）
(5) 列車編成　６両固定編成
(6) 車両定員　一編成286人

4．施設概要

(1) 駅

都心部の本通駅・県庁前駅及び城北駅の３駅は、地下２層構造（地下１層がコンコースただし、城北駅は地上部がコンコース、地下１層機械室、地下２層がプラットホーム）で、軌道面は約９～14mの深さとなっている。

一方、白島駅以北の18駅は、高架２層構造（高架１層がコンコース、高架２層がプラットホーム）で、軌道面は、約11mの高さとなっている。

このような構造となっているため、利用者のために、、コンコースからプラットホーム間には、全駅にエレベータ・エスカレータ・階段を設け、また歩道からコンコース間にも、エレベータ・エスカレータ（スロープ設置駅等を除く。）・階段を設置している。

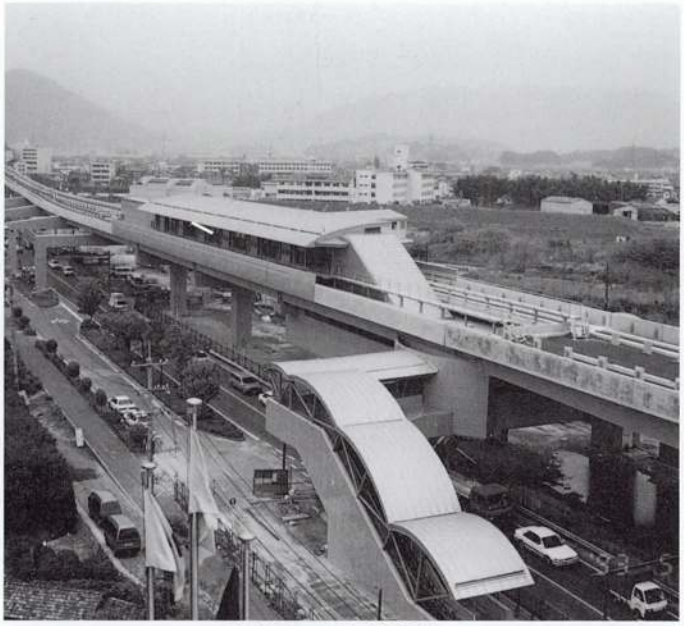


写真１　西原駅駅舎

プラットホームについては、全駅島式で、ホーム長52m（車両編成長に対応）、幅員は6.3m～８mとなっており、高架駅の天井はトップライト構造で自然光を採り入れ省エネを図っているほか、ホームと軌道部間には乗客の転落防止等のためにホームスクリーンとホームドアを設置している。

(2)　車両

大型バスよりやや小さめの車両は、ゴムタイヤを使用するため、騒音・振動が少なく、また、動力が電気なので排気ガスを発生しないなど無公害型・省エネタイプとして設計されている。

また、車椅子の方にも利用しやすいように、先頭車両と最後尾車両のドア付近に折畳み式シートを設置し、車椅子固定場所を提供している。

具体的な諸元については次のとおり。

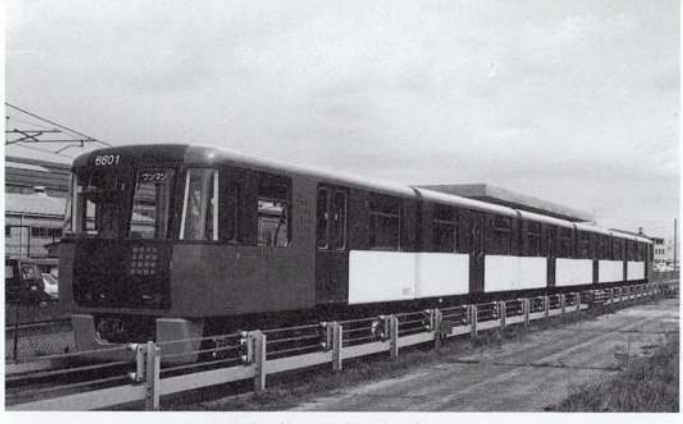


写真２　車両写真

車両数　22編成（132両）

車両長　先頭車 8.15m：中間車 8m

編成長　50．7m

車両幅　2.38m

車両高　3.29m

空車重量　約11t／１車両

(3)　軌道施設

軌道は、全線が複線で、本通駅、大町駅、長楽寺駅、広域公園前駅には分岐装置を設置し、列車の折り返し運転が可能な配線となっている。また、車両基地への入出庫線をそれぞれ単線で設置している。

(4)　車両基地

長楽寺駅の西側の約4.7haの敷地に、アストラムラインの車両基地（最大25編成、150両の車両が収容可能）、が設置されており、敷地内の建物の概要は次のとおりとなっている。

区　分	構　造	延床面積	備　考
管　理　棟	鉄筋コンクリート造5階建	4,400㎡	本社機能、仮泊施設他
機　器　棟	鉄筋コンクリート造5階建	4,300㎡	中央指令室他
検　車　棟	鉄　骨　２　階　建	3,500㎡	検車修繕線５線、作業員詰所他

また、車両を収容する留置線上には、面積約20,000㎡の人工地盤を設置し、その上部には、現在、広島市教育委員会が交通科学館（仮称）を建設している。

５．おわりに

「アストラムライン」という愛称は、日本語の明日（あす）と英語のトラムライン（電車路線）を繋ぎ合わせた造語で、「明日に向かって走る電車路線」という意味が込められている。この名のとおり、未来の広島都市圏の交通体系の一翼を担うべく、その最初のステップとしての開業に向けて全力を傾注して準備を進めているところである。

また、開業直後、首都以外で初めてアジア競技大会が開催されるが、アストラムラインは、メイン会場及び、沿線で開催される競技会場へのアクセスとして活用される予定である。

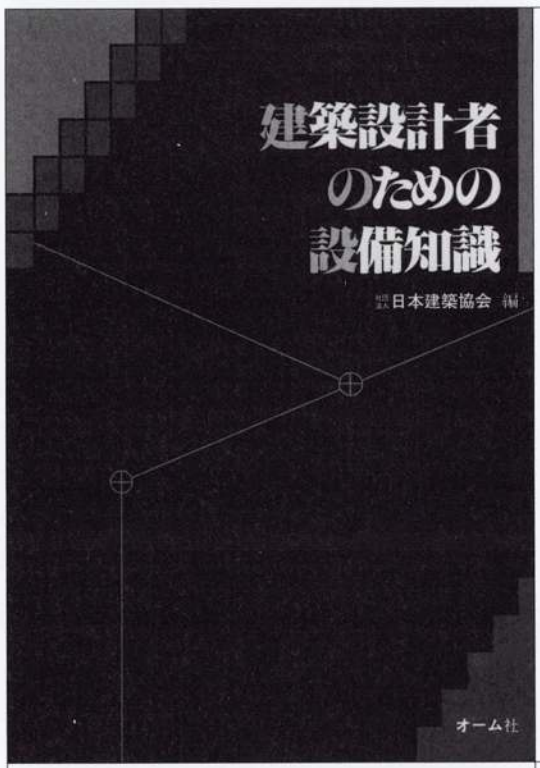
世界平和への願いをこめて開催されるこの大会が文字どおり〝Asian harmony〟を実現する若人の祭典となるためには、国の内外からの多くの人たちが様々な機会をとらえて交流を深めてゆくことが必要であり、アストラムラインはその重要な交通手段として熱い期待を浴びている。

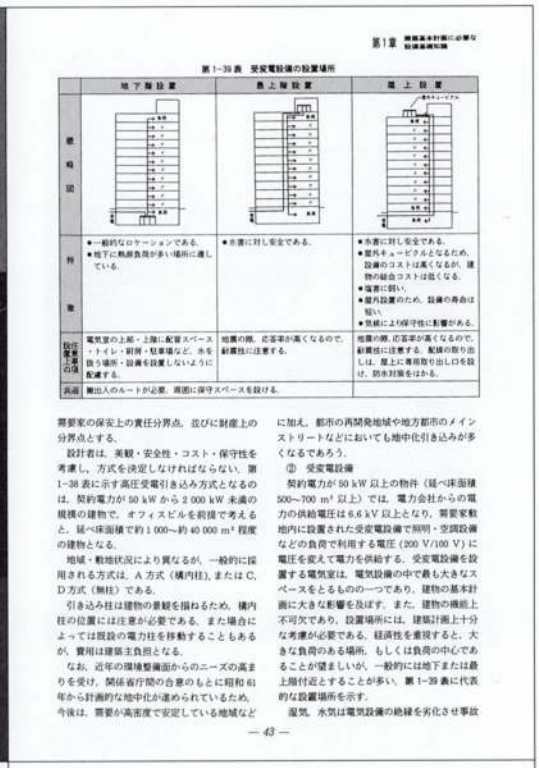
（かわはら　たろう／広島高速交通株式会社代表取締役社長）

㈳日本建築協会編／オーム社発行

建築設計者のための設備知識 —— 発売中 ——

B5判　220頁　上製本　定価5000円（本体4854円）'93・9月30日刊行




第1章

第1-38表　受変電設備の設置場所

	地下階設置	最上階設置	屋上設置
概略図			
特徴	●一般的なロケーションである。 ●地下に熱源負荷が多い場合に適している。	●水害に対し安全である。	●水害に対し安全である。 ●屋外キュービクルとなるため、設備のコストは高くなるが、建物の総合コストは低くなる。 ●塩害に弱い。 ●屋内設置のため、設備の寿命は短い。 ●気候により保守性に影響がある。
設置基準上の注意	電気室の上部・上階に配置スペース・トイレ・厨房・駐車場など、水を扱う場所・設備を設置しないように配慮する。	地震の際、応答率が高くなるので、耐震性に注意する。	地震の際、応答率が高くなるので、耐震性に注意する。配線の取り出しは、屋上に専用取り出し口を設け、防水対策をはかる。
共通	搬出入のルートが必要。周囲に保守スペースを設ける。		

需要家の保安上の責任分界点、並びに財産上の分界点とする。

設計者は、美観・安全性・コスト・保守性を考慮し、方式を決定しなければならない。第1-38表に示す高圧受電引き込み方式となるのは、契約電力が50 kWから2 000 kW未満の規模の建物で、オフィスビルを前提で考えると、延べ床面積で約1 000～約40 000 m²程度の建物となる。

地域・敷地状況により異なるが、一般的に採用される方式は、A方式（構内柱）、またはC、D方式（無柱）である。

引き込み柱は建物の景観を損ねるため、構内柱の位置には注意が必要である。また場合によっては既設の電力柱を移動することもあるが、費用は建築主負担となる。

なお、近年の環境整備面からのニーズの高まりを受け、関係省庁間の合意のもとに昭和61年から計画的な地中化が進められているため、今後は、需要が高密度で安定している地域などに加え、都市の再開発地域や地方都市のメインストリートなどにおいても地中化引き込みが多くなるであろう。

② 受変電設備

契約電力が50 kW以上の物件（延べ床面積500～700 m²以上）では、電力会社からの電力の供給電圧は6.6 kV以上となり、需要家敷地内に設置された受変電設備で照明・空調設備などの負荷で利用する電圧（200 V/100 V）に電圧を変えて電力を供給する。受変電設備を設置する電気室は、電気設備の中で最も大きなスペースをとるものの一つであり、建物の基本計画に大きな影響を及ぼす。また、建物の機能上不可欠であり、設置場所には、建築計画上十分な考慮が必要である。経済性を重視すると、大きな負荷のある場所、もしくは負荷の中心であることが望ましいが、一般的には地下または最上階付近とすることが多い。第1-39表に代表的な設置場所を示す。

湿気、水気は電気設備の絶縁を劣化させ事故

— 43 —


第6章

第6-3表　空調システム例（3）

方式	概略系統	特徴	評価
E 空調機＋ファンコイル方式（全空気熱源）		インテリア負荷は空調機、ペリメーター負荷はファンコイルで負担する。空調機の送風量はペリメーター分だけ少なくすることができるので、納まりはよい。温度制御は、ゾーニングができているためよい。南面の冬季の日射負荷対応には、ファンコイルの配管を冷水・温水の4管とする必要がある。	保守 ○ 騒音 ○ 温度制御 ○ スペース ○ 運転 ○ コスト ○ プラン上の制約 ◎ 外気冷房 可
F 空調機＋パッケージ方式（個別熱源方式）		インテリア負荷は空調機、ペリメーター負荷はウォールスルー型パッケージで負担する。ダクトサイズは、E方式同様小さい。ゾーニングができているため、温度制御性はよい。南面の冬季日射負荷には、個別対応が可能。特徴外には中央熱源を運転しなくても、パッケージで冷暖房が可能（室面より6 m程度）。	保守 ○ 騒音 ○ 温度制御 ◎ スペース ○ 運転 ○ コスト ○ プラン上の制約 ◎ 外気冷房 可

エネルギー	電気またはガス	換気設備	兼用可
熱源機械室	不要	屋上設置機器	方式Cと同様
空調機械室	1フロア 1 600×800×2台		
PS	ファンコイル400φ 200 機械室兼用		
DS	不要		

エネルギー	電気＋電気またはガス	換気設備	兼用可
熱源機械室	不要	屋上設置機器	方式Cと同様
空調機械室	1フロア 1 600×800×1.5台		
PS	機械室兼用		
DS	不要		

—157—

■目次

序　論　建築設計のための設備

第1章　建築基本計画に必要な設備基礎知識
給排水衛生設備／空気調和設備／電気設備／昇降機設備／ごみ処理設備

第2章　事務所ビルの設備基礎知識
給排水衛生設備（＋ごみ処理）／空気調和設備／電気設備／昇降機設備

第3章　商業ビルの設備基礎知識
給排水衛生設備（＋ごみ処理）／空気調和設備／電気設備／昇降機設備／貸方基準

第4章　集合住宅の設備基礎知識
給排水衛生設備（＋ごみ処理）／電気設備／昇降機設備／電気エネルギー設備／ガスエネルギー設備

第5章　意匠設計者による設備の打ち合わせ
現地調査／官庁打ち合わせ事項／建築主打ち合わせ事項／法規チェックリスト

第6章　事務所ビルの設計例
給排水衛生設備／空気調和設備／電気設備／昇降機設備／モデルビル設備概要

第7章　商業ビルの設計例
給排水衛生設備／空気調和設備／電気設備／昇降機設備／ごみ処理設備／モデルビル設備概要

第8章　建築と設備の接点
外壁，屋根／ドアガラリー／機械室／屋上，屋外／天井／DS，PS／EPS／フロアダクト／設備更新／騒音・振動の防止／住宅用メーターボックス／各種機器の納まり／配管スペース

本著書は、㈳日本建築協会機関誌「建築と社会」に3回にわたり特集した内容をベースに、環境問題にゆれる現在の社会状況を織り込み、最新の技術情報を盛り込むべく新たに書き起こしたもので、執筆には、東畑建築事務所、日建設計、安井建築設計事務所、大阪ガス、関西電力の設備設計者が当たり、編集委員会で推敲を重ねました。

第一線で活躍する設備設計者が、実務において、建築と設備のかかわりあう場で直面した問題を掘り起こしその解決を選択肢で示した本書は、意匠設計者のみならず、初歩の設備設計者にも好個の資料になるものと思います。

本書のお求めは、全国の書店で!!

㈳日本建築協会（〒530大阪市北区梅田1-1-3-2100TEL06-348-0635、FAX06-348-0634）では、割引価格（＋送料実費）で販売しますので、本会までご注文下さい。

設備の頁　225

アプローズタワーの照明施設

上西俊美　うえにし　としみ
㈱竹中工務店大阪本店設計部設備課長

アプローズタワー

新関西空港の開港をひかえ、空港関連施設をはじめ、大阪・南港地区に代表されるベイエリア、さらに空港の窓口となる大阪南地区で、多くの建設工事が進められている。これらの建設に先立ち、大阪の北地区でも話題性のある建物が完成した。

その一つが、北区茶屋町に誕生したアプローズタワー（**写真1**）である。

喝采空間と名づけられた当ビルは、毎日放送ビル、西武ロフトに隣接し、「未来的コンプレックスシティ茶屋町から次の新しい大阪キタ文化が始動する」のコンセプトの下に計画されたもので、低層部と高層タワー部からなり、シンボリックな外観をもっている。機能的には、ホテル、劇場、オフィス、フィットネスクラブ、高級専門店で構成された地上34階、地下3階、高さ161m、延べ床面積約97,000m²の新都市型複合ビルである。

当ビル（**図1**）は第11回日本照明賞を受賞したので、受賞の対象となった照明施設を紹介する。

日本照明賞

日本照明賞とは、社団法人照明学会が設けた賞で、照明に関する技術分野において照明界に特筆すべき多大な貢献があったと認められた業績（研究論文、著者、発明、製品開発、技術開発、生産技術、計測・制御技術、、照明施設、照明効果等）を上げた個人またはグループに贈られるもので、毎年2件が選ばれ、表彰されている。

当ビルでは、「アプローズタワー（都市型複合機能ビル）における照明設備」という題目で応募し、受賞した。

照明施設の概要

■劇場「飛天」昇降式シャンデリア

劇場「飛天」は演劇を主体に計画された劇場で、席数1913席、3層構造、客席部の天井高さが約17mの大空間をもっている。

この客席空間の中央に総重量3.2ton、外形寸法7.4m×6.0mの花火をイメージした巨大なシャンデリア（**写真2**）を吊り下げた。このシャンデリアが、スポットライトをあびながらゆっくりと上昇し、開演を知らせる趣向となり、観客の期待感をより一層高めている。

また、シャンデリアの昇降装置は、球替えや、清掃時には客席床レベルまで降下させることができ、保守性の向上にも大いに役立っている。

〔光源〕
ミニクリプトン電球25W×461灯

■ホテルアトリウムロビー光天井

高層タワー部の25階以上がホテル宿泊施設となっており、25階には宿泊客用アトリウムロビーを設けている。このロビー（**写真3**）の天井を全面光天井とし、客室階の中央部の吹抜空間を利用し、屋上ヘリポート下部の開口部から自然光を取り入れるとともに人工照明を配置し、光天井の光源としている。

自然光と人工光を組み合わせ、昼光、夕陽、月の光をコンピュータ制御で演出し、「時を取り入れた光庭」としてラグジュアリーホテルにふさわしい雰囲気づくりを実現している。

〔光源〕
直射用　陽光ランプ　400W×64灯
間接用　ナトリウムランプ　1 kw×16灯
　　WHIDブルーランプ　1 kw×8灯

■ガレリア空間照明

高級専門店に面し、複合ビルの共用エントランス的位置づけのガレリアは、パームツリーや四季折々の花で彩られた、高さ40m、幅10m、長さ80mの巨大な空間（**写真4**）である。

ここでも総ガラス張りのR屋根からの自然光と人工光を組み合わせ、周辺の店舗や料飲施設、宴会場の環境に調和した照明環境をつくり出し、植栽の生育に効果をあげるとともに、行き交う人々の目を楽しませている。

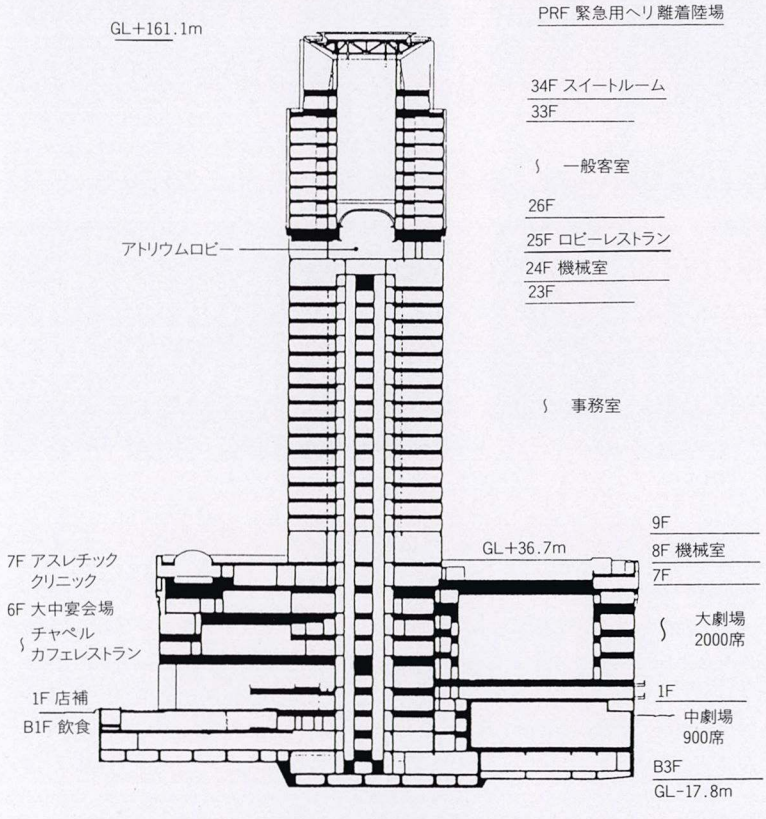


図1　機能断面図



写真1



写真 2



写真 3

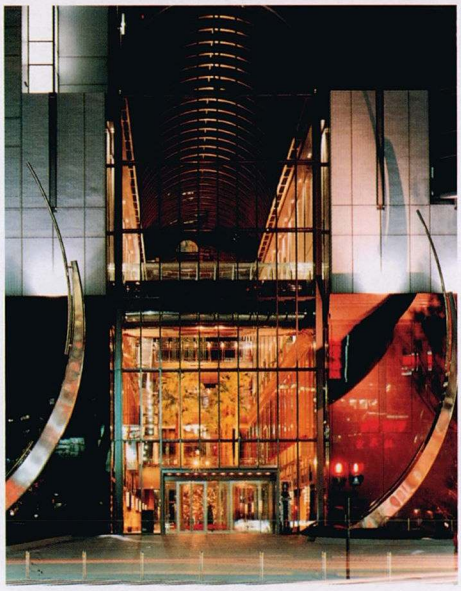


写真 4



写真 5

〔光源〕

天井　　HQI 70W ダウンライト×52灯
壁―3階―　HQI 70W アッパーライト×26灯
　―2階―　HQI 70W ダウンライト×44灯
　　蛍光灯40W×2ブラケット×14灯
床―樹木用―水銀ランプ250W

■外壁ライトアップ

低層棟、高層タワーに分かれた外観に合わせ、低層部外壁全周にアッパライトを組み込み、高層部ではヘリポート床下部全周と、タワー部外壁のコーナー部に投光器を設け、建物全体のイメージを浮かびあがらせている（**写真 5**）。しかも高層部の投光器のランプの色を、冬はオレンジ、夏は白色に取り替え、季節感を出している。また、高層タワーコーナー部の器具配置は、26階から34階のホテル客室の窓への照射を防いでいる。

〔光源〕

タワー頂部　　高圧ナトリウムランプ（冬）
　　メタルハライドランプ（夏）
　　360W×48灯
高層部スリット　メタルハライド70W×54灯
高層部コーナー　高圧ナトリウムランプ（冬）
　　メタルハライドランプ（夏）
　　360W×16灯
低層部スリット　メタルハライド　70W×68灯
低層部コーナー　メタルハライド　250W×42灯
低層部外周　　メタルハライド　150W×68灯

構造の頁　224

600kg/cm²コンクリートを用いたニューRC造集合住宅の設計

角　彰 すみ あきら
㈱竹中工務店大阪本店設計部構造課長

建設省総プロ「RC造建物の超軽量・超高層化技術の開発」（略称ニューRC）が93年3月をもって終了し、わが国のRC造建物にも、新たなステップが到来した感がある。それは、高強度材料の利用、部材構造性能の解明を基にして、高層RC造の画一的な構造計画から脱皮する可能性を与えてくれる。

ここに紹介する建物は、600kg/cm²の圧縮強度を持つコンクリートと、SD490の主筋および8,000kg/cm²のせん断補強筋を用いて、従来の高層RC造にはない平面計画と部材断面を持った高層集合住宅の設計事例である。

構造計画

高層RC造は従来、塔状比が3.0以下、標準スパンは5.0m程度（柱支配面積＝床面積／柱本数＝20m²）が一般的であり、平面計画も均等スパンラーメン構造で、センターコアあるいはボイド形式がほとんどである。

本建物は1フロアー4住戸、両面採光（妻住戸は3面採光）が可能な板状雁行タイプで、最大スパンは7.6mの22階建て集合住宅である。柱本数が少なく、短辺方向塔状比が大きいため、従来ならSRC造として設計された建物であるが、本設計では、短辺方向が境界梁を持つ連層耐震壁構造、桁行方向は純ラーメン構造のRC造とした。

連層耐震壁の側柱には、転倒モーメントによる大きな軸力が作用する。また、桁行方向ラーメン架構は、柱本数が少ないため、過大な曲げせん断力を負担する。これらに対処するために、高強度のコンクリートおよび高強度の鉄筋を用いて、部材断面を縮小しながらRC造を実現した。

表1に建物概要、図1にパース、図2に基準階

表1　建物概要

建築主	三井不動産　阪神電気鉄道
設計監理	竹中工務店
施工	竹中工務店
建築地	神戸市西区井吹台東-1
敷地面積	27,182.08m²
延床面積	10,115.33m²
階数	地上22階、塔屋1階
軒高	GL＋66.96m
最高高さ	GL＋76.71m
基準階階高	2.90m



図1　パース

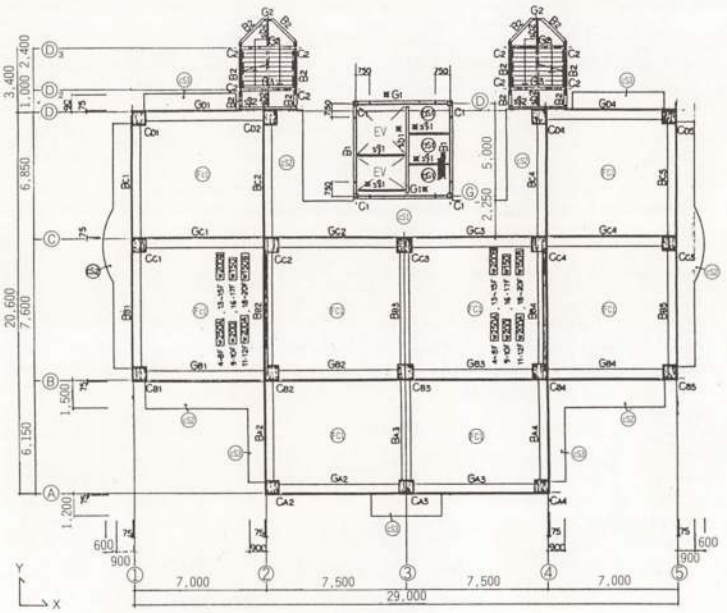
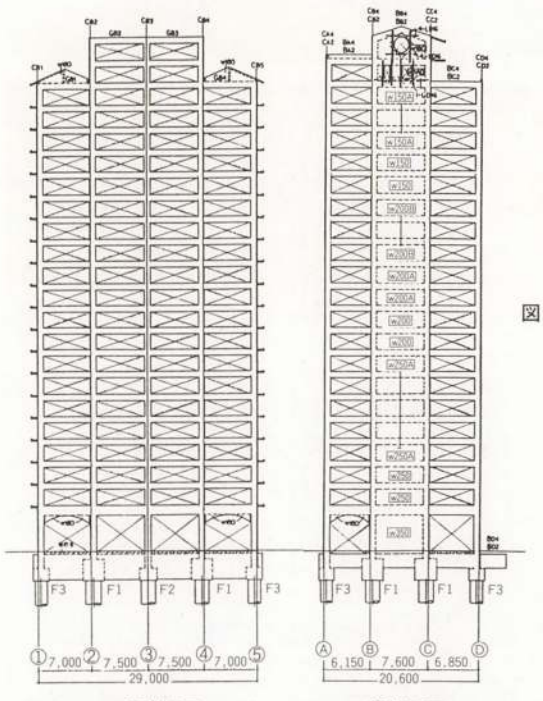


図2　基準階床伏図



B通軸組図　　2通軸組図

図3　軸組図

床伏図、**図3**に軸組図をそれぞれ示す。

構造設計

耐震壁とラーメン架構のせん断力分担、耐震壁に対する直交ラーメンの抑え効果は、ＲＣ部材のひびわれによる剛性低下の影響を受ける。そのため、解析は疑似立体弾塑性解析により、地震時設計用応力を求めた。

コンクリート、鉄筋材料の使い分けは、最もその効果が発揮できるよう検討し、柱、壁の５階まで Fc600を使い、梁は Fc450とした。SD490の主筋は耐震壁側柱の軸鉄筋として、梁の曲げ耐力を高めるために使用した。また、高強度せん断補強筋は柱の拘束、梁のヒンジ部の拘束のために使用した。

使用材料および断面を**表2**に示す。

各種実験

600kg/cm²コンクリートは、シリカヒュームを混和材として使用し、流動性を確保しながら高強度を得るよう工夫した。そのため、実機による調合検討、さらに施工性を検討するため実大モデルでの施工実験を行った。

また、強度の違うコンクリートを使用する柱梁十字骨組の構造実験や、耐震壁の構造実験を行い、せん断設計法を検討した。

まとめ

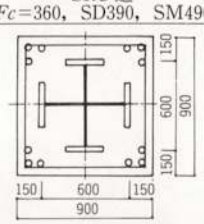
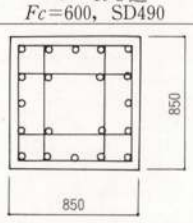
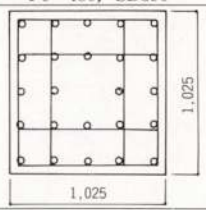
表3に、本設計の柱を、SRC造や従来のＲＣ造で設計した場合との比較を示す。

このように、高強度の材料は部材断面を縮小し、建築計画の自由度を高めることができる。しかし高強度のコンクリートは製造、施工技術の向上が必須の条件である。製造メーカー、施工者、設計者が協力して、より汎用的な材料として利用できる日が１日も早く来ることを願って止まない。

表2　使用材料と断面

階	柱			大梁			耐震壁		
	コンクリート (kg/cm²)	断面	主筋	コンクリート (kg/cm²)	断面	主筋	コンクリート (kg/cm²)	断面	主筋
RFL 22FL	300	750 × 750	UD29 (SD390)	300	420 × 800	UD29 (SD390)	300	W180	LD10 (SD295)
21FL									
20FL								W150	LD13 (SD295)
19FL									
18FL									
17FL	360	800 × 800	UD32 (SD390)	360	470 × 800	UD32 (SD390)	360		
16FL									
15FL								W200	LD10,13 (SD295)
14FL									
13FL			UD35 (SD390)	450	520 × 800	UD35 (SD390)	450		
12FL	450								
11FL									
10FL									
9FL									
8FL					570 × 800			W250	LD16 (SD295)
7FL									
6FL									
5FL	600		USD38 (SD490)			USD38 (SD490)	600		
4FL									
3FL									
2FL									
1FL		900 × 900			570 × 1,300			W350	LD16 (SD295)
					620 3,300	UD38 (SD390)			

表3　柱断面の比較

	SRC造 Fc=360，SD390，SM490	ニューＲＣ造 Fc=600，SD490	ＲＣ造 Fc=480，SD390
柱断面			
鉄骨	G:FPL-32×300，B:FPL-32×250 G:WPL-16，B:WPL-16	－ －	－ －
鉄筋	12-UD32，4-LD13，LD13□@100	20-USD38，UR13⊞@100(KSS80)	24-UD38，UR13⊞@70(KSS80)

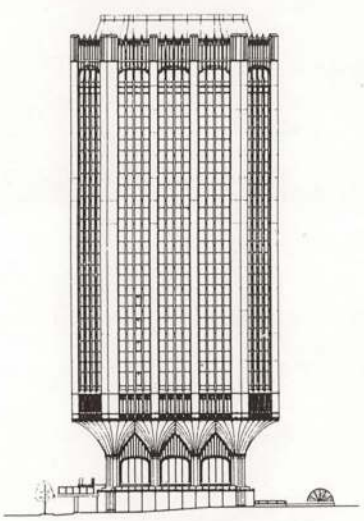
与謝野久氏に聞く

大同生命大阪本社ビル

——時空を超えて、過去、現在、未来をつなぐ——

小笹光彦

日本建築協会事業委員
ランテック計画事務所所長



大正14年にB. W. ヴォーリズにより設計された旧ビルは、大正時代の大阪を代表する名建築の一つとして、その優美な姿はつとに有名であった。アメリカンゴチック風の様式と、クリスマスケーキを思わすソフトな雰囲気を持ち、市民にこよなく愛され、広く親しまれてきた。そしてこの名建築は、建て替えのため昭和63年、ついにその姿を消すこととなった。

平成5年10月、約6年の空白の後、新ビルとして甦り、その端正な全貌を現した。新ビルは淡いローズ色がかった、高さ約90mのノッポビルである。足元をパームヴォールト方式で絞り込んだスマートなシルエットを持ち、旧ビルに負けない流麗な外装と、旧ビルのなつかしいイメージをしっかりと継承している。

このような、名建築の建て替えにあたっては、数々の解決すべきむずかしい問題があったようであるが、デザイン上での大命題は二つあったとのことである。その一つは、本ビルは肥後橋の角地に立地すること。今一つは、旧ビルのデザイン、イメージ、その精神などをいかに継承するかということである。

本稿においては、主にデザイン面に的を絞って、与謝野久氏の解説の概要をまとめることとする。

角地の建築を開放する

旧ビルが建てられたのは、今から70年以上も昔のこと。その当時と現在とでは、都市における角地の意味づけは基本的に異なってきている。昔は、単にランドマークあるいはアイストップということでよかった。しかし、現在では、角地の位置づけが大変重要になり、ランドマークやアイストップの機能のほかに、周辺との景観の連続性、調和等が必要となってきている。すなわち、角地は都市の顔ともいうべき側面があり、とりわけ、肥後橋という大阪の一等地であれば、なおさらである。

このような大命題に対して、計画のねらいは「建築を角地において、視覚的に劇的に開放する」ということであった。その解決策として、足元を絞り込むパームヴォールト方式が採用され、公開空地を広く確保する手法がとられた。これにより、ワイングラスのような端正なシルエットと、足元の開放性が得られ、都市景観の連続性が確保できたという。すなわち、角地を視覚面だけでなく、公開空地として市民に開放することにより、利用空間あるいは都市のゆとりとして機能させることに成功したとのことである。

文化とイメージの継承

良いもの、美しいもの、親しまれたもの等、時代を経ても変わらないものだけが、時を超えて受け継がれていく。それは折々の街の息吹に調和しながら、人々の心に歴史の厚みを重ねていくものである。このような精神をデザインのねらいとし、屋内空間、外装に様々な苦労と工夫の跡がみられる。

屋内空間においては、可能な限り旧ビルの意匠材を流用したとのこと。壁面、天井、スカイライト等。また、例え流用できなくとも、なるべく忠実に空間イメージの復元をはかろうと試みたとのこと。これらが、メモリアルホールや役員室のインテリアに見事にいかされている。



外装については、一世代前の材料ともいえるテラコッタを積極的に採用し、デザインイメージの継承に努めたとのこと。これには膨大な経費と時間を要したが、それ以上に、クライアント、設計者、施工者が一体となった熱意がなければ出来なかったとのことである。

これらのことが、今後のビルの修復や保全に対する一つのモデルとなれば、との思いがうかがえた。

時空を超えて…

このような努力の結果、誕生したのが、新ビルであり、角地という立地特性を見事にいかし、旧ビルの良さをあますところなく継承している。すなわち、都市における角地の建築の今後の在り方を示唆する空間系の課題と、大正時代と平成時代の融合という時間系の課題を解決している。

このプロジェクトは、旧ビルの竣工から考えれば70年スパンであるが、さらに未来を考慮に入れれば、200年プロジェクトであると設計者はいう。最近の建築はまるで消耗品のごとく、わずか20～30年で更新されることが多いが、これでは、美しく、落ち着いた街並みを形成することは不可能である。少なくとも100年以上先を考えた建築を建てるべきで、建築も100年の大計を持つべきであると力説する。

200年スパンでこの建築をとらえれば、現在はまだその中間点にすぎない…と。

新ビルは、まさに「時空を超えて、過去、現在、未来をつなぐ」ことをテーマにした結晶であるといえる。

日　時　1993年11月24日(水)18：30～20：30
会　場　日本建築協会サロン
講　師　与謝野久氏／日建設計設計部長
司　会　小笹光彦氏
参加者　36人

Kinden
CORPORATION

みらいは、今日より、すてきですか。



大切な約束がある前の日の期待感……。
そんなドキドキをいつも感じていられる街がいいね。
情報・エネルギー・環境をとおして夢をふつうの未来だけで終わらせたくない。
新しい都市のアメニティやオフィス環境が、もっとすてきであるために。
総合設備エンジニアリングのきんでんです。

幸福を語れる、技術でありたい——きんでん。

株式会社 きんでん

本店/〒531 大阪市北区本庄東2丁目3番41号 TEL.06(375)6000 東京本社/〒141 東京都品川区東五反田5丁目25番12号 TEL.03(3447)3151

日本建築協会

月間の動き

【平成5年11月分】

定時評議員会

第2回定時評議員会
24日・4時40分～5時15分・於本会会議室
出席者　鶴田副議長ほか49名（委任状共）
議　事　(1)平成6年度評議員選出数決定に関する件
　　(2)会費改訂に関する件

理事会

第6回定例理事会
24日・4時～4時半・於本会会議室
出席者　(1)会費改訂に関する件
　　(2)平成5年度第2回定時評議員会提出議案に関する件
　　(3)入退会者承認の件
　　(4)報告その他

編集委員会

第4回法令分科会
4日・4時～5時45分・於本会会議室
出席者　生駒幹事ほか5名
議　事　(1)「法令コーナー」の企画
　　(2)編集委員会の編集方針の討議
第8回作品作風小委員会
4日・6時半～9時・於本会会議室
出席者　松田副委員長ほか4名
議　事　(1)作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
　　(2)作品の選定
　　(3)「Gallery」掲載報告・予定
　　(4)「SKETCH BOOK」作品構成
第5回計画系―インテリア・住宅―分科会
5日・7時～9時・於本会会議室
出席者　中村委員ほか6名
議　事　「インテリア・住宅」分科会の特集テーマのフリートーキング
第8回会員企画小委員会
8日・6時半～8時・於本会会議室
出席者　伊藤委員ほか1名
議　事　シリーズものの報告と掲載予定
第6回合同計画分科会
9日・6時半～10時・於本会会議室
出席者　吉村委員ほか3名
議　事　1月号「コピー文化の新時代」特集企画
第7回編集委員会
11日・6時半～9時・於本会会議室
出席者　荒井委員長ほか4名
議　事　(1)11月号「都市型住宅再考」特集経過報告
　　(2)12月号「第40回青年技術者」・「環境―人にやさしい空間創造をめざして」特集経過報告
　　(3)1月号「コピー文化の新時代」・「第12回アジア競技大会広島」特集経過報告
　　(4)編集委員会の活性化について
　　(5)収支状況報告
第8回広告企画小委員会
16日・4時～5時半・於本会会議室
出席者　荒井委員長ほか5名
議　事　収支状況報告
構造分科会　WESTビル見学会
17日　3時～4時30分
見学先　WESTビル（神戸市北区長尾町宅原）の免震工事
参加者　構造分科会委員4名＋9名
第7回構造分科会
29日・6時～8時・於本会会議室
出席者　二宮幹事ほか4名
議　事　(1)「構造の頁」の企画
　　(2)構造特集の企画
第10回設備分科会
30日・6時半～9時45分・於本会会議室
出席者　島田清太郎・蔵敷健次（関西電力）
　　矢野和久・乾佳彦（大阪ガス）
　　梶井幹事ほか7名
議　事　(1)編集委員会報告
　　(2)2月号「建築のエネルギーシステム」（仮称）特集の具体化
　　(3)「設備の頁」の企画

事業委員会

第7回若い会員の集い小委員会
2日・6時半～8時半・於本会会議室
出席者　杉本副委員長ほか4名
議　事　実施報告及び今後の企画について
第5回見学会小委員会
10日・6時～8時・於本会会議室
出席者　南副委員長ほか5名
議　事　(1)前回事業委員会の報告及び実施報告
　　(2)今後の予定説明及び今後の候補について
第5回広報小委員会
10日・6時半～8時45分・於本会会議室
出席者　門川、酒井、下村、宮内各幹事ほか3名
議　事　(1)前回事業委員会の報告
　　(2)第1分科会から、今後の予定について
　　(3)第2分科会から、実施報告及び今後の予定
第5回事業委員会
17日・4時～5時半・於本会会議室
出席者　多井委員長ほか6名
議　事　各小委員会からの報告と検討
第2回30's EYE分科会
25日・6時半～9時・於本会会議室
出席者　田中滋典委員ほか6名
議　事　今後の予定について

出版委員会

「水にまつわるトラブルの事例・解決策〈設備編〉」最終校正方法についての調整会
18日・4時20分～4時50分・於本会会議室
出席者　川崎小委員長ほか8名
議　事　(1)二色刷りの件
　　(2)〈建築編〉との言葉の統一
第7回出版委員会
18日・5時～6時・於本会会議室
出席者　須賀委員長ほか13名
議　事　(1)〈プロのノウハウ〉と特装本の経過報告
　　(2)「プロのノウハウ」講座シリーズ

建材委員会

第6回建材委員会
30日・3時半～5時半・於本会会議室
出席者　和田委員長ほか8名
材料説明：防水層立上がり乾式保護ボードシステム／松本委員
議　事　今後の検討建材

話題建築を聞く

大同生命大阪本社ビル・与謝野久氏に聞く
24日・6時半～8時半・参加者36名

30's EYE-21世紀へのエスキス

澤井　健「建築家と作ったCG」
29日・6時半～8時50分・参加者42名

プロのノウハウ講座

〈新版〉建築基準法を読みこなすコツ
10日・5時半～8時・於大阪府建築健保会館
講　師　高木任之氏（日本木造住宅産業協会専務理事）
参加者　45名

工高生デザインコンクール

第39回工高生デザインコンクール表彰式
20日・1時半～3時・於本会会議室
設計課題「地域に建つショールーム」
出席者　森本審査委員長、片倉・和田教育正副委員長ほか7名
入選者　10名

建築クラブ

第259回朝食会
9日・8時半～10時・於大阪グランドホテル
演　題　第3セクターの特性
　　（公共性と企業のはざま）
講　師　岡　尚平氏（大阪高速鉄道常務取締役）
参加者　60名

建築関係団体合同忘年会懇親会

実行委員会打合会
18日・3時～5時・於本会会議室
出席者　三品実行委員長ほか12名
議　事　'93建築関係団体合同忘年懇親会について

11月の入会者（敬称略）

〔団体会員7社〕
㈱エービーシー商会名古屋営業所
川北電気工業㈱　　ダイダン㈱名古屋支社
㈱藤川原設計　　前田建設工業㈱中部支店
松下電器産業㈱システム営業本部中部支店
松下精工㈱
〔個人会員8名〕

兼平　賢司（日刊建設通信新聞社）	川嶋　江二（全国農業協同組合連合会）	中村　忠昭（エービーシー商会）
甚目　次郎（ダイダン）	冨士田亮子（岡山大学）	矢野　泰次（第一工業）
山本　敦子（イセット）	和田　勝弘（第一工業）	

〔準会員2名〕

河野　芳寛（修成建専）	島田　章子（修成建専）

新年のご挨拶

平成６年元旦

(50音順)

青山幸夫

株式会社 青山建築積算事務所 代表取締役
〒550 大阪市西区京町堀1-10-19江南ビル 電話06(443)0430
〒610-11 自宅・京都市西京区大原野上里勝山町14-6
電話075(331)8082

名誉正会員
浅井泰

〒659 自宅・芦屋市翠ヶ丘町13－5 電話0797(22)5291

浅海伸之

浅海電気株式会社 代表取締役社長
〒530 大阪市北区西天満３丁目７番４号 電話06(362)8701
〒665 自宅・宝塚市栄町２丁目10番26－712号
電話0797(81)1174

飯田精三

共同設計株式会社
〒530 大阪市北区西天満５丁目10番14号 電話06(364)5836
〒560 自宅・豊中市本町２丁目２番24号 電話06(848)0775

石川芳夫

野村建設工業株式会社 取締役社長
〒541 大阪市中央区高麗橋２丁目１番２号 電話06(226)9502

泉沢哲史

株式会社 泉沢建築設計事務所 代表取締役
〒550 大阪市西区北堀江1丁目2番27号 電話06(543)2281

市川繁雄

日本管工業株式会社 取締役社長
〒601 京都市南区西九条豊田町20 電話075(681)5101～5
〒606 自宅・京都市左京区下鴨芝本町37 電話075(781)0289

市川宏

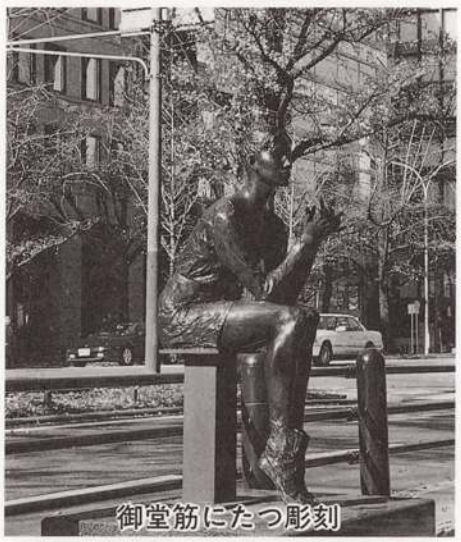
株式会社 東畑建築事務所 取締役社長
〒541 大阪市中央区伏見町４－４－10 電話06(202)0391
〒658 自宅・神戸市東灘区住吉山手４丁目４－32
電話078(811)0216

今井忠臣

イマヰ建設工業株式会社 代表取締役
〒547 大阪市平野区加美北5丁目11番12号
電話06(792)4425代
〒547 大阪市平野区平野北2丁目9番15号-1
電話06(796)1839

取締役会長 **今西茂雄**
取締役社長 **今西荘一**

株式会社 今西建築デザインルーム
〒550 大阪市西区北堀江１丁目13番21号 今西ビル５Ｆ
電話06(541)3051～3


御堂筋にたつ彫刻

今西祥郎

財団法人 大阪住宅センター 理事長
〒542 大阪市中央区南船場4丁目4番3号
御堂筋アーバンライフビル4F
電話06(253)0071～3
〒591 自宅・堺市新金岡町3丁1―23―102 電話0722(51)1902

今村祐三郎

社団法人 大阪建設業協会 専務理事
〒540 大阪市中央区北浜東1番30号 電話 06(941)4821
〒630 自宅・奈良市南永井町344－8 電話0742(62)0784

岩橋重文

株式会社 岩橋設計 代表取締役
〒640 和歌山市中之島1672 電話0734(31)7859
〒640 自宅・和歌山市中之島1661 電話0734(28)2389

上西圭治

株式会社 大気社 代表取締役会長
〒530 大阪市北区中之島３－２－18 住友中之島ビル７階
電話06(448)3603
〒659 自宅・兵庫県芦屋市浜町12―14 電話0797(22)5949

植野知雄

株式会社 寿建築積算事務所 所長
〒542 大阪市中央区東心斎橋１丁目16-29つるのすビル
電話06(244)1561代
〒588 自宅・堺市大美野５－９ 電話0722(37)1162

歌俊美

株式会社 歌建築設計事務所 代表取締役
〒649-64 和歌山県那賀郡打田町打田315 電話0736(77)2711
〒649-64 自宅・和歌山県那賀郡打田町打田315
電話0736(77)2711

尾亀清四郎

株式会社 三晃空調 取締役会長
〒540 大阪市中央区城見２丁目１番61号ツイン21MIDタワー11階
電話06(949)1371
〒573 自宅・枚方市岡山手町15－４ 電話0720(41)3427

尾原重信

株式会社 コアプラン設計 代表取締役
〒550 大阪市西区新町２丁目３番８号米澤ビル８Ｆ
電話06(531)4488
〒532 自宅・大阪市淀川区十三東3-14-13 電話06(302)1051

多井(オオイ)幸男

多井建築研究所 所長
〒541 大阪市中央区今橋１丁目１番地 １番館ビル
電話06(226)0008
〒657 自宅・神戸市灘区曽和町３丁目１―11
電話078(821)6133

新年のご挨拶

平成６年元旦

(50音順)

岡　澤　　勇

岡澤建築設計事務所　　所　長

〒530 大阪事務所・大阪市北区西天満4丁目4番12号
近藤ビル６Ｆ　電話06(362)6082代表
FAX06(362)6084

〒567 茨木市藤の里２丁目16番６号
電話0726(43)5230・8953

岡　野　節　壽

日本電設工業株式会社　大阪支店　常務取締役支店長

〒531 大阪市北区豊崎３丁目17－15　電話06(372)3533
〒560 自宅・豊中市蛍池東町２－６－11　電話06(841)3832

岡　本　行　善

株式会社　昭和設計　代表取締役社長

〒550 大阪市西区新町１丁目５番７号　四ツ橋ビル
電話06(532)3421代
〒659 自宅・芦屋市岩園町35－７　電話0797(31)3201

名誉正会員

沖　田　誠　一

財団法人　建設工学研究会　事務局長

〒105 東京都港区虎ノ門二丁目6番7号 和孝第十ビル内
電話03(3502)8017
FAX03(3502)8019
〒195 自宅・東京都町田市鶴川5－1－14－104
電話0427(35)8297

恩　庄　治　郎

大阪化工株式会社　代表取締役社長

〒565 吹田市山田東1－12－12　電話06(876)2334
〒565 自宅・吹田市山田東1－12－12　電話06(877)1406

数　井　利　美

株式会社　西村建築事務所　取締役社長

〒652 神戸市兵庫区荒田町2丁目1-8 楠六パレスビル
電話078(521)0205～0207
〒654-01　自宅・神戸市須磨区白川台２丁目39－13
電話078(792)5862

亀　井　晃　治

株式会社 A.R.I.(あり)建築事務所　代表取締役

〒542 本社事務所・大阪市中央区谷町7丁目3番4－203
新谷町第３ビル２Ｆ　電話06(768)1771代
〒577 アトリエ・東大阪市上石切町2－14－35
電話0743(73)6137
〒542 アリックスタイムスクエア・大阪市中央区谷町7-3-4-105
新谷町第３ビル・１Ｆ　電話06(764)1089
〒631 自宅・奈良市藤ノ木台3丁目33番5号 電話0742(43)1226

修成建設専門学校

理事長　鎌　谷　秀　男

〒555 大阪市西淀川区大和田5丁目19-30　電話06（474)1644
〒665 自宅・宝塚市千種３丁目８－23　電話0797(72)1380

河　合　芳　市

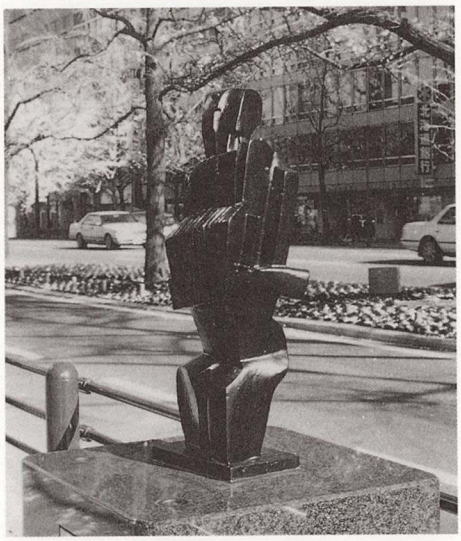
第一工業株式会社大阪支店　常務取締役支店長

〒530 大阪市北区西天満3丁目6番14号　電話06(364)6661
〒560 自宅・豊中市北桜塚4－8－3－401　電話06(846)2172

川　瀬　甲子雄

扶桑管工業株式会社　代表取締役

〒616 京都市右京区太秦和泉式部町12番地　電話075(861)1157
大阪支店 電話06(304)0777　東京支店 電話 03(3263)0501
〒565 自宅・吹田市津雲台６－７－２　電話06(834)1734



河　裾　和　夫

螢光産業株式会社　代表取締役

〒531 大阪市北区本庄西３丁目９番20号
電話06(371)5146代
〒560 自宅・豊中市中桜塚4丁目6-4　電話06(852)4148

菊　池　　勝

株式会社　ミルックス　　常任顧問

〒541 大阪市中央区本町3丁目5番7号 御堂筋本町ビル
電話06(261)4031
〒658 自宅・神戸市東灘区住吉東町1－6－22 コート住吉川201
電話078(854)1612

小　西　弘　治

日本住宅パネル工業協同組合　　理事長

〒113 東京都文京区本駒込6丁目15番7号
六義園ビルディング 電話03(3945)2311代表

取締役会長　**小西　岬**
取締役副会長　**橋本正章**
取締役社長　**小西照男**

株式会社　小西設計

〒550 大阪市西区立売堀１丁目12－16　電話06(532)4051

会　長

佐　野　正　一

株式会社 安井建築設計事務所 代表取締役会長

〒540 大阪市中央区島町２丁目4番7号　電話06(943)1371代
〒662 自宅・西宮市雲井町４の９　電話0798(72)1569

斉　藤　國　義

株式会社　斉藤工業所　代表取締役

〒557 大阪市西成区岸里2丁目6番5号　電話06(661)3325代
〒557 自宅・大阪市西成区岸里東１丁目21番３号
電話06(652)0208

城　口　庸　平

株式会社　大阪城口研究所　取締役社長

〒530 大阪市北区角田町２番15号　電話06(372)7151代

須　賀　好　富

社団法人　日本建築積算協会関西支部　支部長

〒542 大阪市中央区東心斎橋1-3-10長堀堂ビル3F
電話06(245)6645

近畿大学理工学部建築学科　教授

〒577 東大阪市小若江３－４－１　電話06(721)2332
内線4519
〒631 自宅・奈良市鶴舞西町２－10－E501
電話0742(41)0623

関　口　典　良

一級建築士事務所
株式会社　関口建設　取締役専務

〒582 大阪府柏原市大県１－10－13　電話0729(71)2281
〒582 自宅・大阪府柏原市上市3-12-16　電話0729(72)1308

新年のご挨拶

平成６年元旦

(50音順)

田　中　忠　明

大阪エスピー紙工株式会社　代表取締役社長

〒540 大阪市中央区玉造２丁目25番20号 電話06(765)5650代
FAX06(765)5655
〒614 自宅・八幡市八幡福禄谷98-7 電話075(971)0395

田　中　　優

株式会社 ユソニアン一級建築設計事務所　代表取締役

〒530 大阪市北区天神橋2丁目5番25号 若杉グランドビル10Ｆ
電話06(354)2781
〒112 東京都文京区大塚3丁目1番6号
ラ・トゥール小石川 電話03(5976)2781
〒536 大阪市城東区成育４丁目20番２号 電話06(931)8857

田　村　真　二

株式会社　竹中工務店　取締役副社長

〒541 大阪市中央区本町４丁目１－13 電話06(252)1201
〒663 自宅・西宮市浜甲子園2丁目5－19 電話0798(41)4300

取締役会長　**高　橋　慶　夫**
取締役社長　**上　田　宏　二**
株式会社　高橋上田設計事務所

〒550 本社・大阪市西区新町1－13－16 瀬戸松ビル
電話06(533)0972
〒550 大阪事務所・大阪市西区新町1－4－21 大幸ビル
電話06(533)0971
〒113 東京事務所・東京都文京区本郷3-5-4 朝日中山ビル
電話03(3818)5173
〒612 京都事務所・京都市伏見区深草西浦町6-65-1-619
電話075(647)1151代

立　野　一　郎

株式会社　ユニオン　　会長

〒550 大阪市西区南堀江２丁目13番22号
電話06(532)3731代

谷　　進

浦安工業株式会社　常務取締役支店長

〒530 大阪市北区天満２丁目３－５ 電話06(351)7502
FAX06(353)2160
〒530 自宅・大阪市北区天神橋3丁目10-30-507
電話06(358)6900

名誉正会員

知　見　義　夫

元・本会理事

〒601 自宅・京都市南区西九条春日町48 電話075(691)3860

津　村　芳　範

オリエンタルメタル株式会社　代表取締役社長

〒660 尼崎市昭和南通り３丁目26番地 電話06(412)5131代
〒335 埼玉県蕨市塚越５丁目６番32号 電話048(442)3115

寺　嶋　繁　久

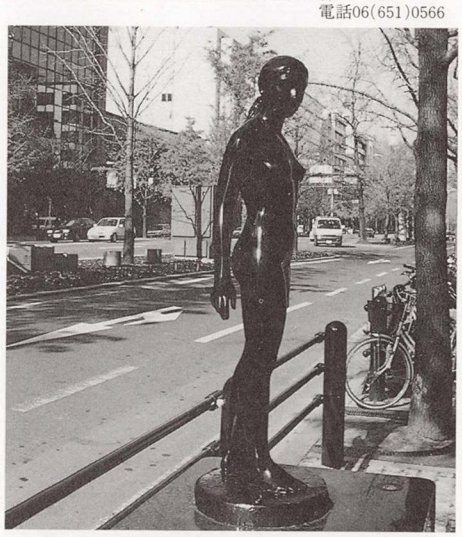
株式会社　sim 建築事務所　代表取締役

〒604 京都市中京区東洞院通蛸薬師下ル
エステートビル402 電話075(256)3993
〒616 自宅・京都市右京区嵯峨鳥居本化野町12－45
電話075(871)3921

傳　馬　正　明

ムツミ産業株式会社　代表取締役

〒550 大阪市西区靱本町１丁目17番15号
電話06(441)0378大代
〒557 自宅・大阪市西成区岸里東2丁目13番22－507
電話06(651)0566



名誉会長・名誉正会員

東　畑　謙　三

株式会社　東畑建築事務所　取締役会長

〒541 大阪市中央区伏見町４－４－10 電話06(202)0391
〒658 自宅・神戸市東灘区住吉山手4-4-35 電話078(851)5043

徳　岡　昌　克

株式会社徳岡昌克建築設計事務所　代表取締役

〒530 大阪市北区西天満6丁目3番11－205号 電話06(314)1688
〒661 尼崎市次屋３丁目６番60号 電話06(499)0701
〒810 福岡市中央区大名1丁目8番33-703号 電話092(716)5110
〒520-06 滋賀県滋賀郡志賀町北小松1157番地 電話0775(96)1149
〒532 自宅・大阪市淀川区新高6丁目6番18号 電話06(391)1438

内　藤　正　克

株式会社 内藤建築設計事務所 代表取締役会長

〒675-13 兵庫県小野市上本町240 小野ビル 電話0794(62)4757代
〒675-13 自宅・兵庫県小野市久保木町1063 電話0794(62)4668

中　原　英　雄

株式会社　創美設計　代表取締役

〒530 大阪市北区天神橋3丁目2番10号/TKH ビル
電話06(881)1778

長　澤　孝　行

日本住宅パネル工業協同組合　理事
大阪支所長

〒553 大阪市福島区大開２丁目３番１号 電話06(462)1600
〒598 自宅・大阪府泉佐野市佐野台20-52 電話0724(63)1260

蜷　川　守　男

大阪装飾株式会社　代表取締役

〒550 大阪市西区京町堀1丁目13番24号 電話 06(444)1410
〒665 自宅・兵庫県宝塚市社町3番10号 電話0797(72)6045

林　　唯　夫

株式会社　昭和設計　代表取締役副社長

〒550 大阪市西区新町１丁目５番７号 四ッ橋ビル
電話06(532)3421
〒565 自宅・吹田市青山台３丁目41－11 電話06(872)3608

伴　　昭　秀

株式会社 西原衛生工業所大阪店 代表取締役社長

〒531 大阪市北区中津６丁目８番４号 電話 06(458)3628
〒563 自宅・池田市石橋３－11－14 電話0727(61)8652

平　田　勝　久

株式会社　平田タイル　取締役社長

〒550 大阪市西区阿波座１丁目１番10号 電話06(532)1231代
〒658 自宅・神戸市東灘区住吉山手５丁目17－21
電話078(841)4725

新年のご挨拶

平成６年元旦

(50音順)

福谷　剛

株式会社　ゼネラルプリンティング　代表取締役社長

〒542 大阪市中央区東平1丁目4－17　電話 06(763)2541
〒666-01 川西市緑台１丁目８－７　電話0727(93)0409

堀　亀久治

三機工業株式会社　常勤顧問

〒541 大阪市中央区北浜二丁目２番21号　電話06(202)3071
〒664 自宅・伊丹市北本町１丁目110番１号
伊丹パークホームズ２－406　電話0727(75)3095

牧　英二

日建設計　取締役社長

〒541 大阪市中央区高麗橋4丁目6番2号　電話06(203)2361

松田恒彦

株式会社 ART建築設計事務所　代表取締役所長

〒530 大阪市北区東天満２丁目３－10 トップス天満ビル
電話06(357)5351代
〒546 大阪市東住吉区西今川2丁目8－7　電話06(701)4571

松原満佐子

有限会社　柳々堂　代表取締役

〒550 大阪市西区京町堀１－12－３　電話06(443)0167～8
FAX06(443)1826
営業所：鴻池ビル１階 電話・FAX 06(251)8233

松本重太郎

マツ六株式会社　代表取締役社長

〒543 大阪市天王寺区四天王寺１丁目５番47号
電話06（774)2200

松本　弘

西日本建設業保証株式会社　取締役社長

〒550 大阪市西区立売堀２丁目１番２号　電話06(543)2553

三谷忠義

株式会社　三谷設計　代表取締役

〒694 島根県大田市久手町波根西777の１
電話08548(2)8121代
〒694 自宅・島根県大田市久手町波根西65－１
電話08548(5)8320

薬袋公明

日建設計　取締役会長

〒541 大阪市中央区高麗橋4丁目6番2号　電話06(203)2361

村石全

浪速合板株式会社
ミユキ建設株式会社　代表取締役社長

〒556 大阪市浪速区幸町2丁目5番3号　電話06(568)3671
〒659 自宅・芦屋市岩園町25番15号　電話0797(34)0835



室谷山水

室谷商事株式会社　取締役会長

〒650 神戸市中央区三宮町3丁目7-6 神戸フクトクビル
電話078(331)0881
〒650 自宅・神戸市中央区山本通４丁目17－17
電話078(221)5050

森　淳

三和電気土木工事株式会社　取締役社長

〒530 大阪市北区南森町1丁目4番19号　電話06(361)6451代
〒596 自宅・大阪府岸和田市別所町2丁目3番5号
電話0724(22)7710

八木重喜

YAGISO BRICKS
八木惣株式会社　常務取締役

〒593 堺市津久野町３丁28－10　電話0722(62)3838
〒593 自宅・堺市津久野町3丁28－10　電話0722(62)0722

矢野卓生

中央電気工業株式会社　取締役社長

〒530 大阪市北区太融寺町３番24号 電話06(312)8881代表

山内恒男

株式会社 石本建築事務所　取締役大阪支所長

〒542 大阪支所・大阪市中央区島之内1-20-19 白水ビル
電話06(251)7507
〒102 本社・東京都千代田区九段南4-6-12 電話03(3262)7161
札幌・名古屋・九州・東北・横浜・PORTLAND

山地英雄

株式会社　オオバ大阪支店　常任顧問

〒540 大阪市中央区釣鐘町２丁３番11号
電話06(943)5161(代表)
〒565 自宅・豊中市新千里北町3－16－1　電話06(872)3746

山本晃

財団法人　大阪市建築技術協会　理事長

〒541 大阪市中央区平野町2-3-7 アーバンエース北浜ビル9階
電話06(233)5060
〒603 京都市北区出雲路松ノ下町28　電話075(231)7401

山本貴士

朝陽電気株式会社　代表取締役

〒530 大阪市北区中之島3丁目2番4号　電話06(385)1361代
朝日ビルディング内
〒565 自宅・吹田市藤白台４丁目23番８号
電話06(871)0851

感謝・創立30周年

横尾義貫

財団法人 日本建築総合試験所　理事長

〒565 本所・吹田市藤白台５－８－１
電話06(872) 0391
〒531 大淀分室・大阪市北区長柄西２－１－18
電話06(351)7217
〒592 堺分室・堺市浜寺石津町西２－１－34
電話0722(44)3912
〒612 京都分室・京都市伏見区中島前山町24－２
電話075(622)0713
〒675-01 加古川分室・加古川市別府町新野辺字畑下1311-3
電話0794(35)5811

新年のご挨拶

平成６年元旦

(50音順)

常務取締役西日本支社長 **吉竹寛**
大阪事務所所長 **西田一好**
株式会社 教育施設研究所 大阪事務所
〒550 大阪市西区立売堀1丁目13番1号 電話 06(531)0913
大信ビル FAX 06(541)7301
〒731-01 自宅・広島市安佐南区緑井2-14-19 電話082(877)2028
〒560 自宅・豊中市東寺内10－36
グリンパークハイツ 電話 06(339)3550

和中勝
株式会社 和中商店 取締役会長
〒531 大阪市北区豊崎５丁目８番11号 電話06(371)0731～5
〒150 東京都渋谷区桜丘町11－５電話03(3464)9723
〒453 名古屋市中村区黄金通３丁目34番地
電話052(481)7338
〒662 自宅・西宮市大畑町10-22 電話0798(67)0386

事務局一同
社団法人 日本建築協会

和田眞一
株式会社 東和組 代表取締役
〒530 大阪市北区西天満４丁目５番14号 電話06(363)4051
〒659 自宅・芦屋市公光町３番８号 電話0797(22)3282

渡部慶一
株式会社 松田平田 大阪事務所常務取締役所長
〒530 大阪市北区曽根崎新地2-5-3堂島TSSビル
電話06(344)7821
〒659 自宅・兵庫県芦屋市大桝町1－10
電話0797(38)7938



新年のご挨拶

平成６年元旦

設計事務所有志

株式会社
A.R.I 建築事務所
代表取締役所長　亀　井　晃　治

本社事務所　大阪市中央区谷町7丁目3番4-203号 新谷町第3ビル2F　TEL(06)768-1771(代)
テレファックス(06)768-1406
アトリエ　東大阪市上石切町２丁目１４－３５　TEL(0743)73—６１３７
アリックスタイムスクエア　大阪市中央区谷町7-3-4-105　新谷町第３ビル・１F　TEL(06) 764—１０８９

株式会社 伊東建築設計事務所
代表取締役　岡　本　清　彦

〒556 大阪市浪速区元町2丁目12番30号 難波KIビル　電話 大阪(06)646-0161(代)

株式会社 伊藤建築設計事務所
代表取締役社長　鋤　納　忠　治

名古屋市中区錦二丁目２番13号(名古屋センタービル)　電話<052>222-8611
東京　東京都千代田区神田美土代町五番地二(第２日成ビル)　電話<03>3294-6061

株式会社石本建築事務所
代表取締役社長　古　畠　誠　一
取締役大阪支所長　山　内　恒　男

本　　社　〒102 東京都千代田区九段南４－６－12　電話03(3262) ７１６１
大阪支所　〒542 大阪市中央区島之内１-20-19(白水ビル)　電話06 (251) ７５０７代
支　　所　札幌・名古屋・九州　　事務所　東北・横浜・PORTLAND

株式会社 泉沢建築設計事務所
代表取締役　泉　沢　哲　史

〒550 大阪市西区北堀江１丁目２番２７号　TEL(06)543-2281(代)

URABESEKKEI
株式会社 浦辺設計
URBAN DESIGN & ARCHITECTURE FOR BEAUTIFUL ENVIRONMENT

代表取締役　松村慶三

大阪市北区梅田1丁目12番39号・新阪急ビル〒530　電話 06(341)1680
岡山事務所　岡山市磨屋町10-12・交通オアシスビル〒700　電話 086(233)6010

SHOWA SEKKEI
株式会社 昭和設計

代表取締役社長　岡本行善
代表取締役副社長　林唯夫

本社　〒550 大阪市西区新町1－5－7　四ッ橋ビル　Phone 06－532－3421

株式会社 瀬戸本淳建築研究室

代表取締役　瀬戸本淳

〒650 神戸市中央区北野町2丁目7－1－120　TEL 078-222-1665(代)

株式会社 創美設計

代表取締役　中原英雄

大阪市北区天神橋3丁目2番10号/TKHビル〒530　TEL.(06)881-1778代表

株式会社 大建設計

取締役社長　吉田周

大阪市西区京町堀1丁目13番20号 大建設計大阪ビル　電話06－449－6800(代)
東京・横浜・名古屋・京都・福岡・長野・北九州・札幌・仙台・広島

アルパック
株式会社 地域計画建築研究所

代表取締役会長　三輪泰司
代表取締役社長　金井萬造

本社・京都事務所・〒600 京都市下京区四条通高倉 大和銀行京都ビル6F
PHONE.075-221-5132(代)　FAX.075-256-1764
東京事務所・〒160 東京都新宿区新宿2-5-16 霞ビル401号
PHONE.03-3226-9130(代)　FAX.03-3226-9560
大阪事務所・〒540 大阪市中央区城見1丁目4番70号 住友生命OBPプラザビル15F
PHONE.06-942-5732(代)　FAX.06-941-7478
名古屋事務所・〒460 名古屋市中区丸の内3-18-30 ツボウチビル2F
PHONE.052-962-1224　FAX.052-962-1225
九州事務所・〒810 福岡市中央区天神1丁目15番1号 日之出ビル6F
PHONE.092-731-7671　FAX.092-731-7673

株式会社 東海設計

代表取締役社長　小坂忠勝

本　　社　名古屋市中区栄2丁目6番1号(白川ビル別館)　〒460 TEL052-202-1241(代表)
東京事務所　東京都中央区築地4丁目7番4号(築地ファーストビル)　〒104 TEL03-3248-0474(代表)

東西建築サービス株式会社

取締役社長　山口幸治

本　社　〒541 大阪市中央区高麗橋4丁目7番6号　電話 06-202-3626(代)
支　社　〒103 東京都中央区日本橋馬喰町2丁目1番1号　電話 03-3663-1765(代)
(住友銀行浅草橋ビル4階)

株式会社 東畑建築事務所

取締役会長　東畑謙三
取締役社長　市川宏

本社 大阪事務所　大阪市中央区伏見町4丁目4番10号 電話 (06)202-0391
東京事務所　東京都千代田区永田町2丁目4番3号 (永田町ビル) 電話(03)3581-1251
名古屋事務所　名古屋市中村区名駅3丁目25番9号(堀内ビル) 電話(052)571-8471
九州事務所　福岡市博多区博多駅前2-2-1 (福岡センタービル) 電話(092)472-8737

建築・土木の設計監理

日建設計

取締役会長　薬袋公明
取締役社長　牧英二

大阪	541	大阪市中央区高麗橋4丁目6－2	電話 (06) 203-2361
東京	112	東京都文京区後楽1丁目4－27	電話 (03) 3813-3361
名古屋	460	名古屋市中区栄4丁目15－32	電話 (052) 261-6131
支所・その他		東北・横浜・北陸・神戸・広島・九州・シンガポール・ニューヨーク・ロサンゼルス	

株式会社 日積サーベイ

代表取締役　生島道春

本　　社　〒540 大阪市中央区谷町3－1－9(MG大手前ビル) TEL(06) 944—2755代表
SSDセンター　〒554 大阪市此花区島屋4－2－7(島屋ビジネス・インキュベータ) TEL(06) 466—7736代表
東京支所　〒110 東京都台東区台東4－14－8(シモジン・パークビル) TEL(03)3836—1271代表
日積設計監理㈱　〒550 大阪市西区京町堀1－10－8(福岡ビル) TEL(06) 444—2706
㈱京都日積　〒602 京都市上京区今出川通室町東入今出川町333番地(第2高橋ビル) TEL(075)441—5690

株式会社 安井建築設計事務所

取締役会長　佐野正一
取締役社長　椚座正信

本　社　大阪市中央区島町2丁目4番7号　電話 06(943)1371(大代)

新年のご挨拶

平成６年元旦

建設業有志

株式会社 あめりか屋

取締役会長　前野慶太郎

〒530　大阪市北区中之島四丁目３番25号　電話（06）444－１５０１

株式会社浅沼組

人・都市・自然のシンフォニー

Asanuma

取締役社長　淺沼禎夫

本社・大阪本店　大阪市天王寺区東高津町12番６号　電話 06(768)5222
東京本店　東京都新宿区荒木町５番地　電話03(5269)3111
名古屋支店　名古屋市中村区名駅南三丁目3番44号　電話052(571)5571
支店　北海道・東北・横浜・広島・九州

空間に新しいエナジー

ANDO 安藤建設

取締役社長　長澤光一　取締役支店長　飛岡宏佳

本社　東京都港区芝浦３丁目12－８　電話(03)3457－0111㈹
大阪支店　大阪市福島区福島６丁目３－21　電話（06)453－2190㈹

IMANISHI

株式会社 今西組

取締役社長　今西壽雄

本社　大阪市天王寺区上本町６丁目６番23-309号　電話06（779）３３６１
支店　東京都新宿区内藤町１番地　電話03(3354)０５８１
営業所　京都・奈良・西宮・神戸・埼玉

大之木建設株式会社

取締役社長　大之木晴樹
支社長　大之木雄次郎

本社　呉市中央３丁目12番４号　電話　0823(26)1511番
支社　広島市中区本川町３丁目１番５号　電話　082(231)5244番
支店　東京都港区麻布台２丁目２番12号 三貴ビル４F　電話　03(3585)3655番
〃　福岡市城南区神松寺２丁目13番24号　電話　092(863)7171番



株式会社 大林組

取締役会長　大　林　芳　郎
取締役社長　津　室　隆　夫

東京本社　東京都千代田区神田司町2丁目3番地　電　話　03（3292）1111番
本　　店　大阪市中央区北浜東4番33号　電　話　06（946）4578番
支　　店　札幌・東北・横浜・北陸・名古屋・神戸・広島・四国・九州



株式会社 奥村組

取締役社長　奥　村　俊　夫

本　　社　大阪市阿倍野区松崎町2の2の2　電話 大阪(06) 621-1101(大代表)
東京本社　東京都港区元赤坂1の3の10　電話 東京(03)3404-8111(大代表)
支　　社　東京・関西
支　　店　札幌・仙台・北関東・横浜・東関東・新潟・名古屋・神戸・広島・四国・九州・福岡



海原建設株式会社

代表取締役　海　原　壹　一

〒530 大阪市北区梅田1丁目2番2—300号（大阪駅前第2ビル3F）　電話06(346)1900番



株式会社 柄谷工務店

取締役社長　柄　谷　順　一　郎

本　　社　尼崎市玄番南之町4番地　電話大阪 06(415) 2 8 0 0 (大代)
支　　店　大阪・神戸　営業所　西宮・三田・高砂・西播磨



共立建設株式会社 大阪支店

専務取締役支店長　加　藤　毅　夫

支　店　大阪市中央区内本町2－2－5　TEL 06－942－2491（代表）
本　社　東京都渋谷区道玄坂1－16－10　TEL 03－3461－6141（代表）



株式会社 熊谷組 大阪支店

取締役社長　熊　谷　太一郎
常務取締役
大阪支店長　磯　俣　敏　行

本　　社　東京都新宿区津久戸町2番1　電話03(3260)2111番(大代表)
大阪支店　大阪市都島区片町2丁目10番5号　電話06（352)1151番(大代表)

コーナン建設株式会社

代表取締役　原　精一

大阪市淀川区十三本町2丁目4番28号　電話(06)308−1551大代表
東京都中央区京橋3丁目13番10号(中島ゴールドビル)　電話 (03)3564−5711代表
神戸市中央区磯上通6丁目1番9号(KOBE MKビル)　電話 (078)221−6293代表

公成建設

代表取締役社長　絹川　治

本　社　〒600 京都市下京区五条通西洞院西入　☎075-341-0501
大阪支店　〒531 大阪市北区豊崎2丁目4番3号　☎ 06-375-1121
東京営業所　〒141 東京都品川区上大崎3−3−9−215　☎03-3442-1100
名古屋営業所　〒453 名古屋市中村区若宮町3丁目48　☎052-471-1223

株式会社 金剛組

代表取締役　金剛利隆

本　社　〒543 大阪市天王寺区四天王寺1丁目14番29号　TEL 大阪06(779)7731㈹
FAX 大阪06(779)7133
関東支店　〒350-02 埼玉県鶴ヶ島市脚折町1丁目40番12号　TEL 埼玉0492(87)0301
FAX 埼玉0492(87)0300

人にやさしい環境づくり

SIMON
OSAKA/TOKYO/VANCOUVER

才門建設株式會社

代表取締役　才門正男

本　社／大阪府岸和田市下野町3−10−25　〒596
TEL (0724) 38−2121(代)　FAX (0724) 23−3681
支　店／東京・大阪　　営業所／神戸・堺・和歌山
OVERSEAS/NEW YORK(U.S.A)・VANCOUVER(CANADA)・SEOUL(KOREA)

三和建設株式会社

取締役社長　森本晴夫

本　社　大阪市淀川区加島1丁目55番6号　電話 06(301)6636
支　店　東京都荒川区東日暮里4丁目10番10号　電話03(3891)8871
支　店　京都市右京区西院高田町31番地1　電話075(311)8897

SHMZ

清水建設株式会社

常務取締役
関西総支配人　田辺　剛

大阪支店
近畿営業本部　大阪市中央区本町3−5−7　電話 06 (263) 2800

SEKISUI HOUSE

積水ハウス株式会社

代表取締役社長　奥井　功

本　社　〒531 大阪市北区大淀中1丁目1番88号（梅田スカイビル）　☎06（440）3111
東京支社　〒160 東京都新宿区西新宿1丁目6番1号（新宿エルタワー）　☎03(3346)6500

大地への愛　人間への愛

錢高組

社長 錢高一善

本　社　大阪市西区西本町2丁目2番11号 大阪(06)531−6431
東京本社　東京都千代田区一番町31番地 東京(03)3265−4611
支社・支店　大阪・東京・北海道・東北・北関東・千葉 横浜・北陸・名古屋・神戸・広島・四国 九州

限りない未来への挑戦

大日本土木株式会社

専務取締役 大阪支店長　牧野　保

大阪支店　〒530 大阪市北区堂島二丁目2番2号 近鉄堂島ビル　電話 06（341）5211
東京本社　〒162 東京都新宿区市ヶ谷田町2丁目35番地　電話 03（3268）5511

株式会社 竹中工務店

取締役社長　竹中統一

〒541 大阪市中央区本町4丁目1−13　電話 大阪（252）1201番(大代表)

信用と技術の

鉄建

TEKKEN

常務取締役大阪支店長　東田敏男

大阪支店　〒541 大阪市中央区瓦町3−3−7　電話 06（201）1881(代表)
本　社　〒101 東京都千代田区三崎町2−5−3　電話 03(3262)3411(代表)

戸田建設株式会社

代表取締役社長　戸田守二
常務取締役 大阪支店長　西川秀信

本　社　東京都中央区京橋1丁目7番1号　TEL東京03(3562)6111
大阪支店　大阪市西区西本町1丁目13番47号　TEL大阪06（531）6095
支　店　東京・千葉・関東・横浜・北陸・名古屋・札幌・東北・広島・四国・九州

東海興業株式会社 大阪支店

専務取締役支店長　服部信哉

本　社　東京都中央区八重洲1-1-6　電話 東京(5200)5111
大阪支店　大阪市北区堂島浜2-2-8 東洋紡ビル　電話 大阪(348)5611
支　店　東京・名古屋・東北・札幌・九州・横浜・広島

南海建設株式会社

取締役社長　芝谷昭

本　社　大阪市浪速区難波中3丁目5番19号　電話 06(644)7823番
東京支店　東京都千代田区神田須田町1丁目5(新須田町ビル)　電話 03(3251)8431番
岸和田支店・和歌山支店・神戸支店　営業所 堺・泉佐野・橋本・枚方・京都南・西宮

西松建設

代表取締役社長　柴田平
取締役関西支店長　宗澤修郎

本　社　東京都港区虎ノ門1－20－10　電話03(3502)0232
関西支店　大阪市中央区釣鐘町2－4－7　電話06(942)1131

株式会社 日興

取締役会長　平本俊秋
取締役社長　平本俊友

本　社　広島市中区国泰寺町1丁目8番4号　電話(082)244－2111番

日本建設株式会社

取締役社長　積山吉興

大阪本社　大阪市中央区備後町1丁目6番15号　TEL (06) 226-0630(代表)
東京本社　東京都文京区小石川2丁目6番22号　TEL (03)3818-6081(代表)
支　店　東京・大阪・札幌・仙台・名古屋・広島・福岡

野村建設工業株式会社

取締役社長　石川芳夫

本　社　大阪市中央区高麗橋2丁目1番2号　電話(226)9502代表
東京本部　東京都中央区日本橋堀留町2丁目1番3号　電話(3249)1413代表

長谷工 コーポレーション

取締役副社長　中　村　俊　雄

大阪市中央区平野町４丁目２番18号　電話　06(203)1500

株式会社フジタ 大阪支店

常務取締役
支店長　西　東　茂　之

大阪支店　大阪市北区堂島２丁目１番16号　電話06(348) 4510
本　社　東京都渋谷区千駄ヶ谷4丁目6番15号　電話03(3402)1911

不動建設株式会社

取締役社長　式　村　　健

大阪本社　大阪市中央区平野町4丁目2番16号　電話 ０６（２０１）９２０３番
東京本社　東京都台東区台東1丁目2番1号　電話 ０３（3837）６００９番
支　店　北海道・東北・千葉・横浜・名古屋・神戸・広島・四国・南四国・九州・北九州

株式会社 藤木工務店

取締役社長　藤　木　鐵　三

本　社　〒540 大阪市中央区常盤町1-3-9　☎ 06-944-1468代　本支店　大阪・東京・倉敷・京都・四国・福岡
東京本社　〒160 東京都新宿区三栄町23－4　☎ 03-3357-1600代　営業所　北関東・埼玉・中央・多摩・横浜・静岡・名古屋・宇治・泉南・神戸・岡山・広島・徳島・新居浜・松山・長崎・南九州

豊國建設株式会社

代表取締役　松丸哲也

本　社　〒530 大阪市北区天満橋２丁目３番１号　☎06(353)1001代
支　店　東京・京都・東北　FAX06(353)1091・1092
営業所　北上・新井・福井・舞鶴・加古川・益田・福岡

松　村　組

代表取締役　福　田　耕　作

本社・大阪本店　大阪市北区天満2丁目1番33号　電話 大代表 大阪(353) 1131
東京本店　東京都千代田区内幸町1丁目1番2号　電話 大代表 東京(3502)1211
支　店　名古屋・札幌・東北・広島・九州・神戸・京都

株式会社 **道田工務店**

代表取締役 道田泰平

本　　社・兵庫県川西市中央町18番21号　電話0727(57)9777番

海と陸の明日を拓く技術のムラズミ

村角建設株式会社

代表取締役社長 土山喜代士

本社　大阪市住之江区浜口西2丁目12-9　TEL 06−675−8101
支店　北海道・東京・横浜・大阪・京都・神戸・四国

望月建設株式会社

代表取締役社長 望月小太郎

本　社　大阪市北区中崎西2丁目3番12号　電話 大阪 (375) 2345(代表)

株式会社 **森組**

取締役社長 森幸彦

本　社　大阪市中央区道修町4丁目5番17号　電話２０１−２７６１㈹
支　店　東京・東北・横浜・北陸・名古屋・奈良・神戸・中国・四国・九州
営業所　滋賀・京都・和歌山・紀泉・西宮・松山・熊本

We think 創.

モリタ建設株式会社

代表取締役 森田勇

本　社　大阪市天王寺区石ヶ辻町15−15
TEL(06)772-1221㈹　FAX(06)772-2025
東京支店　東京都港区新橋2丁目1番3号

保存と
開発に
取り組む…

総合建設業

株式会社 **安井杢工務店**

代表取締役 安井洋太郎

本　社　〒617 京都府向日市上植野町御塔道42
TEL (075)933−0012㈹　FAX (075)933−4931

東京事務所　東京都練馬区東大泉3-22-11-401
TEL・FAX (03)3925−0798

株式會社 米田工務店

代表取締役会長　米田良男
代表取締役社長　米田高明

本　社　〒543 大阪市天王寺区逢阪1丁目1番7号 TEL 大阪(06)771-7771代表
FAX 大阪(06)779-2676代表

寄神建設株式会社

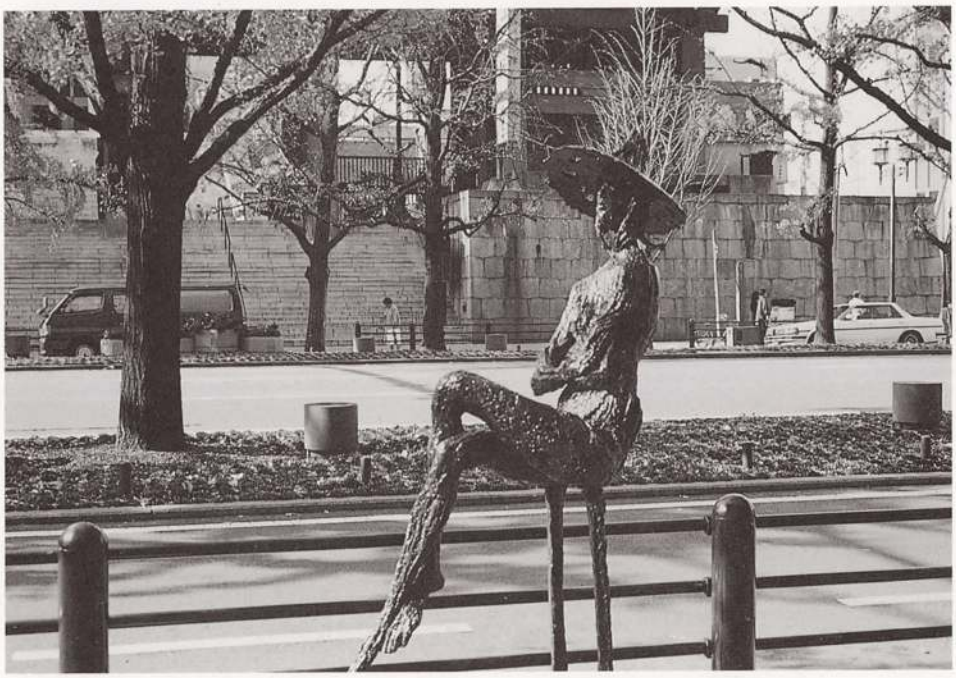
取締役社長　寄神美好

本社	〒652 神戸市兵庫区七宮町2—1—1	☎078—681—3121
東京支店	〒103 東京都中央区日本橋茅場町1—6—12	☎03—3668—1871
横浜支店	〒231 横浜市中区翁町1—6—4（新翁ビル）	☎045—681—5085
名古屋支店	〒456 名古屋市熱田区森後町8—27	☎052—681—8661
大阪支店	〒553 大阪市福島区福島7—6—7(山陽ビル8F・9F)	☎ 06—451—9111
神戸支店	〒652 神戸市兵庫区七宮町2—1—1	☎078—681—3123
姫路支店	〒672 姫路市飾磨区須賀294(姫路ポートセンタービル)	☎0792—35—7748
広島支店	〒773 広島市西区観音本町1—1—20（辻ビル202）	☎082—233—3458
九州支店	〒812 福岡市博多駅前1-15-20(日本団体生命ビル9F)	☎092—482—4300
営業所	岡山・四国・淡路・横須賀・北九州・熊本	

鹿島
KAJIMA CORPORATION

代表取締役社長　宮崎　明
専務取締役大阪支店長　小島　雄

本　社　東京都港区元赤坂1－2－7　電話 03(3404)3311(大代)
大阪支店　大阪市西区阿波座1－3－15　電話 06 (536)3311(大代)



新年のご挨拶

平成６年元旦

団体・報道・建材・設備工事有志

財団法人 大阪建築防災センター

理事長　小西　岬

〒540 大阪市中央区南新町１－１－２（タイムスビル５Ｆ）　電話 06(943)7253

（〒540 大阪市中央区農人橋２－１－10（大阪建築会館 5F）平成６年２月中旬移転予定）

社団法人 日本建築協会京都支部

支部長　井手正己

〒604 京都市中京区押小路通柳馬場東入 建設会館別館　電話075(211)2857・2877

社団法人 日本建築協会中国支部

支部長　平本俊秋

〒730 広島市中区国泰寺町1丁目8-4日興ビル内　TEL 082(244)2111

社団法人 日本建築協会東海支部

支部長　森口雅文

〒460 名古屋市中区栄４丁目３－26(昭和ビル５階)　電話052(261)1451

社団法人 日本建築協会和歌山支部

支部長　北山　俊

〒640 和歌山市卜半町38番地 建築士会館内　電話0734(23)2562

社団法人

日本建築材料協会

会長　大森正男

〒550　大阪市西区京町堀1丁目8番3号　電話06(443)0345

もっとも信頼され、読まれている情報紙

創業39年

株式会社

建設日報社

代表取締役社主　重村登龍

本　社　〒550 大阪市西区江之子島1-7-3　TEL06(444)2405-9
別　館　〒550 大阪市西区江之子島1-6-2　TEL06(444)6431-4

株式会社

日刊建設通信新聞社関西支社

副社長関西支社長　兼平賢司

〒540 大阪市中央区内本町1－3－5　電話 06(944) 9191代表
内本町山森・住友生命ビル　FAX 06(944) 9197
本　社・〒105 東京都港区西新橋2－11－4　電話 03(3502)8581代表

大阪府耳順会

(大阪府OB建設技術研究会)

会長　山地英雄(オオバ)　副会長　牧田顯治(安井建築設計事務所)　名手宏彦(ミサワホーム)
幹事　上野勇(栗本建設)　恒吉正樹(西田工業)　豊田忠男(大末建設)　野村昌史(松村組)　林貞夫(鉄建建設)
広畑哲(不動建設)　兵本宣弘(東急建設)　八木常美(大都工業)　両国寛(鴻池組)
会計幹事　辻田幸治(矢崎総業)　石橋輝雄(大鉄工業)　監事　辻信(青木建設)　森岡瀞(日本コムシス)
会合場所　㈳日本建築協会　☎06－348－0635

会員の親睦と講演――――――入会歓迎!!

社団法人 日本建築協会

建築クラブ

代表 佐野正一
事務局　日本建築協会
〒530 大阪市北区梅田1-1-3-2100　大阪駅前第3ビル21階
電話 (06) 348－0635　FAX (06) 348－0634

技術と信頼で人と企業に貢献する

青葉印刷株式会社

代表取締役社長　依藤孝行

〒534 大阪市都島区中野町2丁目10番11号　TEL(06)351—5428㈹
FAX(06)351—5299

株式会社 梅彦

代表取締役社長 松永嘉一郎

本社 大阪市北区中崎西3丁目1番2号 電話06(377)3500大代
FAX06(377)3501大代
工場 茨木市豊川3丁目1番6号 電話0726(43)5185代

建築用板硝子販売施工

キムラ硝子建材株式会社

代表取締役 木村雅秀

〒540 大阪市中央区内平野町3丁目2番11号 電話 06(941)4181(代)

消火設備のパイオニア

株式会社コーアツ

代表取締役社長 野副泰正

本社/大阪支社 伊丹市北本町1丁目310番地 電話0727(82)8562
東京支社 東京都千代田区九段南4丁目7番13号(大島ビル) 電話03(3265)7651
豊田営業所 豊田市大林町12丁目37番地 電話0565(26)1521

結露防止に卓効のある 湿度を調節する断熱建材

防火 防音 **モクセン板** 防腐 防虫

"コンクリート建物の水準向上に"

神戸不燃板工業株式会社

〒673-05 兵庫県三木市志染町三津田 TEL (0794)87—3121(代)

人と文化のふれあいをつくる

三精輸送機株式会社

代表取締役 太田昭比古

本社：大阪府吹田市江坂町1丁目13-18 〒564 ☎ 06(385)5621(代)
東京支店：東京都渋谷区千駄ヶ谷5の29の11 ☎ 03(3356)5651(代)
福知山工場：福知山市長田野町2丁目45番地 ☎ 0773(27)1211(代)
営業所：札幌・青森・秋田・仙台・名古屋・金沢・広島・九州・沖縄

塩田工業株式会社

取締役社長 寶来駿一

本社 〒734 広島市南区東雲2—14—6 TEL(082)281-9161代表
FAX(082)286-8722
工場 〒739-01 東広島市八本松町大字原字中横野沖郷4515番地 TEL(0824)29-0459
山口支店 〒744 下松市大字末武中146番地の28 TEL(0833)41-1125

よりよき環境へ技術で挑む――

株式会社 精研

代表取締役社長 大川一善

クリーンルーム
実験動物室空調
設計施工

本社 大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号 電話06―768―5031(大代)
東京支店 東京都文京区小石川1丁目12番14号(日本生命小石川ビル) 電話03―5689―2351(代)
四国営業所 徳島県鳴門市撫養町小桑島前浜264 電話0886―85―0924(代)

東西アスファルト事業協同組合
西日本床工事事業協同組合

株式会社 タテバヤシ商店

代表取締役 舘林彦四郎

〒601 京都市南区西九条大国町37 電話(075)681―7221(代)
FAX(075)681―7224

TAJIMA 株式会社 タジマ

東京営業本部 〒110 東京都台東区北上野1-6-11 ノルドビル 電話(03)3866-6101 FAX(03)3861-3615
大阪営業所 〒550 大阪市西区京町堀1―10―5 電話(06)441-5951 FAX(06)444-2596

田島ルーフィング株式会社

東西アスファルト事業協同組合

東京:〒101 東京都千代田区岩本町3―11―14 電話(03)3862―8531
大阪:〒550 大阪市西区京町堀1―10―5 電話(06)443―0431

TOYO Shutter 東洋シヤッター株式会社

取締役社長 岡田敏

本社 〒540 大阪市中央区南新町1-2-10(TSビル) 電話(06)943―6571(代)
東京本社 〒106 東京都港区六本木6-3(第一地所麻布ビル)電話(03)3497―2911(代)

コピーの綜合コンサルタント

naigai 株式会社 ナイガイ

代表取締役 木下二三子

本社 大阪市中央区道修町4-5-5 TEL(06)231-1270(代)
京町堀営業所 大阪市西区京町堀1-17-16(スミトービル) TEL(06)443-2800
インテス営業所 大阪市西区西本町2-3-10(インテスビル) TEL(06)538-0377
御堂営業所 大阪市中央区本町4-1-13(御堂ビル) TEL(06)252-3906
横堀営業所 大阪市中央区道修町4-5-5 TEL(06)231-4644
泉南営業所 大阪府泉佐野市松原1丁目5―3 TEL(0724)64-8158
本町営業所 大阪市中央区本町3-5-7(御堂筋本町ビル) TEL(06)263-2734

造園土木　　設計施工

株式会社 西川造園

〒573 大阪府枚方市北中振3丁目27番17号
TEL 0720—33—8998代

株式会社 西原衛生工業所大阪店

代表取締役社長　伴　昭秀

本　社　大阪市北区中津6丁目8番4号　電話 大阪(06)458—3628
支店·営業所　福岡・京都・神戸・天理・川西

日本電植株式会社

代表取締役社長　松村信人

本社　〒530 大阪市北区天満1丁目11番8号(雄揮ビル5F)　TEL.06-352-7502
別館　〒530 大阪市北区天満1丁目7番21号(第3八光ビル2F)　TEL.06-357-1803

マルエス印▲ルーフィング▲シングル▲メルタン21(トーチ工法)

日新工業株式会社 大阪支店

大阪支店長代理　佐々木通博

本社営業所　東京都足立区千住東2－23－4　☎東京(3882)2424(代)
大阪支店　大阪市西区新町1丁目12番22号　☎大阪(533)3191大代表
出張所　名古屋・広島・福岡・札幌・山形・工場／東京・埼玉・山形

日本アスファルト防水工業 協同組合 関西支部

大阪市西区新町1丁目12番22号　日新工業株式会社大阪支店内
電話(533)3191　大代表

松野電工株式会社

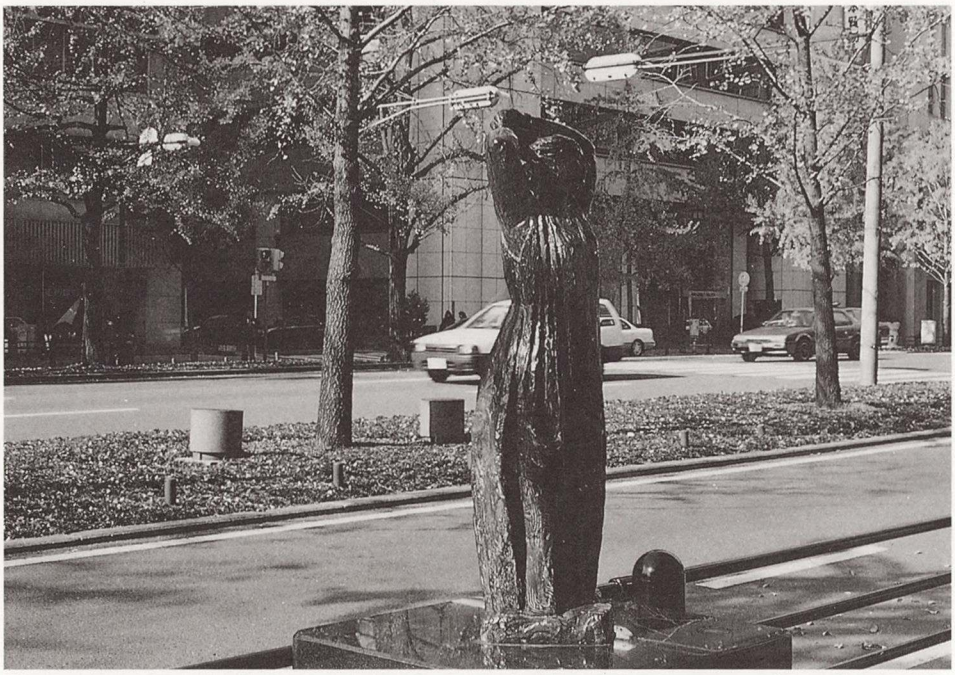
取締役社長　松野茂男
取締役支店長　田上健士

東京都渋谷区渋谷4丁目5番5号　(03)3409－5965
広島市南区皆実町4丁目17番27号　(082)254－2211

合理的な
三好式ガラス防煙垂壁『M式ツリコ』
製造発売元 株式会社ミヨシ
本社／〒730 広島市中区紙屋町2丁目2-38 ☎082-248-0344 FAX082-247-3479
関西／〒646 奈良県磯城郡田原本町新町 ☎07443-3-4431 FAX077476－4907

ムツミ産業
三協アルミニウム工業株式会社代理店 日丘化成工業株式會社代理店
立山アルミニウム工業株式会社代理店 新明和工業株式會社代理店
豊和工業株式會社代理店 近畿車輌株式会社 代理店
倉敷ユニット株式会社代理店 住友ゴム工業株式会社代理店
ムツミ産業株式会社
代表取締役 傳馬正明
〒550 大阪市西区靭本町1丁目17番15号 電話（06）大代表 441－0378番
出張所：東京・広島・北九州 工 場：大津・竹原

建設環境金属製品の
UNION
株式会社ユニオン
代表取締役 立野純三
本 社 大阪市西区南堀江2-13-22 〒550 電話 06(532)3731(代)
東京支店 東京都江東区白河2－9－5 〒135 電話03(3630)2811(代)
名古屋営業所 名古屋市中川区舟戸町3-20 〒454 電話052(363)5221(代)



「建築と社会」誌21年●特集一覧——昭和47年～平成4年

「建築と社会」誌は昭和42年からA4変形判となり、特集と作品作風頁を二本柱に、シリーズものの頁を織り込み、その時の社会を反映したテーマを選んで掲載してきた。売価は980円（消費税込）。購読希望者は事務局（06—348—0635）へ。

＊は欠号

巻号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
昭和47年（53集）	冬期オリンピックと札幌	600号記念号	インテリアデザイン	都市交通問題	水利用	量産住宅の設備	一般号（桂中学）		都市住環境へのアプローチ	都市防災	第19回青年技術者	北陸の新建築
昭和48年（54集）	建築教育	泉北ニュータウンのコミュニティ施設	大阪大林ビルディング	レジャーと施設	大阪国際ビルディング	老人コミュニティ	住宅—建築家のすまい	新用途地域制と環境	構造と施工	仕上と材料	第20回青年技術者	ヨーロッパのまちづくり
昭和49年（55集）	歴史的環境保全	明日の建築はどうなるか	保養所作品	既成市街地の住宅地整備の方策	北摂ニュータウン計画	建築生産と流通機構の変容	ビルの省エネルギー化	高層プレハブ住宅の構造設計	みどり	屋根防水工事の失敗例とその対策	第21回青年技術者	ビル防災に関する12章
昭和50年（56集）	図書館	東海の新建築	インテリア	PC板を使用した工業化住宅	社会・建築・法	都市の景観と施設	建築とプレストレストコンクリート	生活排水処理施設のあり方	人間環境としてのターミナル	騒音対策と防音材料	第22回青年技術者	集合住宅の設備
昭和51年（57集）	証言'76—建築デザインの動向	建築基礎構造の問題点	医療施設	床工法と材料	建築防災と法	市街地整備	工場建築と設備	鉄骨構造のジョイント	集住体のハードとソフト	結露防止対策と断熱材料	第23回青年技術者	設備からみた建築の問題点
昭和52年（58集）	デザインの動向—部分と全体	兵庫県—その風土と建築・建築界	●日本建築協会60周年記念号 ●ニュータウンの管理	コンクリートの品質管理と行政指導の方向	日影規制と法	身障者施設	照明設備	埋立地における構造問題—大阪南港と芦屋浜を例として	日本住宅公団と建築作品	ミニ乱開発から計画的ミニ開発へ	建築における省エネルギー化	第24回青年技術者
昭和53年（59集）	デザインの動向—新旧のコントラスト	水	医療施設—病院建築と情報システム	外壁塗装材料	電波障害と建築	組合方式による集合住宅計画	住宅設備	新しい耐震設計	CAD—設計とコンピュータ	一般号	第25回青年技術者	ビル環境
昭和54年（60集）	転換期の再開発	大阪南港ポートタウン	商業空間	コンクリートのひびわれ	日影規制	ホテル建築と情報システム	農村施設の変貌	建物の終局強度の検討	庄内のまちづくり	80年代のインテリア	第26回青年技術者	建設業の労務事情
昭和55年（61集）	80年代の都市と建築—まちづくりの歴史と展望	●今後の省エネルギーの趨勢 ●建築金物	●最近の銀行建築 ●安井建築設計事務所作品集	住宅の耐久性	建築行政と法規	最近の防水工法	都市景観とアメニティ	屋内体育施設の設備	水ぎわのまちづくり	今後の外装吹付仕上材	●第27回青年技術者 ●転機にたつマンション集合住宅	設計のための新耐震設計法
昭和56年（62集）	職能論	中国の論文—北京の都市計画	ポートピア'81	台所まわりの計画と設備	シーリング材の知識	災害と法—安全な環境をめざして	都市住宅—住まい手からの発想	●建築物と風—デザイナーのために ●日建設計作品集	住宅都市整備公団—関西における都市整備を中心とした新公団の役割	間仕切壁の性能評価	第28回青年技術者	障害者の暮らしやすい環境と設備
昭和57年（63集）	新たな商業空間の展開	省エネルギーと開口部	医療施設—地域医療と設備計画	近畿の地盤と地質	都市景観—まちなみ美観への誘い	大阪市庁舎（第一期）	音とホール建築	大スパン構造	昭和設計作品集	●絵本にみるすまいとまちづくり ●オー・エム・ホテル日航ビル	●第29回青年技術者 ●地方の庁舎建築	風土・空気と人間
昭和58年（64集）	関西の建築文化を考える	マイコンの建築への利用	多様化する運動施設	建築と品質管理	計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	大阪駅とターミナルビル	維持管理と設備更新	東海の将来と文化を考える	オフィス・インテリアの変革	プレストレスト（鉄筋）コンクリート構造	●第30回青年技術者 ●大阪城国際文化スポーツホール	集合住宅と生活音
昭和59年（65集）	21世紀への関西—魅力あるまちづくりを問う	関西の超高層ビル	ビルのリフレッシュ—内外装補修技術の現状と発展—	建設産業とロボット開発	住環境と法制度	●まちの活性化と商業空間 ●京都駅南口（アバンティ）	消防設備のポイント	みどりとそれをとりまく人々	高齢化社会と生活空間	床の構工法	●第31回青年技術者 ●ディテールの思想	光応用システムと建築
昭和60年（66集）	大阪湾物語	東海の現在と近未来	●自由様式への道—建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	情報化をめぐる建築・都市事情	ホール—それが生み出す文化—	建物の表情—最近の外壁材料	大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出 ●神戸研究学園都市	都市と健康スポーツ	●接合 ●日建設計作品	●村野藤吾の一断章 ●東海特集	第32回青年技術者
昭和61年（67集）	これからの住空間—都市型集合住宅にみる	屋根—そのデザインと素材	●現代デザイン—ポストモダニズム10年 ●これからの防水工法	インテリジェントビルの建築・設備計画	自治体営繕と公共建築	●建築防災と法 ●大阪市庁舎	21世紀の住居と設備	●開発 ●ツイン21	CAD—その応用と展開	オフィス空間の構成	第33回青年技術者	インテリア・イクステンションとリニューアル
昭和62年（67集）	入浴物語	腐食	創立70周年記念号	躍動する東海へ	●貯蔵・保管施設 ●大阪府立体育会館	室内の仕上床	駅	行政建築家の可能性	シティホテルの設備	宝塚の街づくり	●建物と街並みの接点 ●昭和設計作品集	第34回青年技術者
昭和63年（69集）	ホテル物語	●軟弱地盤と基礎 ●文化と伝統—東海からの報告	●設備におけるLCCとリフレッシュ ●東畑建築事務所作品集	建物の外装リフレッシュ	都心居住	中国地方の展望とひろしまのまちなみ	21世紀への照明	制振	超高層住宅を考える	●大阪府営繕 ●集合住宅のリフレッシュ	●第35回青年技術者 ●800号記念	讀賣テレビ
昭和64年 平成元年（70集）	夢をのせる輸送設備	●竹中工務店創立90周年記念 ●リゾート事情	●色の復権 ●東海の新建築と伝統技術	省力化のための材料・工法	まちづくりと法	博覧会とまちづくり	都市環境創造と設備Ⅰ	建築とアート	●構造の省力化 ●鹿島建設大阪支店建築設計部作品集	●都市環境創造と設備Ⅱ ●ユーザー参加のハウジング	第36回青年技術者	最近の博覧会パビリオン
平成2年（71集）	商業化住宅のデザイン	ニュータウン・ルネサンス	東海の都市景観	スケール感	プレハブ住宅技術の現在と未来	国際花と緑の博覧会	建築家のための設備知識—中規模オフィスビルによるケーススタディー	高強度化多様化をめざして—	やわらかな住宅管理・ユーザーの役割	●都市のナイス・プレイス ●兵庫県営繕の歩み	●第37回青年技術者 ●和歌山県の展望と景観	感性の時代を迎えての外装材
平成3年（72集）	新しい都市空間づくり—Ⅰ—	●オフィス・プレジャー ●新しい都市空間づくりⅡ ●建築の風景	東海支部復活30周年記念	大阪東京海上ビルディング	●今、京都 ●建築家のための設備知識—複合商業ビルにおけるケーススタディー	●建築と土木 ●毎日放送本社ビル ●近畿地方建設局営繕部	一般号	●建築をめぐるトラブルとその解決 ●建設現場のイメージアップ作戦	●空間のアイデンティティ ●きんでん写真集 ●大建設計40周年	●自治体住宅政策への提言 ●大林組創業100年記念	●建築と土木—構造技術の世界— ●第38回青年技術者	●スリムでタフなコンクリート ●21世紀の住まいを考えるシンポジウム
平成4年（73集）	夢物語—人がかわる、まちがかわる—	●こだわりのインテリア ●近畿の郵政建築15年の歩み	建築とデザイン—東海支部—	建築家のための設備知識—集合高層住宅の設備システム—	地球環境時代の建築	街創り、住まい創り—住宅・都市整備公団関西支社10周年—	木構造を使ってみませんか—集成材による構造—	接着—建築分野への限りなき可能性	中国地方の街並みと建築家の「語り、夢、作品」	●屋台—仮設の魅力に学ぶ— ●ハウジングのメインストリームを探る	いま建築に何が期待されているのか	創設45周年記念京都支部

テトカッパー防水層

カッパー防水帯――――――コーパータイト　オクロン防水帯

資料をご請求下さい。

奥山化工業株式会社

本　社 東京都中央区銀座8-4-9 奥山ビル　TEL03(3571)2703㈹ FAX03(3571)0264

大阪事務所TEL06(391)1081－2FAX 06(395)2109　名古屋出張所TEL052(811)3660

横浜営業所TEL045(320)4832　FAX045(320)4765　厚木出張所TEL0462(21)1761FAX0462(23)1341

埼玉営業所TEL048(774)2845　茨城出張所TEL0292(28)0878FAX0292(28)2614

新しい時代の、新しい扉をひらきたい。

TOYO Shutter

東洋シヤッター株式会社

本　社　〒540 大阪市中央区南新町1－2－10(TSビル)
TEL(06)943－6571(代)

■東京/横浜/盛岡/仙台/水戸/静岡/岡崎/名古屋/富山/大津/京都/神戸/広島/高松/福岡/他全国主要都市

特　許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

半世紀の実績が誇る技術とアフターケアー!

長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種・オリエンタルエターノコアー(ETC-F)
・オリエンタルスチールライト(STL)
・オリエンタルメタル(OPM)



大和郡山市九条スポーツセンター屋根　エターノコアーF

波板規格　S小波・S大波・V波・ボックス波・Wジャンボ波・Vデッキ
SVジャンボ波・ボルトレスルーフBL・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター(強制)〕
ボーロイド(断熱材)D.G.K.　※カタログをご請求下さい。

オリエンタルメタル株式会社

本社及西日本支社　〒660 兵庫県尼崎市昭和南通3―26　TEL.(06) 412―5131
松本ビル7F

東日本支社　〒335 埼玉県蕨市塚越5―6―32　TEL.(048) 442―3115

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59 電話 06(302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

商品は空気です。

熱と空気のエンジニア
株式会社

大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－3344－1851(大代)　大阪本社☎06－448－3603(代)
大阪支社 ☎06－448－5851(代)　名古屋支店 ☎052－211－1535(代)　中国支店 ☎082－247－5541
九州支店 ☎092－431－2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)441-8231
東京本社　〒102 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　　社　名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58 1511

空気調和　搬送機設備
給排水衛生　設計施工

人に優しい環境づくり

第一工業株式会社

大阪支店　〒530 大阪市北区西天満３丁目６番14号
電話　０６－３６４－６６６１(代表)
本　　社　〒100 東京都千代田区丸の内３丁目３番１号
電話　０３－３２１１－８５１１(代表)

空気調和設備
給排水設備
電気設備

産業設備
水処理施設
環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　白谷清二
大阪支店長　三田村嘉也

大阪支店　大阪市中央区北浜2－2－21　電話06(202)3071(代表)
本　　店　東京都千代田区有楽町1-4-1　電話03(3502)6111(大代)
支　　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・四国

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　　社
大阪営業所　大阪市此花区西九条2丁目13番28号　電 06－466－2268
枚方営業所　枚方市甲斐田東町９－３　電0720－49－2128

空気調和設備
衛生設備　設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町３番５号　電話（352）１１３１代
本　　社　東京都中央区日本橋蠣殻町２－22　電話(3667)3431(大代)
支　　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

給・排水・衛生・消火・空調設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津６丁目８番４号　電話大阪(458)3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西・神戸

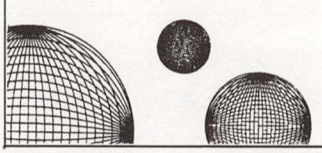
空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　　社　大阪市中央区城見2丁目1番61号ツイン21MIDタワー　電話 06－949－1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03－3344－1911
大阪本店　大阪市北区西天満３丁目13番20号　電話 06－363－1371
支　　店　仙台・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡
営業所　札幌・松江
出張所　青森・秋田・盛岡・大宮・千葉・川崎・富山・福井・和歌山・鳥取・岡山・高松・下関・熊本・鹿児島・沖縄

大規模空間（天井金属パネル）に
地球を入れることはできませんが
地球規模の夢を入れることはできます

内外装創作パネル・システム天井・間仕切



OKUJU

スペース　クリエイター

本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号 〒530
TEL(06)312-4131 FAX(06)312-7998
東京・九州・横浜・名古屋・仙台・宮崎・京都

株式会社 オクジュー

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　　社　大阪市中央区瓦屋町２丁目11番16号(オートセンタービル１・２階)
郵便番号542　電話 大阪（06）768－５０３１　代表
メンテナンス部　電　話　大阪（０６）　７６８－　１６５１　代表
東京支店　東京都文京区小石川１丁目12番14号（日本生命小石川ビル７階）
郵便番号112　電話（０３）５６８９－２３５１代表

技術と信頼で人と企業に貢献する

青葉印刷株式会社

代表取締役社長　依藤孝行

〒534 大阪市都島区中野町2丁目10番11号　TEL(06)351－5428(代)
FAX(06)351－5299

空調・衛生・防災設備　設計並施工

日本管工業株式会社

本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681)5101～5・夜間専用(691)1045
大阪支店　大阪市北区天満1-5-20　電話 (06)352-3501(代)
三重支店　津市栄町2－111　電話(0592)26-3610(代)
四日市営業所　四日市市西末広町　電話(0593)53-7431(代)
滋賀営業所　大津市中央2丁目4-28　電話(0775)22-9738(代)

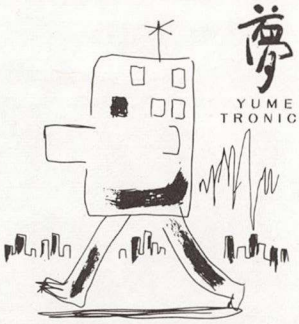
Carrier 冷暖房は CARRIER キャリア

東洋キャリア工業㈱デストビューター関西地区

日本冷熱工産株式会社

本社及大阪営業所　吹田市豊津町40番38号
電話 大阪 (384) 1201～7

さわやかに心豊かな生活空間づくり。



— 電気・計装・空調・土木 —

K栗原工業株式会社

本社／〒530 大阪市北区角田町1番1号(東阪急ビル)
TEL.06(313)1101 FAX.06(315)0050
東京・東関東・横浜・名古屋・大阪南・神戸・広島・四国・九州・シンガポール

電気設備 ㊋ 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役 山本貴士

本　社　大阪市北区中之島3－2－4　朝日ビル　TEL大阪06(385)1361(代)
大阪営業所　TEL大阪06(385)1361(代)　京都営業所　TEL京都075(311)1185(代)
東京営業所　TEL東京03(3574)0665　福岡出張所　TEL福岡092(771)6168

電気工事設計施工

株式会社 三興社

代表取締役 土井敏裕

本　社　大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル5階)
電　話　06(361)3671(代)
支　店　東京都中央区日本橋茅場町2丁目17番3号
電　話　03(3666)1478(代)
営業所　堺・泉州・泉南・滋賀

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社
関西支社

支社長 馬田栄

大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号　電話大阪(202)0325～9番
本　社　東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支　社　北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・中部・九州

人と都市の快適な環境をつくります

営業種目 設計・施工・監理
- ●電気設備
  - 受変電・幹線
  - 動力・制御装置
  - 電話、放送、インターホン
  - 防犯、防災
  - 中央監視制御
  - システム計装
- ●空調・給排水・衛生設備
  - 空気調和
  - 工場配管
  - 水処理
  - コージェネレーション
  - クリーンルーム
- ●プラント
  - プラント計装
  - システムエンジニアリング
- ●情報通信設備
  - 情報通信ネットワーク
  - 情報処理
  - 通信システム
  - 放送システム
- ●電力流通設備
  - 受変電
  - 架空送配電
  - 地中送配電

まちと地方にあふれるクリエイティブカンパニーをめざす。

住友電設株式会社

大阪本社 〒550 大阪市西区阿波座2-1-4 ☎(06) 537-3400
東京本社 〒105 東京都港区芝2-2-17 ☎(03)3454-7311

電気設備・計装制御設備・空調設備・クリーンルーム設備・プラント設備
給排水衛生設備・エネルギー集中監視システム…設計施工

三宝電機株式会社

取締役社長 嘉納秀一

本　社　〒530 大阪市北区西天満2-6-8(堂ビル)　TEL 06(364)1471・FAX 06(364)5533
東京支社　〒105 東京都港区新橋2-16(ニュー新橋ビル)　TEL03(3504)0231・FAX 03(504)0268
名古屋支店　〒462 名古屋市北区金城3-12-14　TEL052(991)5131・FAX052(914)7535
神戸支店　〒657 神戸市灘区岩屋中町1-2-9(エビスビル)　TEL078(881)5571・FAX078(871)6261
堺研究所　〒590 大阪府堺市三宝町七丁369　TEL0722(27)8408・FAX0722(27)1424

＊奉仕感謝の店

タイル及び規格石一式施工

株式会社 川岸窯業商店

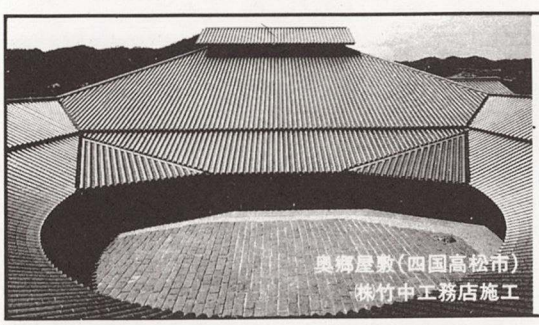
本　社　大阪市西区西本町1の13の33
TEL.06－532－0461(代表)
FAX.06－535－5181
天理営業所　天理市丹波市新町49

学校建築のトータルアドバイザー

二葉工業株式会社

黒板・掲示板・家具
電動黒板装置・サイン・スクリーン

〒547 大阪市平野区加美北3－4－5
TEL06(792)5858　FAX06(792)2810



奥郷屋敷(四国高松市)
㈱竹中工務店施工

〒556 大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
ファックス 五六一～七四五四
☎ 五六一～七四一六

ナニワ瓦株式会社

あらゆる屋根工事の相談は、

新鮮

情報処理／編集・企画／印刷・製本

ハード&ソフト…プリンティングの先端を拓きます。

ND

日本電植株式会社

本社 〒530 大阪市北区天満1丁目11番8号 TEL06(352)7502 FAX06(352)7486
別館 〒530 大阪市北区天満1丁目7番21号 TEL06(357)1803 FAX06(357)4950

特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙 ●ホクシノン(無機質壁紙)
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉8－173－1
TEL(0729)39－3610
工場　〒580　大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-11奈良県大和郡山市小泉町2744
第二　〒597　大阪府貝塚市王子501

Construction chemistry for the future.
コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材
高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材
Master Builders Technologies
株式会社 エヌエムビー
株式会社 ポゾリス物産
本　社：東京都港区六本木3－16－26
大阪支店：大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル)
TEL06-202-3294

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)



デンカCSAファミリー製品

●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充塡モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート軀体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

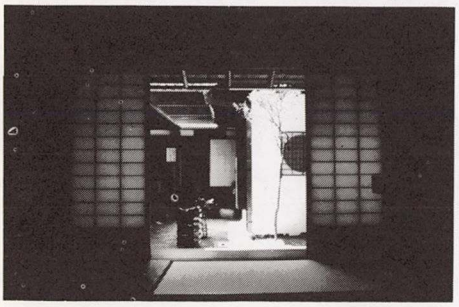
浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・網野（07727）2－2220
舞鶴（0773）76－0133

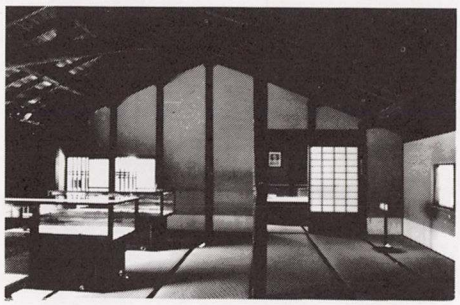
金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）332－6861
TEL 東京（03）3272－8501

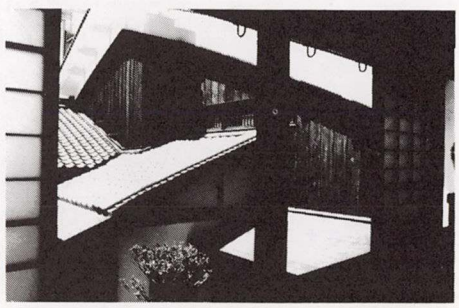
小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）443－6181

光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）252－6000

東郷化成株式会社
TEL 滋賀・守山（0775）83－2381
TEL 大阪（06）877－1581







広い視野と確かな技術で
快適空間を創造する

企画・設計・施工

●営業品目

建築内装
家具
インテリア
耐火間仕切壁〈ナイガイロンレックス〉

●オリジナル製品

内外化粧不燃板
ナイガイロンレックス
（ガラス繊維強化発泡石膏建材）
エースライト
（セラミック系人造木材）
パルナス（樹脂強化天然木）
セラミドール
（セラミック系防火ドア）

株式会社 内外テクノス

本社・工場　〒574 大阪府大東市谷川2丁目7—1　TEL　0720-72-2161
大阪営業部　〒541 大阪市中央区平野町2丁目4—9　TEL(営業) 06-226-1877
（大和平野町ビル3階）　TEL(建装) 06-226-1844
東京支店・工場　〒356 埼玉県入間郡大井町亀久保1150　TEL　0492-61-3611
東京営業部　〒170 東京都豊島区南大塚3丁目43-1　TEL(営業)03-5992-5611
（大塚HTビル6・7階）　TEL(建装)03-5992-2931

床を創る TAJIMA

HUMAN WORKS
タジマは、"床づくり"で人と語ります。

ACフロアは

多彩設計

学校、そして病院。
デリケートなスペースだからこそ
機能も効果も
より多彩であって欲しい。
ACフロアは、多彩設計。
従来からの機能に
デザイン効果を考えたカラーシステム
そして新しいアイテムを加え
演出能力はさらにアップ。
安全や安心
そして
やさしさやふれあいまでも
多彩に自在に
設計できます。

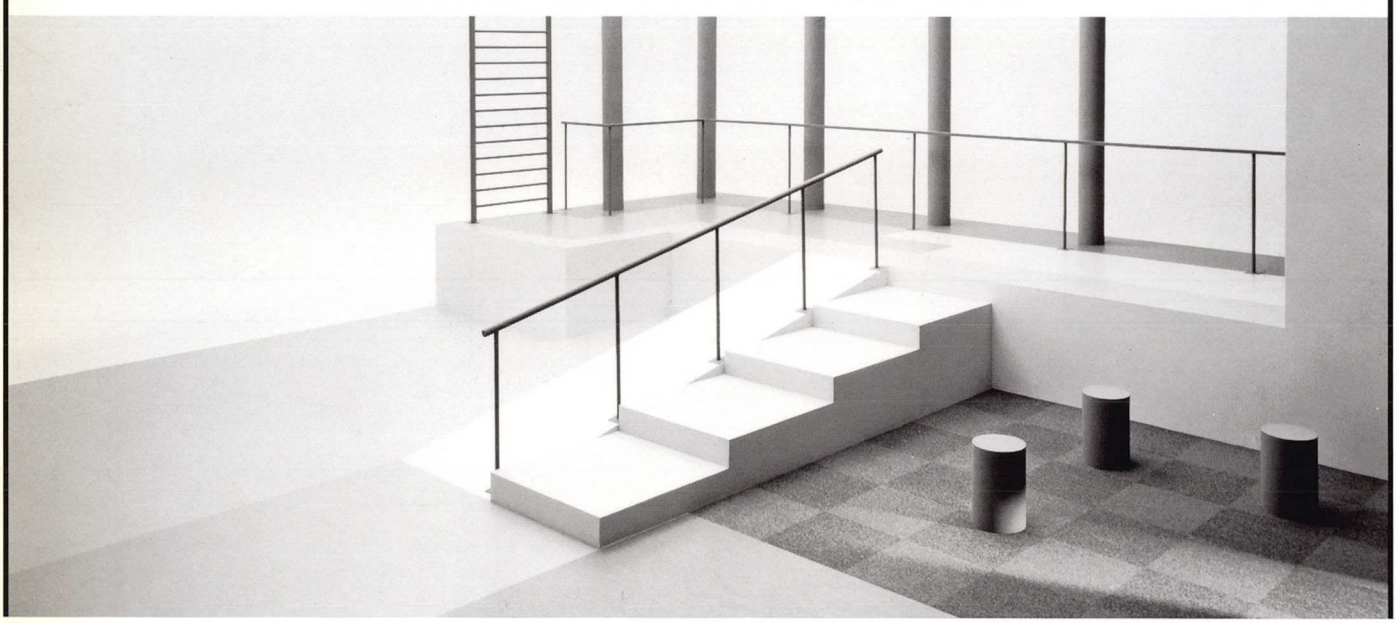
塩ビフォームバック連続気泡長尺床材
New Item New Color タジマ ACフロア

新シリーズ グラーノが加わってますます多彩！

語源は、粒。その名のとおり、上品な多色粒子柄、ソフトインレイドタイプのACフロア グラーノ。シックな色調、しなやかな動きの柄表情をもつ新シリーズです。また従来の無地やマーブルタイプと組み合せることで、色と色、色と柄など、さらに多彩なフロアイメージの創造が可能。3シリーズ、幅と奥行きが拡がったACフロアだから可能なのです。

色構成を整えますます多彩！

システム構成された色バリエーションによりますます多彩！これからの学校・病院におけるフロアプランを考え、配色しやすいようシステムにより色構成を整備しました。寒色系、暖色系の色をバランス良くピックアップし、さらに無地タイプとグラーノは同色のベースで構成。トーンと色相、そして柄による自在な組合せ、フロアデザインが可能になりました。



新しいアイテム、新しい色構成。よりその機能が多彩になったACフロアです。

株式会社タジマ

■大阪営業所 〒550 大阪市西区京町堀1-10-5
☎06-441-5951 FAX06-444-2596

■営業本部 〒110 東京都台東区北上野1-6-11 ノルドビル
☎03-3866-6101 FAX03-3862-5908

■東京営業所 〒101 東京都千代田区岩本町3-10-12 山源ビル
☎03-3861-3101 FAX03-3861-3615

社団法人 日本建築協会 〒530 大阪市北区梅田1の1の3の2100 電話大阪06(348)0635 FAX06(348)0634

振替口座 大阪一一三九七五番
正会員の購読料は会費に含めて徴収
定価900円（本体951円 消費税29円 送料共）

雑誌 03379-1